上田市文化財調査報告書第87集

反田遺跡

主要地方道上田丸子線バイパスの建設工事に伴なう発掘調査報告書

2002.3

上田建設事務所
上田市
上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第87集

反田遺跡

主要地方道上田丸子線バイパスの建設工事に伴なう発掘調査報告書

2002.3

上田建設事務所
上田市
上田市教育委員会

序

主要地方道上田丸子線は、上田市と丸子町を結ぶ幹線道路であるとともに、千曲川左岸地域から上田市街地へ向かう連絡道路であり、広域的な連携機能を有しています。今回、主要地方道上田丸子線バイパス建設を実施することにより、都市環状道路が整備され、地域間のアクセス機能が向上し、市街地内の交通渋滞が解消されることが期待されています。上田市・上田市教育委員会では、工事に先立ち事業地に存在する反田遺跡の発掘調査を行いました。工事によって失われてしまう貴重な資料を記録保存することを目的としたものであります。

皆様も御存知の通り、上田は古代から現代に至るまで地域の政治・経済・文化の中心であったため、今日では市内の至るところに貴重な文化財が存在しています。国指定史跡信濃国分寺、国宝安楽寺八角三重塔、国指定史跡上田城跡等を始めとして、数え上げれば限りがありません。しかも、我々はこれらの保護に関して早くから力を入れて取り組んでおり、全国的にも先駆者的存在であると自負しております。この度も、上田建設事務所をはじめ多くの皆様の文化財保護に対する深い御理解と御協力のおかげで、反田遺跡の発掘調査を実施することができました。

ここに調査の成果として本書を刊行し、地域の歴史研究の上で新たな手掛かりとなる資料を提供できたと確信しております。同時に、先輩方から教えられた文化財を大切にする心を引き継いでいくことをあらためて誓い、未来に伝えてまいりたいと思います。

最後となりましたが、現地調査から整理作業・報告書刊行に至るまで、御協力並びに御指導をいただきました地域の皆様、調査に参加された皆様、先生方に心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成14年3月

上田市教育委員会教育長　　我妻忠夫

例　言

1　本書は、主要地方道上田丸子線バイパス建設工事に伴う反田遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、上田市（上田市教育委員会生涯学習課）が実施した。

3　現地での調査は、平成11年11月25日から12月8日、平成12年5月31日から平成13年2月3日に現地調査を実施した。整理作業・報告書作成作業は、平成14年3月まで実施した。

4　現地調査におけるバックホーによる表土剥ぎ作業は、和農興　竹内和好に依頼した。

5　現地調査における遺構の実測は、小笠原正、平林裕蔵、井沢光子、大井敬子、山本万里が行った他、空中写真測量及び図化を株式会社みすず綜合コンサルタントに委託して行った。また、遺構実測の基準となる国家座標によるグリッドの杭打ち、基準点等の設置も同社に委託して実施した。

6　木材・木製品の保存処理及び樹種同定は（財）山梨文化財研究所に委託して行った。

7　石器石材の鑑定は甲田三男先生にご教示いただいた。

8　遺物の整理及び報告書の作成作業は、小笠原、平林、久保田敦子の指示のもとに市村みつ子、井沢、上原祐子、大井、田村雄二、山本、丸田由紀子が行った。

9　遺構の写真は、小笠原、平林が撮影した。航空写真は、株式会社みすず綜合コンサルタントに委託して撮影した。遺物の写真は、久保田が撮影した。

10　本調査にかかわる資料は上田市教育委員会が保管している。

11　本調査の体制は次のとおりである。

教　育　長　我妻忠夫
教育次長　内藤政則
文化課長　川上元（平成１２年３月退任）
生涯学習課長　塩野崎英利
文化財係長　細川修
文化財係　平林裕蔵（平成１３年３月退任）、中澤徳士、尾見智志（平成１３年４月着任）、塩崎幸夫、久保田敦子、西沢和浩（平成１１年９月退任）、清水彰（平成１２年３月退任）、小笠原正（平成１３年３月退任）、須齋千恵子（平成１２年３月退任）

12　調査に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）

甲田五夫、保屋野友延、西澤勝、成沢伯、瀧沢章子、池田市郎、赤羽利治、田村雄二、　大井敬子、井沢みつ子、山本万里、古野明子、内山重利、鈴木義房、河上純一、美斉津京子、名川真由美、赤田一理、井沢諒、清水閲二、石合好江、丸田由紀子、饗場奈那江、田村まり子、上原祐子、市村みつ子

13　調査にあたり多くの方々や諸機関の御指導と御協力をいただいた。心より感謝する次第である。
地域の皆様、市川隆之様、（財）長野県埋蔵文化財センター様

凡　例

1　遺構は、次のように略号で表した。番号は任意である。

ＳＢ：竪穴住居跡　ＳＴ：掘立柱建物跡　ＳＡ：柱穴列　溝：ＳＤ　ピット：Ｐ　土坑：ＳＫ

2　遺構の実測図については、次のとおりである。

（1）　国家座標の北を頁の上とした。例外の場合は、方位を示した。

（2）　原図１／20、縮小１／３を原則とした。

（3）　海抜高の単位はmである。

3　遺構観察表の記述については次のとおりである。

（1）　長さの単位は、mである。

（2）　方位は国家座標によった。

（3）　竪穴住居跡、掘立柱跡、溝跡、土坑の深さは、検出面からの深さを示した。

4　土層及び土器の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法　人日本色彩研究所色票監修）1997 を用いた。

5　写真の縮尺は任意である。

6　スクリーントーンは以下の事項を表している。

焼土　炭化物　黒色処理部分　赤塗彩部分

灰釉陶器断面　須恵器断面

7　遺物実測図については、原図１／１を原則とし、縮小は次のとおりである。

土器１/３　　石器・石製品１/３、１/１、１/２、１/３　　金属製品１/２

鍛冶関連遺物１/２

8　遺物観察表については、次のとおりである。

（1）　法量の単位はcm、ｇである。

（2）　「胎」を胎土、「焼」を焼成、「色」を色調とした。

（3）　（　）内の数値は、土器については推定値、石器については残存値を示す。

目　次

序

例言

凡例

第一章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯……1
第２節　調査の方法……1
第３節　調査日誌……5

第二章　遺跡の環境

第１節　自然的・歴史的環境……6
第２節　基本層序……13

第三章　調査の結果

第１節　竪穴住居跡……16
第２節　掘立柱建物跡……25
第３節　柱穴列……28
第４節　土坑……30
第５節　溝跡……31
第６節　遺構外……33
第７節　まとめ……33

付章

反田遺跡（長野県上田市）出土木製品の樹種同定……156

写真図版……158

報告書抄録……180

第一章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

本調査の原因なった主要地方道上田丸子線バイパスの建設工事は、国道18号上田坂城バイパス・国道143号築地バイパスに接続し環状道路を整備することにより地域間アクセス機能の向上及び渋滞解消を図ることを目的として計画された。

その第二期工区の事業予定地が上田市大字福田に所在することから、平成11年9月に上田建設事務所より埋蔵文化財の有無について上田市教育委員会事務局文化課（平成12年度に生涯学習課に改組。以下、事務局という。）に問い合わせがあった。事務局で確認したところ、この場所は周知の埋蔵文化財包蔵地である「反田遺跡」の範囲内であった。そのため、10月7日に二者で協議を行い、用地買収の完了後に試掘調査を行うこととし、その結果を見て保護措置を検討することを申し合わせた

これをうけて事務局は、平成11年10月18日及び19日に予定地内にトレンチを設定し、試掘調査を行った。トレンチ5本のうち4本から竪穴住居跡及び溝跡等の遺構と須恵器・土師器等の遺物が検出された（平成11年度発行の『市内遺跡』参照。）。

以上の結果から10月25日に上田建設事務所と事務局で遺跡の保護協議を行い、工事着手前に発掘調査を実施して反田遺跡3,700㎡の記録保存を図ることを合意した。

これにより、平成11年度から平成13年度にかけて発掘調査等が実施された。現地調査は事業の進捗状況に合わせて平成11年11月・12月と平成12年5月から平成13年2月に行われた。この間、当初予定した発掘調査範囲の一部に遺構面の破壊・削平が認められたため、調査面積を2,950㎡に減少した。その後、整理作業を行い、平成14年3月20日までに報告書を刊行し、調査を終了した。

なお、本調査について、事業費は平成11年度に900,000円、平成12年度に18,280,000円、平成13年度に3,950,000円で、上田市が上田建設事務所から委託契約を受託して実施した。

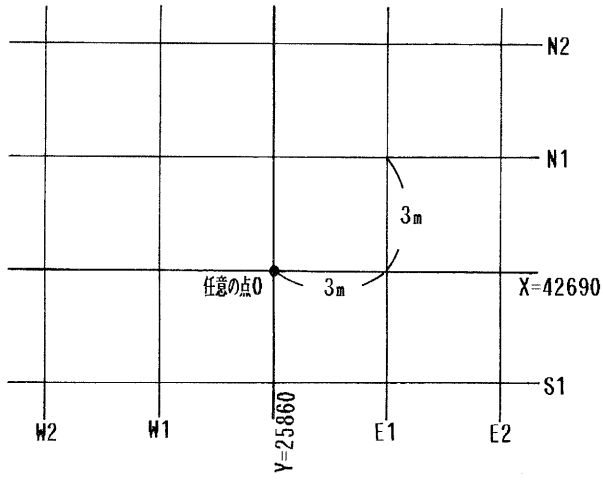
第２節　調査の方法

１　遺跡名と略記号

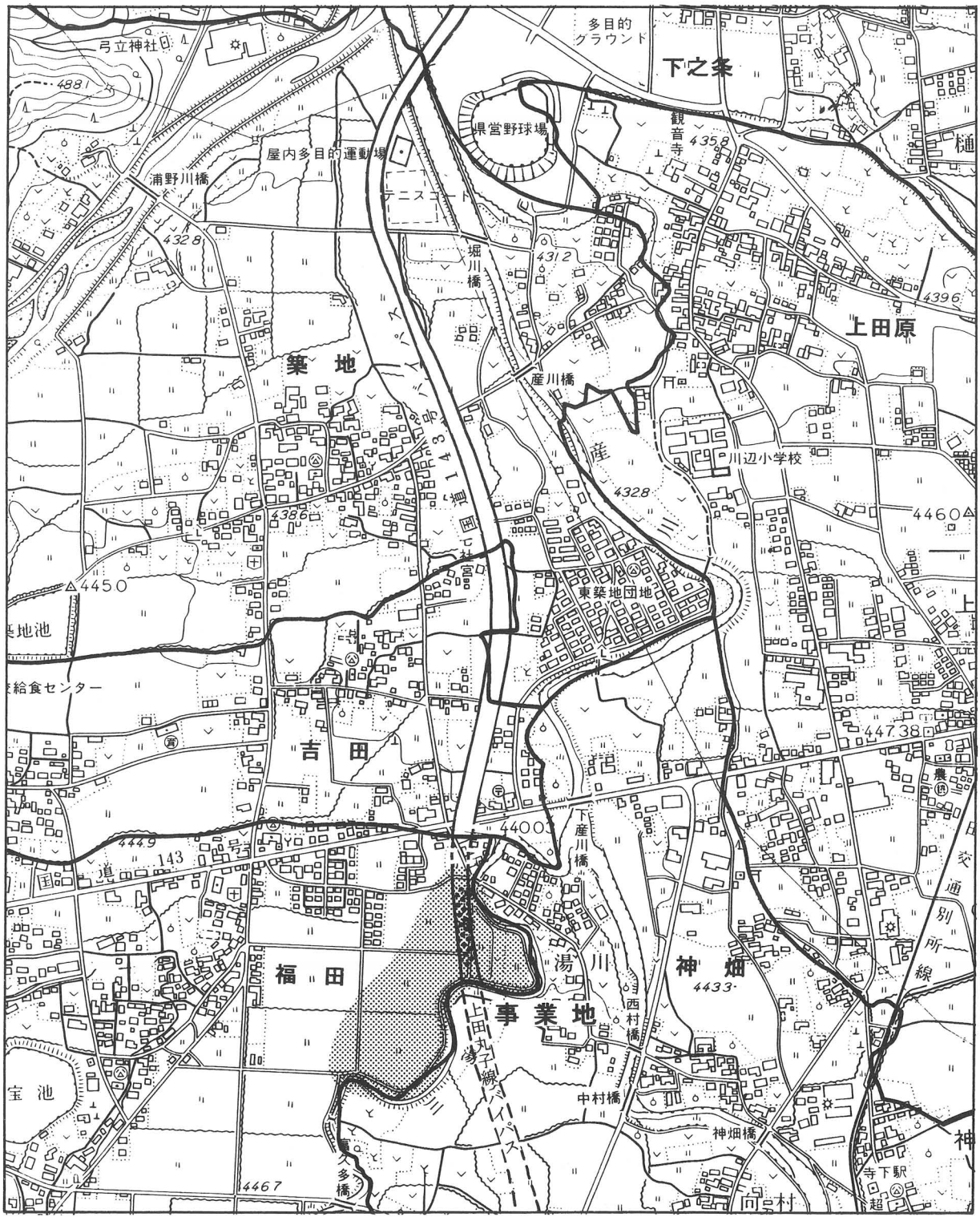
反田遺跡の名称により、反田（Ｔａ－Ｎ－Ｄａ）の頭文字「ＴＮＤ」を本遺跡の略記号として調査に用いた。各種の記録や遺物の注記等にこの記号を使用してある。

２　調査地区の設定

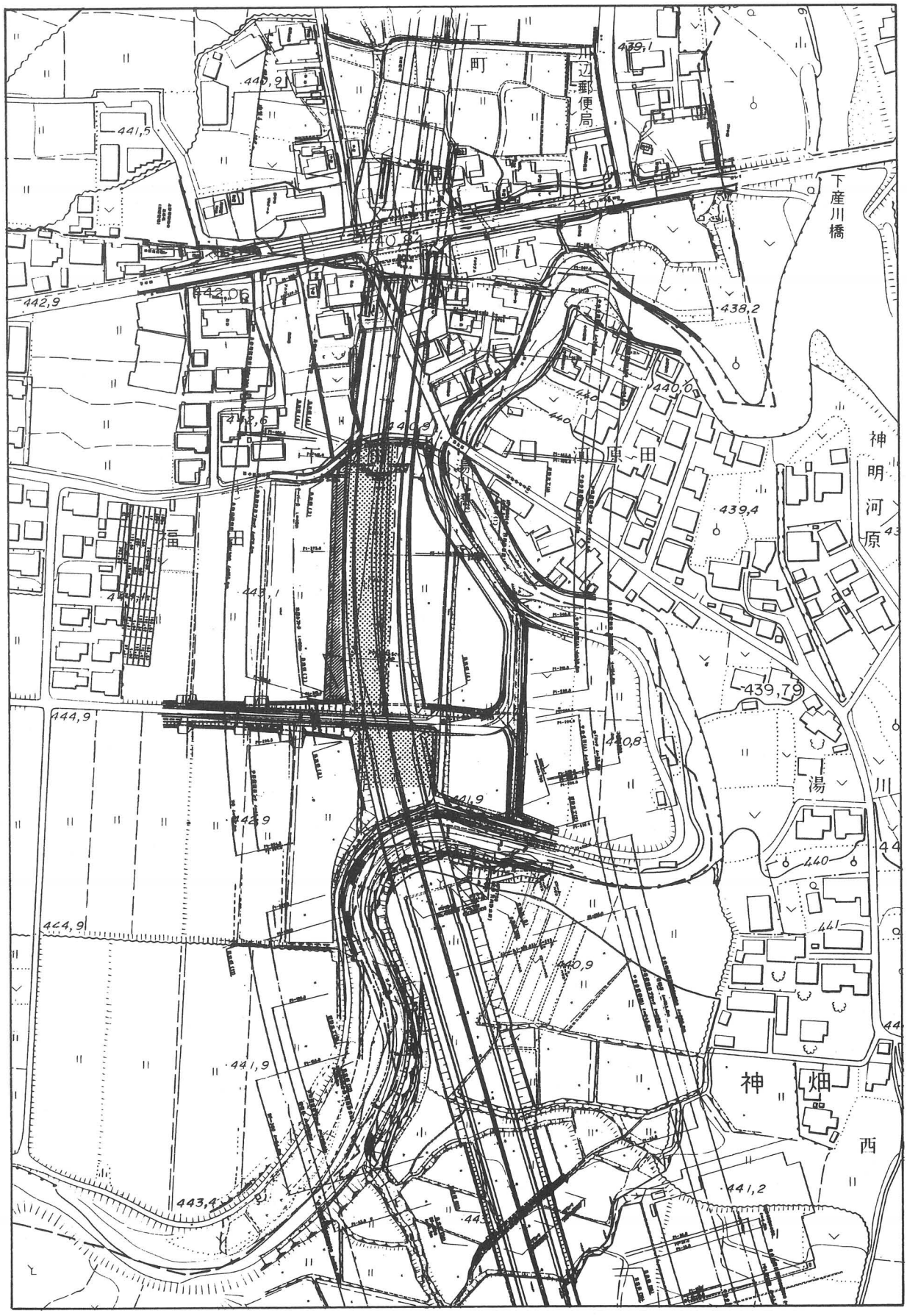
調査区域は、第２図及び第３図のとおり、事業地内の試掘調査によって判明した遺跡の範囲とした。



第１図　グリット設定図



第２図　主要地方道上田丸子線バイパスと反田遺跡



第３図　事業計画図と調査地区

3　グリッドの設定

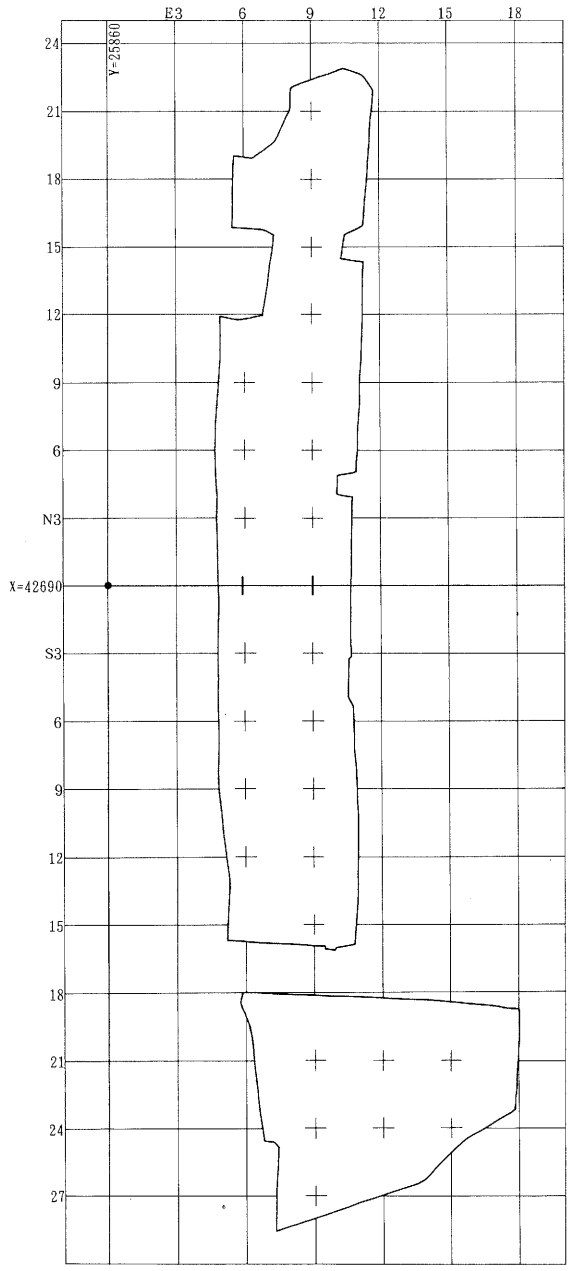
便宜上、第１図と４図のとおり調査地区にグリッドを設定した。これは、１単位の方眼の大きさが３m×３m で、国家座標に拠った。

交点にはそれぞれ記号名を与えた。記号は図のとおり、任意の点を０として、そこから方向を示すために東・西・南・北にＥ・Ｗ・Ｓ・Ｎを、距離を示すために数字を与え、両者の組合せによって表した。例えば、点０から北に４８m、東に３０m の地点は、Ｎ１６Ｅ１０と表される。個々のグリッドは、北東の交点の記号名をそのグリッド名とした。

なお、任意の点０の座標値は、第Ⅷ系のＹ＝－25860.000、Ｘ＝42690.000 である。

このグリッドは、遺構の平面実測及び遺物取上げに使った。

グリッドの設置は、(株)みすず綜合コンサルタントに委託して実施した。



第４図　グッリト配置図

4　遺構測量

遺構の平面実測は、前述のグリッドを基準に１／２０の作図を基本として行った。

さらに、ラジコンヘリコプターによる測量用空中写真の撮影と図化作業を（株）みすず綜合コンサルタントに委託して実施した。

5　その他

調査における表土の除去は、主に重機を用いて行い、必要に応じて人力で行った。

遺構の掘り上げはすべて人力で行った。遺物は、包含層等から出土したものはグリッドごとに取上げた。遺構から出土した遺物は層位と地点を留意して取上げた。

また、現地での調査は小笠原正、平林裕蔵が担当した。本書の編集・執筆は、小笠原、平林の野帳等をもとに久保田敦子が行った。

第３節　調査日誌（抄）

平成１１年度

１１月２５日　機材搬入、表土剥を開始する。
１２月３日　シートを掛け、遺構の保護をする。
１２月８日　遺構測量、土砂埋め戻し。

平成１２年度

５月３１日　表土剥開始。
５月２６日　遺構検出作業開始。
６月２６日　遺構掘り上作業開始。
６月３０日　遺構実測を開始する。
７月５日　調査地区清掃、空撮。雹混じりの強い雷雨。
７月１４日　黒坂周平先生来訪。ご教示をいただく。
７月１８日　昨日梅雨明けという。
８月４日　激しい雷雨あり。
８月１０日　親子歴史体験教室見学会。
８月２９日　本日も残暑厳しく、作業が困難である。
９月１日　1,100 ㎡分の空撮。
９月７日　表土剥を行う。
１０月５日　爽やかな気候で作業がしやすい。
１１月１３日　空撮。ユニットハウス移転。
１１月１４日　本日からＣ地区の表土剥開始。
１１月１６日　ほ場整備時の撹乱が著しく、遺構の保存状態は極めて悪いことがわかる。
１２月１４日　第１８号竪穴住居址から勾玉が出土する。
１月９日　昨日の降雪が１５㎝ほどあり、除雪に手間取る。
１月１１日　雪が解けて、作業困難。排水ポンプを使用する。
１月１９日　空撮。
１月２７日　雪かき。現地説明会開催。
２月３日　現地での調査を終了する。

以後、埋蔵文化財整理室において整理作業を実施し、平成１３年度に本書である調査報告書の刊行を行い、調査事業を終了した。

第二章　遺跡の環境

第１節　自然的・歴史的環境

今日の上田市は、上田盆地とその西方に接する塩田平を中心に展開している。これらの盆地は、ともに三角形で、周辺はそれぞれ第三系の基盤に囲まれている。また、両盆地の境界を千曲川が北西に流下している。反田遺跡は千曲川の左岸に位置する。

遺跡が存在する地域とその周辺の地形は、湯川・産川の河川の浸食による沖積地である。また、城山・横山・小牧山及び上田原台地・千曲川に囲まれた平坦地である。この地域から南方にいくにしたがって塩田平は大きく広がり、西方には浦野川流域の平坦地が広がっている。湯川は別所温泉夫神岳を源とし、塩田平の西部を流れて産川と合流し、さらに下流域において浦野川と合流して千曲川にそそぐ。その産川と合流する福田・神畑地籍においては、幾度も大きく蛇行する。本調査は、産川と湯川の合流点からおよそ200m上流の湯川左岸において行われた（第５図）。

先にも述べたとおり、反田遺跡は産川と湯川の合流点近くの湯川西岸に展開している。産川と湯川合流点から浦野川と産川合流点の間にはいくつかの遺跡が存在する。この地域においては近年、上田原遺跡・塚原古墳群・下之条条里水田跡遺跡・浦田遺跡及び宮脇遺跡・築地遺跡が公共開発事業に伴って発掘調査された。また、昭和46年から48年にかけて、『上田市の原始・古代文化』（1977）の刊行にあたり、市内一円において分布調査を実施している。主にこれらの調査の成果をもとにして、反田遺跡周辺の遺跡の様相について以下に述べようと思う（第６図・第１表）。

１　産川東岸

上田原遺跡（110）

産川と浦野川合流点近くの産川東岸に位置し、北に千曲川、西に産川とに囲まれた段丘上に大きく展開する遺跡群である。上田原の古くからの集落を包み、赤坂遺跡・殿海道遺跡・塚田・丁田遺跡・中島遺跡・前田遺跡・本町遺跡・宮本遺跡から構成される。

赤坂遺跡は遺跡群の東北端にあり、弥生時代後期の土器が豊富に出土する。

その西方の**殿海道遺跡**は、およそ25,000㎡にわたって弥生時代後期の土器及び、土師器・須恵器が出土する。

塚田・丁田遺跡は遺跡群の東南にあり、土師器・須恵器を出土する。

中島遺跡はその西方にあり、縄文時代前期・中期の土器及び石器、弥生時代後期の土器、土師器・須恵器等が出土する。

前田遺跡は遺跡群の南に位置し、土師器・須恵器が表採される。

塚原遺跡は遺跡群の北部から西端部の観音寺裏の段丘張り出し部にかけて展開する。縄文前期の南大原式・下島式土器、中期の勝坂式・加曾利E式土器及び石器等と土師器・須恵器が出土することが知られていた。また、多くの五輪塔を出土し、戦国時代の墳墓跡と考えられている。

塚原遺跡は1993年・1994年に県営球場建設に伴ない発掘調査が実施され、縄文時代・弥生時代・平安時代の竪穴住居跡13軒、弥生時代後期から古墳時代前期の周溝墓4基、古墳時代後期の礫床墓1基、縄文時代・弥生時代・平安時代の土壙293基等が出土した（上田市教育委員会1996『上田原遺跡』）。遺物は、縄文時代早期末の条痕文系・絡状体圧痕文系土器や鵜ケ島台式土器が出土している。前期では花積下層式土器

をはじめとする繊維土器や諸磯式土器が出土し、中期では五領ヶ台式土器が出土している。後期では堀之内式土器・加曽利B式土器が、晩期では条痕文系土器・大洞式系土器が出土している。また、弥生時代前期から中期にかけての水神平土器、中期の栗林式土器及び後期の箱清水土器が確認された。そのほか、周溝墓、礫床墓から外来系土器、ガラス小玉等の玉類及び鉄釧等の金属製品が出土した。また、弥生時代後期に属すると思われる土壙から鉄鉾が出土し、平安時代の溝跡から「佰」・「仁」の文字がある墨書土器が出土した。

塚原古墳群（109）

塚原遺跡に重複して位置する。『長野県町村誌・東信編』（長野県 1936）によれば 6 基が所在していたとされるが、『上田市の原始・古代文化』では 5 基が確認されている。1 号墳及び 4 号墳からは直刀・鉄鏃・金環・勾玉等の遺物が出土した。1993・1994 年に先述の県営球場建設に伴なって古墳 2 基が調査された。『上田原遺跡』によると、1 基は巨石が散在しており石室は確認されなかった。もう 1 基は、石室は残存しているが地元の人によると移動してあるということだった。この古墳の周溝と推定される遺構から古墳時代後期の土器と馬骨が出土した。

下之条条里水田跡遺跡（446）

上田原遺跡の北隣の段丘下に存在する。昭和 47 年度より 3 ヵ年計画で、文化庁・長野県教育委員会等の援助を得て市内に多く散在すると考えられていた条里遺構の調査を実施した。この中で、大字下之条字本組地籍を対象地区の一つに設定して調査を実施している。『条里遺構分布調査概報ー国分・常田地区、常磐城・秋和地区、千曲川南西地区ー』（上田市教育委員会　1974）によると、下之条地区の区画は極めて不完全なものが多く、方位も異なり、しかも偏角で3°　W前後となっているので幾度も変形されたことを意味していると述べている。また、川床面との比高は小さいので、大洪水の際は冠水または水田の埋没、あるいは破壊も充分考えられる地帯であるとしている。

1993・1994 年に、先述の県営球場建設に伴なってトレンチ調査を実施した。しかし、『上田原遺跡』によると過去の水田を示唆するような遺構や遺物は検出されず、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析等の自然科学分析の成果からも過去の稲作に関する情報を得ることはできなかった。

太田遺跡（114）

産川と湯川の合流点より下り、最初の蛇行点の東岸にこの遺跡は展開している。弥生時代の遺跡の包蔵地と考えられている。

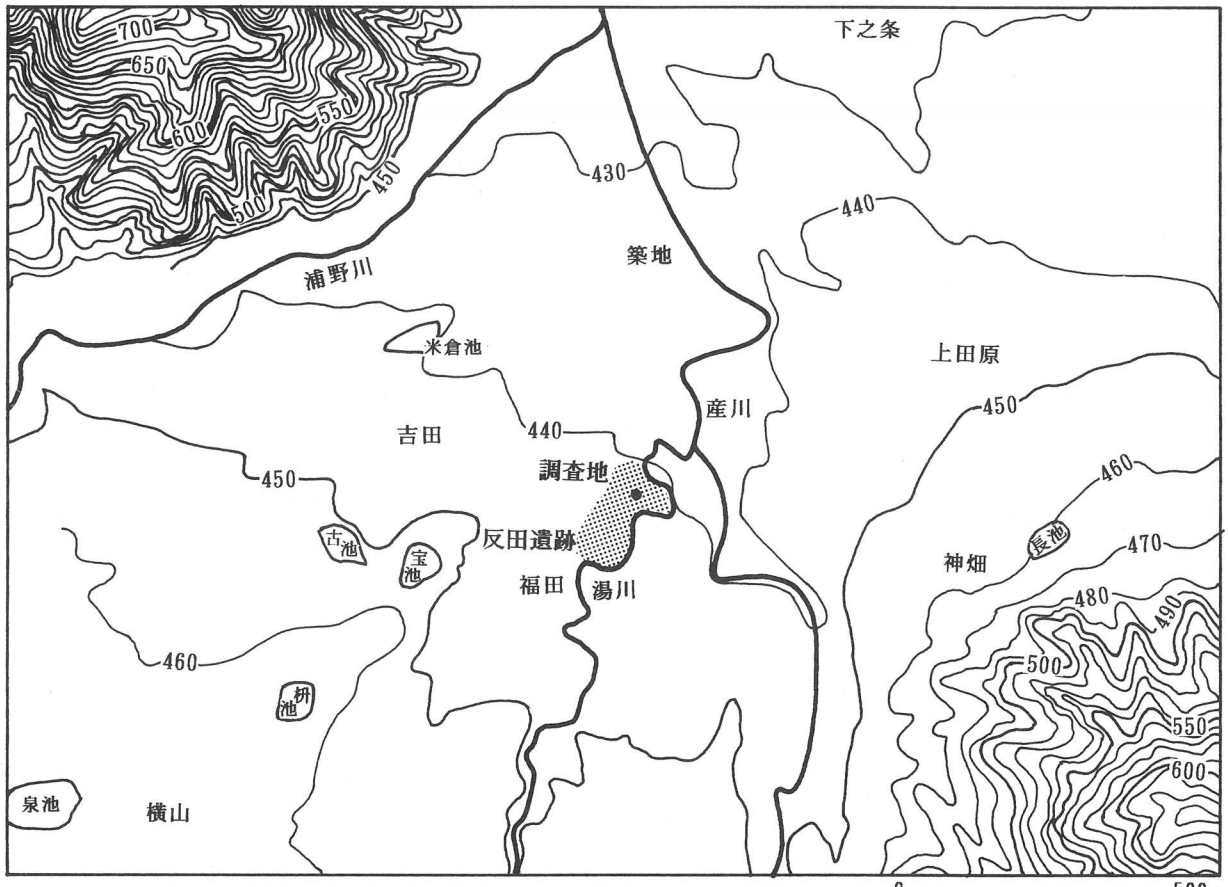
矢手塚古墳群（117）

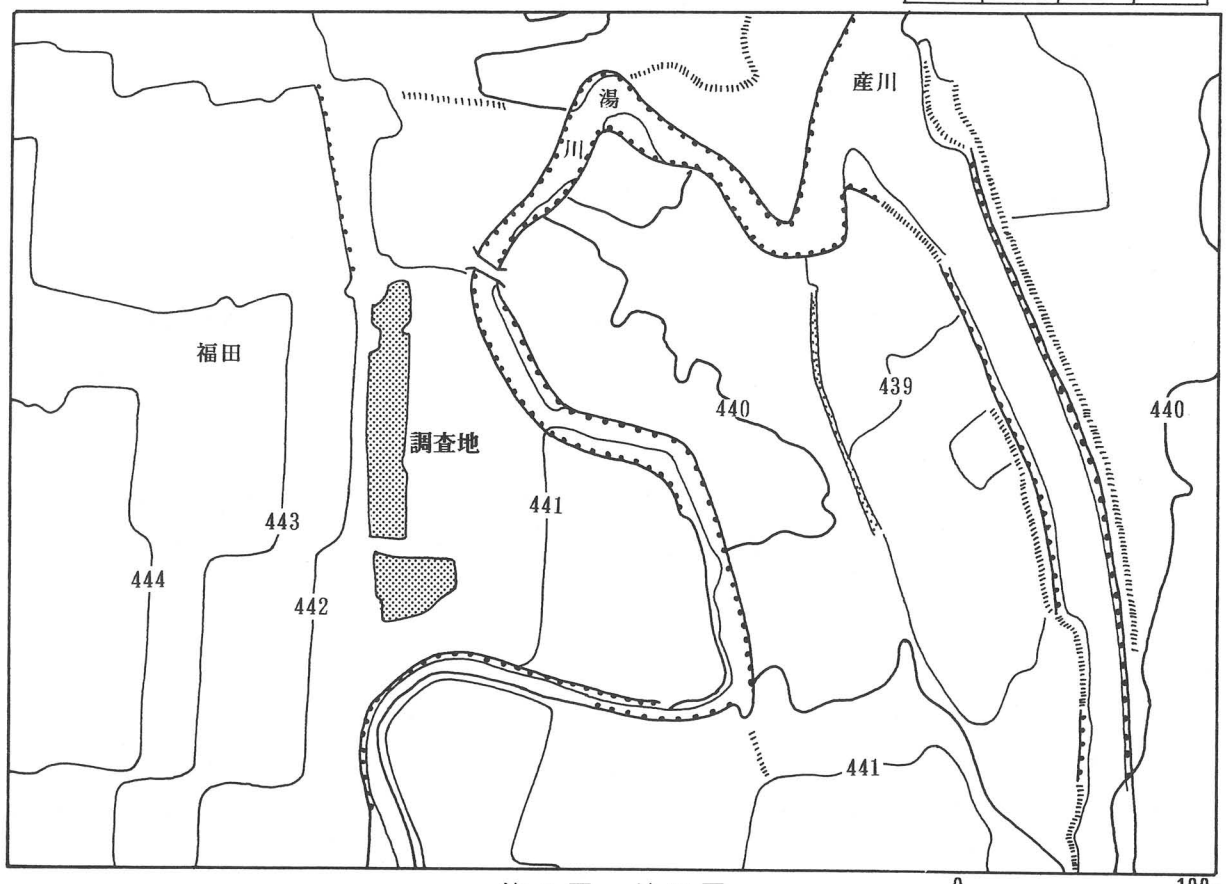
加美畑神社の南隅にある 1 号墳を北端として、産川の氾濫原を望む台地の西縁に約 50m 間隔で 3 基が南北に並列している。1 号墳及び 2 号墳は半壊している。3 号墳は全壊し、直刀・金環などの出土遺物は土地所有者宅に保管されている。

2　産川西岸及び湯川流域

浦田遺跡（108）

産川と浦野川の合流点、両河川に挟まれた地域に展開する。縄文時代中期の勝坂・加曽利E式土器、弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土することが知られている。平成 8 年度に国道 143 号線バイパスの施工に先立って発掘調査が実施された。その際の試掘の結果、遺跡の範囲は産川沿いから浦野川沿い


700
650
600
550
500
450
430
440
450
460
470
480
490
500
550
600
下之条
築地
浦野川
米倉池
上田原
産川
吉田
調査地
反田遺跡
古池
宝池
福田
湯川
神畑
長池
枡池
泉池
横山
0
500m


湯川
産川
福田
調査地
440
439
440
441
443
444
442
441
0
100m

第５図　地形図

に広がり、その間に遺構の無い空間が存在することがわかった。そこでこれらを別の遺跡と捉えた方が良いと判断し、産川沿いを浦田A遺跡とし、浦野川沿いを浦田B遺跡とすることとなった（尾見智志 1998『浦田A・宮脇遺跡』上田市教育委員会）。

浦田A遺跡からは弥生時代後期、古墳時代初頭及び前期、奈良時代、平安時代の竪穴住居跡 36 軒、古墳時代前半の掘立柱建物跡 16 軒、溝跡 11 条等が検出された。遺物は弥生時代前期の条痕文系土器と縄文系土器が出土した。これらの土器の出土は、上田地域においては上田原遺跡に次いで 2 例目である。このことは、この地域が上小地方の弥生時代の成立に重要な役割を果たしていたことを示している。さらに古墳時代初頭の在地系の土器に伴ない、東海地方や北陸地方等との深い関わりを示唆する外来系土器等の良好な資料を提出した。

浦田B遺跡は、県営ほ場整備事業下之条地区の施工に先立ち平成 8 年に発掘調査された（尾見智志 1999『浦田B遺跡』上田市教育委員会）。弥生時代後期から古墳時代前期、奈良時代、平安時代前期の竪穴住居跡 36 軒、古墳時代から奈良時代の溝跡等が検出された。さらに、中世の掘立柱建物跡 35 棟、溝跡、井戸跡及び土壙等が検出され、これらの遺構群は中世の屋敷跡或いは館跡であると考えられ、注目を浴びた。遺物は包含層等から、縄文時代草創期の有舌尖頭器、縄文時代後期の土器等が出土した。また、弥生時代前期の条痕文系土器と縄文系土器が出土した。これら、上小地域の当該期の遺物はこの地域の遺跡を中心に出土しており、この付近に重要な遺跡が存在する可能性を示している。遺構からは弥生時代後期の箱清水式土器が出土し、さらに弥生時代後期から古墳時代初頭の御屋敷式土器と共に東海・北陸地方等の特色をもつ外来系の土器が竪穴住居跡等から出土した。鉄製品では、当該期の東日本での類例が無いといわれている鑿が出土した。また、古墳時代前期のハケ甕を中心とする土器群が出土した。奈良時代の遺構から出土した遺物は、それらの特徴により 8 世紀第一四半期、第二四半期から第三四半期頃に属すると考えられる。平安時代では、10 世紀第四四半期に属し、祭祀行為に使用されたと考えられる状態で出土した皿等もみられた。中世の遺物では、土師器・瓦質土器・須恵質土器・陶磁器・石製品・金属・木材等が出土した。土師器には土師質の皿等が多くみられ、中には京都系とされているものもあった。須恵質土器では在地系の鉢と珠洲系の瓶子が出土した。陶磁器では国産のものとしては、常滑と古瀬戸がみられた。輸入陶磁器では、龍泉窯青磁の埦・皿・壺形合子が出土した。また、23 枚 10 種類の北宋銭が柱穴や溝跡等から出土した。

築地遺跡（111）

産川と浦野川の合流点より約 800m 南方の両河川に挟まれた地域に展開する。古くからの築地集落を含んで、蔵之台遺跡・屋敷遺跡・西沖遺跡・駕籠田遺跡から構成される。

蔵之台遺跡はこの遺跡群の北東部に位置し、弥生時代後期の箱清水式土器と土師器が出土することが知られている。

屋敷遺跡は築地集落内の公民館を中心として展開している。縄文中期の勝坂式・加曾利E式、土師器等が表採されている。この遺跡群の西北には西沖遺跡が位置し、土師器・須恵器を出土する。

駕籠田遺跡は遺跡群の西南に位置し、縄文中期の加曾利E式土器を出土することが知られている。この築地遺跡において、平成 9 年に県営ほ場整備事業下之条地区の実施に先立ち築地池の東側 6,000 ㎡を発掘調査が実施された。その結果、弥生時代後期と奈良時代のの竪穴住居跡 6 軒、平安時代の掘立柱建物跡 42 棟、土坑・井戸・溝・道路場遺構等が検出された。道路状遺構は、幅員が伝路と同じ規格であることやこの地に東山道が通過すると推定されており、その推定東山道と同様に東西に延びていることなどから官道の可能性があるとされている。さらにその横に展開する掘立柱建物群は奈良時代のものを中心に計画的に配置されており、地理的位置関係等を考慮に入れると小県郡の福田郷に所属する公的施設であった可能性がある。これ

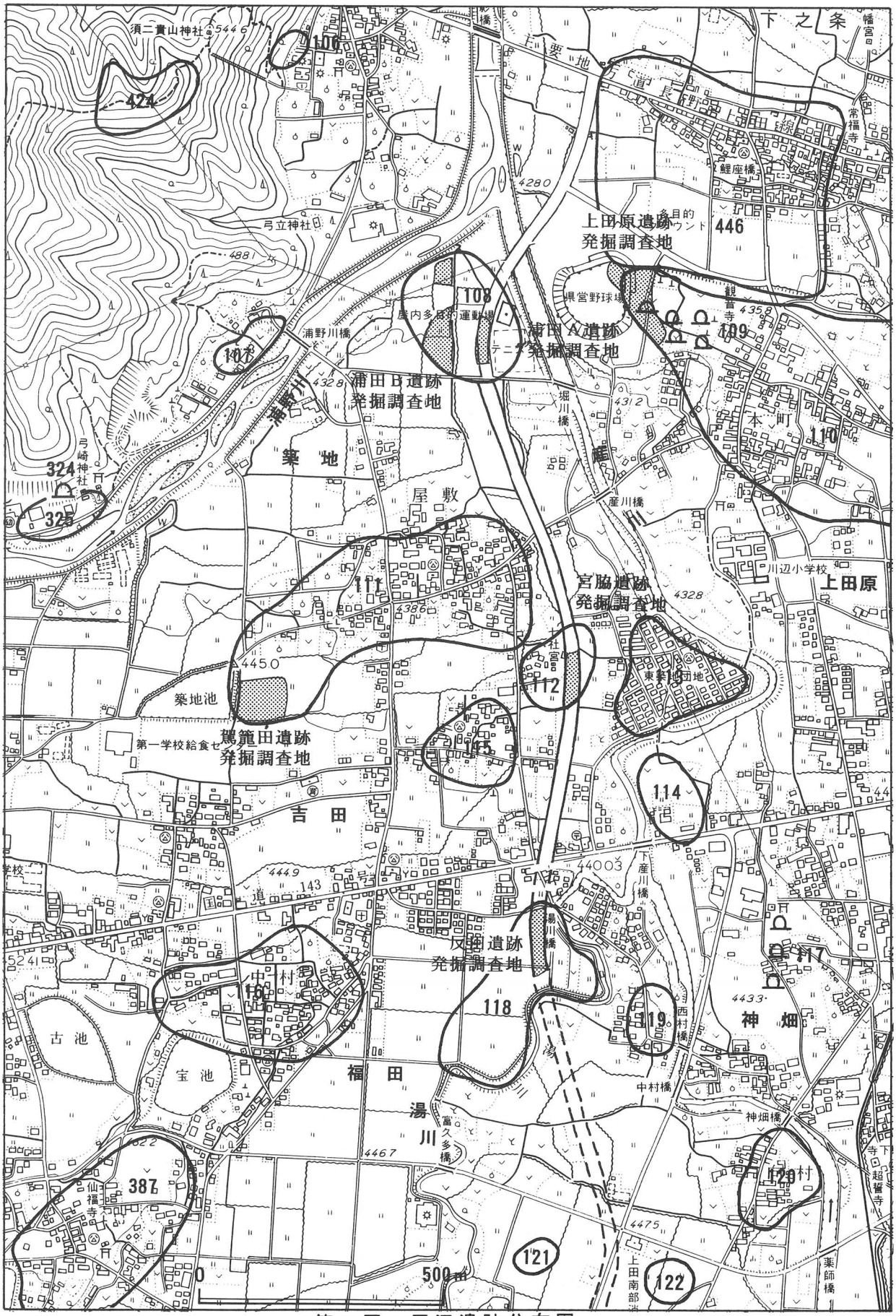
らのことから、この遺跡の性格は律令体制下では重要な拠点の一つであったと考えられる。遺物では箱清水式土器が竪穴住居跡等にから出土し、「上小地方の弥生土器編年」（尾見智志 1999『長野県の弥生土器』長野県考古学会編）によるとそれらは 4 期に所属する。また、奈良・平安時代の土器については、「上小地方の奈良・平安時代の土器について（2）」（尾見智志 1999『駕籠田（築地）遺跡』上田市教育委員会）に基づいてみてみると、3・4 期のものを中心として 9 世紀代までのものが確認できる。そのほか、縄文時代中期の土器と打製石斧が出土した。

宮脇遺跡（112）・堀之内遺跡（113）

築地遺跡の南西隣に接する七社宮の周辺で、産川氾濫原とひる沢川の自然堤防に展開している。弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土することが知られている。　平成 8 年、国道 143 号線バイパスの施工に先立ち、七社宮に接近した東側において発掘調査が実施された。竪穴住居跡 4 軒、奈良時代から平安時代の掘立柱建物群 11 棟、溝、土坑等が検出された。竪穴住居跡は特徴的なものとして、1 軒からは箱清水式土器と共伴してハケ調整の甕・鉢等が出土し、もう 1 軒からは在地系の土器と伴に東海や北陸地方の影響を受けた土器群が出土した。掘立柱建物群は、「コ」の字型に配置されていることが推測される。出土した須恵器等から、奈良時代後期から平安時代初頭のものと推測される。この掘立柱建物群が律令体制化のものと捉えると、有力者のムラ或いは館であったと考えられる。また、この調査では、七社宮と調査地区との境となる地点から堀跡が確認された。この東方には中世の居館とされている堀之内遺跡が存在する（上田・小県誌刊行会 1980『上田・小県誌』第一巻歴史編上）。これにより、館域の範囲は堀之内地籍から七社宮を中心として宮脇地籍まで広がる可能性が出てきたといえる。七社宮には境内を方形に囲むように土塁が巡らされており、堀はこの土塁の外側に巡っていると思われる。一方、堀之内地籍には明治 23 年製の地籍図等より堀跡の存在が推定されている。このことから、単郭でない堀配置形態が想定される。しかし、工事及び

遺跡No.	遺跡名	住所	時代	備考（調査年度等）
106	古屋敷遺跡	築地字古屋敷	弥生～古墳	
107	箕輪遺跡	築地字箕輪	弥生・平安	
108	浦田遺跡	築地字浦田	縄文～平安	1996年度発掘調査
109	塚原古墳群	上田原字塚原	古墳	
110	上田原遺跡	上田原字本町・中島・塚原	縄文～平安	1993～1994年度発掘調査
111	築地遺跡	築地字蔵之台・屋敷	縄文～平安	
112	宮脇遺跡	吉田字宮脇	弥生・平安	1996年度発掘調査
113	掘之内遺跡	築地字掘之内	縄文～平安	
114	太田遺跡	神畑字太田	弥生	
115	宮島遺跡	吉田字宮島	縄文～平安	
116	東村遺跡	福田字東村・中村・新屋	古墳～平安	
117	手矢塚古墳	神畑字手矢塚	古墳	
118	反田遺跡	福田字反田		今回調査
119	西村遺跡	神畑字西村	古墳・平安	
120	向村遺跡	神畑字向村	縄文～古墳	
121	菱池遺跡	小島字菱池	縄文～平安	
122	北山越遺跡	本郷字北山越	平安	
324	八幡山遺跡	小泉字八幡山	古墳	
325	八幡山遺跡	小泉字八幡山	弥生・平安	
387	原田遺跡	吉田字原田	弥生・平安	
424	須々貴城跡	下之条字須々貴山	近世	
446	下之条条里水田跡遺跡	下之条	弥生～平安	

第 1 表　周辺遺跡名


須二貴山神社
106
424
弓立神社
上田原遺跡
発掘調査地
446
108
浦田A遺跡
発掘調査地
109
浦野川橋
107
浦田B遺跡
発掘調査地
浦野川
築地
324
325
屋敷
本町
110
産川橋
川辺小学校
上田原
111
宮脇遺跡
発掘調査地
112
東築地団地
築地池
第一学校給食セ
駕籠田遺跡
発掘調査地
115
114
吉田
143
反田遺跡
発掘調査地
117
中村
116
118
119
神畑
古池
宝池
福田
湯川
中村橋
神畑橋
387
120
121
122
0
500m

第６図　周辺遺跡分布図

調査上の制約から、堀跡及び土塁について『浦田A・宮脇遺跡』には文章のみの報告に止まらざるを得なかった。さらに、これに関わる遺物はこの調査で確認することはできなかった。

宮島遺跡（115）

築地遺跡の南方には縄文時代中期の土器・石器、弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土することが知られている。

東村遺跡（116）

反田遺跡の西方、宝池の周辺に展開する。東村・中村・新屋地籍に分布がみられ、一体のものと思われる。古墳時代から平安時代の土師器・須恵器が出土する。

原田遺跡（387）

横山の裾部の段丘上に展開する。弥生時代後期の箱清水式土器と須恵器・土師器を出土することが知られている。

西村遺跡（119）

産川と湯川の合流点より南方の両河川に挟まれた地域に展開する。反田遺跡とは湯川の対岸に位置する。古墳時代と平安時代の遺物を出土することが知られている。

向村遺跡（120）

西村遺跡の南東方に位置する。産川が西へ大きくカーブする地点の内側に展開し、西と北が産川に囲まれている。縄文時代と古墳時代の遺物が出土することが知られている。

菱池遺跡（121）

菱池遺跡は、湯川東岸に展開し、縄文時代の石器、弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土する。

北山越遺跡（122）

北山遺跡は湯川と産川の中間付近の上田南部消防署東側に展開する。土師器・須恵器が出土する。

3　浦野川西岸

古屋敷遺跡（106）

城山山麓のこの地域は下之条地籍の飛び地にあたる。弥生時代の遺物土師器を出土することが知られている。

須々貴城跡（424）

城山の中腹のこの高台は、上田原合戦において村上方が陣をすえたと伝えられている。

箕輪遺跡（107）

浦野川と城山に囲まれた山麓のテラス状台地にあり、縄文時代中期の加曾利E式土器、弥生時代後期の箱清水式土器、平安時代の土師器・須恵器を出土する。

八幡山古墳（324）

浦野川北岸の弓崎神社脇から150mほど東北方へ登った山麓にあり、墳丘は破壊されて、石室の北側壁と天井石の一部が残っている。明治3年に発掘され、直刀・鉄鏃などを出土している。

八幡山遺跡（325）

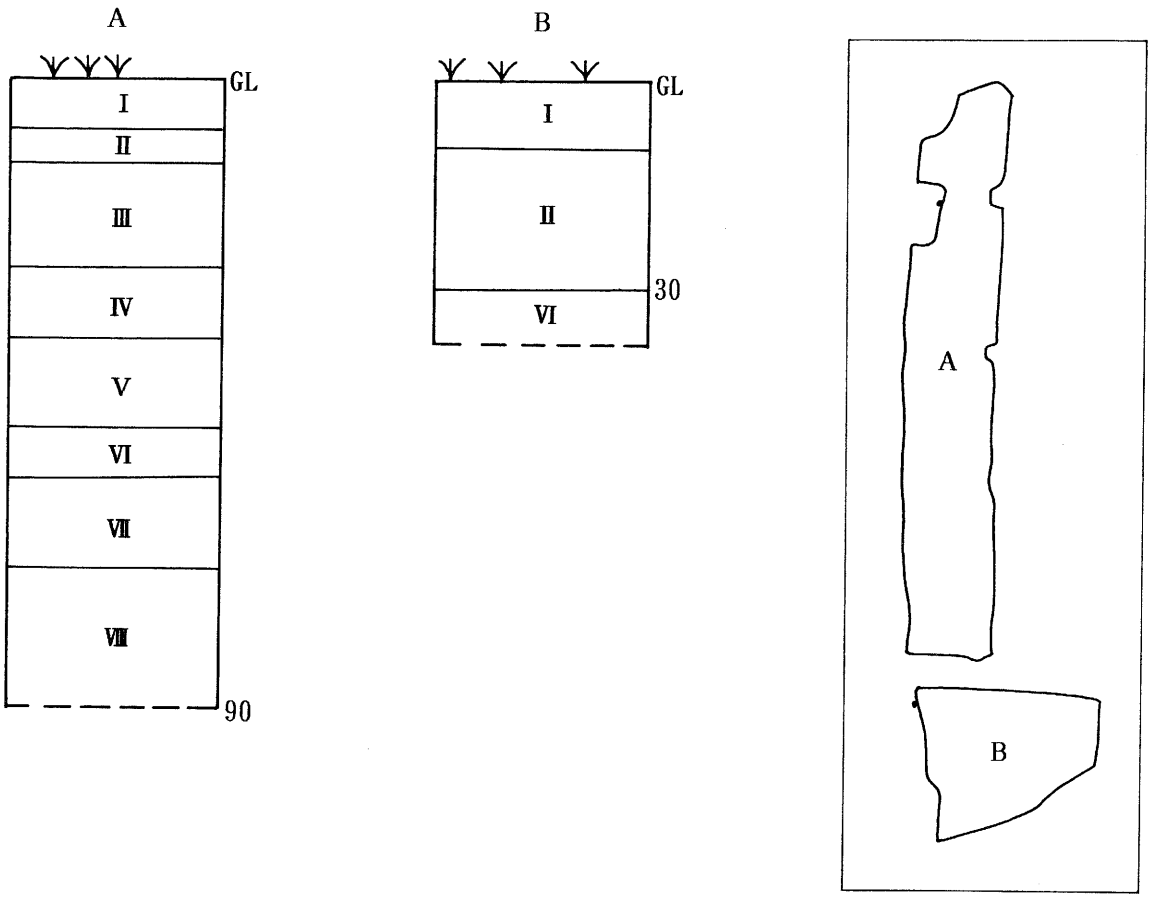
弓崎神社の西方段丘上の果樹園内、およそ5,000㎡にわたって、弥生時代後期の箱清水式土器平安時代の土師器・須恵器が出土している。

第2節　基本層序

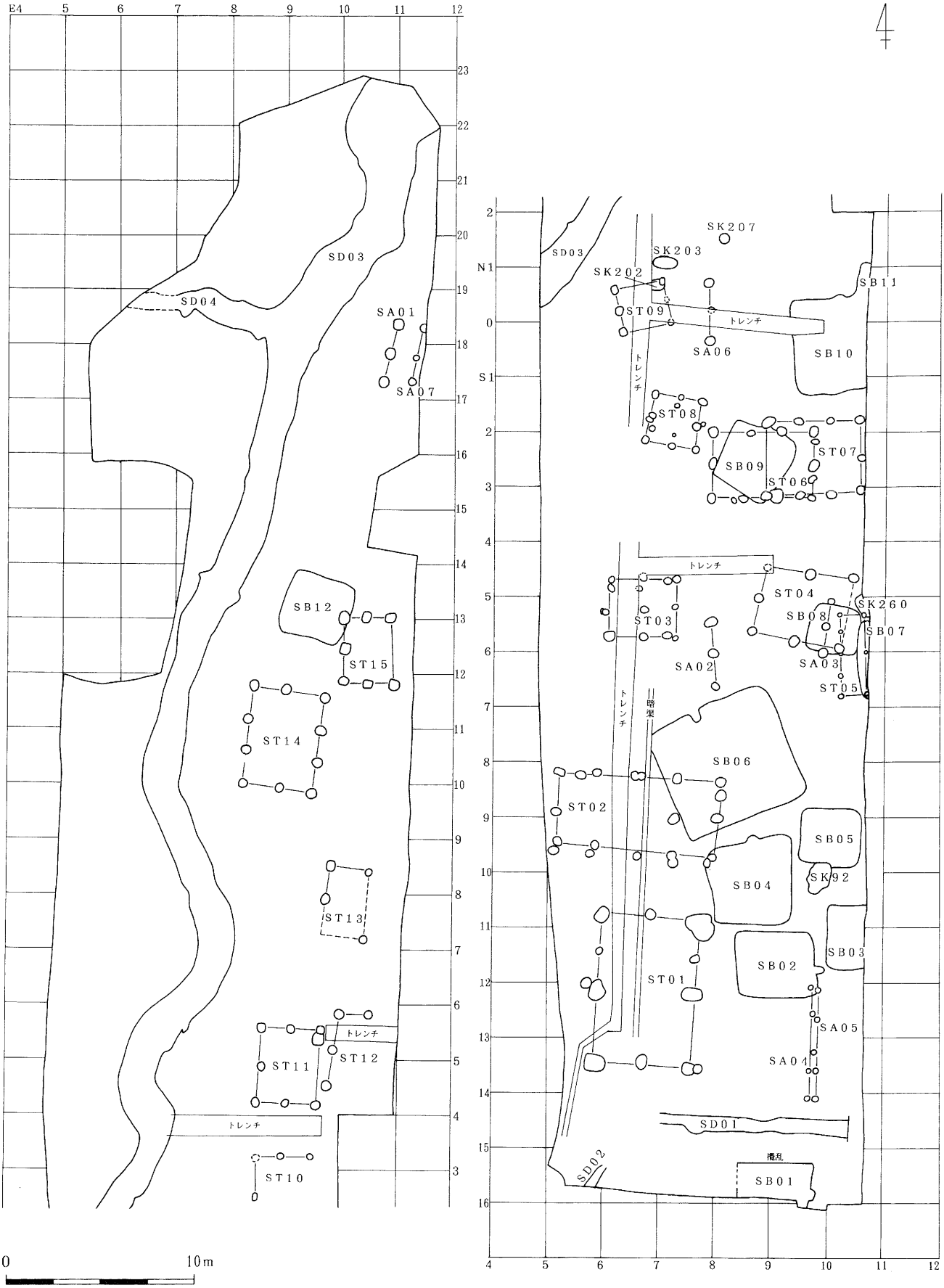
調査地の基本層序は、以下のとおりである。

本遺跡の立地している上田市大字福田字下田から反町の一帯は河川の侵食による沖積地である。この地域は今日まで水田として活用されていた。昭和43・44年にほ場整備が実施され、Ⅰ層からⅤ層までは客土等から成っている。Ⅰ層は耕作土である。Ⅱ層も水田耕作土の酸化鉄による赤化色土で、Ⅲ層は明灰褐色土である。Ⅳ層は黒褐色土で遺物を包含している。Ⅴ層は灰黄褐色土である。

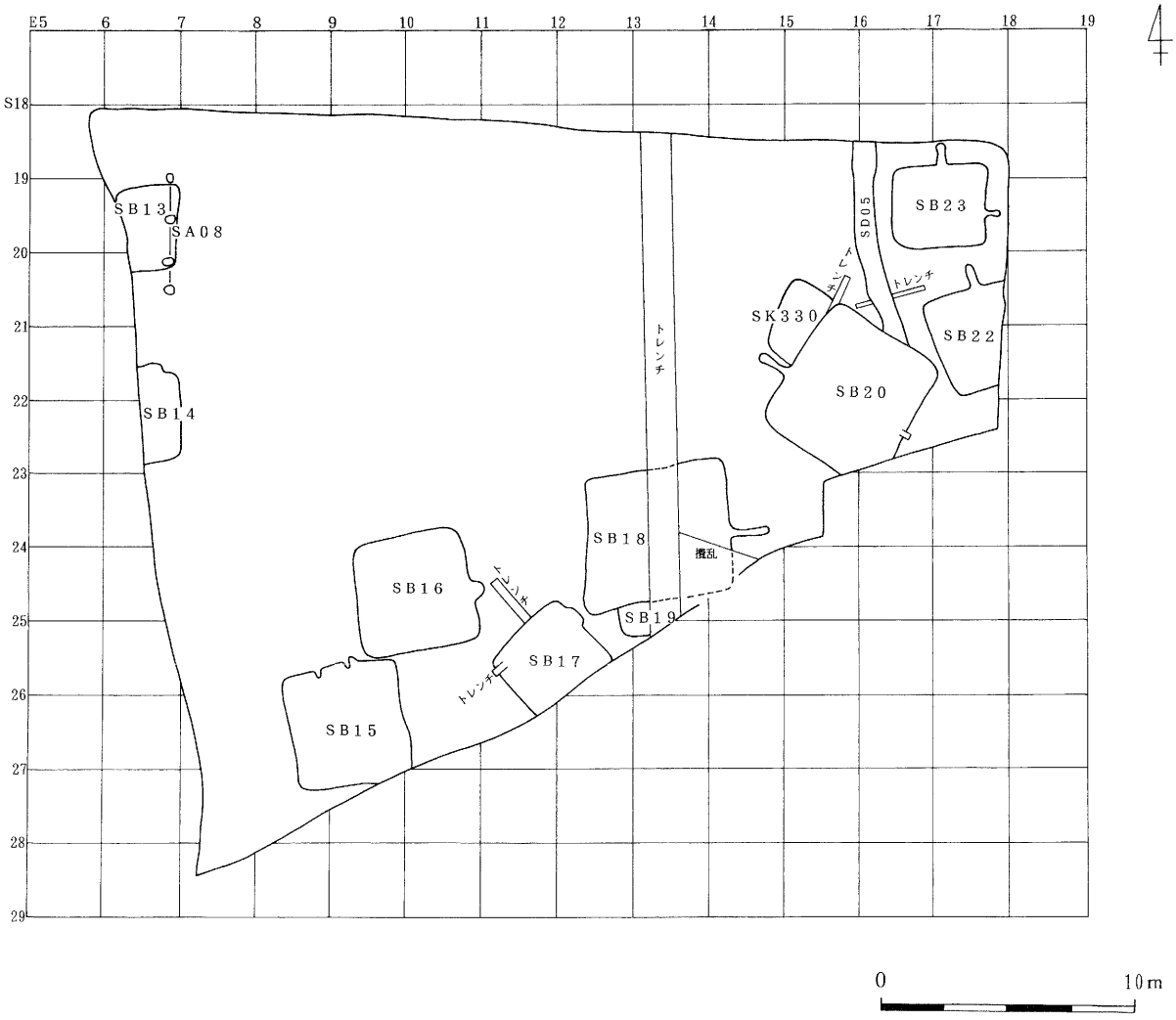
Ⅵ層からⅧ層は地山層である。Ⅵ層は褐灰色で若干砂礫を含む粘質土である。Ⅶ層は褐灰色で暗褐色土を含む粘質土である。Ⅷ層は灰色土と黄褐色土の混合土層で粘性を有している。遺構は主にⅥ層に遺構覆土が落ち込んだ状態で検出される。



第7図　基本層序


E4
5
6
7
8
9
10
11
12
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
SD03
SD04
SA01
SA07
SB12
ST15
ST14
ST13
ST11
ST12
トレンチ
ST10
SK207
SK203
SK202
SB11
ST09
SA06
SB10
ST08
ST07
SB09
ST06
ST04
SK260
SB08
SB07
ST03
SA02
SA03
ST05
暗渠
SB06
ST02
SB05
SB04
SK92
SB03
SB02
ST01
SA05
SA04
SD01
SD02
SB01
N1
0
S1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
0
10m

第８図　遺構配置図(1)


E5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
S18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
SB13
SA08
SB14
SB16
SB15
SB17
SB18
SB19
SB20
SK330
SB22
SB23
SD05
トレンチ
撹乱
0
10m

第８図　遺構配置図(2)

第三章　調査の結果

本調査では、竪穴住居跡22軒、掘立柱建物跡15軒、柱穴列8基、溝跡5条、土坑171基が検出された。検出された遺構の配置図は第8図のとおりである。遺物は、主に土師器・須恵器等の土器、鍛冶関連遺物、石器等、鉄製品、玉、骨、木製品等が出土した。以下に、各遺構ごとに遺構と遺物について述べたい。

第1節　竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡〈ＳＢ０１〉 遺構（第9図・第2表）、遺物（第59図・第18表）

本遺構は調査地区の南側S15E9グリッドとS15E10グリッドに検出された。この住居跡の南半分は未調査である。ほ場による撹乱の影響を強く受けており覆土は浅く、西壁のほとんどを喪失している。規模は北壁が3.90mを測り、その他は不明である。平面形態は隅丸方形を呈すると推定され、主軸方位はカマドを基準とするとN―95°―Eである。床面は貼り床らしい客土は認められず、覆土を取り去ると地山層となる。柱穴と思われるピットが2つ検出されている。

カマドは東壁に構築され、平面楕円形に壁より張り出している。周辺の床面上から構築材と思われる角礫が散在している。両袖は原位置を保つと思われる円礫と角礫3点が据えられている。

遺物は第59図の1と2が須恵器の坏で、2の底部切り離しは回転ヘラ切りである。4は甕で、カマド内から出土した。口縁部は「く」の字状を呈し、器壁は極めて薄く、胴部外面はヘラ削りを施している。また、鉄製品が2点床直上と覆土から出土した。

第2号竪穴住居跡〈ＳＢ０２〉 遺構（第10図・第2表）、遺物（第60図・第18表ほか）

本遺構は調査地区の南側S11E9・S11E10・S12E9・S12E10グリッドに検出された。第15・21・236号土坑と第4・5号柱穴列に切られている。規模は4.10m×3.80mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN―90°―Eである。床面は貼り床らしい客土は認められず、覆土を取り去ると地山層となる。ピットはＰ１とＰ２が柱穴と思われる。その他、カマド南西に掘り込みがみられる。焼土、炭化物を多く含む埋土が堆積しており、カマドに関連するピットと思われる。

カマドは東壁中央のやや南寄りに構築され、平面円形状に壁から張り出している。両袖は原位置を保つと思われる角礫が内側に傾いて据えられ、内部には円形扁平礫が左壁に寄りかかって出土した。炊き口から奥壁、両壁全面にわたって焼土及び炭化物が検出された。炊き口周辺の火床面は明黄褐色で非常に堅い。

遺物は第60図の1と2が須恵器の坏蓋で、2の口縁部端部は折れている。3・4は須恵器の坏である。5・6は土師器の甕で、6の器壁は非常に薄く胴部外面はヘラ削りを施しており、カマド内から出土した。8と9はこの遺構に伴わない遺物と思われる。また、擦・敲石等が出土している（第97図21）。

第3号竪穴住居跡〈ＳＢ０３〉 遺構（第11図・第2表）、遺物（第61図・第18・19表）

本遺構は調査地区の南側S10E10・S10E11・S11E10・S11E11グリッドに検出された。この住居跡の東半分は撹乱のため失われている。規模は、残存する西壁は3.55mである。平面形態は隅丸方形と推定される。主軸方位はほぼ座北である。床面は貼り床らしい客土は認められず、地山層が直接の床面となる。Ｐ１から柱痕が確認され、その直下に輝石安山岩の扁平な円形礫が据えられており、礎石を下に置き柱を建てたことがわかった。

カマドは北壁に構築されている。西袖は原位置を保つと思われる２個の扁平円礫が８cmから 10 cmほど埋設されている。炊き口の南外側の覆土中からはカマド構築材と思われる数点の礫が集中して出土した。火床は良く焼け、カマド内部は焼土及び炭化物が密に分布していた。

遺物は、第 61 図の１は内黒の坏で体部から底部外面の調整は手持ちへら削りが施されている。２は須恵器の坏である。３から５は土師器の甕で、３の口縁部は「く」の字状に外反しヨコナデを施している。カマドからは土師器甕の破片が出土したが図化しなかった。６は須恵器甕の胴部である。７と８はこの遺構に伴わない遺物と思われる。

第４号竪穴住居跡〈ＳＢ０４〉 遺構（第12図・第３表）、遺物（第62図・第19・20表）

本遺構は調査地区の南側Ｓ９Ｅ８・Ｓ９Ｅ９ ・S10Ｅ９グリッドに検出された。第２号掘立柱建物跡、第89・243 号土坑に切られている。規模は4.40m×4.30m である。平面形態は東壁が西壁よりやや長い台形気味の隅丸方形である。主軸方位はＮ―３° ―Ｗである。床面は貼り床らしい客土は認められず、地山層が直接の床面となる。Ｐ１からＰ４の主柱穴が確認された。

カマドは北壁中央よりやや東側に構築され、平面楕円形状に壁から張り出している。火床と奥壁の立ち上がり部分は赤く焼けている。東袖は、原位置を保つと思われる礫が内傾して 10 cmほど埋めて設置されている。カマド周辺には５点の礫が散在しているが、その内４点は厚さ約４cmの炭化物層の上に乗っておりカマド構築時にはこの位置にあったものではないことが分かる。もう１点は炊き口の南外側から出土し原位置から動いている。熱を受けており芯石の可能性があるが、その周辺は全く破壊されており抜き取り痕も見当たらなかった。火床の中心部よりやや奥には支脚と思われる礫が確認された。床に埋めこまれておらず、底面に焼土及び炭化物が付着していることから、床に直に立てられていた可能性がある。

遺物は、第 62 図の１は内黒の坏で体部から底部外面の調整は手持ちヘラ削りが、内面にはヘラミガキが施されている。２は須恵器の坏蓋で、口縁端部が短く折れている。３・４はカマド内から出土した土師器の甕で、外面にヘラ削りが施されている。３は口縁部を炊き口方向に向けて横転していた。４の底部には木葉痕が見られる。この他、南東隅付近から編物石と思われる礫が出土した。５から 15 はこの遺構に伴わない遺物と思われるが、弥生時代後期・古墳時代初頭の遺物は本遺構覆土から多く出土した。

第５号竪穴住居跡〈ＳＢ０５〉 遺構（第13図・第３表）、遺物（第63図・第20表）

本遺構は調査地区の南東側Ｓ８Ｅ10・Ｓ８Ｅ11 ・Ｓ９Ｅ10・Ｓ９Ｅ11 グリッドに検出された。第 99 号土坑に切られている。規模は3.40m×3.18m で、比較的小型の住居跡である。壁高は５cmから 13 cmと極めて浅い。本遺構は全体的に削平を受けているが、検出面のレベルは他の住居跡と同じであることから、掘り込みが浅いのはこの住居跡の属性であると思われる。平面形態は隅丸方形である。主軸方位はＮ―89° ―Ｅである。床面は貼り床らしい客土は認められず、地山層が直接の床面となる。柱穴は確認されなかった。

カマドは東壁中央の南寄りに構築されていたと推定されるが、袖部やカマド構築材は確認されなかった。床面の一部が強い熱を受けて変色しており、火床部と推定される。この部分の上を覆うようにして一回り大きく焼土が広がっていた。このやや奥には円礫が床に据えられており、支脚石と思われる。

遺物は、第 63 図の１は内黒の坏である。表面が磨耗気味なので調整等の詳細はよくわからないが、ロクロ調整のものと思われる。２は土師器の甕である。

第６号竪穴住居跡〈ＳＢ０６〉 遺構（第14図・第３表）、遺物（第64図・第20～22表ほか）

本遺構は調査地区の南東側 Ｓ６Ｅ８・Ｓ６Ｅ９ ・Ｓ７Ｅ７・Ｓ７Ｅ８・Ｓ７Ｅ９・Ｓ７Ｅ10 ・Ｓ８Ｅ７・Ｓ８Ｅ

８・S8E10・S9E８・S9E９グリッドに検出された。北西の隅を撹乱によって破壊されている。第２号掘立柱建物跡に切られる。規模は6.90m×6.52m で、平面形態は隅丸方形である。壁は床からほぼ垂直に立ちあがっている。主軸方位はN―23° ―Wである。礫を多量に含む地山を掘り込んで造られているが、床面には貼り床らしい客土は認められない。覆土には炭化物を多く含む２つの層が存在し、下の層には焼土も含まれている。埋没過程に何らかの行為が行われた可能性がある。ピットは 10 基確認され、そのうちＰ１からＰ６は主柱穴と思われる。Ｐ１・Ｐ３の内部には柱材が僅かに残存していた。Ｐ６からは礎板かと思われる板状の木材が出土した。Ｐ７は平面長方形を呈し出入口施設跡と考えられる。Ｐ８・Ｐ９・Ｐ10は浅い断面皿状の凹みであり、覆土には多くの焼土及び炭化物を含み、Ｐ10の覆土は堅く締まっていた。

カマドは北壁中央に構築されている。袖の構築土が残存している。構築土はブロック状に周辺の土とは異なる黄褐色土を含んでいる。カマド前方周辺の覆土中には礫が散在し、これらは廃絶以前にはカマドに用いられていた可能性がある。カマド内の覆土中から少量の骨片が出土した。

遺物は、第 64 図の１から８土師器の坏である。丸底を呈し、外面は体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施している。その内の７・８は内黒である。９から 11 は土師器の高坏で、10 はカマドから出土した。12・13 は土師器の鉢と思われる。14・15 は須恵器の坏蓋で、内側に返りがついている。14 はカマド近くの床面から出土した。16・17 は須恵器の坏で、17 はカマド周辺から出土した。16 の底部にはヘラ削りが施され、17 は回転ヘラ切り未調整である。18 は須恵器の鉢、19 は鉢か高盤かと思われ、18 は床面から出土した。20 から 34 は土師器の甕である。22・27 は床面から出土し、31・34 はカマドから出土した。31 と 32 は同一個体かもしれない。器面が剥落気味で調整等が不明のものがあるが、20・27・28・31・32 はハケ調整を施し、21・23 から 25・26・29・34 はヘラ削りを施している。また、33 の底部には木葉痕が施されている。35 は甑の底部で、36 はミニチュア土器である。37 は他からの流れ込みの遺物と思われる。また、砥石、擦・敲石等が出土している（第97図 11、12、20、22、23)。

第７号竪穴住居跡〈ＳＢ０７〉 遺構（第15図・第13表)、遺物（第65図・第22・23表)

本遺構は調査地区の東側Ｓ５E11・Ｓ６E11 グリッドに検出された。大半は調査地区の外となり、詳細は不明である。第５号掘立柱建物跡に切られている。また、第８号住居跡を切っていると考えるが、断定できない。規模は西壁の長さが 4.20m で、平面形態は隅丸方形か長方形を呈していると思われる。貼床は認められず、地山層を直接床面にしている。

遺物は、第 65 図の１が内黒の坏である。丸底を呈し、外面は体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施している。２・３は須恵器の坏である。４・５は土師器の甕で、４の器壁は極めて薄い。

第８号竪穴住居跡〈ＳＢ０８〉 遺構（第16図・第4表)、遺物（第66図・第23表)

本遺構は調査地区の東側Ｓ５E10・Ｓ５E11・Ｓ６E10・Ｓ６E11 グリッドに検出された。第４号掘立柱建物跡と切り合う。第５号掘立柱建物跡に切られるが、床までは破壊されていない。第７号住居跡に切られていると考えるが、断定できない。規模は2.80m×2.66m で、比較的小型である。平面形態は隅丸方形である。壁高は 12 ㎝から 16 ㎝と極めて浅い。本遺構は全体的に削平を受けているが、検出面のレベルは他の住居跡と同じであることから、掘り込みが浅いのはこの住居跡の属性であると思われる。主軸方位はN―83° ―Eである。礫を多量に含む地山を掘り込んで造られているが、床面には貼り床らしい客土は認められない。

カマドは東壁に構築されていたものと推定される。焼土を多く含む土が東壁際に広がっているた。この部分を取り去ったが、火床は無かった。焼土の北側に扁平楕円形礫が１点あるが、その他に礫はみられなかった。左右に袖らしい粘土等も無かった。この焼土等を囲むように「い」の字形の浅い掘り込みがある。カマ

ドと関連をもつ施設と思われる。

遺物は、第 66 図の１が内黒の坏である。丸底を呈し、外面は体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施している。２から４は須恵器の坏である。2 の底部は回転ヘラ切り未調整で、３は回転ヘラ切りの後粗雑にヘラ削りで調整されている。５から９は土師器の甕である。５は小型で、口縁部は短く外反する。８は内外面にミガキが施される。10・11 は他から流れ込んだものと思われるが、本遺構からは弥生時代後期・古墳時代初頭の土器が数点出土している。また、細かい鉄滓が出土した。

第９号竪穴住居跡〈ＳＢ０９〉 遺構（第17図・第4表）、遺物（第67図・第23・24表ほか）

本遺構は調査地区の中央Ｓ１Ｅ９・Ｓ２Ｅ８ ・Ｓ２Ｅ10・Ｓ３Ｅ９・Ｓ３Ｅ10 グリッドに検出された。第６号・７号掘立柱建物跡に切られている。規模は 3.65m×3.58m で、平面形態は北側がやや広がる台形気味の隅丸方形である。主軸方位はＮ―28° ―Ｅである。床面には貼り床らしい客土は認められず、地山層を直接の床面としている。ピットは５つ確認された。Ｐ１・Ｐ２、Ｐ４からＰ５は柱穴と思われるが配置等が整然としていない。Ｐ３は炭化物と焼土を含む覆土が詰まっており、カマドに関連する施設と思われる。

カマドは北壁中央に構築されている。平面楕円形状に壁から張り出している。床は赤褐色の焼土が広がり、特に炊き口と推定される位置よりやや奥の東よりの床面は明黄褐色に焼けて堅く締まっている。これらの焼土範囲の南側には赤褐色や明黄褐色の焼土粒を含む黒色土が広がる。両袖は原位置を保つと思われる扁平礫３点が据えられている。東袖の南側に据えられている礫の両側は砂質気味の土を入れて構築されている。また、両袖の中央やや西よりには、伏せた状態の甕が口縁部を３cmほど地山層に掘り込んで据え付けられている。甕の内部には黒褐色粘質土を充填していた。このことからこの甕は支脚の可能性がある。

遺物は、第 67 図の１が土師器の坏である。丸底を呈し、比較的小型で体部は浅い。２・３は土師器の高坏で坏部の内側は黒色処理されている。４は土師器の鉢でカマド近くの床面から出土した。丸底で口縁部は外反している。５はカマド内から出土した須恵器の坏蓋で、口縁部の先端が丸く小さく折れている。６から８は須恵器の坏で、６・８はカマド内から出土した。９から 13 は土師器の甕である。９は先述したカマドの支脚に転用されたと推定される甕で、内外両面をヘラ削りが施してある。10・11 は外面がヘラ削りされており、カマドの周辺から出土した。14 は須恵器の甕か壺の口縁部でカマドから出土した。また、本遺構北東部の床面直上から銅製品が出土した。腐食していて原形が不明であるが、銅鏃と思われる（第95図１）。また、砥石、擦・敲石等が出土している（第97図12・24）。

第 10 号竪穴住居跡〈ＳＢ１０〉 遺構（第18図・第14表）、遺物（第68図・第24・25表ほか）

本遺構は調査地区の北側Ｎ１Ｅ10・Ｎ１Ｅ11 ・０Ｅ10・０Ｅ11・Ｓ１Ｅ10・Ｓ１Ｅ11 グリッドに検出された。第 11 号住居跡と切り合うが、新旧関係は明らかでない。試掘トレンチにより西壁と床の一部を壊している。東側半分は未調査である。規模は西壁の長さが 5.25m で、平面形態は隅丸方形と推定される。壁の残りは良好で、ほぼ垂直に立ち上がっている。周溝は南壁から西壁下に巡っている。主軸方位はＮ―4° ―Ｗである。床面には貼り床らしい客土は認められず、地山層を直接の床面としている。ピットは、Ｐ１・Ｐ３・Ｐ５・Ｐ12 は主柱穴と思われる。その他もＰ10・Ｐ６を除いて柱穴と思われる。Ｐ５・Ｐ７の段面形は階段状を呈し、柱が入っていた部分が低くなっているものと思われる。Ｐ12 には礎石となる扁平礫がある。Ｐ10 はカマド東脇にあり、土師器甕片等の他、炭化物と焼土のほか土器やメノウの破片を含む覆土が詰まっている。

カマドは北壁に構築されている。平面楕円形状に若干壁から張り出している。両袖には小規模の礫がみられ構築材の一部と思われるが、袖芯石は無い。両袖とも黄褐色砂質土を含む黒褐色土を構築材としているが、残りは良好でない。カマドからは器壁の極めて薄い長胴甕、須恵器の坏・甕等が出土した。

遺物は、第68図の1が内黒の坏である。2・3は須恵器の坏蓋で、口縁部先端を短く折っている。4から6は須恵器の坏で、2・5は無高台で底部は丸みを持ち、6は断面平行四辺形の高台を付す。4の底部は回転ヘラ切りを施した後、粗くヘラ削りがなされている。7から12は土師器の甕である。7から9は比較的小型の甕である。7・11は外面がヘラ削りされている。10はP10より出土し、外面にハケ調整が施されている。13は須恵器の壺で比較的大きな高台を持つ。14・15は須恵器の甕である。また、P3近くの床面上から刀子と思われる鉄製品が出土した（第95図2）。南西隅の周溝から砥石が出土している（第97図14）。

第11号竪穴住居跡〈ＳＢ１１〉 遺構（第19図・第4表）、遺物（第69図・第25表）

本遺構は調査地区の北側Ｎ2E11・Ｎ1E11グリッドに検出された。第10号住居跡と切り合うが、新旧関係は明らかでない。本遺構の大部分は調査地区の外になり未調査のため、規模・平面形態及び主軸方位等の詳細は不明である。ピットは、Ｐ1が確認され、柱穴と思われる。カマドの存在も不明である。

遺物は、第69図の1・2は須恵器の坏である。2の底部は回転ヘラ切りが行われている。13は須恵器の壺の口縁部と思われる。この他、内黒の杯や土師器甕の破片等が出土した。

第12号竪穴住居跡〈ＳＢ１２〉 遺構（第20図・第4表）、遺物（第70図・第25・26表）

本遺構は調査地区の北側N14E10・N14E11・N13E９・N13E10グリッドに検出された。第15号掘立柱建物跡の柱穴Ｐ1に切られる。規模は3.62m×3.38mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はＮ—18°—Ｅである。床面は、北半から東壁沿いは地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。これに対し、南半は北半よりも一段掘りくぼめた後に客土を行っている。したがって、本遺構の床面は、北半が地山の黄褐色粘質土で、南半は黒褐色土の中に地山の黄褐色土がブロック状に含まれている土である。ピットは南壁沿いにＰ1が検出された。このＰ1は客土の部分に掘り込まれている。

カマドは、構築材、支脚、煙道等の設備の痕跡は確認されなかった。床面東よりに焼土の広がりがみられ、その中央部は明黄褐色で非常に堅い。火床であろう。

遺物は、第70図の1・2が内黒の杯で、1は床面から出土した。表面は剥落していて、調整等は不明である。3から7は須恵器の坏で、7は床面から出土した。その内、3から5は無高台で、底部は回転糸切り未調整である。6・7は箱型の体部に高台を付し、底部は回転ヘラ削りが行われている。6の表面には火襷が良くみられる。8は須恵器の甕で外面に平行タタキ目が施されている。9は須恵器の横瓶である。体部は横に長い俵形で、外面に平行タタキ目が施されている。この他、土師器甕の破片等も出土している。

第13号竪穴住居跡〈ＳＢ１３〉 遺構（第21図・第15表）、遺物（第71図・第26表）

本遺構は調査地区の南西側Ｓ19E７・Ｓ20E７グリッドに検出された。西半分は調査区の外で、未調査である。第8号柱穴列を切っていると思われるが、確かではない。北・南側は撹乱により壁と床の一部を破壊されている。規模は東壁の長さが3.48mで、平面形態は隅丸方形と推定される。床面は地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。カマドは確認されなかった。

遺物は、第71図の1が須恵器の坏蓋である。口縁部の端部は短く折れている。2から6が須恵器の坏である。2の底部は切り離し後に粗いヘラ調整が、3の底部はヘラ削りが行われている。この他、内黒の坏、土師器甕、羽口の破片が出土した。

第14号竪穴住居跡〈ＳＢ１４〉 遺構（第22図・第5表）、遺物（第72図・第26・27表）

本遺構は調査地区の北側Ｓ21E７・Ｓ22E７・Ｓ22E８グリッドに検出された。西半分は調査区の外にな

り、未調査である。第315号から318号土坑に切られる。規模は東壁の長さは4.00mで、平面形態は隅丸方形と推定される。主軸方位はN—2°—Wである。床面は、地山層を掘り込んでそのまま床として使用していると思われる。

カマドは、北壁に構築されている。東側の袖には原位置を保つと思われる芯石が据えられている。東側はほ場整備による撹乱を受けていて残存していない。火床部周辺には構築材と思われる礫と焼土を含む土が浮いた状態で検出されている。

遺物は、第72図の1は体部が内弯する内黒の杯である。2は土師器の坏である。1と2は、表面は著しく磨耗していて調整は不明である。3は須恵器の坏蓋で、口縁先端が短く内側に折れている。4・5は須恵器の坏である。5の底部は、切り離しの後手持ちヘラ削りがなされている。6から8は土師器の甕である。どれも小片であり表面は荒れていて調整等は不明である。8の器壁は極めて薄く、外面に付着物がみられる。この他、外面に平行タタキ目を施した須恵器の甕等が出土した。また、古墳時代初頭の遺物の破片が僅かに出土している。

第15号竪穴住居跡〈ＳＢ１５〉 遺構（第23図・第5表）、遺物（第73図・第27表ほか）

本遺構は調査地区の南側Ｓ25E９・Ｓ25E10・Ｓ26E９・Ｓ26E10・Ｓ26E11・Ｓ27E９・Ｓ27E10グリッドに検出された。南東隅は撹乱によって破壊されている。規模は4.96m×4.50mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN—12°—Wである。覆土は大きく2層に分かれ、北西側が2の黒褐色砂質土、南東側が1の黒褐色砂礫土である。2が先に堆積し、1がその上に堆積している。湯川の増水時の氾濫で住居跡内の窪みに土砂が堆積したものと考えられる。床面は、砂礫の多い地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。ピットは、Ｐ1からＰ4は主柱穴である。Ｐ5は不整形を呈して、カマド東脇に存在する。

カマドは、北壁中央にある。両袖が残っており、地山層の黄褐色砂質土に黒褐色砂質土を混ぜた土で造られている。西側袖の先端には袖石かと思われる扁平な角礫がある。また、カマド東手前の床には土師器甕の破片が散在していた。

遺物は、第73図の1が体部の浅い内弯気味を呈した土師器の坏で、体部外面はヘラ削りが施されている。2は須恵器の坏蓋で口縁部先端が内側に折れている。3は須恵器の坏でＰ5から出土した。全体的に歪みが大きく、底部は回転ヘラ切りの後に粗いナデやヘラ削りが施されている。4は土師器の鉢か甕でカマド周辺から出土した。胴部は張りがあり、丸底である。内外両面にヘラ削りが施される。5から9は土師器の甕で、6はカマド周辺から出土した。5は、張りのない胴部を呈し、内外両面を口縁部にヨコナデ、胴部にヘラ削りしている。6は胴部に張りがあり、外面は口縁部にヨコナデ、胴部にヘラ削りを施し、内面はナデとミガキが施されている。7は口縁部が折れて外反する。胴部外面にヘラ削りが行われ、内面はミガキが施されている。8・9も外面はヘラ削りされている。10は他からの流れ込みの遺物と思われる。本遺構からは弥生時代後期・古墳時代初頭の遺物の破片が僅かに出土している。また、床面及び床直上から多数の礫が出土した。第97図26は擦・敲石と思われる。

第16号竪穴住居跡〈ＳＢ16〉 遺構（第24図・第5表）、遺物（第74図・第27・28表）

本遺構は調査地区の南側Ｓ23E10・Ｓ23E11・Ｓ24E10・Ｓ24E11・Ｓ25E10・Ｓ25E11グリッドに検出された。第338号土坑に切られている。ほ場整備による削平が著しく、壁の残存は6 cmから12 cmほどである。規模は4.5m×4.75mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN—81°—Eである。床面は、地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。地山は、床の東側は砂礫を多く含み、西側は砂を多く含んでいる。ピットはＰ1からＰ4が主柱穴であると思われる。Ｐ5はコーナーにあることから、何らかの貯蔵

穴かと思われる。

カマドは、東壁中央のやや南側にある。平面円形状に壁より張り出す。奥壁手前の西寄りに土師器甕が伏せた状態で出土した。支脚として使用されていたと考えられる。甕の内部に4層から成る土が入っていた。

遺物は、第74図の1が丸底の土師器の坏で、P3から出土した。体部外面はヘラ削りが施されている。2は須恵器の坏蓋のつまみ部である。3から5は土師器の甕である。3は前述のカマド支脚に転用されていた甕で、胴部外面にヘラ削りが施され、内面は細いヘラ状工具による削りが施されている。4は薄いつくりで、口縁部が大きく折れて外反する。6は須恵器の甕で、口縁帯をもつ。7はP1から出土した。

第17号竪穴住居跡〈SB17〉 遺構（第25図・第6表）、遺物（第75図・第28表）

本遺構は調査地区の南側S24E12・S24E13・S25E12・S25E13・S26E12・S26E13グリッドに検出された。南側は撹乱されており不明である。調査上サブトレンチによって北壁は破壊した。規模は北西壁が3.80mで、平面形態は不明である。主軸方位はN―43°―Wである。床面の状態は安定していない。地山層の所々に覆土がまだら状に入り込んでいて床を貼っているか否か判明できなかった。地山は砂礫を多く含んでいる。

カマドは、北東壁の北寄りにある。壁より若干張り出す。焼土の広がりはみられず、張り出し部にのみ焼土が検出された。火床も無く、袖等の状況も明らかでない。さらに、このカマドの西側、北東壁東寄りに焼土と炭化物が集中して出土した。骨片も出土し、火床が確認された。壁下にあるが、あるいは張り出し部を持たないカマドだったとも考えられる。

遺物は、第75図の1・2が丸底の土師器の坏である。1は、口縁部はヨコナデで体部外面はヘラ削りが施されている。3は須恵器の坏蓋で、口縁部先端が短く折れる。4・5は須恵器の坏である。4は無高台で底部は回転ヘラ削りが施されている。5は高台を付している。6は土師器の甕である。この他、カマド付近の床面から、外面にヘラ削りが施された土師器甕の胴部が出土した。この他、刀子と思われる鉄製品が出土した。

第18号竪穴住居跡〈SB18〉 遺構（第26図・第6表）、遺物（第76図・第28・29表ほか）

本遺構は調査地区の南側S22E14・S22E15・S23E13・S23E15・S23E14・S24E13・S24E14・S24E15グリッドに検出された。第19号竪穴住居跡を切り、第340号土坑を切っている。トレンチと撹乱により床面中央と南東部が失われている。規模は5.65m×5.35mで、平面形態は隅丸方形であると思われる。主軸方位はN―86°―Eである。床面は、厚さ2から4cmの貼り床である。ピットはP1からP4が主柱穴で、P5は入口施設に関わる遺構であると思われる。その他、P6・7があり、P6は礎石が残っていた。

カマドは、東壁中央にある。長さ1.30mの煙道を持つ。袖の芯石は北袖に1つ南袖に2つみられ、原位置を保っていると思われる。また、北袖の北西と北東コーナー付近に礫が散在しており、これらは同一個体で接合すると全長約70cmになり、天井石とすると適切なサイズである。

遺物は、第76図の1は小片であるが外面が手持ちヘラ削りされている土師器坏である。2から6が内黒の坏である。表面は荒れていて調整等が不明であるが、ここに掲載しなかった他の小片には外面に手持ちヘラ削りが行われているものがいくつかある。2の体部は直線的に開き、底部は平底である。2・3の体部は丸みを持つ。8・9は須恵器の坏蓋で、口縁部先端が内側に短く折れる。10・11は底部切り離し後回転ヘラ削り等の調整が行われている須恵器の坏である。12・13は底部に高台を付している須恵器の坏で、体部は箱型を呈する。12はカマドから出土し、底部は回転ヘラ削りが施されている。14から20は土師器の甕である。14・15・17・19は胴部にヘラ削りが施されている。16は煙道入口と火床面から出土し、表面が荒れていて

調整が不明である。17は北東コーナー付近の床面から出土した。18は南袖付近とカマド内から出土し、内外両面はハケで削るように調整がなされている。19はカマド内から出土した。22は土師器の甑で、底部に1孔を有する。また、内面に同心円文のタタキが行われている須恵器甕の破片が出土した。そのほか、P3付近の西壁寄りの床面直上から礫が出土した。形状から作業用の台石と思われる。また、南側の床面より若干上から勾玉が出土した（第97図8）。覆土中からは骨片が出土した。

第19号竪穴住居跡〈SB19〉 遺構（第27図・第6表）、遺物（第77図・第30表）

本遺構は調査地区の南側S24E13・S24E14・S25E13・S25E14・グリッドに検出された。第18号竪穴住居跡に切られて、トレンチと撹乱によりほとんどを失われている。規模・平面形態・主軸方位は不明である。

遺物は、7個体の和泉的高坏が集中して出土した。1から6は床面上から出土した。第77図の1から6の坏部は、口縁部が外反し、内面底部が平坦である。その内、4の内面底部は若干内弯気味である。脚部は、1・2・5・6の筒部が内弯して裾部は大きく開いている。3・4は接合部から裾部に向かって大きく開き、先端でゆるく折れてさらに開いている。また、1とともに炭化した木材の破片が出土した。

第20号竪穴住居跡〈SB20〉 遺構（第28図・第7表）、遺物（第78図・第30・31表ほか）

本遺構は調査地区の南側S20E16・S20E17・S21E15・S21E16・S21E17・S22E15・S22E15・S22E16・S22E17グリッドに検出された。南東隅は撹乱されている。第330号土坑を切る。規模は5.90m×5.30mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN—39°—Wである。床面は、住居内の北西4分の1が10㎝程度の深さの掘り形を設け、そこに黒褐色土とにぶい黄褐色シルト質土の混じった土を詰めている。その他の部分は、にぶい黄褐色シルト質土と褐灰色土を10㎝の厚さで敷き詰め貼り床としている。P1からP4は主柱穴で、P5は貯蔵穴かと思われる。

カマドは、北西壁の南寄りにある。1.12mの煙道をもつ。煙道の天井の土も残存していた。袖部の構築土は両袖とも残存していたが、袖芯石はない。但し、構築材の一部と思われる角礫が覆土中及び床面から出土している。

遺物は、第78図の1から3は土師器の坏である。1・2は体部が浅く内弯し、3は体部が深く外面にヘラ削りが施されている。4・5は内黒で、4の体部から口縁部は丸みを持ち、5の口縁部はゆるく外反する。1は西コーナー近くの床直上から出土し、外面にヘラ削りが施されている。2はカマドから出土した。4はカマドの北袖より北の床面から出土し、外面にヘラ削り、内面にミガキが施されている。4はカマドから出土した。6は高坏の脚で南東壁付近の床直上から出土した。7は窯印のようなヘラ痕があり、須恵器の坏蓋と思われる。8は須恵器の坏で、P4から出土した。9から19は土師器の甕である。9は長胴甕でカマドの袖近くから出土した。外面は縦方向のヘラ削りが施されている。10は背の低い甕でP5近くの床面から出土した。胴部外面はヘラ削りの後ナデが施され、内面はヘラ削りの後ミガキが施されている。11から16は小型の甕である。11は北東壁近くの床直上から出土し、胴部外面はヘラ削りが、内面にはナデが施されている。12は床の中央西寄りの床面から出土し、胴部外面はヘラ削りが、内面にはヘラ削りとミガキが施されている。13はカマド近くの壁下から出土し、二次的に熱を受けており表面は剥落している。外面はヘラ削りが施されている。14は胴部外面にヘラ削りが、内面にはミガキが施されている。15はカマド内の9とほぼ同じ位置から出土し、胴部外面にヘラ削りが、内面にはミガキが施されている。17は内外両面にヘラ削りが施されている。18は外面にヘラ削りが、内面にハケ調整が施されている。19の底部には木葉痕がある。20は甑で、カマドの北袖近くから出土した。外面にヘラ削りが、内面にミガキが施され、底部に26の孔を有する。ま

た、羽口・鉄滓が出土しており（第96図1）、小鍛冶を行っていた可能性があるが、それに関連した遺構は確認されなかった。この他、本住居跡の床直上から床面より多数の礫が出土した。第97図15から17は砥石である。凝灰岩による管玉の破片も出土した（第97図9）。

第21号竪穴住居跡は欠番

第22号竪穴住居跡〈ＳＢ２２〉 遺構（第29図・第7表）、遺物（第79図・第32表ほか）

本遺構は調査地区の南東側Ｓ20E17・Ｓ20E18・Ｓ21E17・Ｓ21E18グリッドに検出された。南東隅は撹乱されている。東側は調査区の外であり、未調査である。規模は西壁の長さが4.14mで、平面形態は隅丸方形であると推定される。検出面からの残りが良く、壁高は約30㎝から40㎝ある。主軸方位はN―16°Wである。床面は、全体的に貼り床されており、褐色土を含む黒褐色砂質土が使用されている。柱穴等は確認されなかった。

カマドは、北壁にある。壁から北へ向かって1.05mの煙道が延びている。東側の袖部が残っており、構築土と礫がある。西側の袖部は破壊されて残存しない。

遺物は、第79図の１・２は体部が浅く丸底の土師器の坏で、３は内黒である。１はカマド付近の覆土中から出土した。２は体部外面にヘラ削りが、内面にミガキが施されている。３は北西コーナー近くの覆土中から出土し、体部外面にヘラ削り、内面にミガキが施されている。４は高坏の脚と思われ、カマドの煙道から出土した。５から８は土師器の甕である。５は長胴甕で、南側の覆土中から出土し、胴部外面に縦方向のヘラ削りが施され、内面にヘラ削りとナデが施されている。６は内外両面にヘラ削りを施される。７は南壁下の床直上から出土した。胴部は球形を呈し、内外両面にヘラ削りを施されている。８の底部は木葉痕がみられる。９は須恵器の甕か壺の口縁部と思われるが、小片であり詳細は不明である。この他、須恵器の坏及び甕等の破片が出土した。また、覆土中や床面に多くの礫が散在していた。特に南側に重さ10kgを越える大きな礫が集中して散在していた。これらの表面には僅かに擦痕等がみられ、台石や砥石として使用していた可能性があるが、いずれも床上30㎝前後の覆土中から出土しており、生活時の原位置を保っていないものと思われる。また、西壁下の床面にはベニガラのかたまりが検出された。

第23号竪穴住居跡〈ＳＢ２３〉 遺構（第30図・第7表）、遺物（第80図・第32・33表ほか）

本遺構は調査地区の南東側Ｓ18E17・Ｓ18E18・Ｓ19E17・Ｓ19E18グリッドに検出された。規模は3.80m×3.40mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN―87°―Eである。柱穴等は確認されなかった。

カマドは、北壁と東壁にそれぞれ煙道を持つカマドがある。両カマドの煙道から長胴甕の破片が出土した。北壁のカマドは、両袖ともわずかに痕跡が残るのみである。火床の中央に長さ15㎝程の礫があり、支脚石かと思われる。東壁のカマドは、焚き口の天井石が残っていた。但し、原位置から少し移動しているようである。南袖は円盤状の扁平石を袖土内に入れている。また、北袖内にも袖石がある。さらにカマド火床に支脚石と思われる礫がある。北西コーナー近くから北壁のカマド前方周辺の覆土から角礫が出土しており、カマド構築材に使用されていたものと思われる。

遺物は、第80図の１・２は土師器の坏で、丸底で口縁部はゆるく外反している。この内２は内黒で、体部外面はヘラ削り、内面はヘラミガキを施している。３から11は土師器の甕である。３は長胴甕で、胴部外面はヘラ削り、内面にナデが施されている。４は胴部の内・外面にヘラ削りが施されている。５は球形胴を呈すると思われ、胴部外面にヘラ削り、内面にナデが施されている。10は東壁のカマドの煙道から出土した長胴甕で、胴部外面に縦方向のヘラ削りが施され、内面にナデと削りが施されている。11は南壁付近の床直

上と北東コーナー付近から出土した。小型で、口縁部にヨコナデ、胴部内・外面にヘラ削りを施している。12は甑の底部で住居跡中央の覆土中から出土した。13は他からの流れ込みの遺物と思われる。この他須恵器の坏の小片が僅かに出土した。また、覆土中より羽口と鉄滓が出土した（第96図2）。

第2節　掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡〈ＳＴ０１〉 遺構（第31図・第8表）、遺物（第81図・第33表ほか）

本遺構は、調査地区の南側S10E6・S10E7・S10E8・S11E6・S11E7・S11E8・S12E6・S12E7・S12E8・S13E6・S13E7・S13E8グリッドから検出された。第24・38・56号土坑に切られる。平面形は2間×2間の側柱式で、南北棟である。規模は、桁行8.20m、梁行5.30mである。主軸はN－3°－Eを指し、柱間は、桁行でおよそ4.10m、梁行でおよそ2.65mである。柱穴は底の中央が窪むものと窪まないものがあり、平面形は長方形と楕円形がある。P3・6・8に柱痕、P5に柱材があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、内黒杯、弥生時代後期の甕等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少なく、第81図1は折り返し口縁の甕で、2は高坏の脚、3は土師器の甕である。1はP1から、2はP6から、3はP7から出土した。また、羽口の破片が出土した（第96図3・4）。

第2号掘立柱建物跡〈ＳＴ０２〉 遺構（第32図・第8表）、遺物（第82図・第33表）

本遺構は、調査地区の南側S8E6・S8E7・S8E8・S8E9・S9E5・S9E6・S9E7・S9E8・S12E8・S9E9グリッドから検出された。第4・6号竪穴住居跡を切る。平面形は4間×2間で、東西棟である。規模は、桁行8.60m、梁行4.50mである。主軸はN－87°－Wを指し、柱間は、桁行でおよそ2.15m、梁行でおよそ2.25mである。P4とP20等の切り合い関係から、当初の南側柱列は柱の入れ替え後に内側に約50cm縮小して設けられたことがわかる。東側柱列は軒先柱の可能性がある。柱穴は底の中央が窪むものと窪まないものがあり、平面形は円形か楕円形である。P6・7・8・10・21に柱痕、P1・11・17に柱材があった。P10とP20には裏込め石があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、土師器高杯、須恵器杯、箱清水式の甕等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第82図1は高台を付した須恵器の坏で底部は回転ヘラ削りが施されている。2は須恵器の坏蓋で口縁の先端は内側に折れている。1はP19から、2はP21から出土した。

第3号掘立柱建物跡〈ＳＴ０３〉 遺構（第33図・第8表）、遺物（第83図・第33表ほか）

本遺構は、調査地区の中央S4E7・S4E8・S5E7・S5E8グリッドから検出された。平面形は2間×2間の総柱で、南北棟である。規模は、桁行3.60m、梁行3.20mである。主軸はN－90°－Eを指し、柱間は、桁行でおよそ1.80m、梁行でおよそ1.60mである。柱穴の平面形は円形か楕円形である。P5・7・9裏込め石があった。

遺物は、いずれも小片で図化できるものは少ない。第83図1は須恵器の甕である。2は箱清水式の甕である。1はP10から、2はP11から出土した。その他、土師器甕等が出土した。

第4号掘立柱建物跡〈ＳＴ０４〉 遺構（第34図・第9表）、遺物（第84図・第33表）

本遺構は、調査地区の中央S4E9・S4E10・S4E11・S5E9・S5E10・S5E11グリッドから検出された。第110号土坑を切る。また、第8号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。東側が調査地区の外で未調査のため、東に続く可能性があり、桁行は何間か不明である。梁行は2間で、規模は3.70mで

ある。主軸はN－82°－Wを指し、柱間は桁行でおよそ2.30m、梁行でおよそ1.85mである。柱穴の平面形は円形と楕円形がある。P6に柱痕、P1に柱材があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、内黒坏、須恵器杯、弥生後期から古墳初頭の甕及び高坏等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第84図1は内黒の坏で体部はヘラ削りが施されている。2は土師器の甕である。1はP2から、2はP6から出土した。

第5号掘立柱建物跡〈ST05〉遺構（第35図・第9表）

本遺構は、調査地区の中央S5E11・S6E11グリッドから検出された。第7・8号竪穴住居跡及び第260号土坑を切る。東側が調査地区の外で未調査のため、東に続く可能性があり、梁行は何間か不明である。桁行4間の南北棟であると思われる。規模は、桁行4.20m、である。主軸はN－1°－Eを指し、柱間は、桁行でおよそ1.05m、梁行でおよそ1.40mである。柱穴は、平面形は円形を基本とし、比較的小さい。埋土は青灰色系土である。浦田B遺跡、上沖遺跡での平安時代末から中世の柱穴埋土に似ている。両遺跡での発掘調査を経験した本調査の現場担当者は、本遺構も同時期になる可能性があるとの見解を示唆した。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、内黒の坏、土師器ハケ甕等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第6号掘立柱建物跡〈ST06〉遺構（第36図・第9表）、遺物（第85図・第33表）

本遺構は、調査地区の中央S1E8・S1E9・S1E10・S2E8・S2E9・S2E10・S3E8・S3E9・S3E10グリッドから検出された。第9号竪穴住居跡を切る。さらに第7号掘立柱建物跡のP2を本遺構のP6が切る。平面形は3間×2間の側柱式で、東西棟である。規模は、桁行5.40m、梁行3.60mである。主軸はN－90°－Wを指し、柱間は、桁行でおよそ1.80m、梁行でおよそ1.80mである。柱穴の平面形は長方形と楕円形があり、P2・4の断面形は段を有する。P3とP4で柱の建替があったと思われる。P1・P6に柱痕あった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、内黒坏、須恵器杯、須恵器甕、須恵器壺等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第85図1は須恵器の甕で、P12から出土した。

第7号掘立柱建物跡〈ST07〉遺構（第37図・第9表）、遺物（第86図・第34表）

本遺構は、調査地区の中央S1E9・S1E10・S1E11・S2E9・S2E10・S2E11・S3E9・S3E10・S3E11グリッドから検出された。第9号竪穴住居跡を切る。また、第6号掘立柱建物跡のP6に本遺構のP2が切られる。平面形は3間×2間の側柱式で、東西棟である。規模は、桁行5.20m、梁行3.80mである。主軸はN－86°－Eを指す。柱間は、桁行でおよそ1.73m、梁行でおよそ1.90mである。柱穴は、平面形はP2から5は隅丸長方形で、断面形はP5から7は底の中央が窪んで段を有する。P3・5から8に柱痕があった。また、ほとんどの柱穴埋土に柱状に明黄褐色～褐色の粘質土入っていた。特にP5では検出時にこの粘質土部分がまるで柱痕のように現れた。柱材が腐朽した部分にたまる埋土は通常この遺跡では青灰色である。したがって、この粘質土は、柱材の腐朽・分解等の原因によるものではなく、柱材の周囲に充填し、掘り形への据え付けを強くするために入れられたものと考える。このような方法でつくられた建物跡は今回の調査では本遺構だけに確認されたものである。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、内黒坏、須恵器杯、須恵器甕等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第86図1は土師器の坏で丸底浅めの器形で体部にヘラ削りがなされており、P4から出土した。2は土師器の高坏の脚と思われ、坏部内面はミガかれている。P5から出土した。

第８号掘立柱建物跡〈ＳＴ０８〉 遺構（第38図・第10表）

本遺構は、調査地区の中央S1E7・S1E8・S2E7・S2E8 グリッドから検出された。平面形は２間×２間の側柱式である。規模は、桁行 2.70m、梁行 2.60m である。主軸はN－10° －Eを指し、柱間は、桁行でおよそ 1.35m、梁行でおよそ 1.30m である。柱穴は、平面形は円形と楕円形がある。断面形は、Ｐ１・10は底の中央が窪んでが段を有する。部分的に柱の建替えが行われていると思われる。Ｐ１・２・５・６に柱痕があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器甕等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第９号掘立柱建物跡〈ＳＴ０９〉 遺構（第39図・第10表）

本遺構は、調査地区の北側N1E7・N1E8・0E7・0E8 グリッドから検出された。第 202 号土坑に切られ、第 202 号土坑の掘り形底面からＰ5 のプランが現れた。平面形は２間×１間の側柱式であると思われる。但し、トレンチのため、この他にも柱があったかどうかは不明である。Ｐ５とＰ４の中間に柱穴が僅かに確認されたが、水田用の排水管埋設による撹乱を受け図示できなかった。規模は、桁行 2.40m、梁行 2.60m である。主軸はN－10° －W を指し、柱間は、桁行でおよそ 1.20m である。柱穴は、Ｐ４と５の底の中央が窪んで断面形は段を有する。平面形は方形である。Ｐ２に柱痕があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器坏、土師器甕等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第 10 号掘立柱建物跡〈ＳＴ１０〉 遺構（第40図・第10表）

本遺構は、調査地区の南側N4E9・N4E10・N3E９・N3E10 グリッドから検出された。東西２間と南北１間を検出したが、その先は確認できなかった。柱穴の配列状況から何らかの建物跡と考えた。西側が著しく削平され、Ｐ４は痕跡が確認されたのみであった。Ｐ５は、本遺構に関連するか断定できないが、覆土の状況及び柱穴サイズは他と同じである。規模は、桁行 3.40m である。主軸はN－90° －W を指し、柱間は、桁行でおよそ 1.70m、梁行でおよそ 2.15m である。柱穴は、Ｐ３の底の中央が窪み、断面形は段を有する。平面形は円形を基本とするが、Ｐ１は楕円形である。Ｐ３に柱痕あった。

遺物は、柱穴覆土からは出土しなかった。

第 11 号掘立柱建物跡〈ＳＴ１１〉 遺構（第41図・第10表）

本遺構は、調査地区の北側N10E9・N10E10・N9E9・N9E10 グリッドから検出された。第 270 号土坑と本遺構のＰ６は切り合うが、新旧関係は不明である。南西側は削平され、Ｐ２からＰ４の壁のほとんどが失われた。平面形は２間×２間の南北棟である。規模は、桁行 3.40m、梁行 4.00m である。主軸はN－8° －Eを指し、柱間は、梁行でおよそ 1.70m である。柱穴は、平面形は北側の３つは方形である。南側３つのＰ３から５には柱痕がみられる。Ｐ３は柱痕のみである。Ｐ２と東側で対となる部分は扁平な礫を礎石として使用していた。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕の小片が僅かに出土した。

第 12 号掘立柱建物跡〈ＳＴ１２〉 遺構（第42図・第11表）、遺物（第87図・第34表）

本遺構は、調査地区の北側N6E10・N6E11・N5E10 グリッドから検出された。東側は調査地区外に出ており、不明である。現状では平面形は２間×１間以上の側柱式で、南北棟である。主軸はN－10° －Eを指し、柱間は、桁行でおよそ 1.95m、梁行でおよそ 1.65m である。柱穴は、Ｐ4 を除いて底が窪んで断面形

は段を有する。平面形は円形を基本としている。

遺物は、柱穴の覆土から土師器坏、土師器甕、須恵器坏等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第87図1は須恵器の坏で底部はヘラ切りがなされていると思われる。P1から出土した。

第13号掘立柱建物跡〈ST13〉 遺構（第43図・第11表）

本遺構は、調査地区の北側N8E10・N8E11・N9E10・N9E11グリッドから検出された。現状では、平面形は2間×1間である。東側が調査地区外であり、さらに東に続く可能性がある。主軸はN－10°－Eを指し、柱間は、桁行でおよそ1.80m、梁行でおよそ2.06mである。柱穴は底の中央は窪まない。平面形は方形・円形と楕円形がある。南西の柱穴は確認されていない。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、須恵器坏、須恵器甕等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第14号掘立柱建物跡〈ST14〉 遺構（第44図・第11表）、遺物（第88図・第34表）

本遺構は、調査地区の北側N12E9・N12E10・N11E9・N11E10・N10E9・N10E10グリッドから検出された。平面形は3間×2間の側柱式で、南北棟である。規模は、桁行5.30m、梁行3.90mである。主軸はN－6°－Eを指し、柱間は、桁行でおよそ1.77m、梁行でおよそ1.95mである。柱穴は、P7底の中央が窪むが、その他は窪まない。平面形は円形と楕円形がある。P7・8・10に柱痕、P3に裏込め石があった。

遺物は、柱穴の覆土から内黒の坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器壺等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第88図1は須恵器の坏で底部はヘラ切りがなされている。P2から出土した。

第15号掘立柱建物跡〈ST15〉 遺構（第45図・第11表）、遺物（第89図・第34表）

本遺構は、調査地区の北側N14E10・N14E11・N13E10・N13E11・N12E10・N12E11グリッドから検出された。平面形は、現状では2間×2間であるが、東側が調査地区外であり、さらに東に広がる可能性はある。第12号竪穴住居跡を切る。規模は、桁行3.04m、梁行4.00mである。主軸はN－8°－Eを指し、柱間は、桁行でおよそ1.70m、梁行でおよそ2.00mである。柱穴は、P5の底の中央が窪んで断面形に段を有するが、他のものは窪まない。平面形は方形を基本としていると思われる。

遺物は、柱穴の覆土から内黒の坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、箱清水式の甕等が出土した。いずれも小片である。第89図1は土師器の甕で、P6から出土した。

第3節　柱穴列

第1号柱穴列〈SA01〉 遺構（第46図・第12表）

本遺構は、調査地区の北側N19E11・N19E12・N18E11・グリッドから検出された。柱穴3基が並ぶ。第7号柱穴列と平行に隣接して検出されたが、柱穴の規模や配置に違いが見られ、これら2つの柱穴列が1つの建物を構成するとは考えにくかったので、それぞれ単独の遺構としてとらえた。また、調査地区の端に位置し、東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸はN－13°－Eを指し、柱間はおよそ1.64mである。柱穴は、底の中央が窪むものと窪まないものがあり、深さは一定しない。平面形は長方形と楕円形がある。P1から3に柱痕があった。

遺物は、柱穴覆土からは出土しなかった。

第２号柱穴列〈ＳＡ０２〉遺構（第47図・第12表）

本遺構は、調査地区の中央S5E8・S6E8グリッドから検出された。柱穴３基が並ぶ。この柱穴列に対応する柱穴がないため、柵跡と思われる。主軸はN－4°－Wを指し、柱間はおよそ1.75mである。平面形は楕円形を基本としている。深さは一定していない。柱痕等は確認されなかった。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器の甕の胴部と思われる破片を出土したが、図は本書には掲載しなかった。

第３号柱穴列〈ＳＡ０３〉遺構（第48図・第12表）

本遺構は、調査地区の中央S5E10・S5E11・S6E10グリッドから検出された。柱穴３基が並ぶ。調査地区の端に位置し東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸はN－8°－Eを指し、柱間は1.40mである。柱穴は、P2の底の中央が窪む。平面形は円形が基本である。

遺物は、柱穴覆土から内黒の坏、土師器甕、土師器高坏等の破片が出土したが、本書では、図を掲載しなかった。

第４号柱穴列〈ＳＡ０４〉遺構（第49図・第12表）

本遺構は、調査地区の南側S12E10・S13E10・S14E10グリッドから検出された。第２号竪穴住居跡を切る。柱穴４基が6.00mにわたって並ぶ。第５号柱列と極めて隣接して検出された。第５号柱列とは、35㎝ほど西に平行して位置する。調査地区の端に位置し東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸はN－1°－Eを指す。柱穴は、平面形は円形を基本としている。P１に柱材があった。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器甕の破片を出土したが、本書では図を掲載しなかった。

第５号柱穴列〈ＳＡ０５〉遺構（第50図・第12表）

本遺構は、調査地区の南側S12E10・S13E10・S14E10グリッドから検出された。第２号竪穴住居跡を切る。第４号柱列と極めて隣接して検出された。第４号柱列とは35㎝ほど東に平行して位置する。柱穴５基が5.88mにわたって並ぶ。主軸は国家座標の北を指す。柱間はおよそ1.45mである。柱穴は、平面形は円形を基本とする。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器甕の破片を出土したが、本書では図を掲載しなかった。

第６号柱穴列〈ＳＡ０６〉遺構（第51図・第12表）

本遺構は、調査地区の中央N1E8・0E8グリッドから検出された。柱穴３基が3.18mにわたって並ぶ。主軸はN－1°－Wを指し、柱間はおよそ1.55mである。柱穴は、平面形は円形が基本であると思われる。P１・３に礎石が残り、柱が立っていたことを示している。掘立柱建物跡の一部か、柵跡か断定はできなかった。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器甕の破片を出土したが、本書では図を掲載しなかった。

第７号柱穴列〈ＳＡ０７〉遺構（第52図・第13表）

本遺構は、調査地区の南側N19E12・N18E12グリッドから検出された。3mにわたって、３基の柱穴が並んでいる。第１号柱穴列と平行に隣接して検出されたが、柱穴の規模や配置に違いが見られ、これら２つの柱穴列が１つの建物を構成するとは考えにくかったので、それぞれ単独の遺構としてとらえた。また、調査地区の端に位置し北東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸はN－12°－Eを指し、柱

間は1.50mである。柱穴は、平面形は円形と楕円形がある。

遺物は、柱穴覆土中からは出土しなかった。

第8号柱穴列〈ＳＡ０８〉 遺構（第53図・第13表）

本遺構は、調査地区の南側Ｓ18Ｅ7・Ｓ19Ｅ7・Ｓ20Ｅ7グリッドから検出された。第13号竪穴住居跡と重複するが、新旧は明確にできなかった。調査地区の端に位置し西側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。4.56mにわたって4基の柱穴が並ぶ。主軸はＮ－1°－Ｅを指す。柱穴は、Ｐ２の底の中央が窪んで断面形は段を有する。平面形は楕円形を基本としている。Ｐ２に柱痕があった。

遺物は、柱穴覆土から土師器甕、箱清水式の甕等の破片が出土したが、本書では図は掲載しなかった。

第4節　土坑

土坑は最も検出数の多い遺構で、総数171基を数える。竪穴住居跡、掘立柱建物跡、柱穴列及び溝跡以外の落ち込みを、規模の大小や形状に関係なく土坑として番号づけした。これらの実測図は第54図1から6に、観察表は第14～17表にあらわした。また、土坑の覆土中から出土した遺物は、図化可能なものは第90図1から4に掲載した。以下には、遺構の性格や遺物の出土などで特記する必要があると考えられる土坑を選択して、所見等を記載したい。

第92号土坑〈ＳＫ９２〉 遺構（第54図・第15表）、遺物（第90図・第34表ほか）

本遺構は、調査地区の南側Ｓ９Ｅ10・Ｓ９Ｅ11・Ｓ10Ｅ10・Ｓ10Ｅ11グリッドから検出された。規模は1.87m×1.20mで、平面形は不定形、断面形は浅い皿状を呈する。第241及び242号土坑と切り合う。廃棄坑かと思われる。

遺物は、覆土中から内黒の坏、箱清水の甕等の破片が出土し、床面から土師器甕が出土した。図の1は内黒の坏で、体部にヘラ削りが施される。2は土師器の甕である。表面は磨耗していて調整等は不明である。3は弥生時代の蓋と思われる。また、擦・敲石等が出土している（第97図29）。

第202号土坑〈ＳＫ２０２〉 遺構（第54図・第16表）、遺物（第90図・第34表）

本遺構は、調査地区の中央Ｎ１Ｅ７・Ｎ１Ｅ８グリッドから検出された。第9号掘立柱建物跡のＰ５を切っている。トレンチにかかっているため、長径は不明で、短径は0.60mである。西側が破壊されているが、本来は第203号土坑と同じ平面形をしていると思われ、これと覆土が共通していること及び出土遺物に時代差が見られないことから、この2基の土坑はほぼ同時期につくられ、同じ機能を果たしたものであると考えられる。

遺物は、覆土中から底部回転糸切り未調整の須恵器坏、口縁部端部を折り曲げた須恵器の坏蓋、内黒の坏等の破片が出土している。内黒の杯はロクロつくりのものと思われる。図の1は高台を付した須恵器の坏で、底部は回転ヘラ削りが行われている。

第203号土坑〈ＳＫ２０３〉 遺構（第54図・第16表）、遺物（第90図・第34・35表）

本遺構は、調査地区の中央Ｎ２Ｅ７・Ｎ２Ｅ８・Ｎ１Ｅ７・Ｎ１Ｅ８グリッドから検出された。長径は1.42mで、短径は0.62mの長楕円形の平面形を呈する。第202号土坑もこれと同じ平面形をしていると思われ、覆土が共通していること及び出土遺物に時代差が見られないことから、この2基の土坑はほぼ同時期につく

られ、同じ機能を果たしたものであると考えられる。

遺物は、覆土中から須恵器坏、盤、黒色土器、須恵器甕の破片が出土している。図の 1・2 は須恵器の坏で底部は回転糸切り未調整である。 3は高台を付した須恵器の坏で、底部は回転ヘラ削りがなされている。 4は須恵器の鉢と思われる。

第 207 号土坑〈ＳＫ２０７〉 遺構（第 54 図・第 16 表）

本遺構は、調査地区中央のＯＥ９グリッドから検出された。拳大の礫が集中する集石である。規模は 0.75 ×0.42 である。礫は 65 点以上確認された。これらは、それぞれに接合面を持ち、元は 10 個以上の円礫を打ち欠いたものであることが分かった。礫を取り除いたところ、下には何も確認できなかった。遺物は、土器等は出土しなかった。

第 260 号土坑〈ＳＫ２６０〉 遺構（第 54 図・第 17 表）

本遺構は、調査地区の南側Ｓ５Ｅ11・Ｓ４Ｅ11 グリッドから検出された。調査地区外へと続いているため全体の形状は不明である。平面形は円形、断面形は皿状を呈すると思われる。長径は 1.25m である。底部には北寄りに円形の炭化物の広がりがある。焼土も僅かにみられた。中で何か焼いていた可能性がある。

遺物は、土器等は出土しなかった。

第 330 号土坑〈ＳＫ３３０〉 遺構（第 54 図・第 17 表）、遺物（第 90 図・第 36・37 表）

本遺構は、調査地区の南側Ｓ５Ｅ11・Ｓ４Ｅ11 グリッドから検出された。長径は 2.00m である。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は底から壁にかけてなだらかに立ち上がる。底面はしまりが無い。第 20 号竪穴住居跡に切られる。

遺物は、古墳時代前期の壺、鉢、高坏、甕、甑等の土器が多量に出土している（第 90 図）。

第５節　溝跡

第１号溝跡〈ＳＤ０１〉 遺構（第 55 図）、遺物（第 91 図・第 37 表）

本遺構は、調査地区の南側 S10E８・S14E９・S14E10 グリッドから検出した。形状は、浅い皿状の断面形で、ほぼ直線的に東西に伸びていている。東の端は撹乱を受け、西の端は消滅している。規模は現状の長さで 10.0m、幅はおよそ 0.8m である。覆土は灰褐色の粘質土の単層で、炭化物を含んでいる。流水の状況は捉えられない。

遺物は、第 91 図の１は須恵器の坏蓋である。２から６は須恵器の坏で、６は高台を付している。５の底部は回転糸切り未調整である。６の底部から体部下半は回転ヘラ削りがなされている。７は須恵器の甕である。８は器台の脚部で、円形の透かしを有する。９は弥生時代の壺の底部である。このほか、土師器の坏、内黒の坏、土師器甕、須恵器の甕等の破片が出土した。この他、微量に木の実の破片が出土したが、破損が大きく詳細は不明である。

第２号溝跡〈ＳＤ０２〉 遺構（第 56 図）

本遺構は、調査地区の南側 S15E５・S15E６グリッドから検出した。形状は、極浅い皿状の断面形で、直線的に伸びていている。南西の端は調査地区の外までのび、北東の端は消滅している。規模は現状の長さで 1.5m、幅はおよそ 0.6m である。覆土は黒褐色の粘質土の単層で、流水の状況は捉えられない。

第３号溝跡〈ＳＤ０３〉 遺構（第58図）、遺物（第92図・第38～40表ほか）

本遺構は、調査地区の北西に72.0mにわたって検出された。明褐色砂質土の地山層を掘り込んでいる。幅は検出面でおよそ2.3mから1.5mである。深さは0.6m程度である。しかし、上部は昭和43年実施のほ場整備で削平されていることから、本来はもっと広く深かったと思われる。平面形は、8ヶ所にわたって、左右に緩やかな曲線を描いている。断面はU字形である。覆土は流水による堆積物と考えられる。底面の標高差から、南から北へ流れたと考えられる。

覆土は大きく上部と下部に分かれ、上部は黒～褐灰色粘質土で、中にブロック状に黄褐色粘質土を含む。下部は砂礫層が堆積し、全体が鉄分の酸化によって茶褐色を呈している。礫が多量に出土しているが、多くは上層の粘質層に含まれていたものである。粘質層は、Ｂ－Ｂ´セクションとＣ－Ｃ´セクションでは溝の西に寄っているが、Ｄ－Ｄ´セクションでは東に寄っている。礫の出土もこれに対応して、図の北側は溝の西寄りに礫が集中し、南側は溝の東寄りに集中して出土している。覆土層は、曲線を描いた溝の形状に影響を受けて形成されていると思われる。また、遺物は上層と底面から多く出土している。第92図の13・18の須恵器坏及び坏蓋は最上層の粘土質の土層から出土した。42・51の須恵器甕は溝底から出土し、堆積の初期段階で埋没した可能性がある。

本遺構の西側には遺構がほとんど存在していない。従って、集落の西側を画する溝である可能性がある。

遺物は、土器、石器、木材片、炭化物等が出土した。第92図の１から４は土師器の坏である。丸みのある体部で、外面にヘラ削りが施される。２と５は平底であると思われる。６から８は内黒の坏で、６の底部は回転糸切りで、７は手持ちヘラ削りがなされている。９から11は土師器の高坏で、９はラッパ状に開く脚部で、10は筒部が内弯する脚部である。12から15は須恵器の蓋で、13・14は口縁端部を短く折り曲げる坏蓋である。15は深く、壺蓋と思われる。16から23は、須恵器の無高台の坏である。16・18・22・23の底部は回転糸切りを行い、19・20は回転ヘラ切りを行っている。17は、底部切り離し後粗雑な調整を行い、21は手持ちヘラ削りをしている。24から26は、須恵器の箱形の体部に高台を付した坏で、高台の断面は平行四辺形を呈する。24の底部は回転ヘラ切り、25・27は回転ヘラ削り、26は回転糸切りの痕がみられる。28から39は土師器の甕である。32から35・39の外面にヘラ削りが、36にはハケ調整が施されている。38の底部には木葉痕が見られる。40から43は須恵器の壺と思われる。40は、小型で形が強く張る短頸壺で、体部上半はロクロナデを、体部下半は回転ヘラ削りを行っている。底部は手持ちヘラ削りがなされている。42から43は高台を有し、胴部下位にヘラ削りが行われている。44の高台は削り出して作り、底部に回転ヘラ削りがみられる。45から56は須恵器の甕である。その内、56は凸帯付四耳壺で、耳部の断面形は孔が途中まで開く。凸帯の断面形は四角形を呈する。57と58は横瓶である。59は弥生時代の壺の胴部と思われ、外面に赤色塗彩が施されている。この他、多量の土器類が出土した。また、石鏃、打製石斧、敲石等の石器類が出土した（第97図１～３・７・30～32）。

第４号溝跡〈ＳＤ０４〉 遺構（第58図）

本遺構は、第３号溝跡の北部に東西方向に延びる。西側は次第に浅くなり、その先はほ場整備による土層の削平のため明確にできなかった。第３号溝跡とは違い、幅は細く深さも浅い。第３号溝跡に合流する支流の溝であろう。

第５号溝跡〈ＳＤ０５〉 遺構（第57図）、遺物（第93図・第42表）

本遺構は、調査地区南側のS18E16・S18E17・S19E16・S19E17・S20E16・S20E17南北方向に延びる。北側は調査地区の外まで延び、南側は第20号竪穴住居跡と切り合う。底面の標高差から、北から南へ

流水があった可能性があるが、明確なことは分からない。

遺物は、僅かに出土した。図の１は弥生土器の高坏の坏部であるが、磨耗が著しく詳細は不明である。２・３は高坏の脚部で、２には円形の透かしがある。４は須恵器の坏蓋で、口縁端部が折れるものである。５・６は土師器の甕である。その他、須恵器の坏、須恵器の壺等の破片が出土した。

第６節　遺構外

本調査地区は、ほ場整備事業により全体的に削平を受け、撹乱により遺構が大きく損失している部分もあったにもかかわらず、耕作土中等に含まれている遺物は比較的少なかった。遺物は、古墳時代前期、奈良・平安時代等の遺物が出土した（第94図）。この中には陶器、灰釉陶器、土師質土器等の遺構から出土しなかった種類の遺物もみられる。

第７節　まとめ

本調査で検出された遺構群を出土土器の様相とともにみてみると、おおよそ次のようなことが言える。

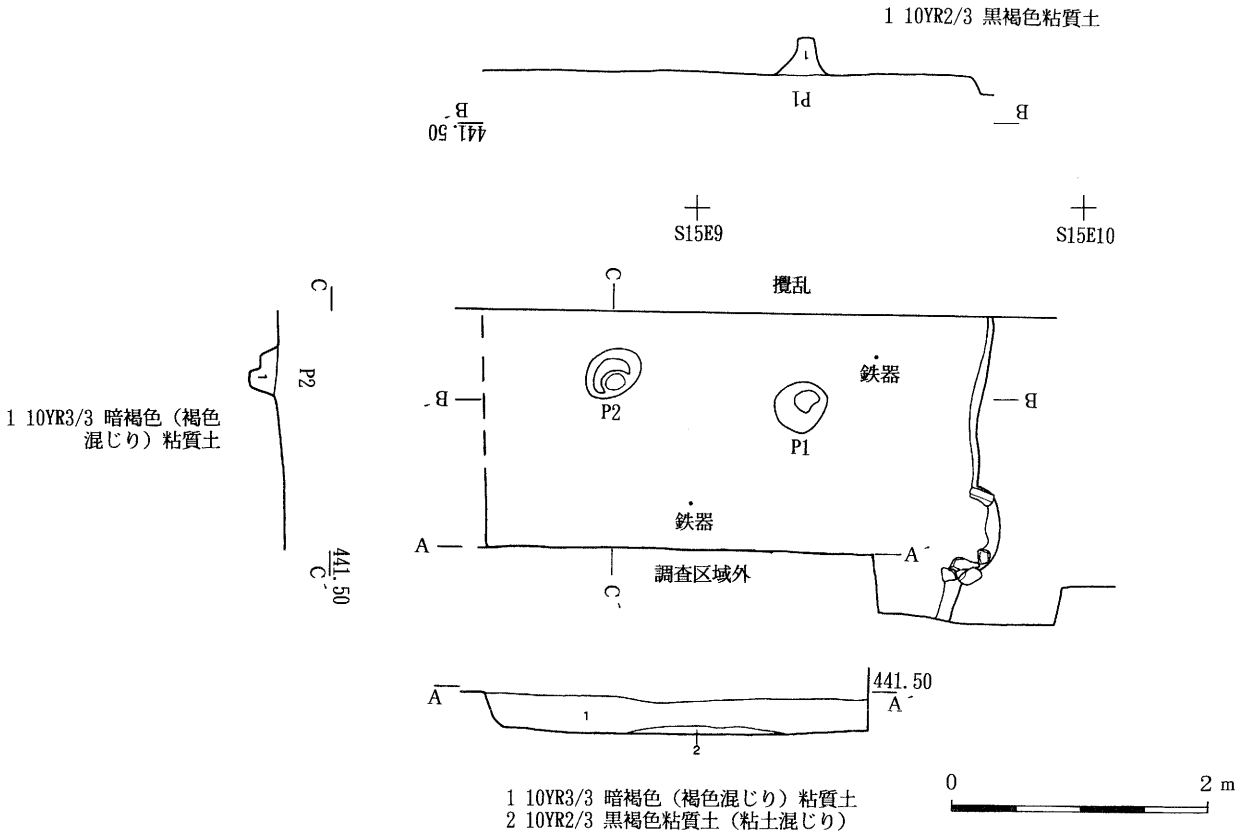
竪穴住居址群については、古墳時代後期から奈良時代（７世紀後半から８世紀後半）に属するものを主体としていると考えられる。掘立柱建物跡群については、上記の時期に属する遺物のほか箱清水系土器の破片が出土しているが、これらは出土量が少なく、また柱穴の覆土から出土したものをその遺構の所属時期に単純に結びつけることには多少の無理があると思われる。竪穴住居跡との切り合い関係をみてみると、多くの場合は掘立柱建物跡が切っている。このことから、とりあえず幅を広くもたせて、竪穴住居跡群とほぼ同じ時期からそれよりも新しい時期の中に属すると考えられる。土坑群の時期についてもこれと同様である。溝跡も、第１号溝跡及び第３号・４号溝跡は出土遺物の様相から以上の遺構群と同じ時間に存在した可能性が大きい。また、これら遺構に伴った土器に加えて遺構外から出土したものを含めた出土土器の中にロクロ調整の内黒の坏がごく僅かしかみられない。このことからも本調査地区に検出された遺構群は古墳時代後期から奈良時代を主な時代とする集落跡と言っていいと考えられる。

この中で例外的なのは、古墳時代中期の遺物を出土する第 19 号竪穴住居跡と古墳時代前期初頭に属する土器を多く出土している第330号土坑である。そのほか、遺構外からは、平安時代の灰釉陶器の椀が１点出土している。また、現場担当者は、第５号掘立柱建物跡の柱穴埋土が浦田Ｂ遺跡（平成８年度調査）・上沖遺跡（平成９年度調査）での平安時代末から中世のそれに類似性がみとめられることから、第５号掘立柱建物跡もそれらと同じく平安時代末から中世に属する可能性があるとの見解を示唆している。

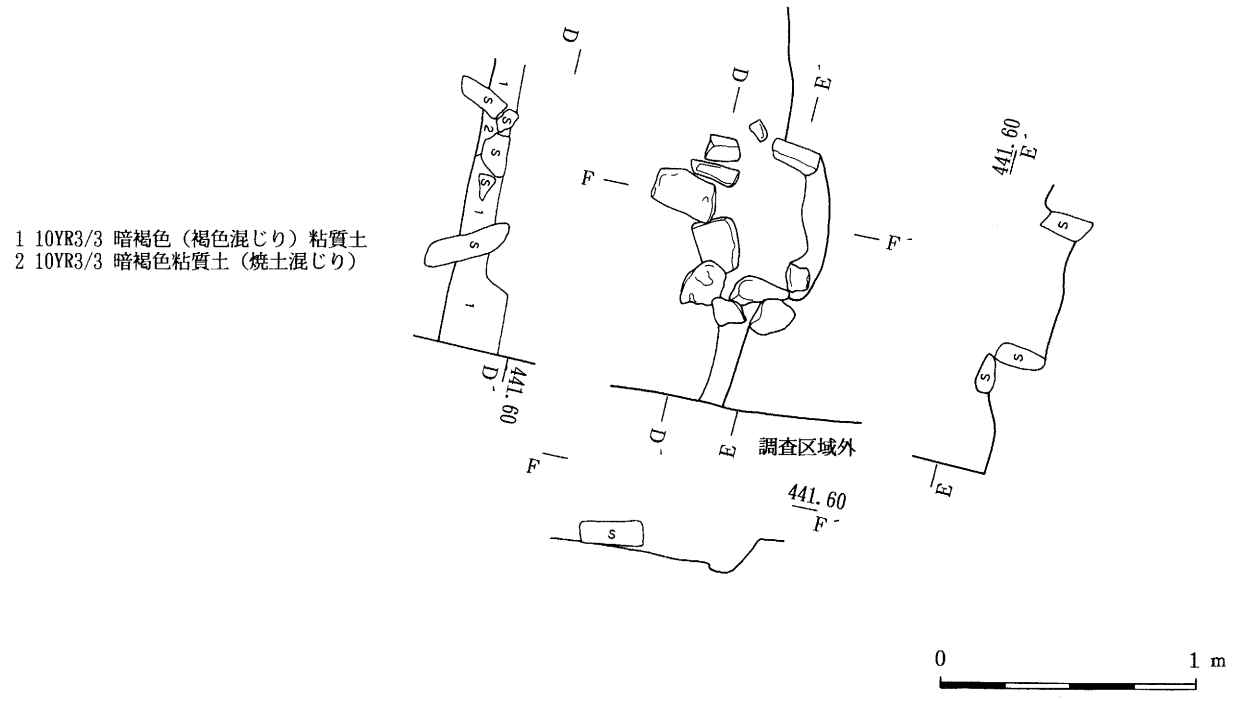
さらに、調査地区以外のこの近辺にはこれらの例外的な遺構・遺物と同じ時期に属する遺構が存在する可能性があると言え、周辺を含めたこの一帯の地域には古墳時代前期初頭より平安時代もしくは中世まで断続的に生活等の営みがあったことが推測される。

また、第４節でも触れたが、第３号溝跡の西側には遺構がほとんど存在していない。このことから、本調査地区は集落の西端に設定されたものと考えることができ、集落跡はさらにこれより東へ広がる可能性をもつものと言える。ただし、調査地区の形状が細長く東西の幅が十数メートルしかないという制約があるため、今回確認できた状況だけから断定することは妥当ではない。

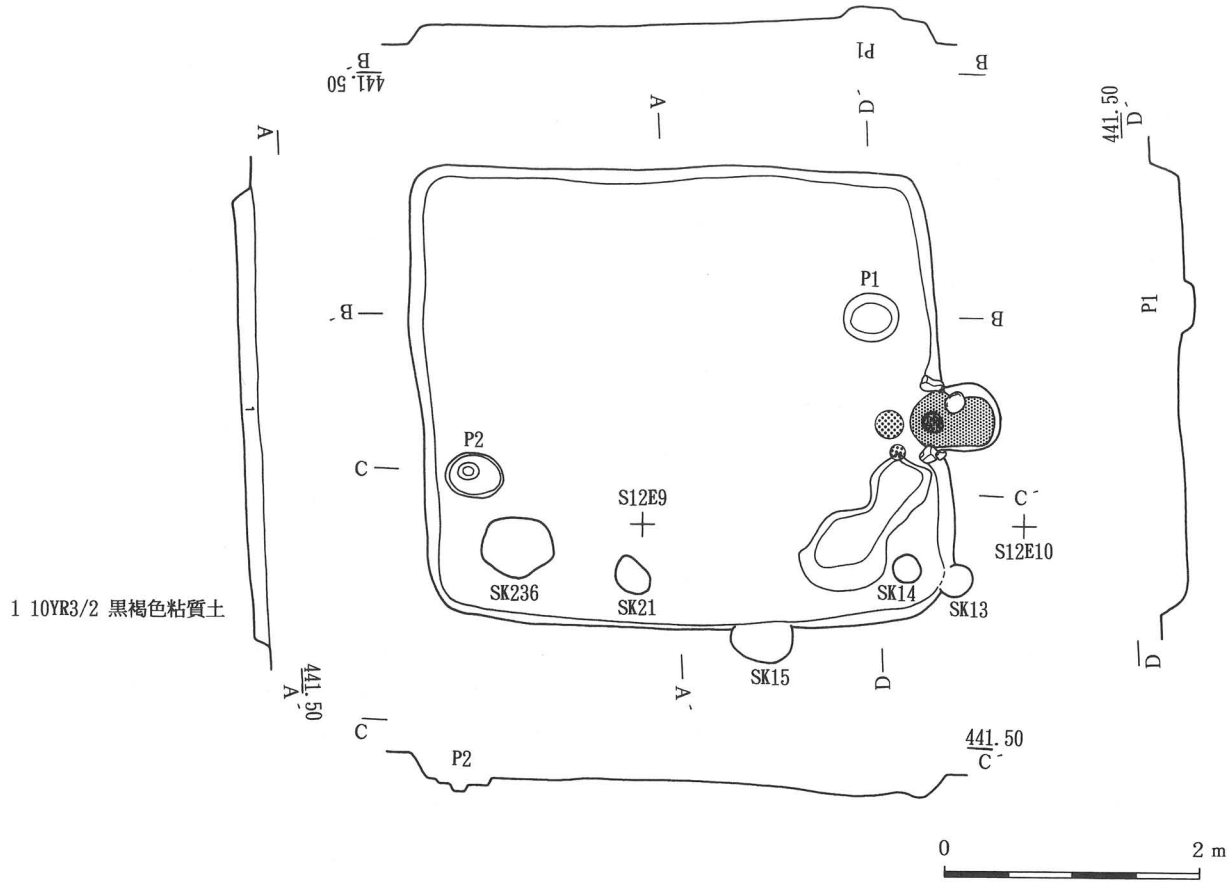
なお、土器の時期については、1987年の『長野県考古学会誌』55・56に掲載された小林真寿氏の「上小地方における様相」及び1999年（財）長野県埋蔵文化財センター発行の『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26 更埴市内その５ 更埴条里遺跡・屋代遺跡群』の「第８章第１節」等を参考にした。



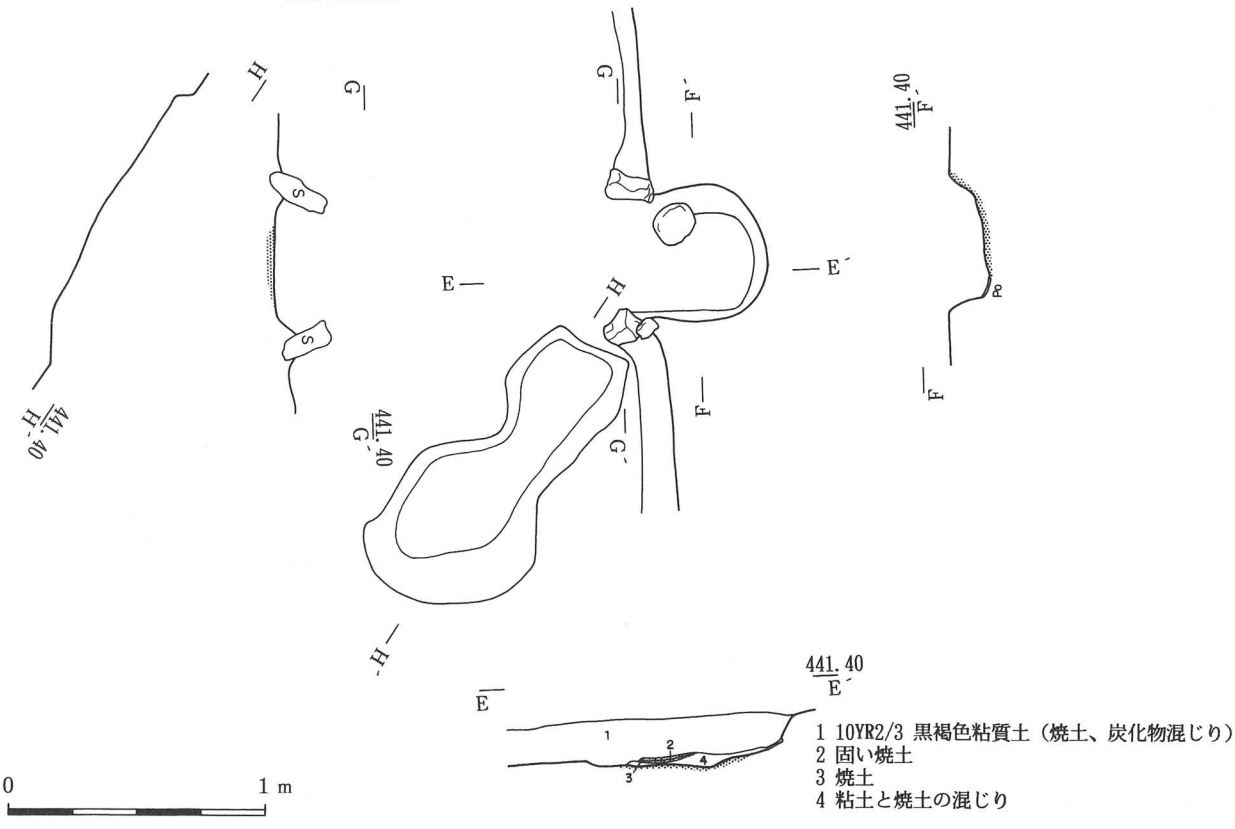
竈跡実測図



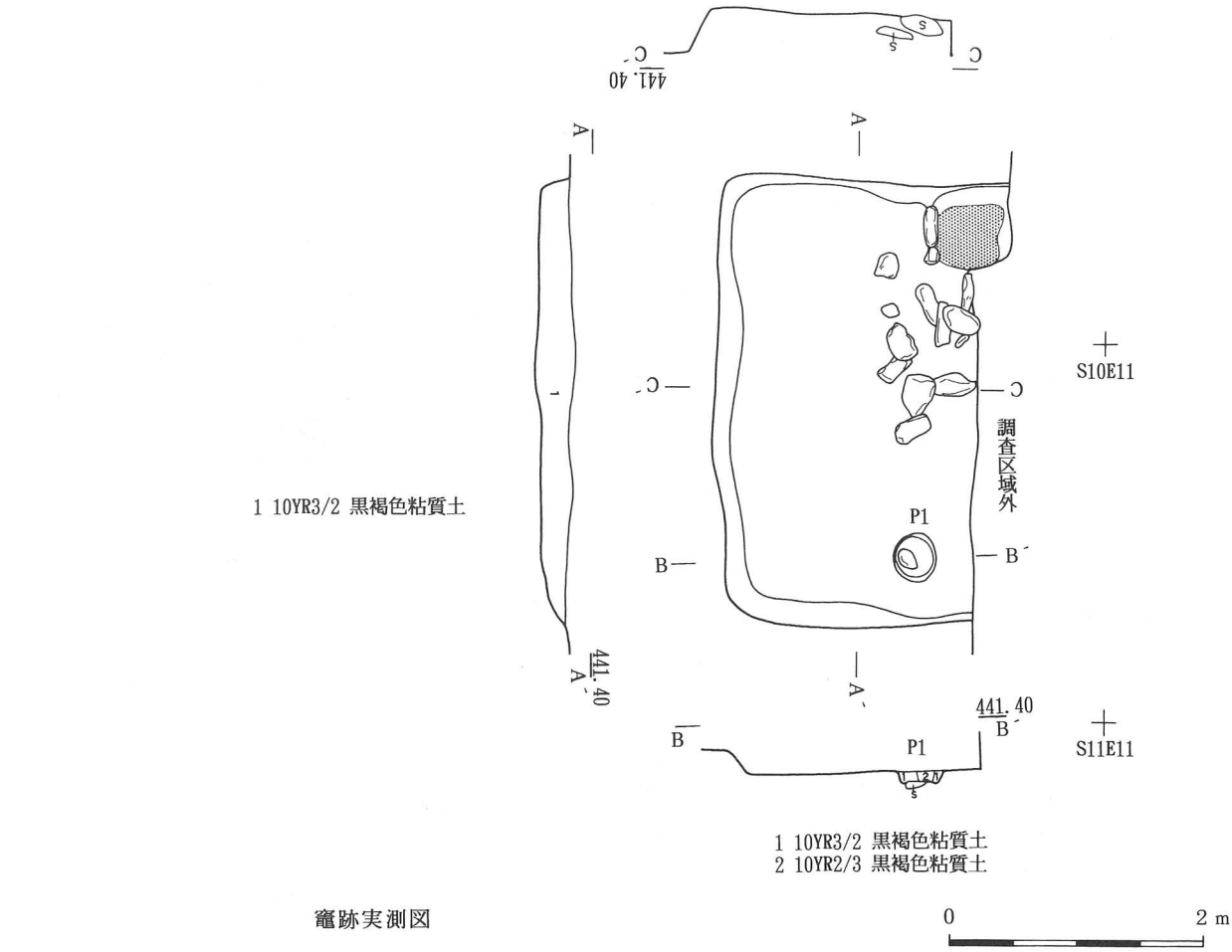
第９図　第１号竪穴住居跡実測図



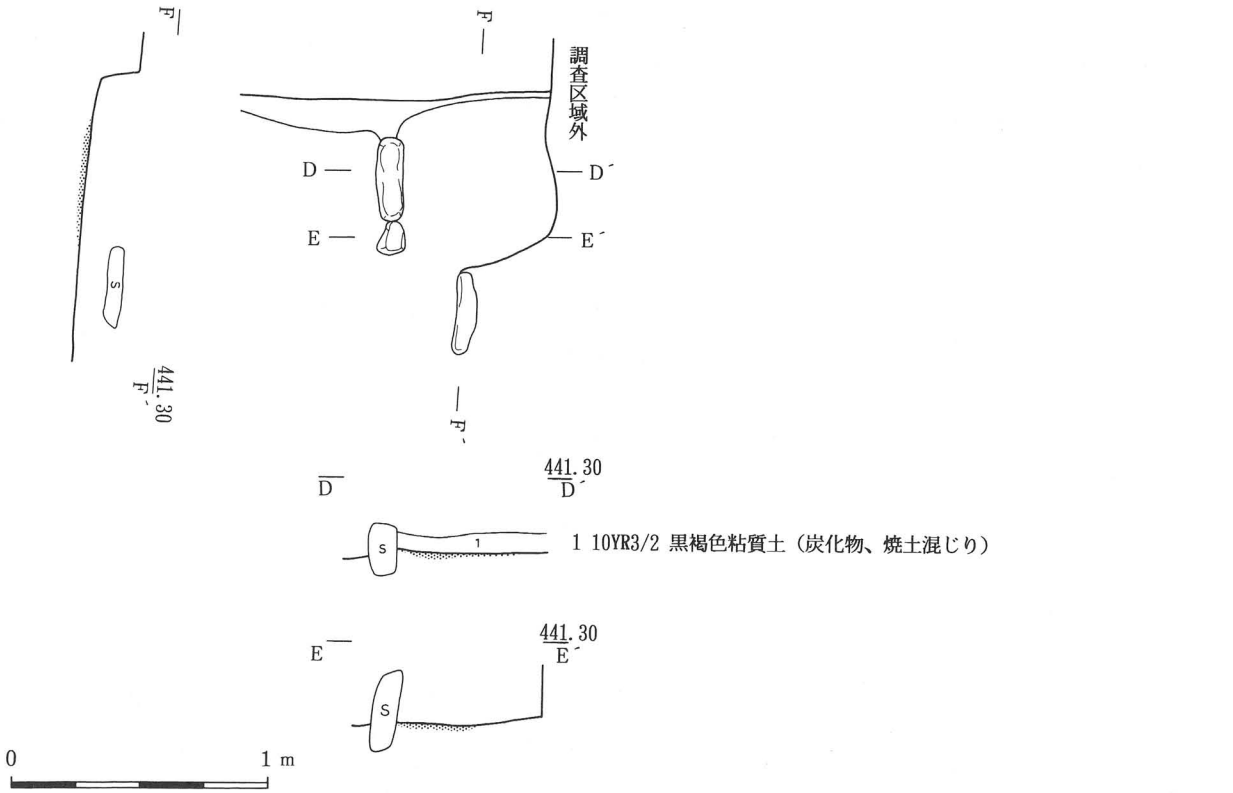
竈跡実測図



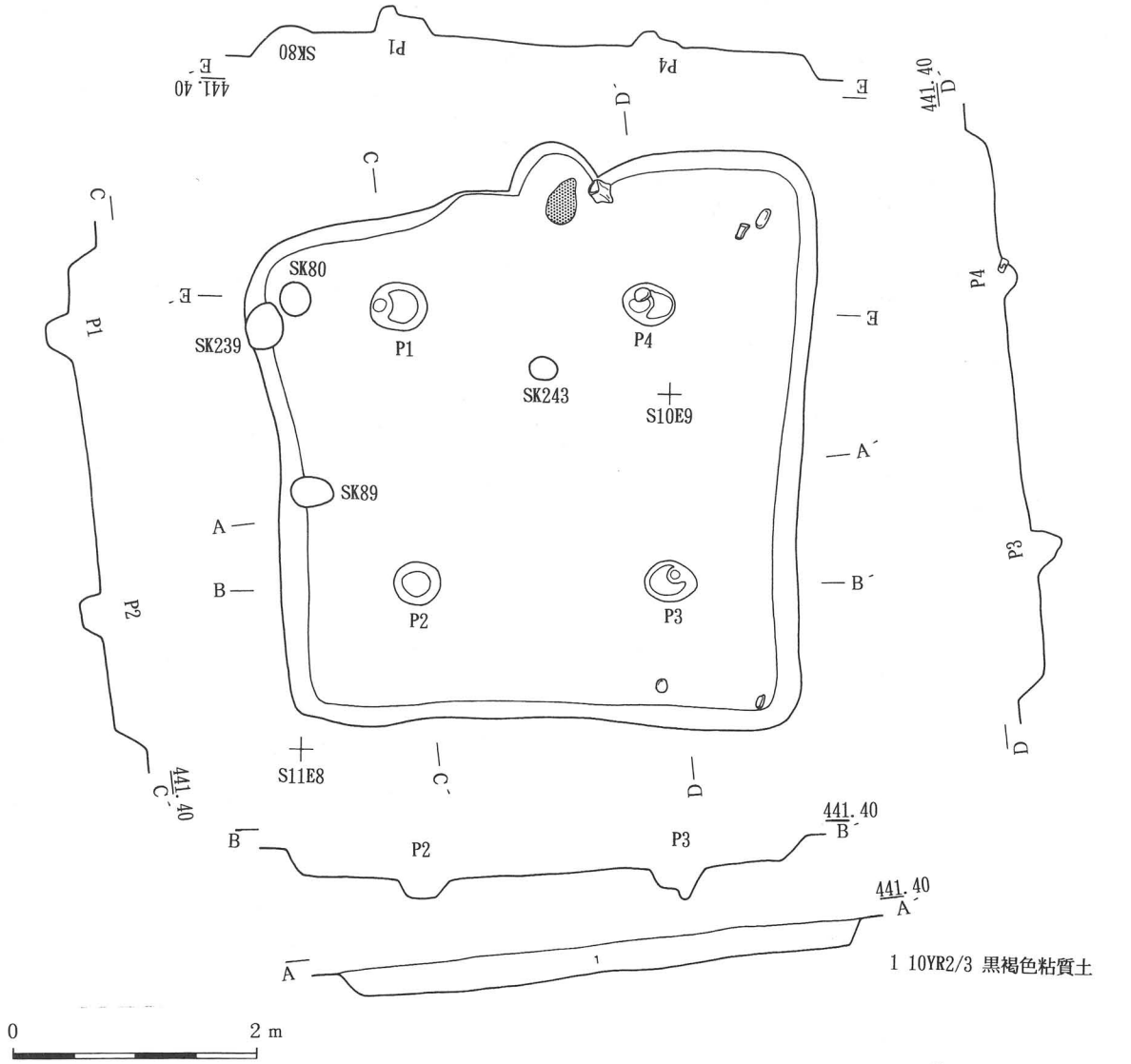
第 10 図　第 2 号竪穴住居跡実測図



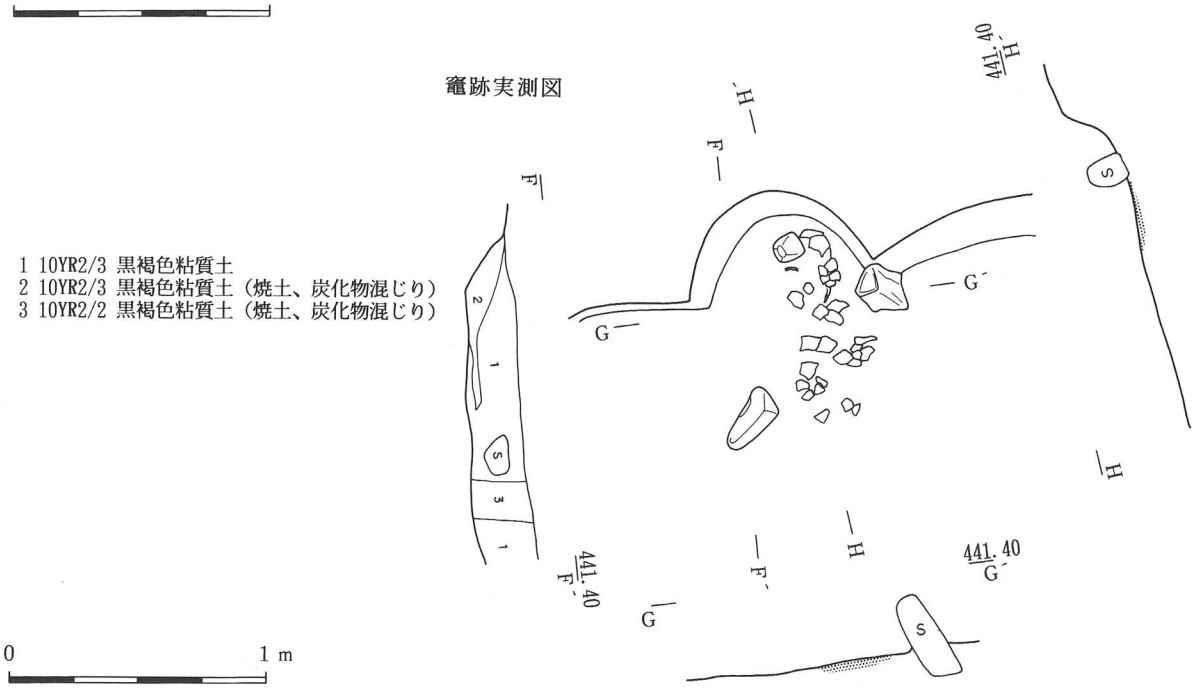
竈跡実測図



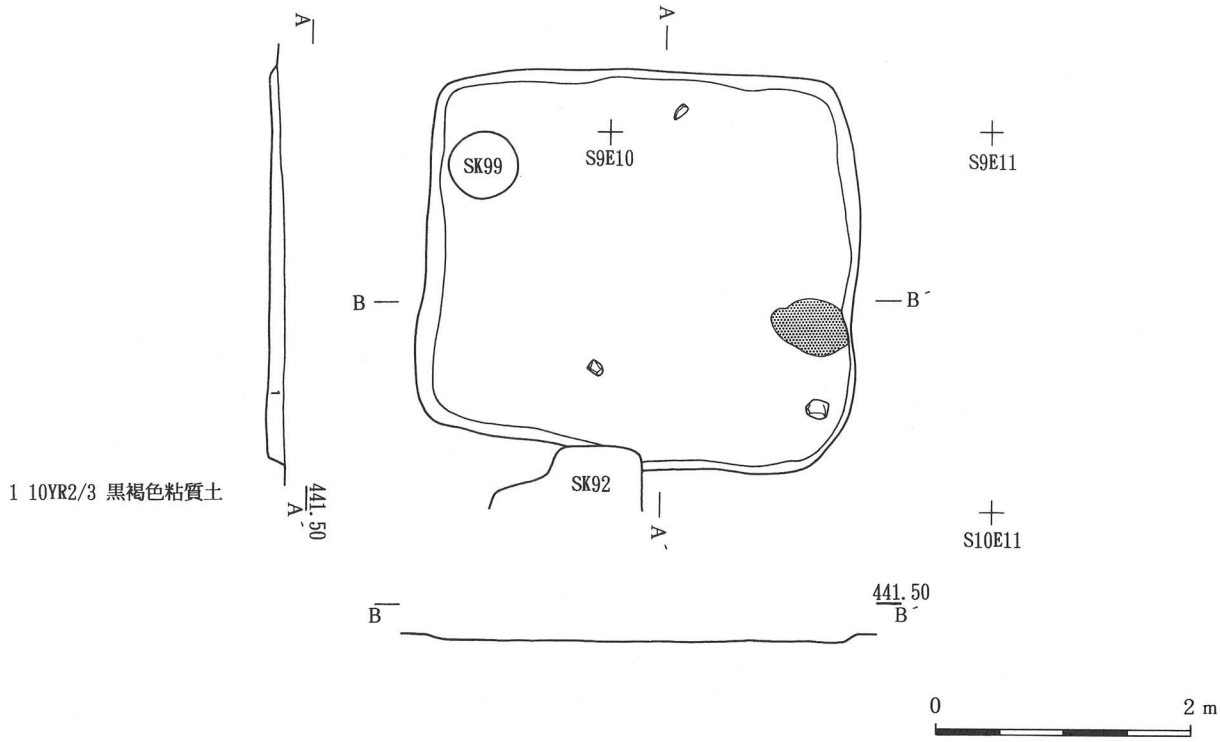
第 11 図　第 3 号竪穴住居跡実測図



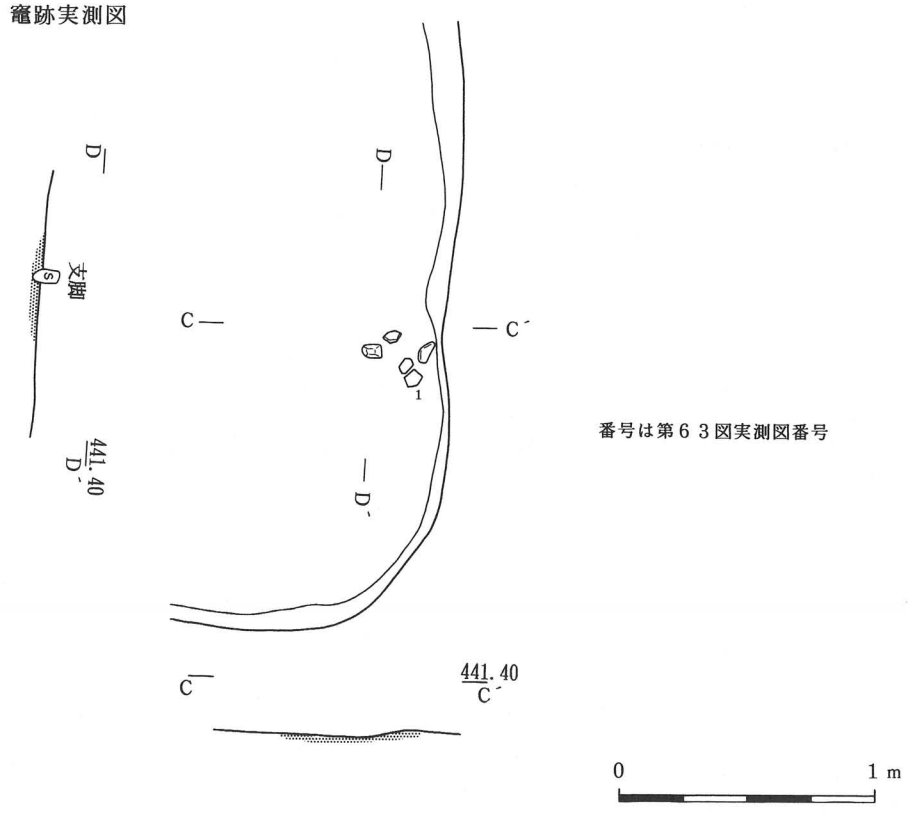
竈跡実測図



第 12 図　第 4 号竪穴住居跡実測図

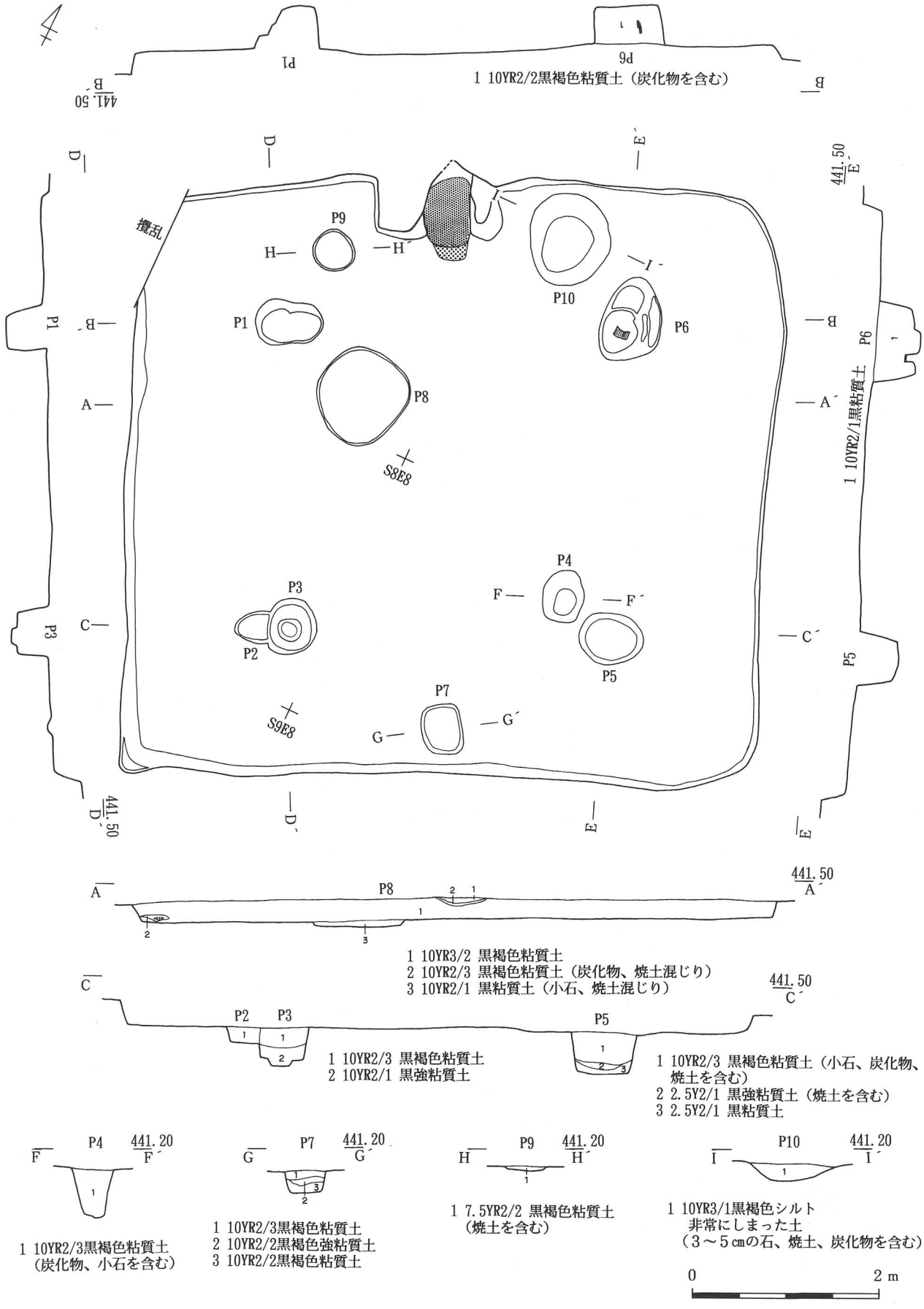


竈跡実測図

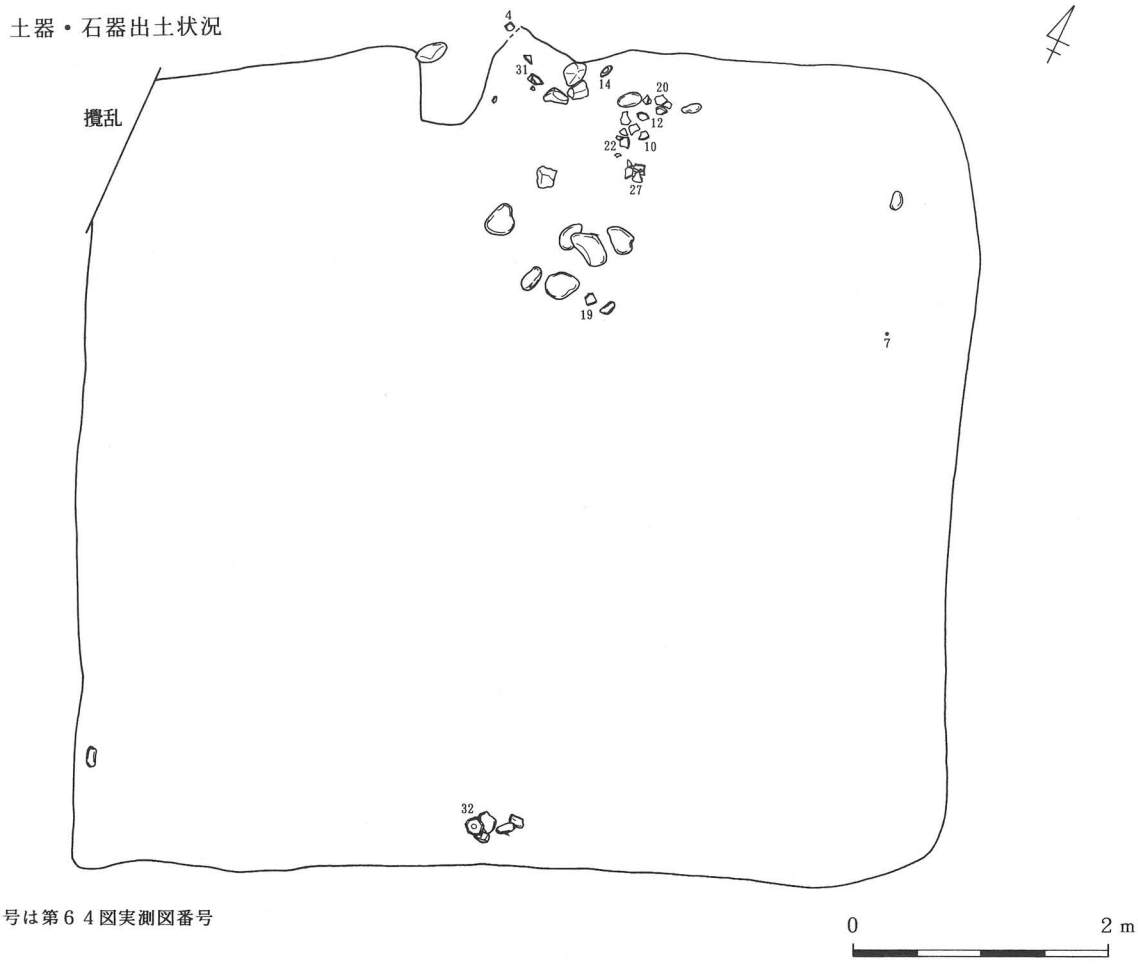


番号は第６３図実測図番号

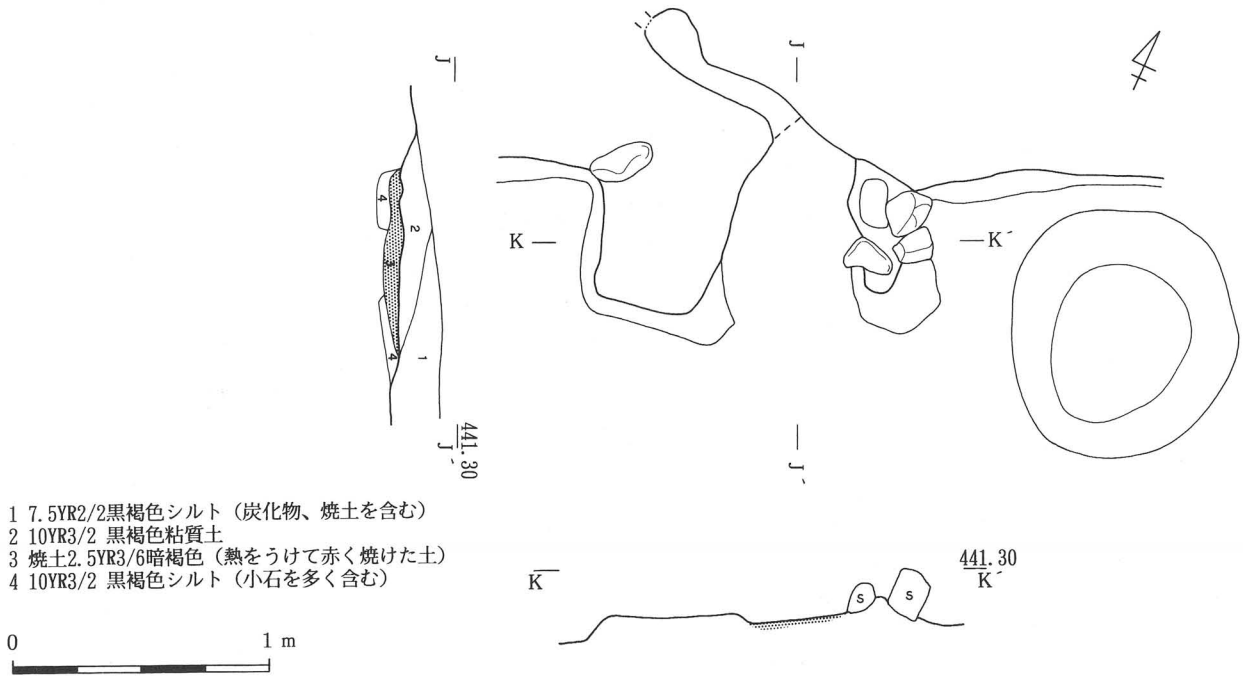
第 13 図　第５号竪穴住居跡実測図



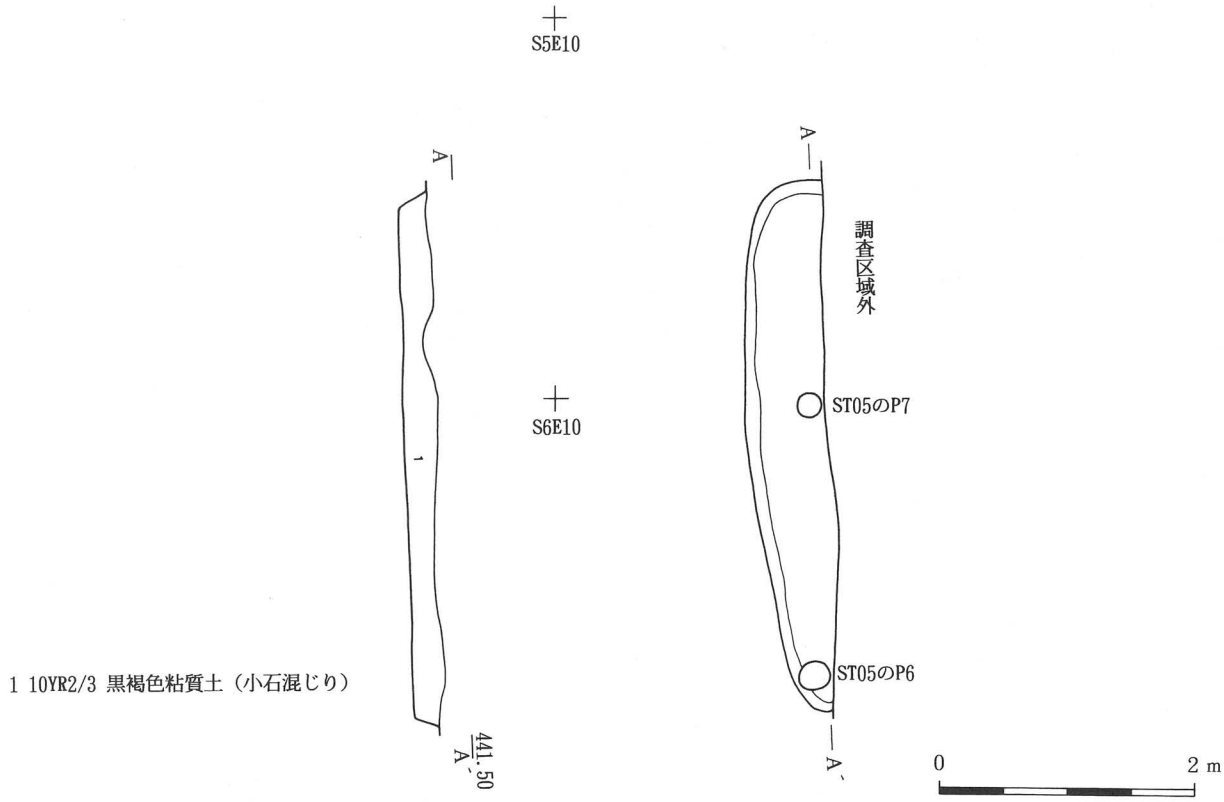
第 14 図　第 6 号竪穴住居跡実測図（1）



竈跡実測図

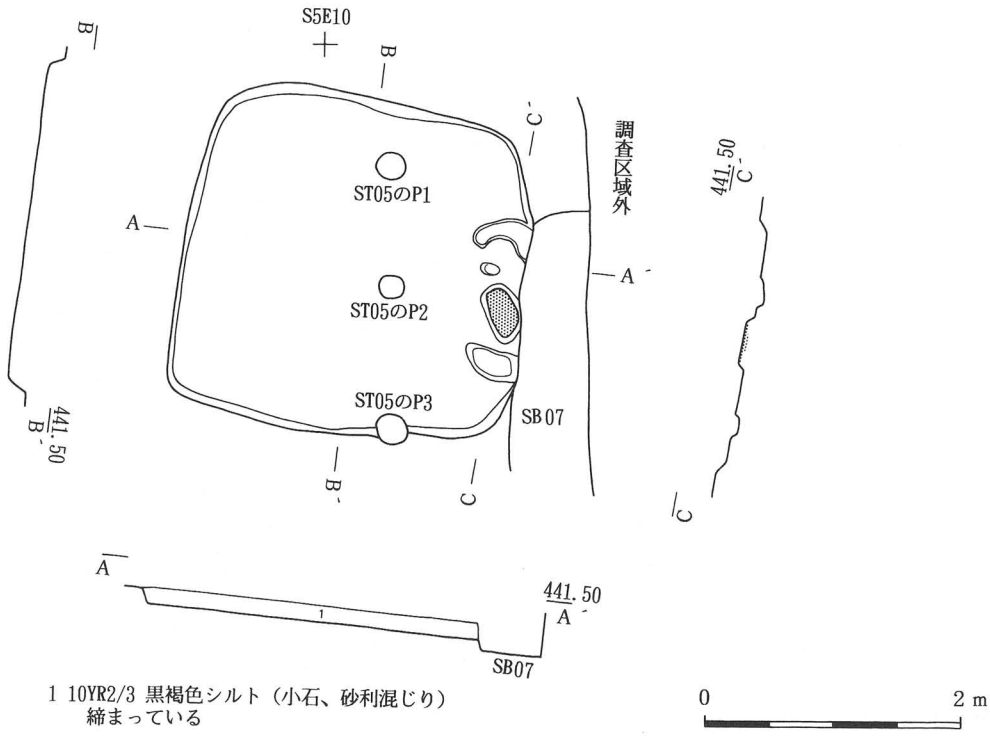


第 14 図　第６号竪穴住居跡実測図(2)



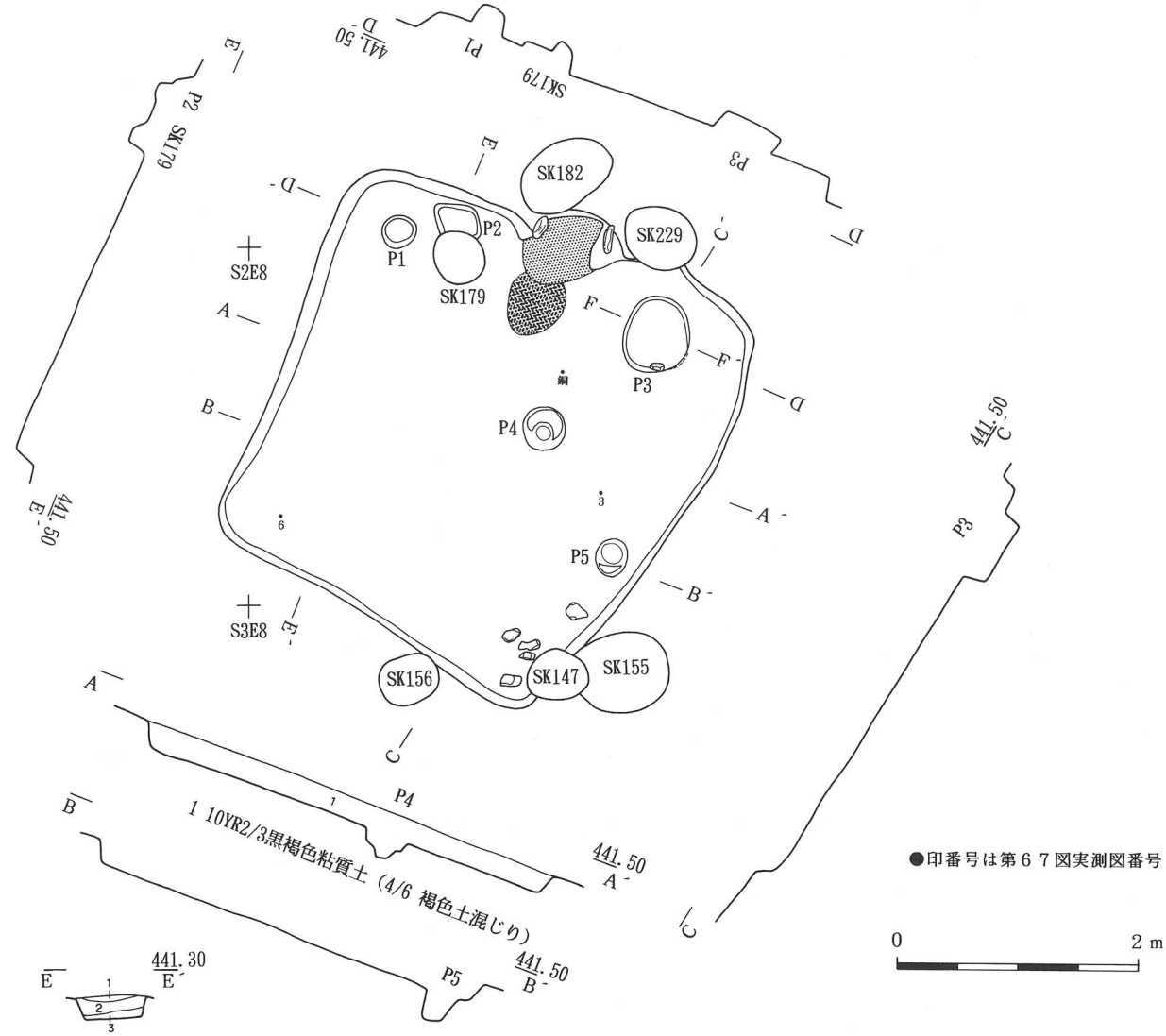
1 10YR2/3 黒褐色粘質土（小石混じり）

第 15 図　第 7 号竪穴住居跡実測図



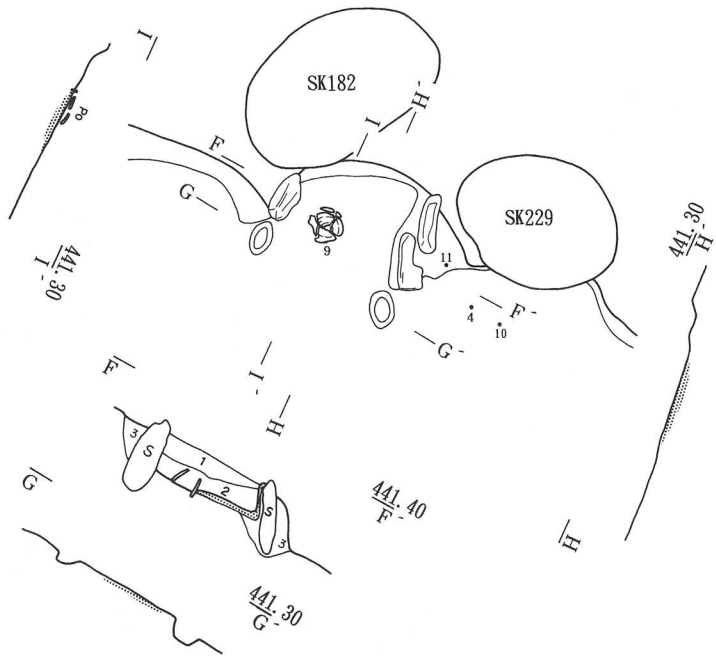
1 10YR2/3 黒褐色シルト（小石、砂利混じり）
締まっている

第 16 図　第 8 号竪穴住居跡実測図



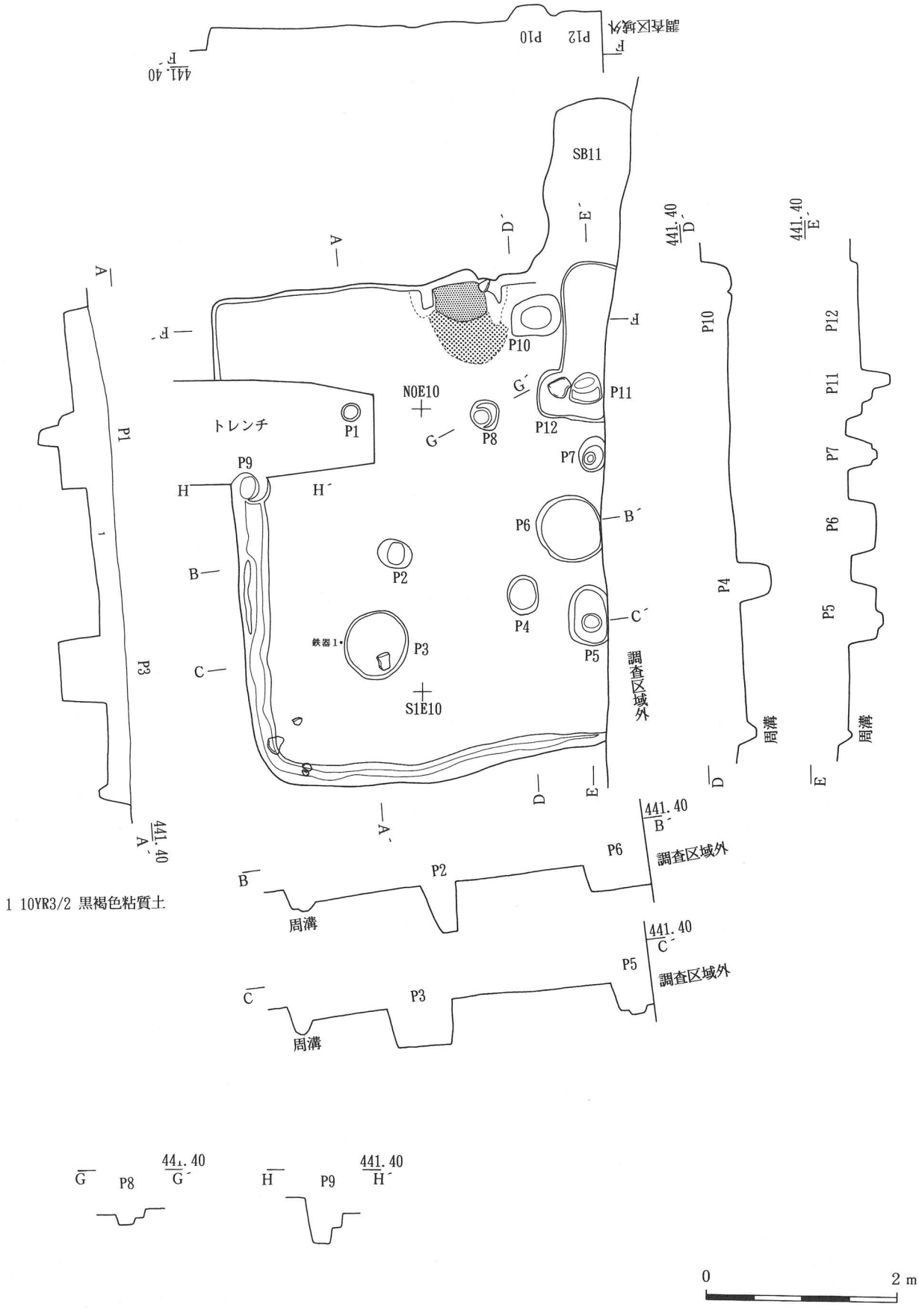
1 10YR2/2 黒褐色粘質土
2 10YR3/2 黒褐色粘質土（焼土ブロック混じり）
3 10YR2/3 黒褐色粘質土（焼土、炭化物混じり）

竈跡実測図



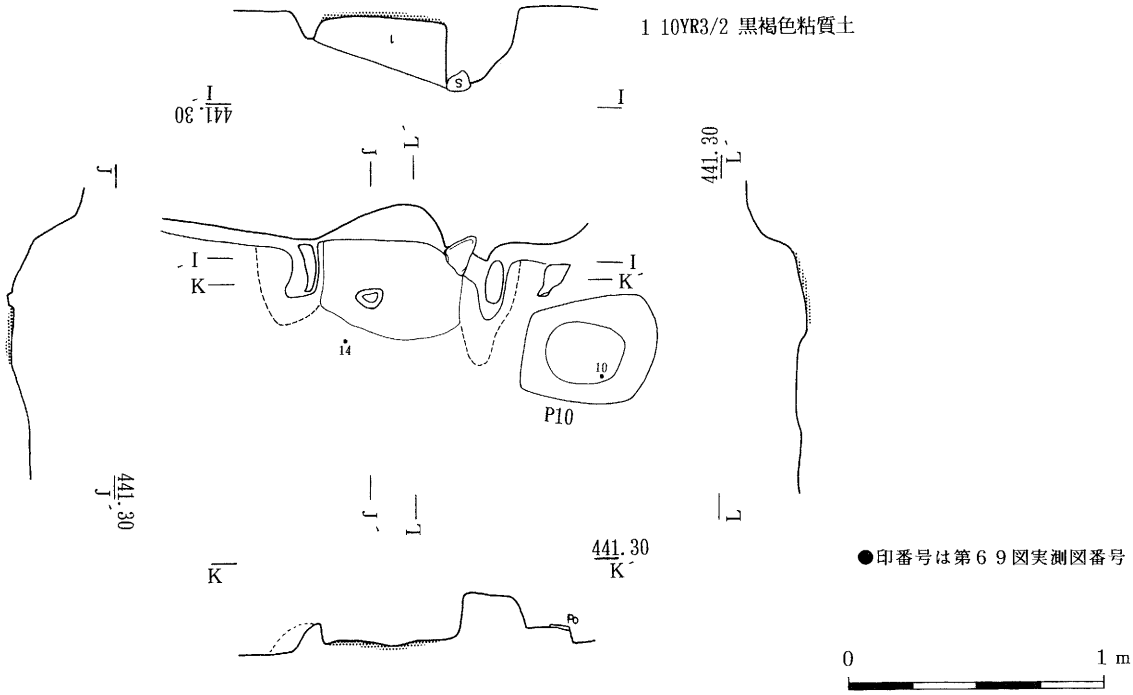
1 10YR2/3 黒褐色粘質土（褐色土混じり）
2 10YR2/3 黒褐色粘質土（焼土ブロック混じり）
3 10YR3/3 暗褐色粘質土（褐色土混じり）

第 17 図　第９号竪穴住居跡実測図

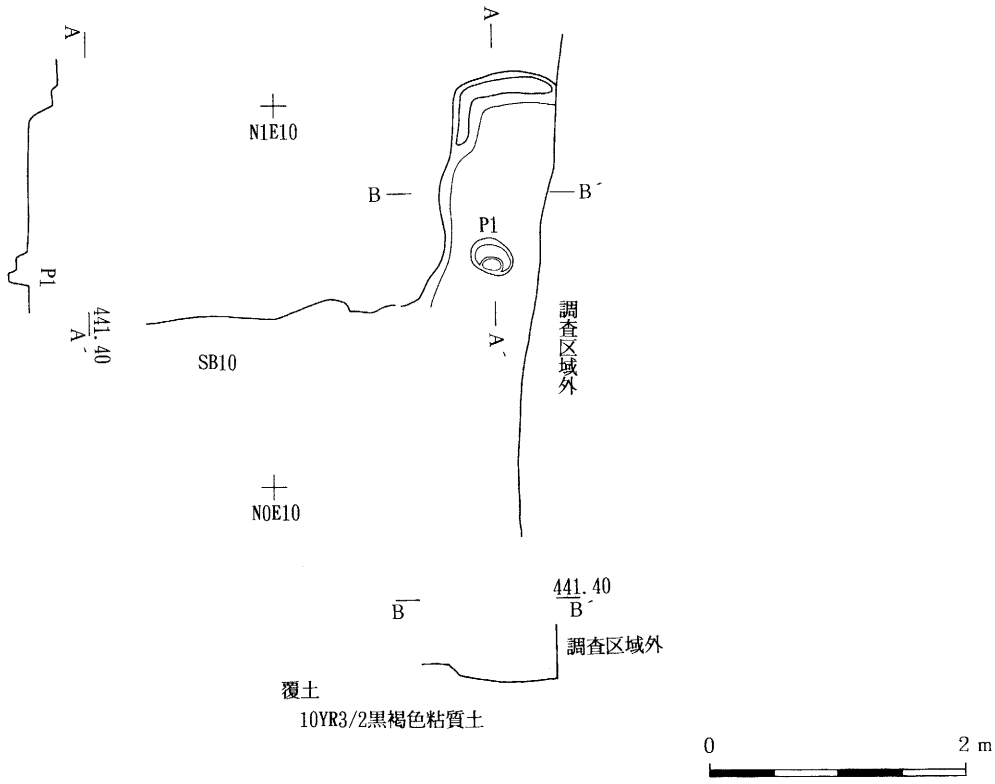


第 18 図　第１０号竪穴住居跡実測図(1)

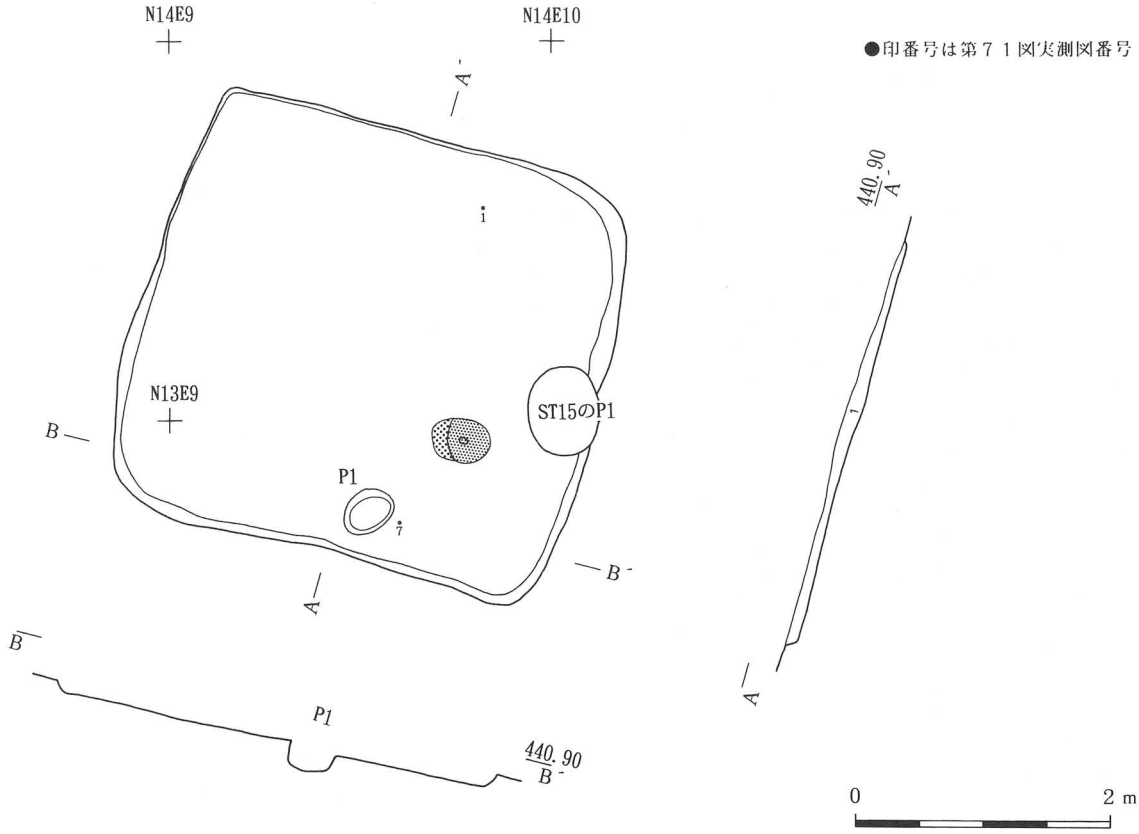
竈跡実測図



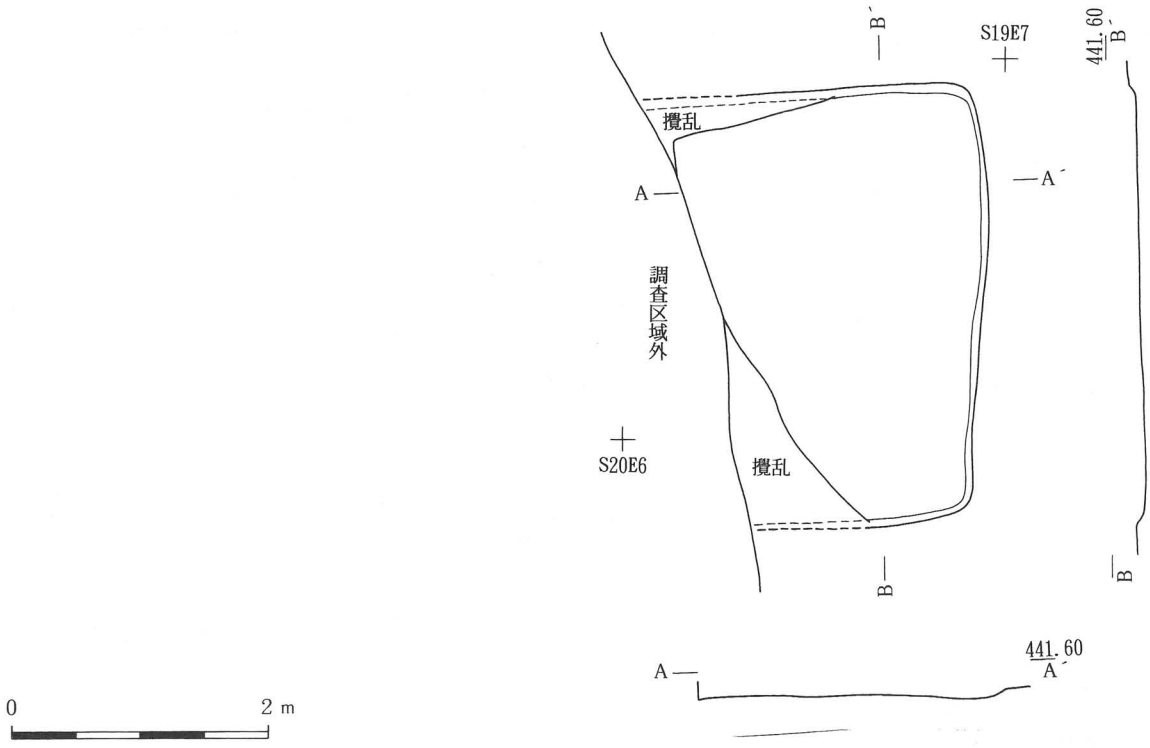
第 18 図　第１０号竪穴住居跡実測図(2)



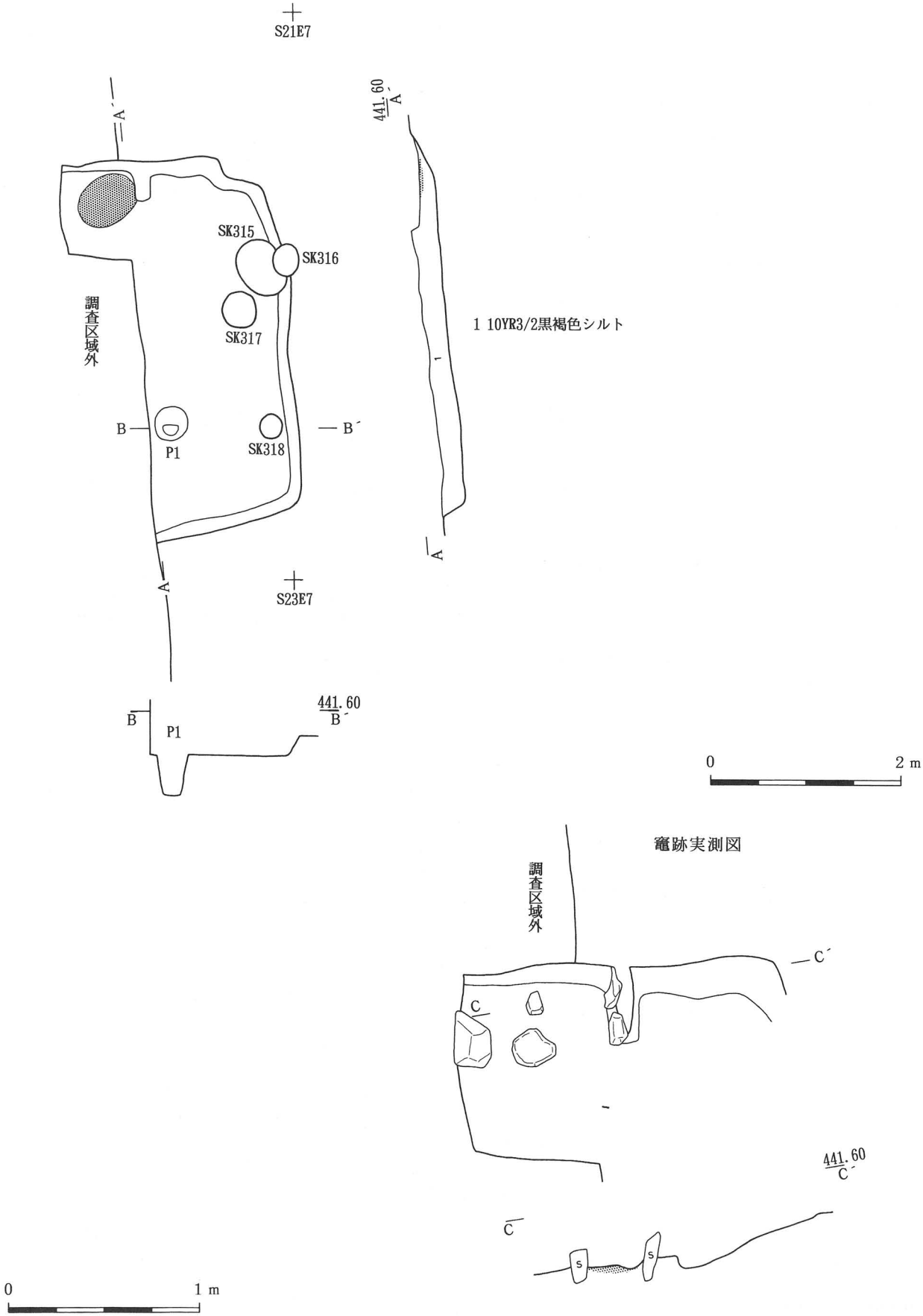
第 19 図　第１１号竪穴住居跡実測図



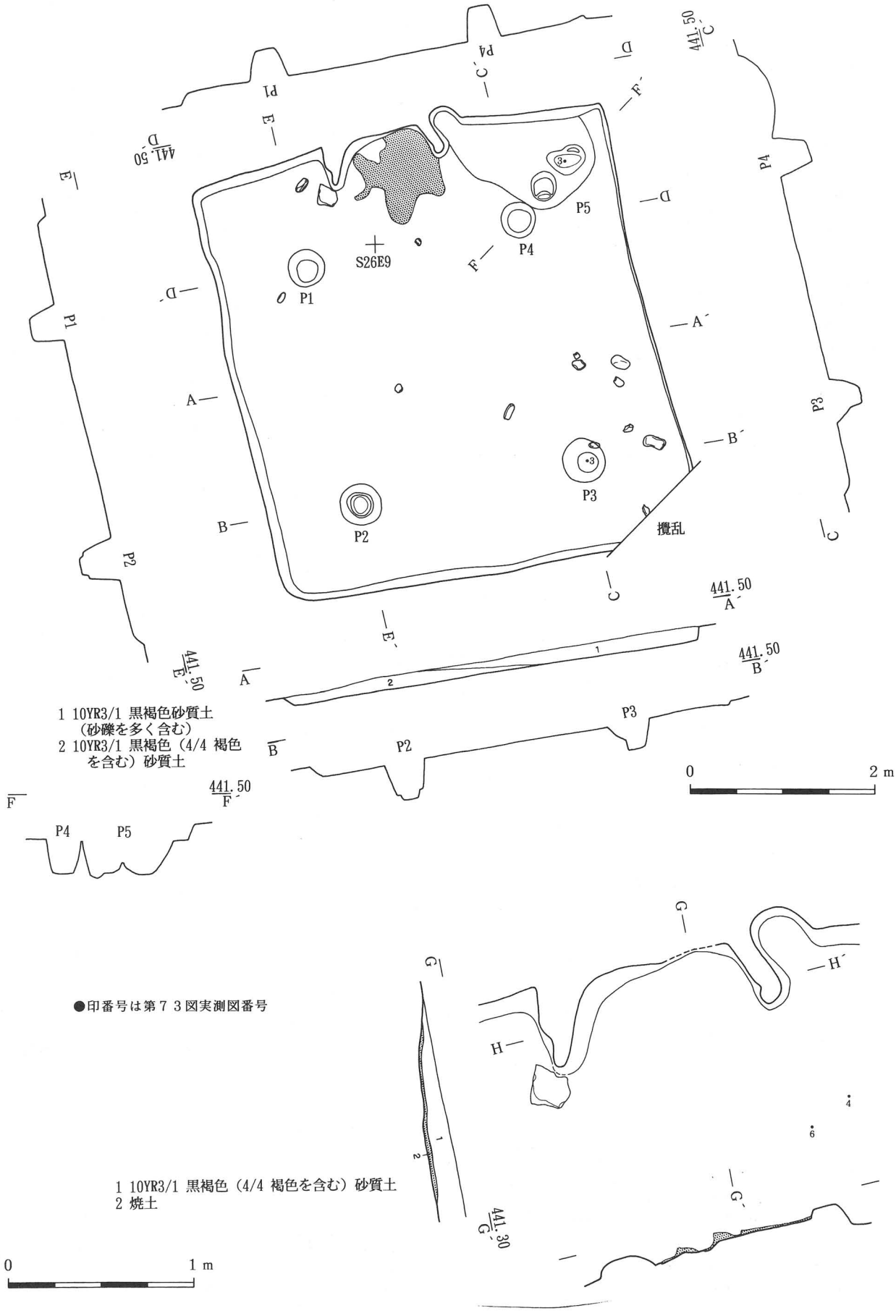
第 20 図　第１２号竪穴住居跡実測図



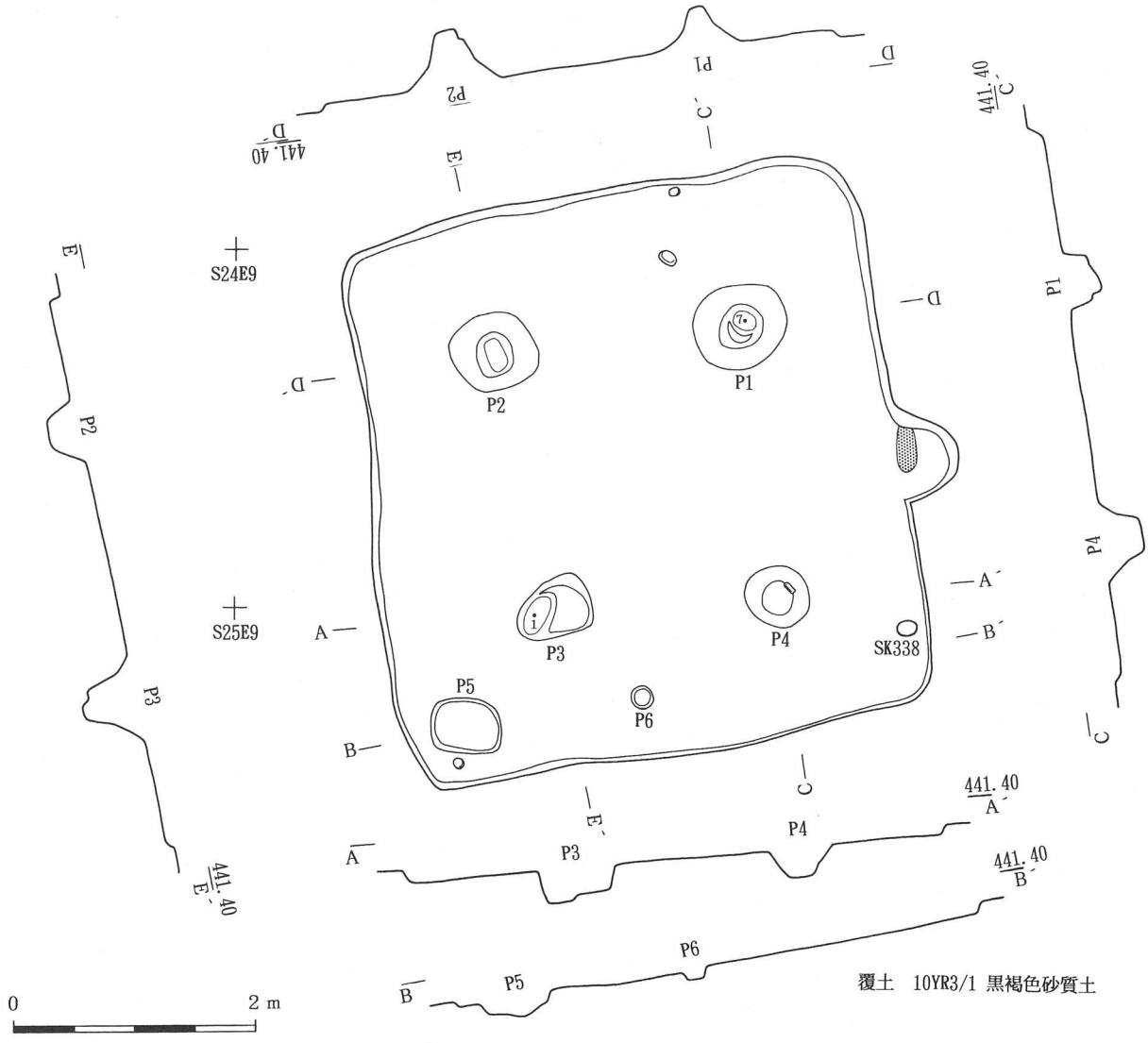
第 21 図　第１３号竪穴住居跡実測図



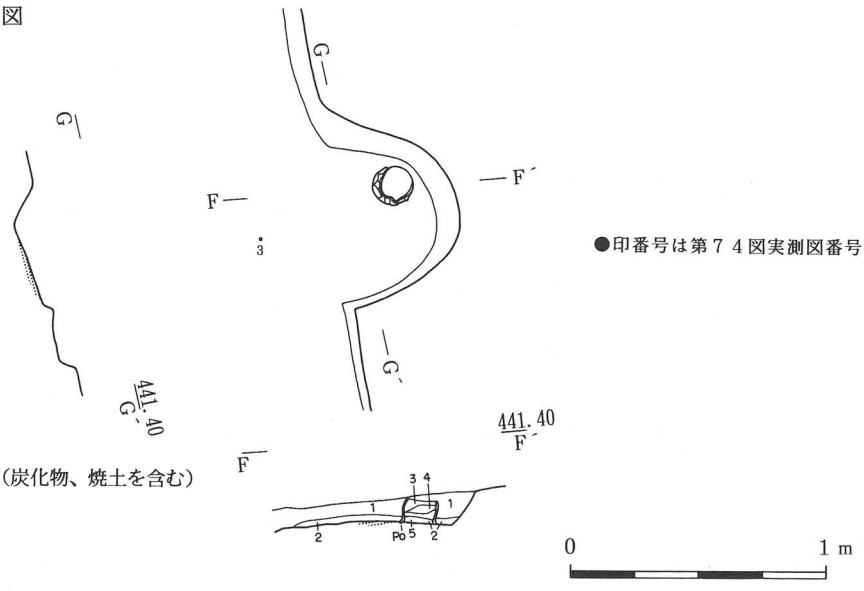
第 22 図　第１４号竪穴住居跡実測図



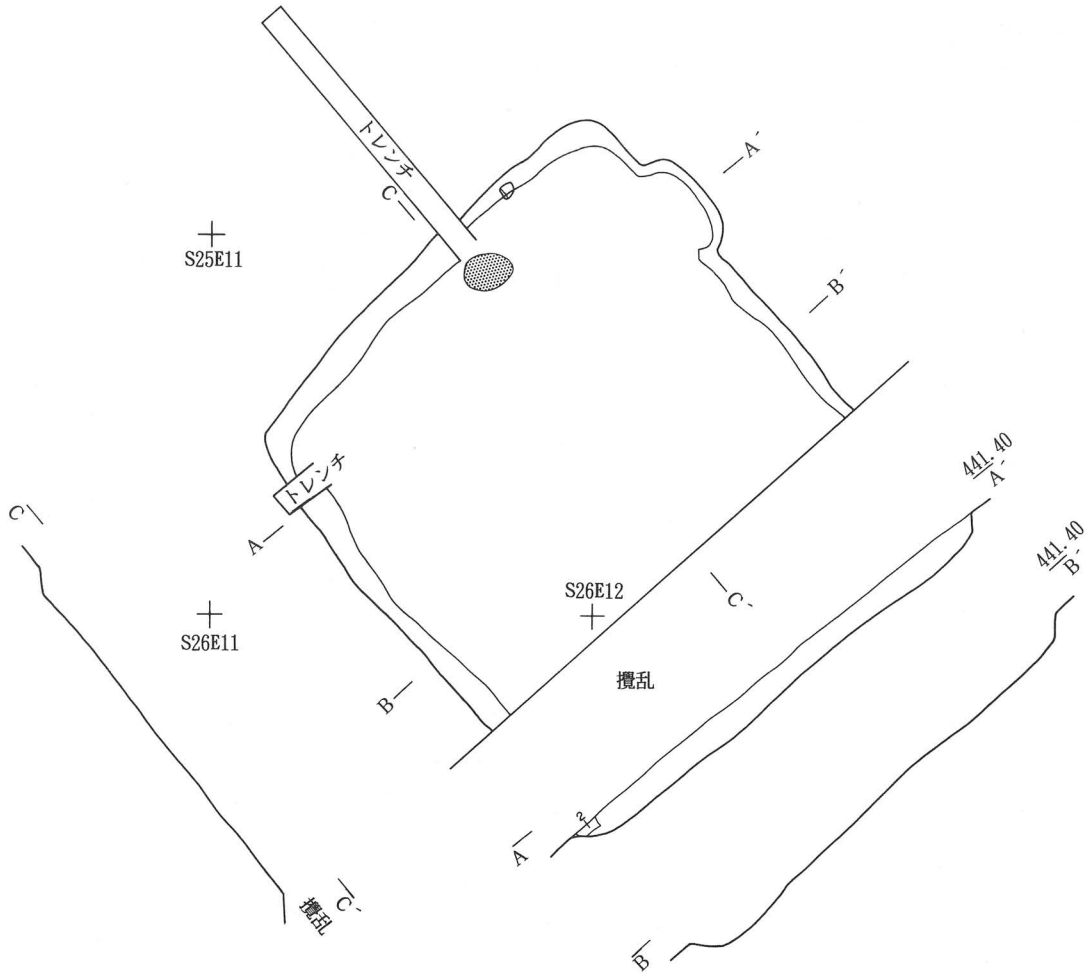
第 23 図　第１５号竪穴住居跡実測図



竈跡実測図



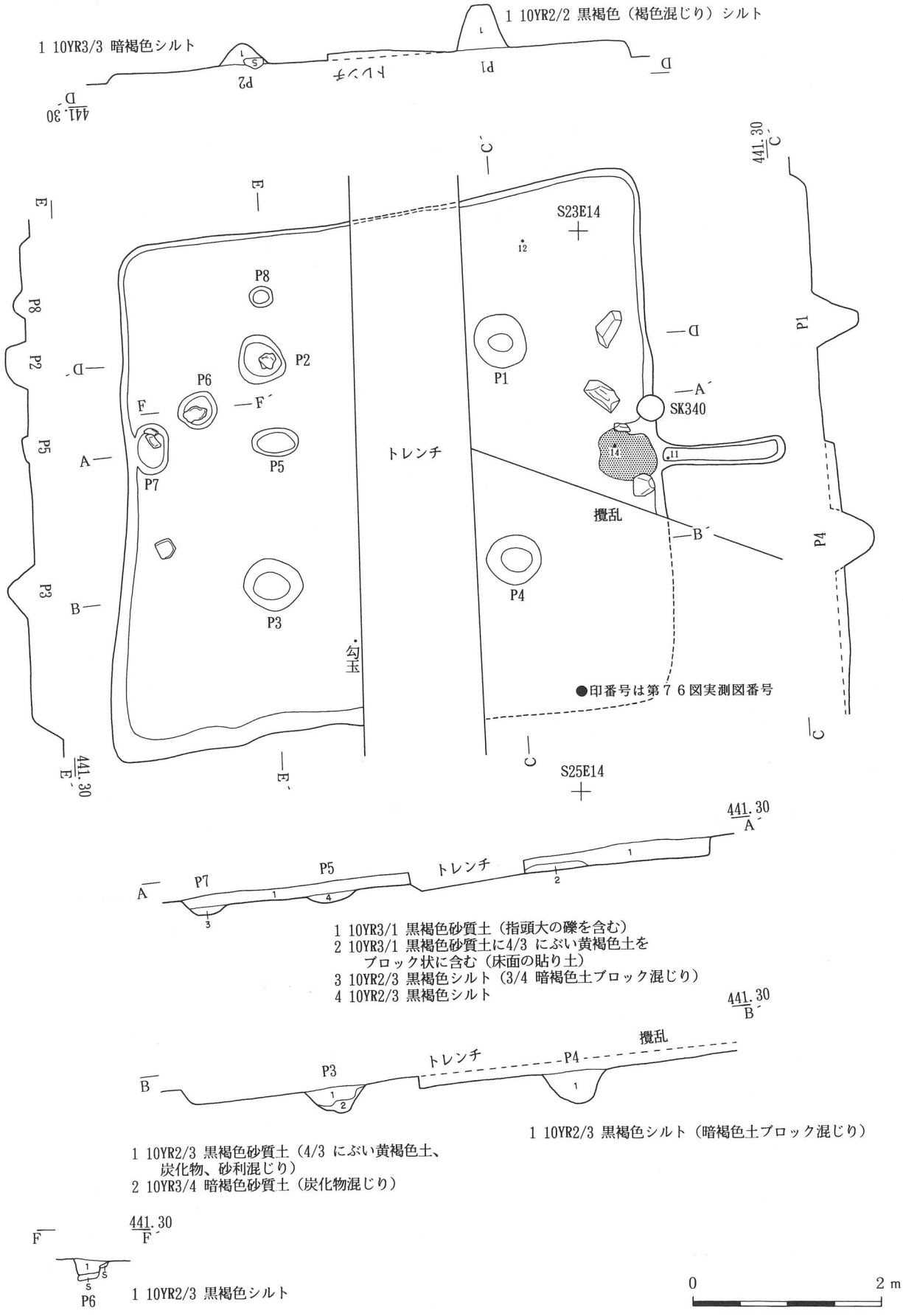
第 24 図　第１６号竪穴住居跡実測図



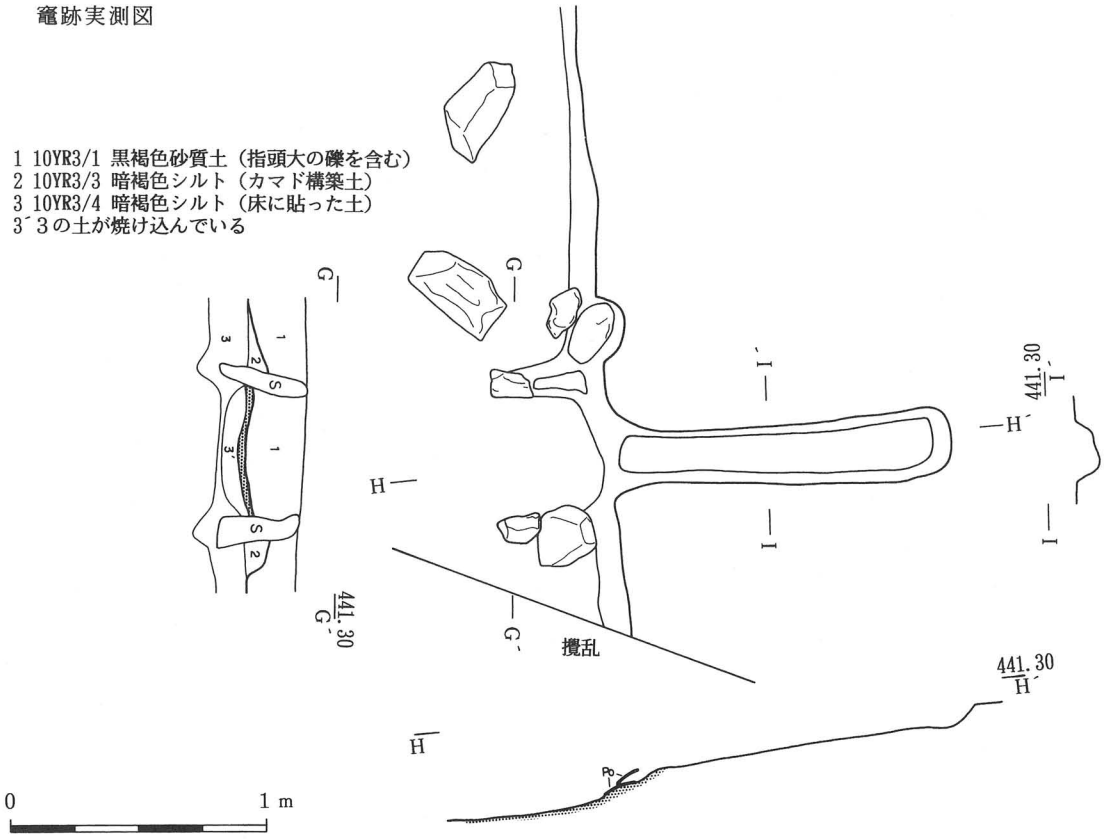
1 10YR3/1 黒褐色土（砂礫を多く含み、
　堅く締まっている）
2 10YR3/1 黒褐色土（焼土、炭化物を含む）

0　2 m

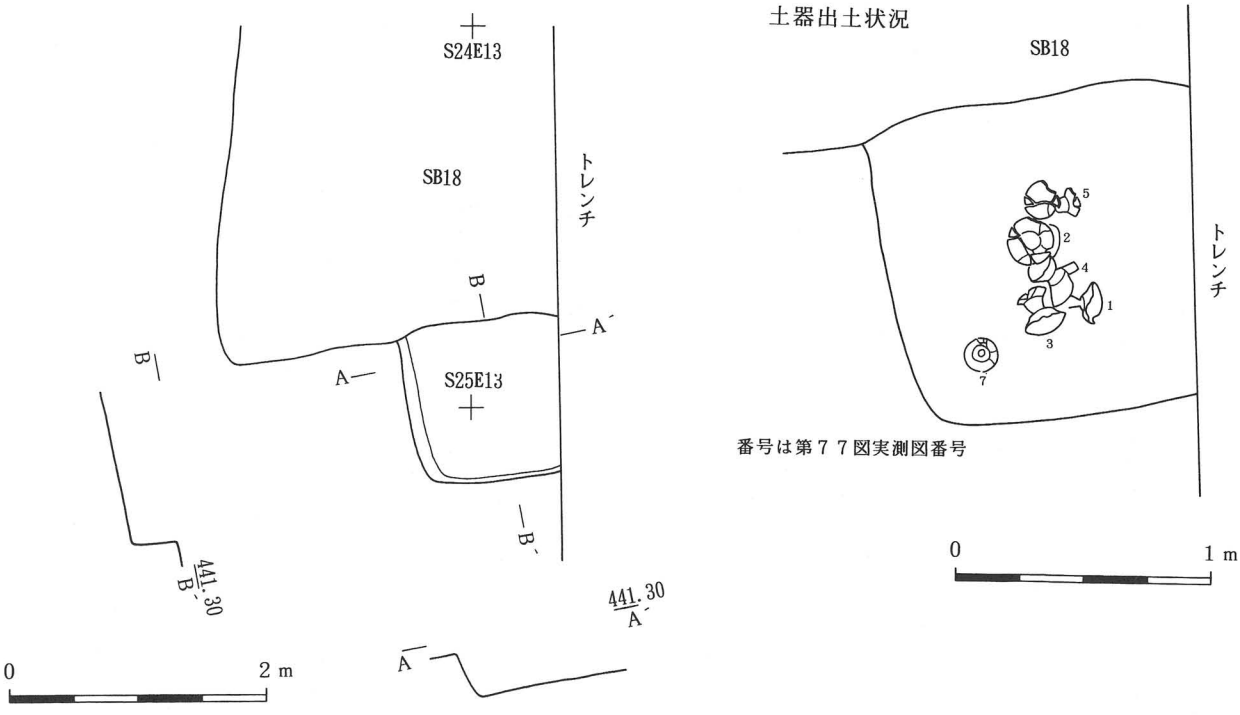
第 25 図　第 1 7 号竪穴住居跡実測図



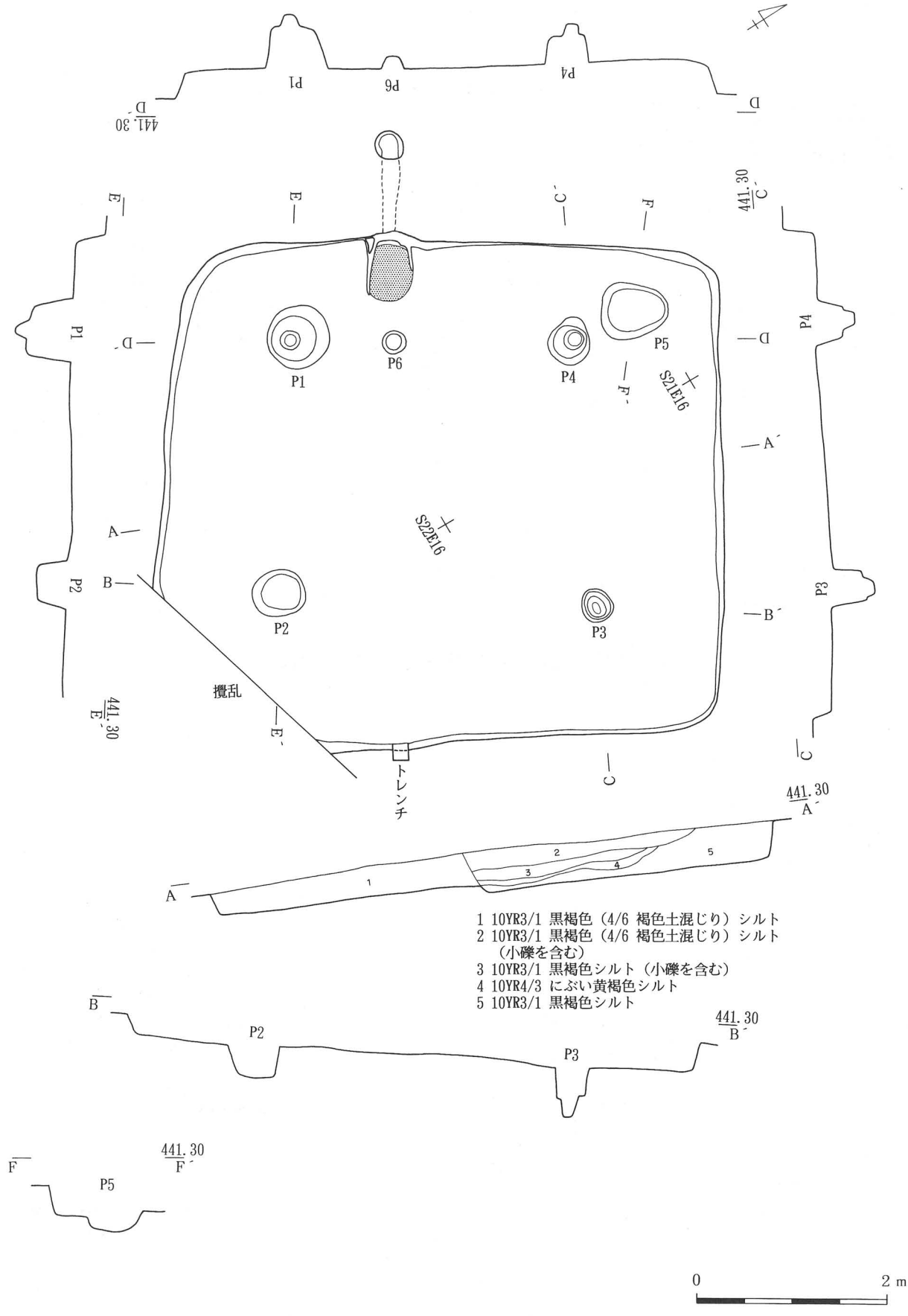
第 26 図　第１８号竪穴住居跡実測図(1)



第 26 図　第１８号竪穴住居跡実測図(2)

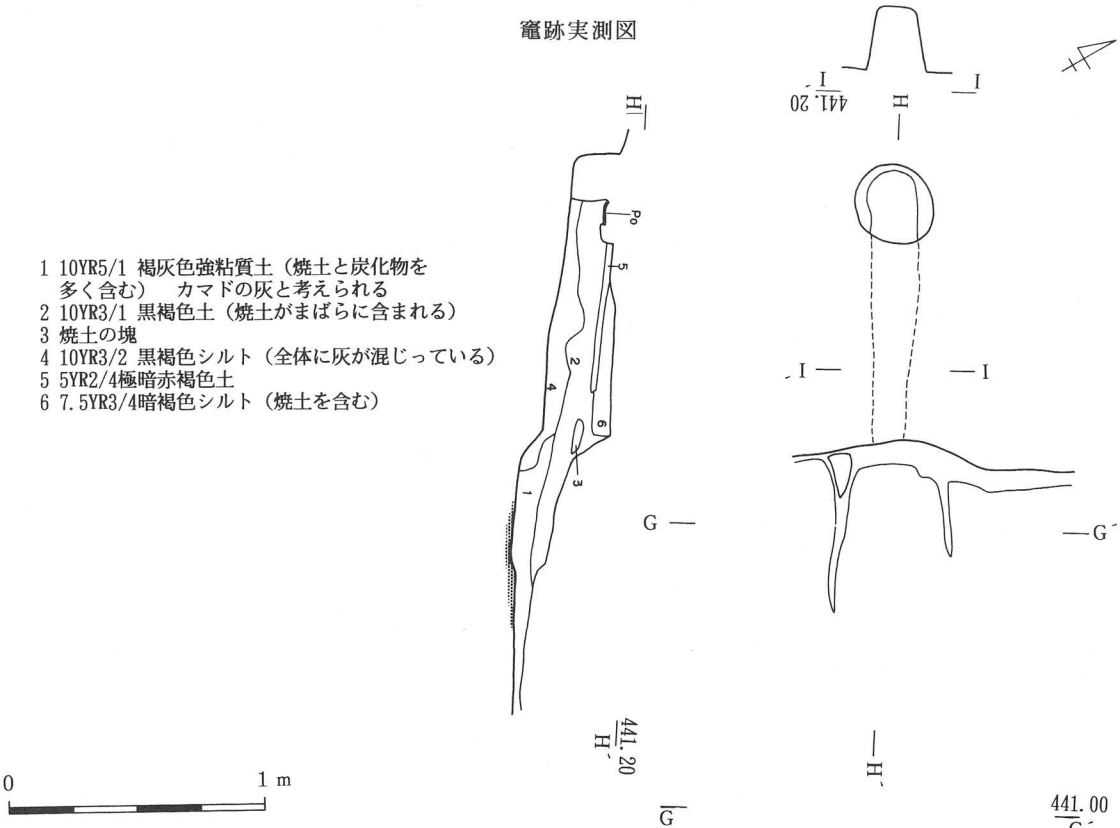


第 27 図　第１９号竪穴住居跡実測図

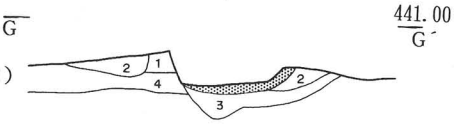


第 28 図　第２０号竪穴住居跡実測図(1)

竈跡実測図

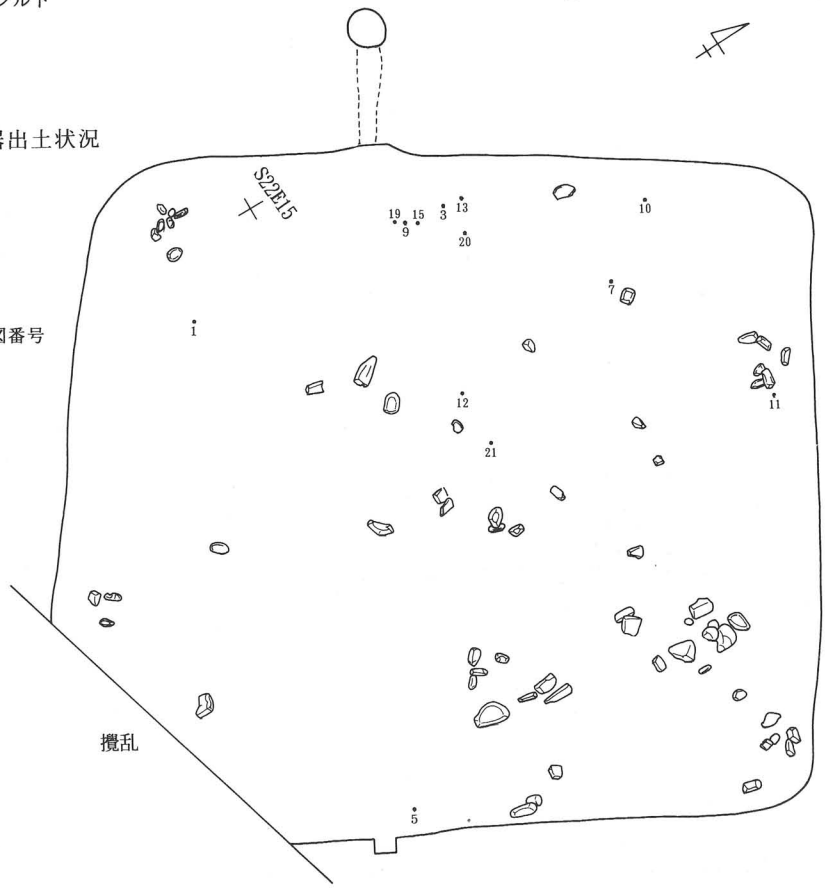


1 10YR5/1 褐灰色強粘質土（焼土と炭化物を多く含む）　カマドの灰と考えられる
2 10YR3/1 黒褐色土（焼土がまばらに含まれる）
3 焼土の塊
4 10YR3/2 黒褐色シルト（全体に灰が混じっている）
5 5YR2/4極暗赤褐色土
6 7.5YR3/4暗褐色シルト（焼土を含む）



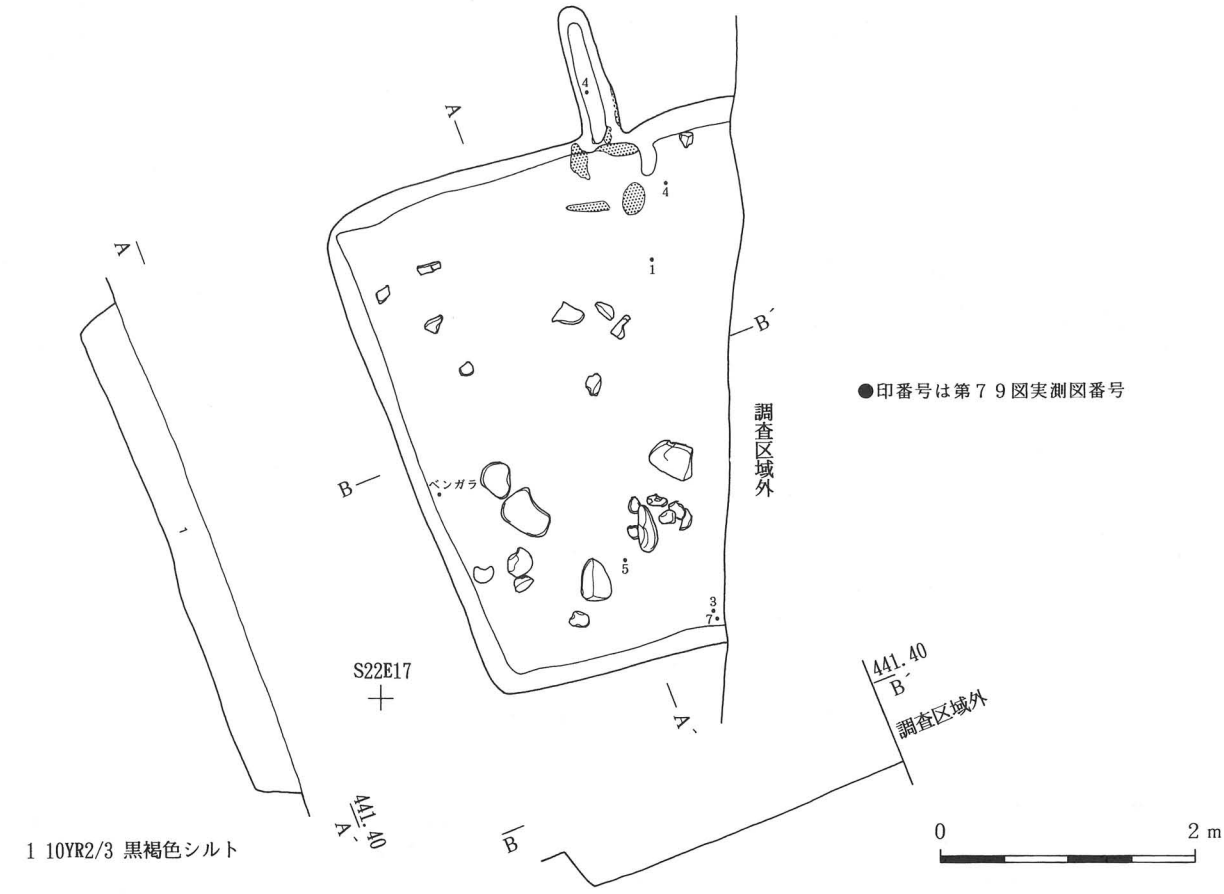
1 10YR4/4 褐色（灰色混じり）粘質土
2 10YR4/4 褐色（灰色混じり）粘質土（炭化物、焼土混じり）
3 10YR3/3 暗褐色シルト（炭化物、焼土混じり）
4 10YR3/4 暗褐色シルト

土器・石器出土状況

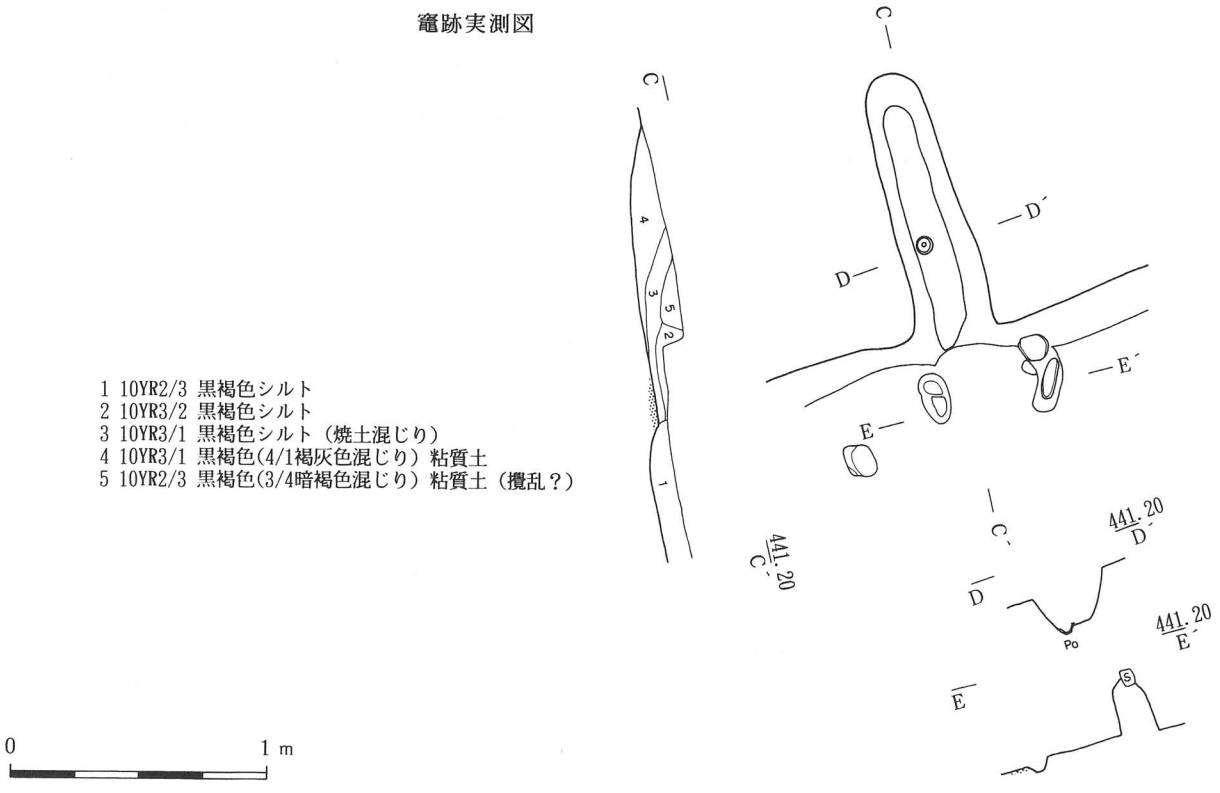


●印番号は第７８図実測図番号

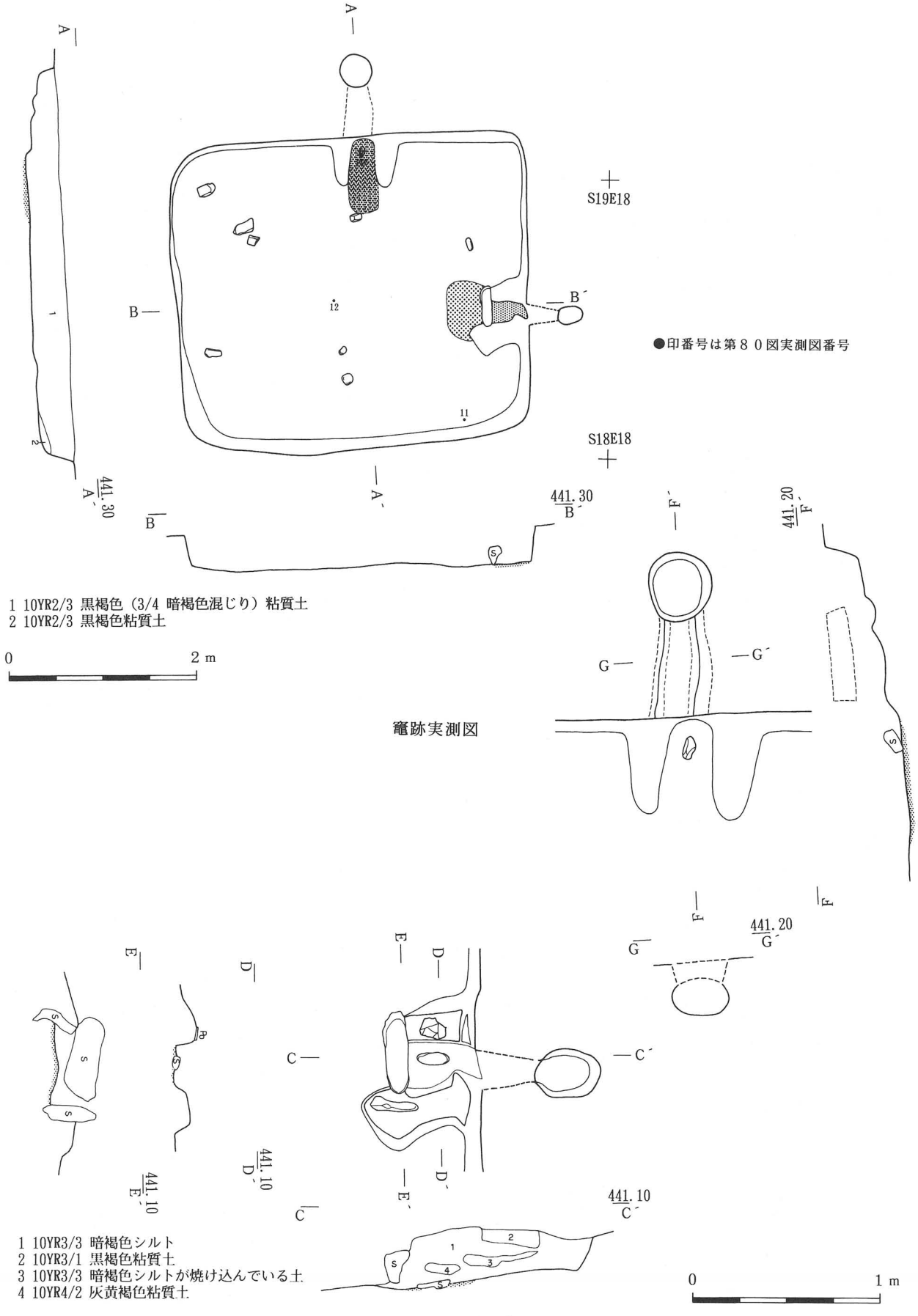
第 28 図　第２０号竪穴住居跡実測図(2)



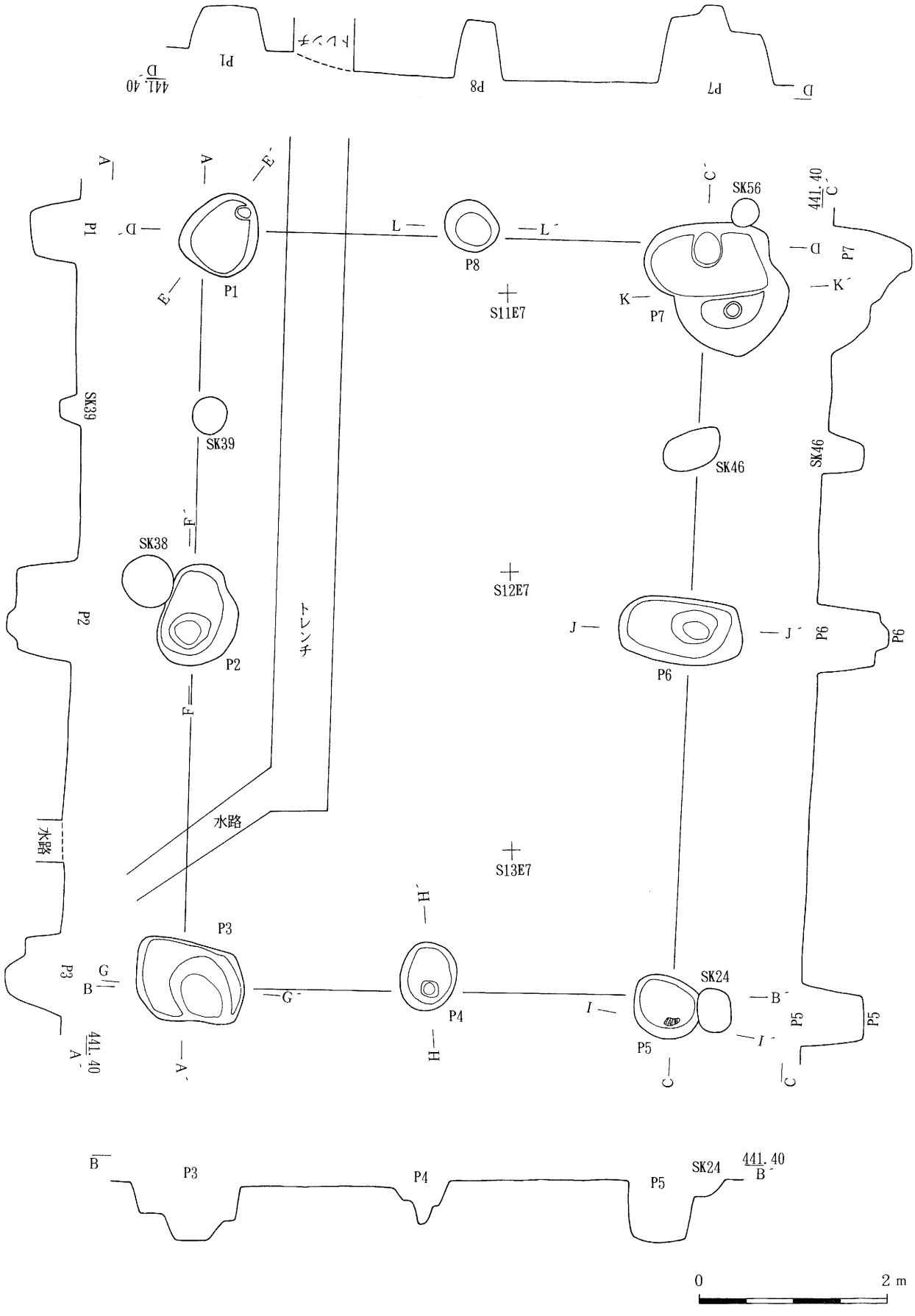
竈跡実測図



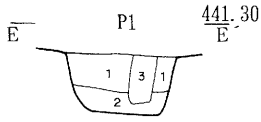
第 29 図　第２２号竪穴住居跡実測図



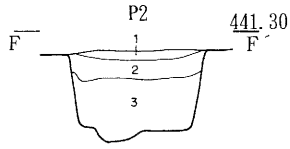
第 30 図　第２３号竪穴住居跡実測図



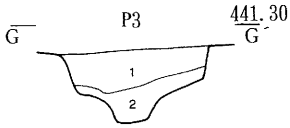
第 31 図　第 1 号掘立柱建物跡実測図(1)



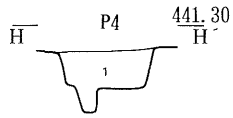
1 10YR2/1 黒と3/4 暗褐色の粘質土
2 10YR2/2 黒褐色粘質土
3 10YR2/1 黒強粘土



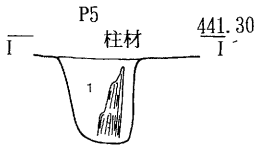
1 10YR2/2 黒褐色粘質土
2 10YR3/3 暗褐色粘質土（褐色砂混じり）
3 10YR3/2 黒褐色粘質土（粘土多量に含む）



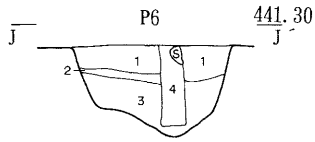
1 10YR2/2 黒褐色（暗褐色ブロックを含む）粘質土
2 10YR1.7/1 黒強粘質土



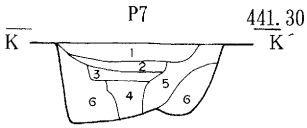
1 10YR2/2黒褐色（暗褐色混じり）粘質土



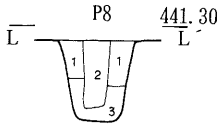
1 10YR2/3 黒褐色（褐色ブロックを含む）粘質土



1 10YR3/4 暗褐色粘質土（炭化物少量含む）
2 10YR2/2 黒褐色粘質土
3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
4 10YR3/2 黒褐色粘質土

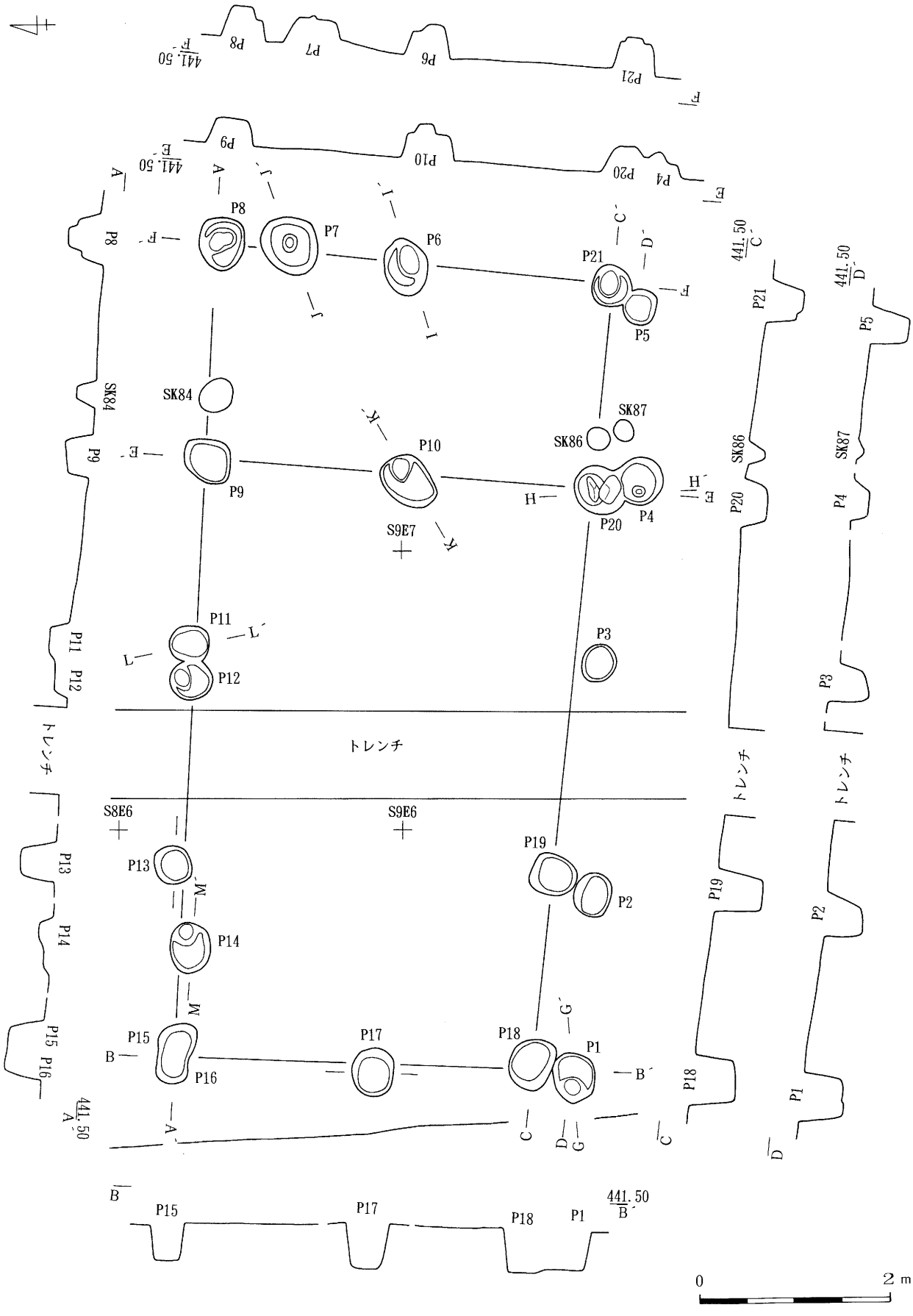


1 10YR2/2 黒褐色粘質土（小石混じり）
2 7.5YR2/2黒褐色粘質土（炭化物混じり）
3 10YR2/4 暗褐色（黒褐色混じり）粘質土（小石混じり）
4 7.5YR2/2黒褐色粘質土（暗褐色ブロックを含む）
5 10YR2/3 黒褐色粘質土
6 10YR3/2 黒褐色粘質土（地山かもしれない）

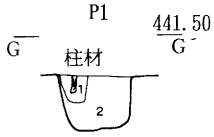


1 7.5YR3/2黒褐色粘質土
2 10YR3/2 黒褐色粘質土
3 10YR2/2 黒褐色強粘質土

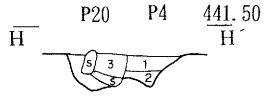
第 31 図　第 1 号掘立柱建物跡実測図(2)



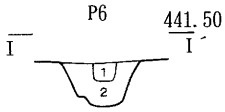
第 32 図　第 2 号掘立柱建物跡実測図(1)



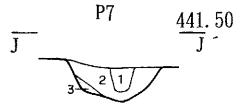
1 N3/暗灰色粘土
2 10YR3/1黒褐色（暗褐色混じり）粘質土



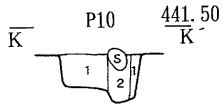
1 10YR3/3 暗褐色（黒褐色混じり）粘質土
2 N3/ 暗灰色粘土
3 10YR3/1 黒褐色（暗褐色混じり）粘質土



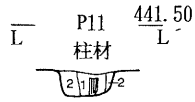
1 N3/ 暗灰色（褐色土を少量含む）粘質土
2 10YR3/1 黒褐色（暗褐色混じり）粘質土



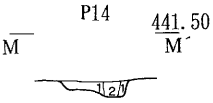
1 10YR3/3 暗褐色粘質土
2 10YR2/3 黒褐色強粘質土（炭化物を少量含む）
3 7.5YR3/4暗褐色粘質土



1 10YR2/3 黒褐色（暗褐色混じり）粘質土
2 10YR2/2 黒褐色強粘質土



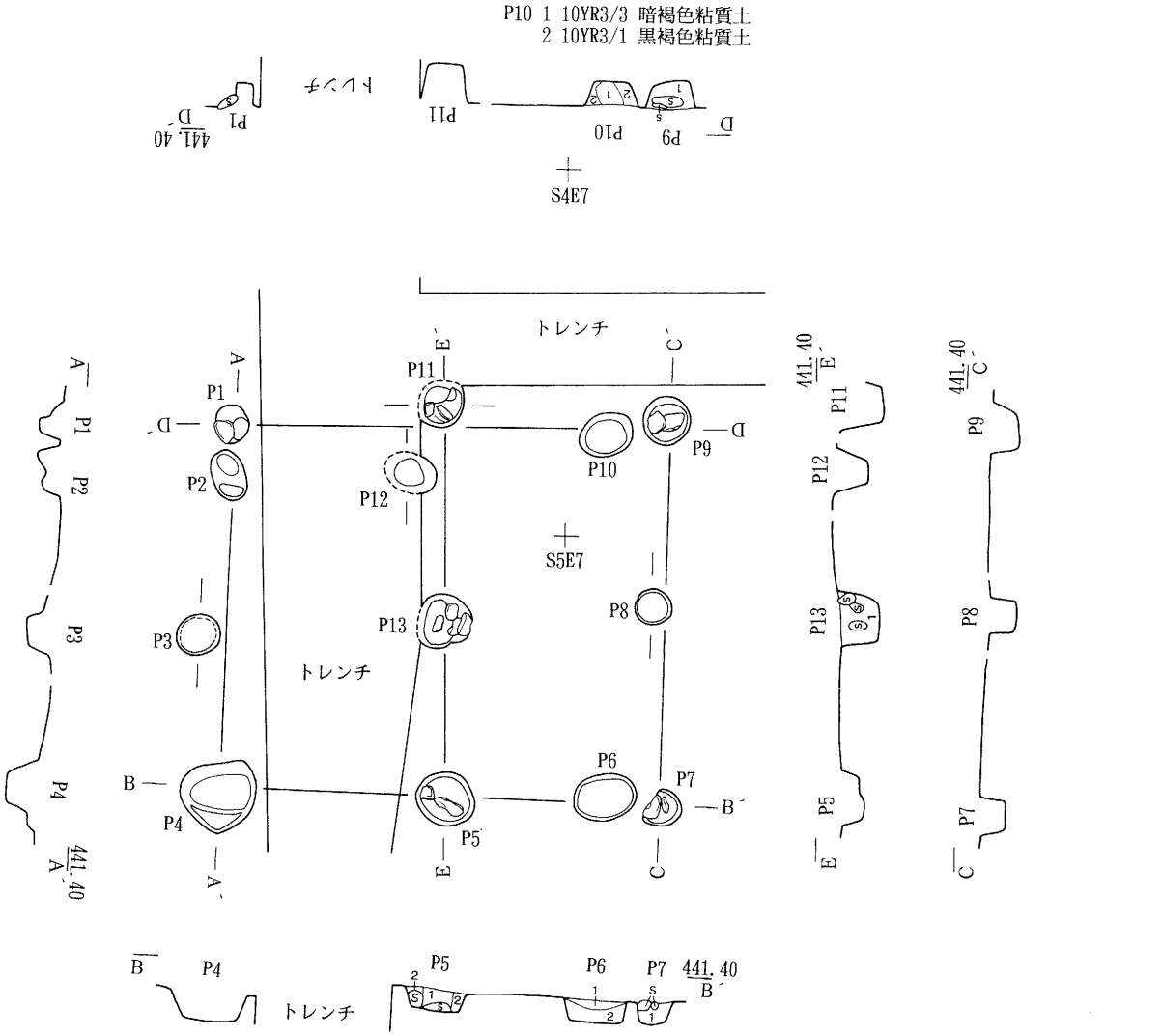
1 N3/ 暗灰色粘土
2 10YR3/1 黒褐色（褐色混じり）粘質土



1 10YR3/1 黒褐色（褐色混じり）粘質土
2 10YR3/1 黒褐色（暗褐色混じり）粘質土

P2, P12, P13, P15, P17, P18, P19の覆土
10YR3/1 黒褐色（褐色混じり）粘質土
P3, P8 の覆土
10YR3/1 黒褐色（褐色混じり）粘質土（炭化物を含む）
P5, P16の覆土
10YR4/1褐灰色（褐色混じり）粘質土
P9, P21の覆土
10YR4/1 褐灰色（褐色混じり）粘質土（炭化物を含む）

第 32 図　第 2 号掘立柱建物跡実測図 (2)



P1の覆土
10YR2/3黒褐色粘質土

P2, P8 の覆土
10YR3/3暗褐色粘質土

P3, P11, P12の覆土
10YR3/2黒褐色粘質土

P4の覆土
10YR3/1黒褐色（褐色混じり）粘質土（炭化物、3㎝位の
を含む）

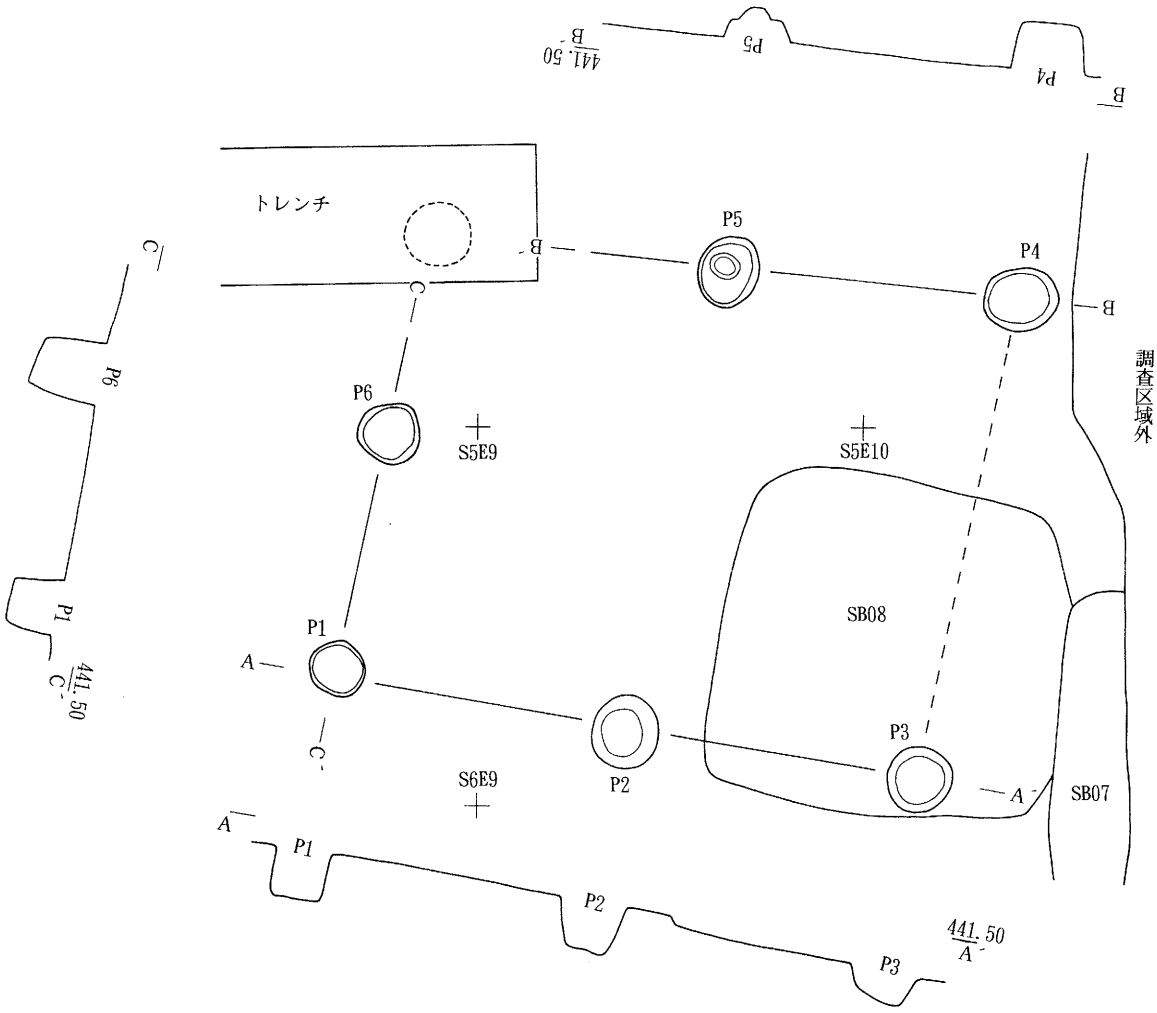
P7の覆土
10YR3/1黒褐色（暗褐色混じり）粘質土

P9の覆土
10YR3/1黒褐色粘質土

P13 の覆土
10YR3/1黒褐色（褐色混じり）粘質土

0 2 m

第 33 図　第 3 号掘立柱建物跡実測図



P1の覆土
10YR3/1黒褐色シルト（指頭大の礫、砂粒、炭化物を含む）

P2の覆土
10YR2/3黒褐色シルト（砂利混じり）

P3の覆土
10YR2/3黒褐色シルト（砂利、炭化物混じり）

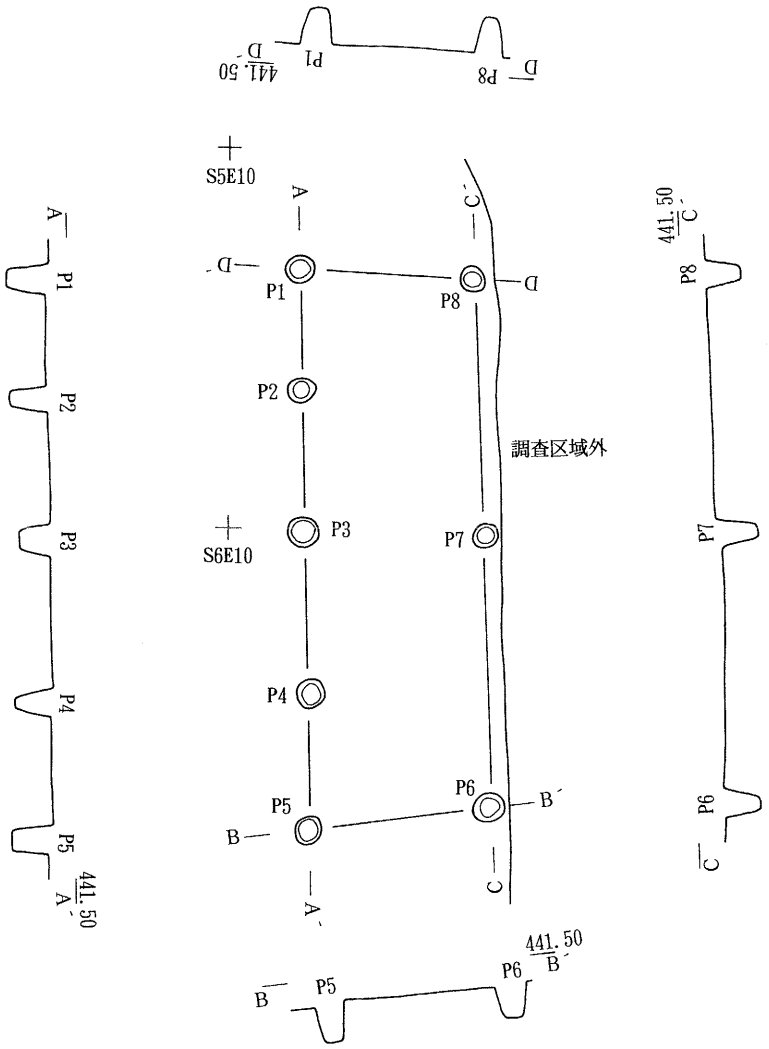
P4の覆土
10YR2/3黒褐色粘質土

P5の覆土
10YR3/1黒褐色（褐色混じり）シルト

P6の覆土
10YR2/2黒褐色シルト（炭化物、焼土混じり）

0　2 m

第 34 図　第 4 号掘立柱建物跡実測図

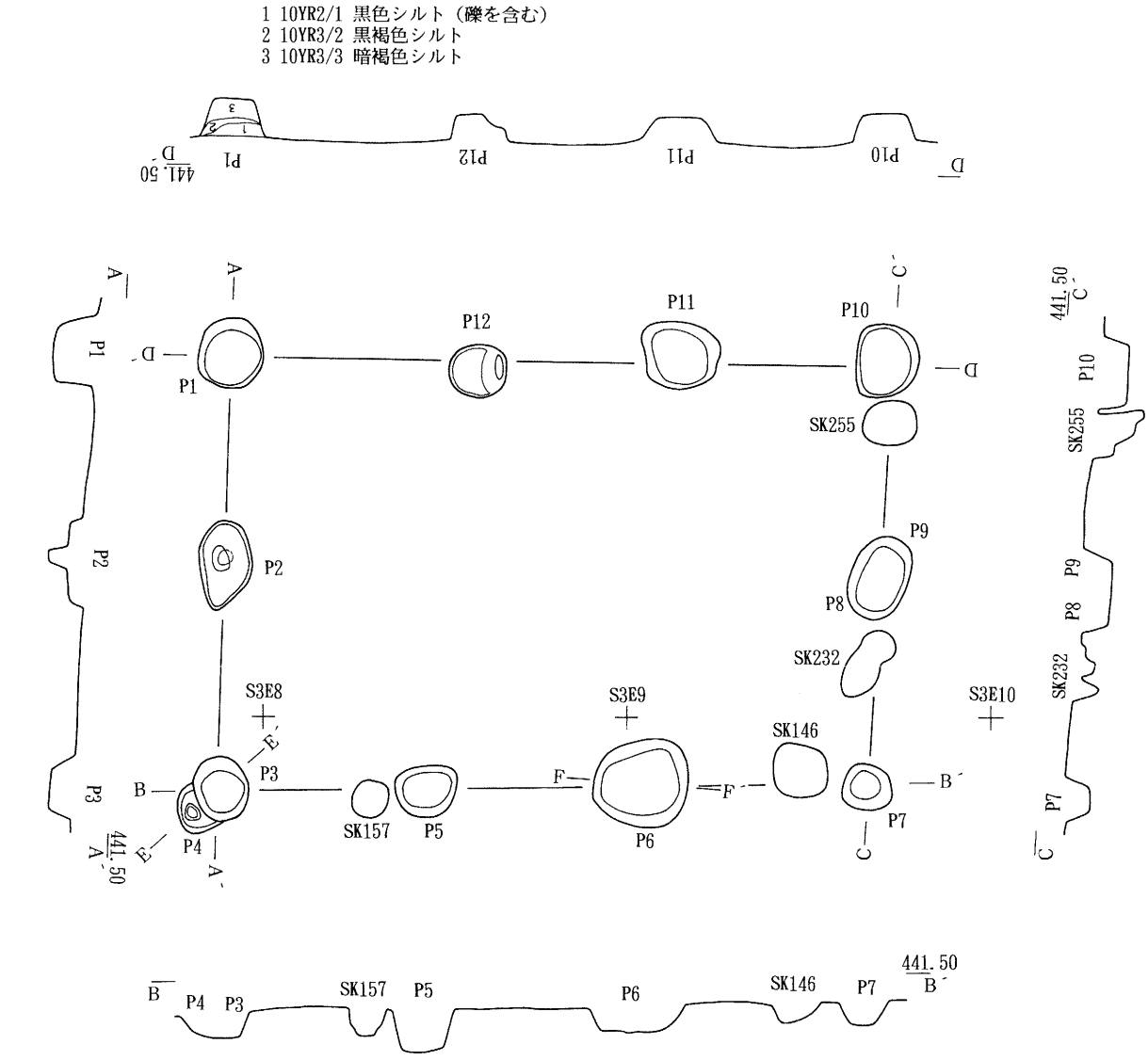


P1, P2, P3, P4, P5, P6, P8の覆土
10YR5/1褐灰色土（暗褐色土を含む）

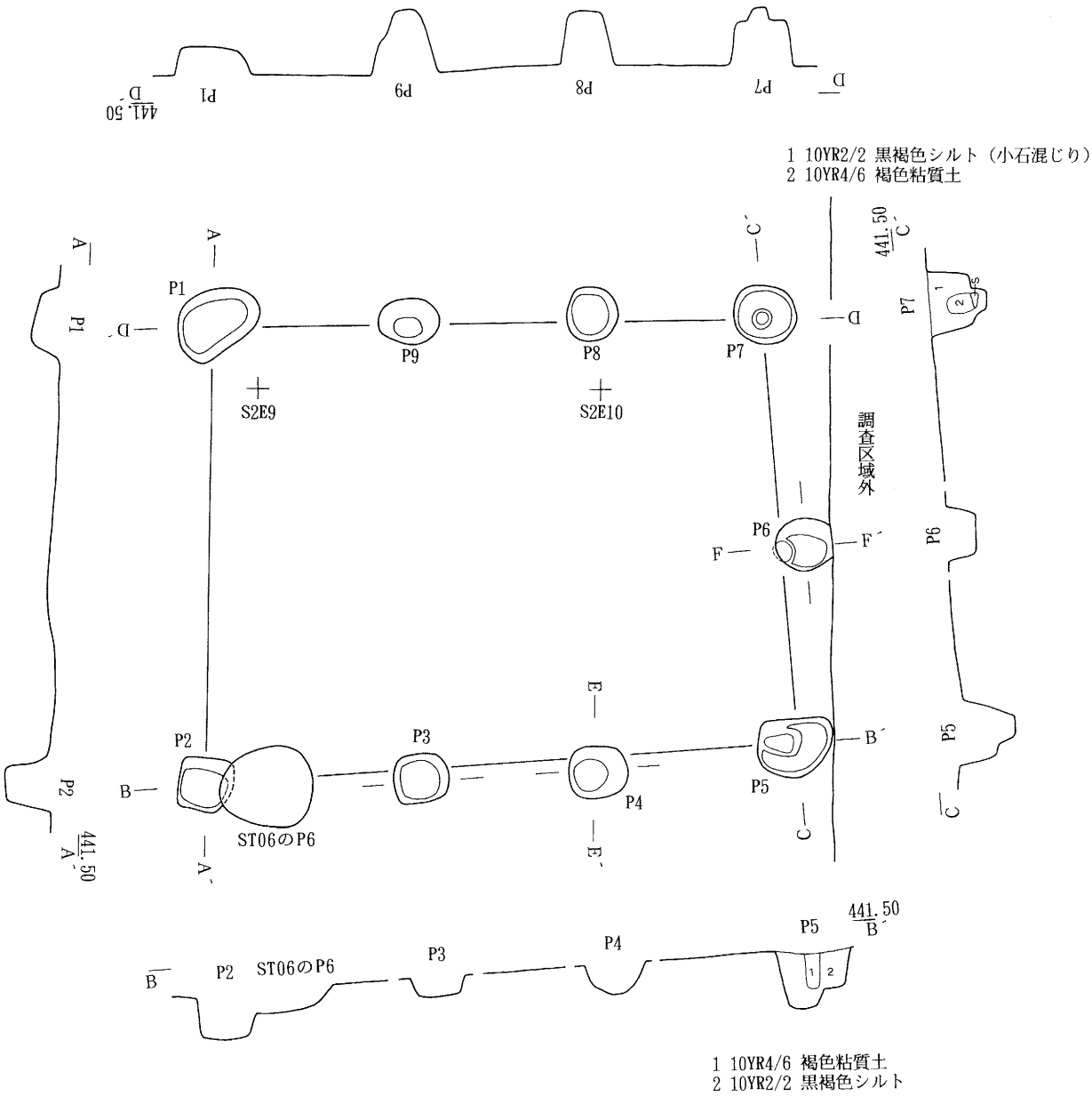
P7の覆土 10YR2/3黒褐色粘質土

0 2 m

第 35 図　第 5 号掘立柱建物跡実測図



第 36 図　第 6 号掘立柱建物跡実測図



P1の覆土
10YR3/3暗褐色シルト（焼土、炭化物を少量含む）

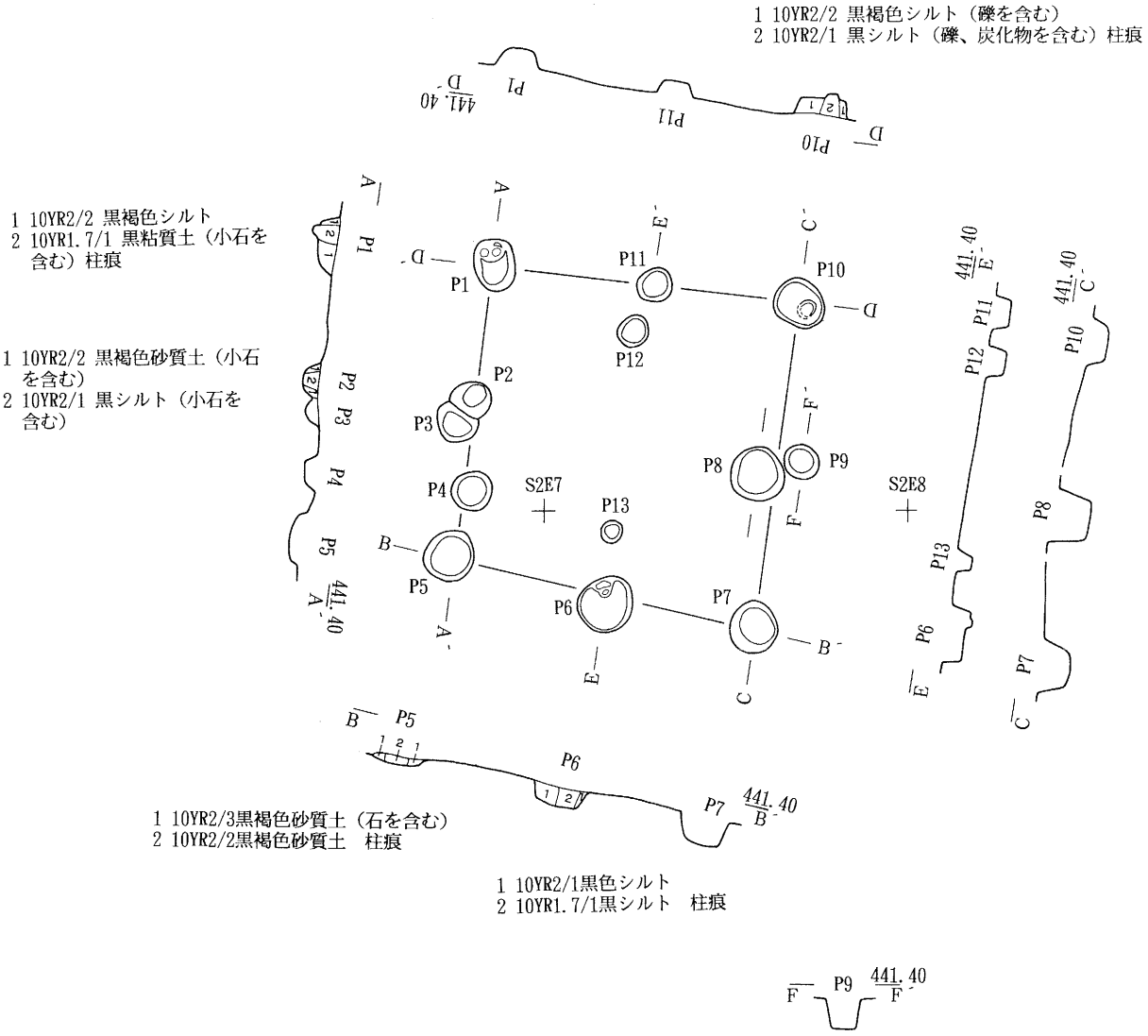
P2,P3 の覆土
10YR3/1黒褐色（褐色混じり）シルト

P8の覆土
10YR2/2黒褐色シルト（直径３cm前後の石を含む）

P9の覆土
10YR2/3黒褐色シルト(焼土、炭化物少量含む)

0 2 m

第 37 図　第 7 号掘立柱建物跡実測図



P3の覆土
10YR2/2黒褐色砂質土（小石を多く含む）

P4の覆土
10YR3/1黒褐色砂質土（砂礫を含む）

P7の覆土
10YR3/1黒褐色（暗褐色混じり）シルト

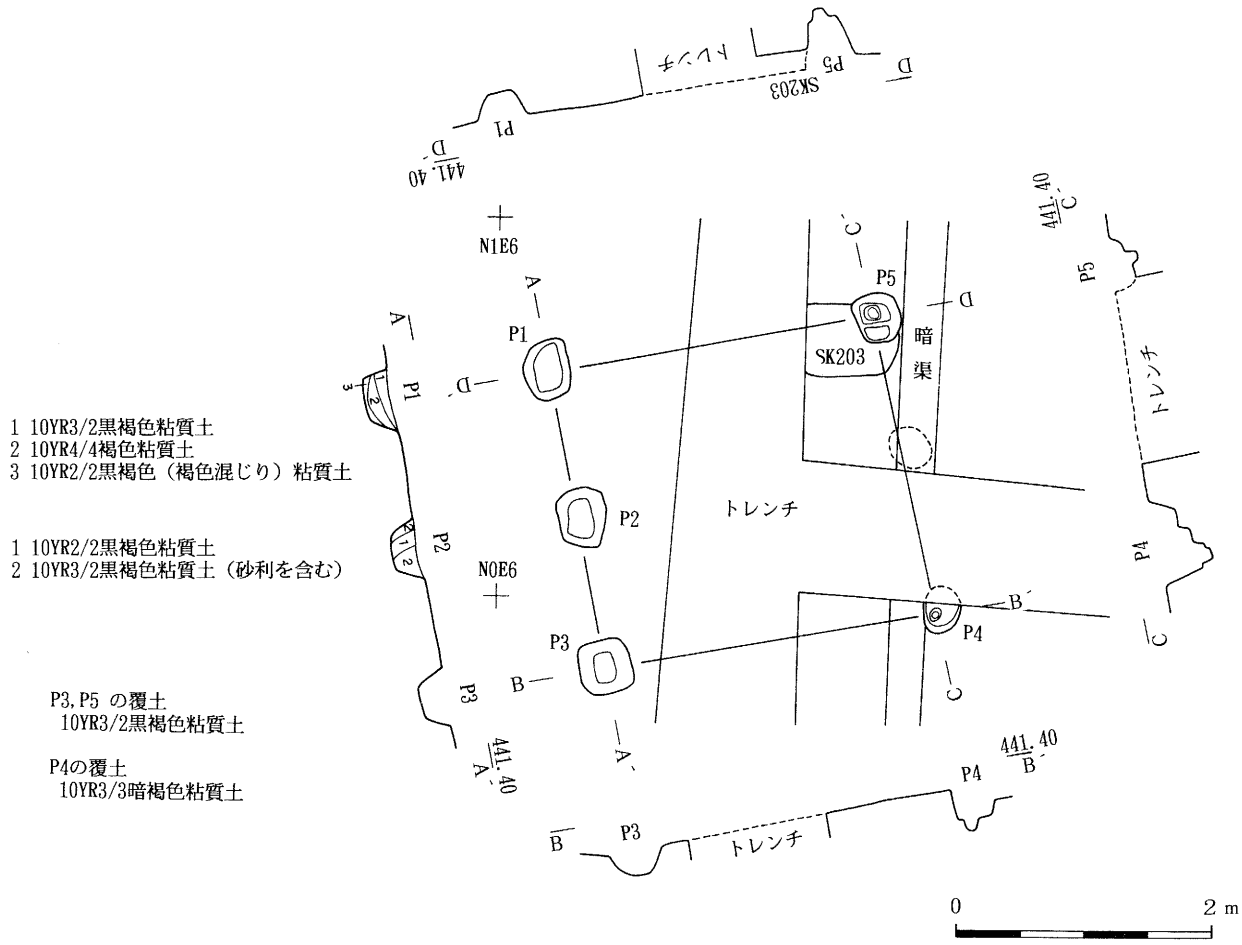
P8の覆土
10YR3/1黒褐色（褐色混じり）シルト（炭化物、砂粒を含む）

P9の覆土
10YR3/1黒褐色シルト

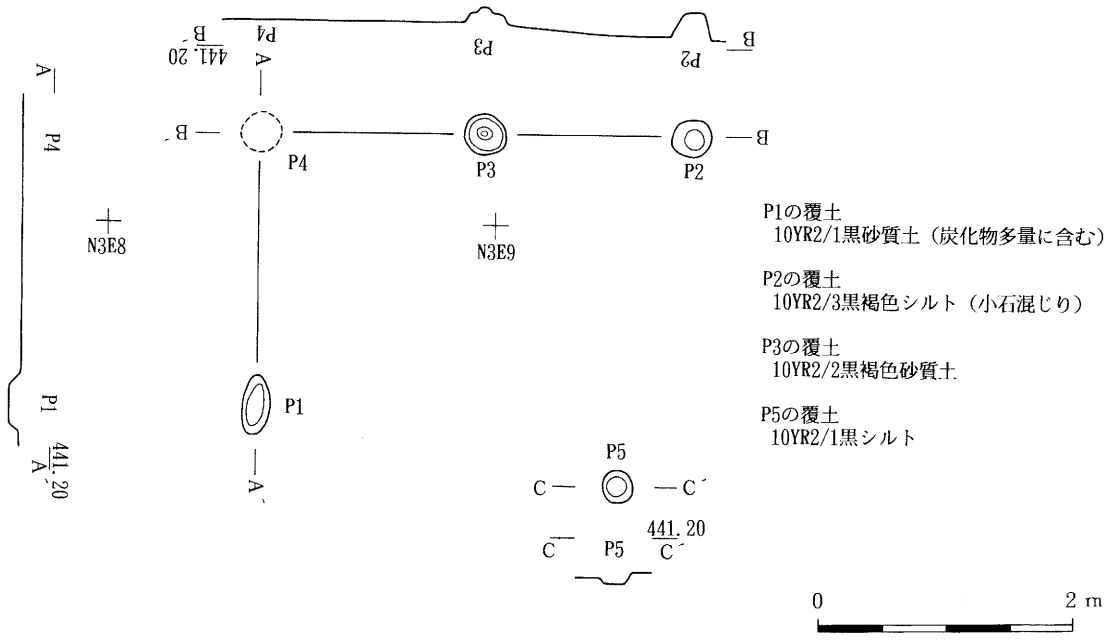
P11の覆土
10YR3/1 黒褐色シルト（砂礫を含む）

0　2 m

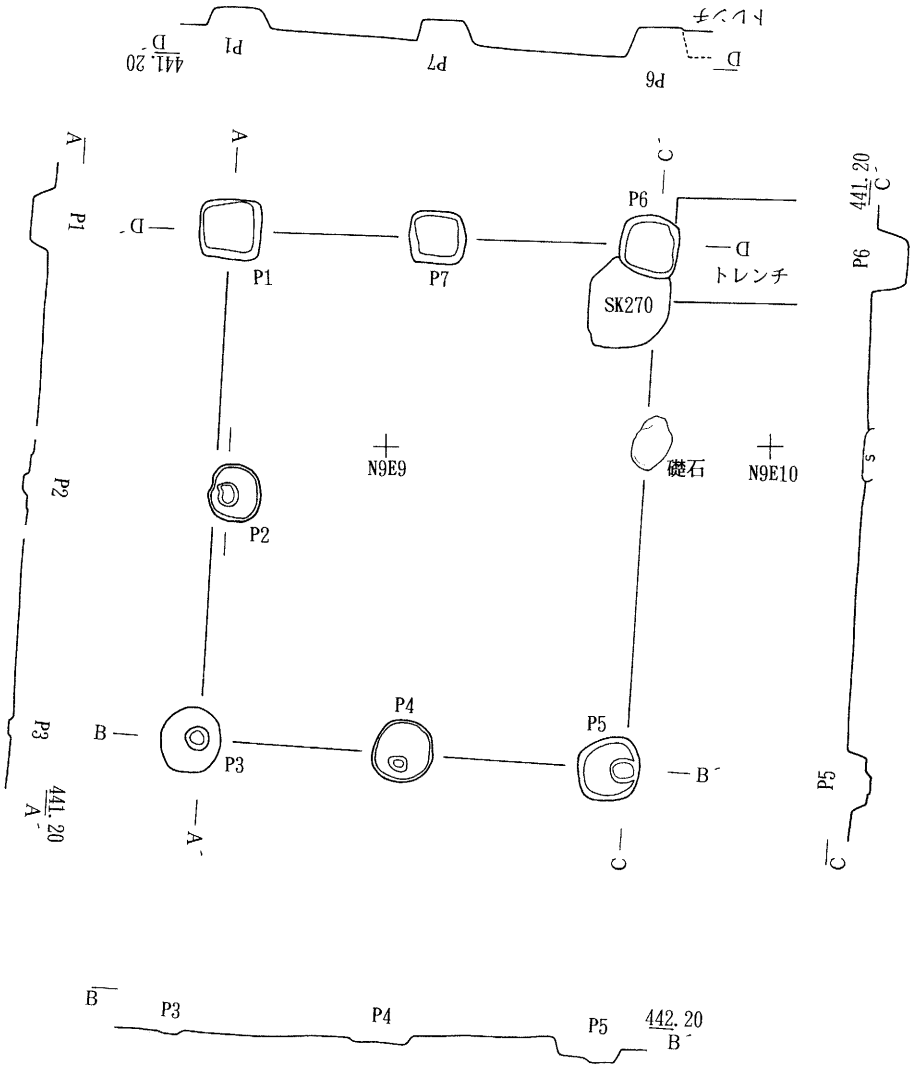
第 38 図　第 8 号掘立柱建物跡実測図



第 39 図　第９号掘立柱建物跡実測図



第 40 図　第１０号掘立柱建物跡実測図



P1の覆土
10YR3/2黒褐色粘質土

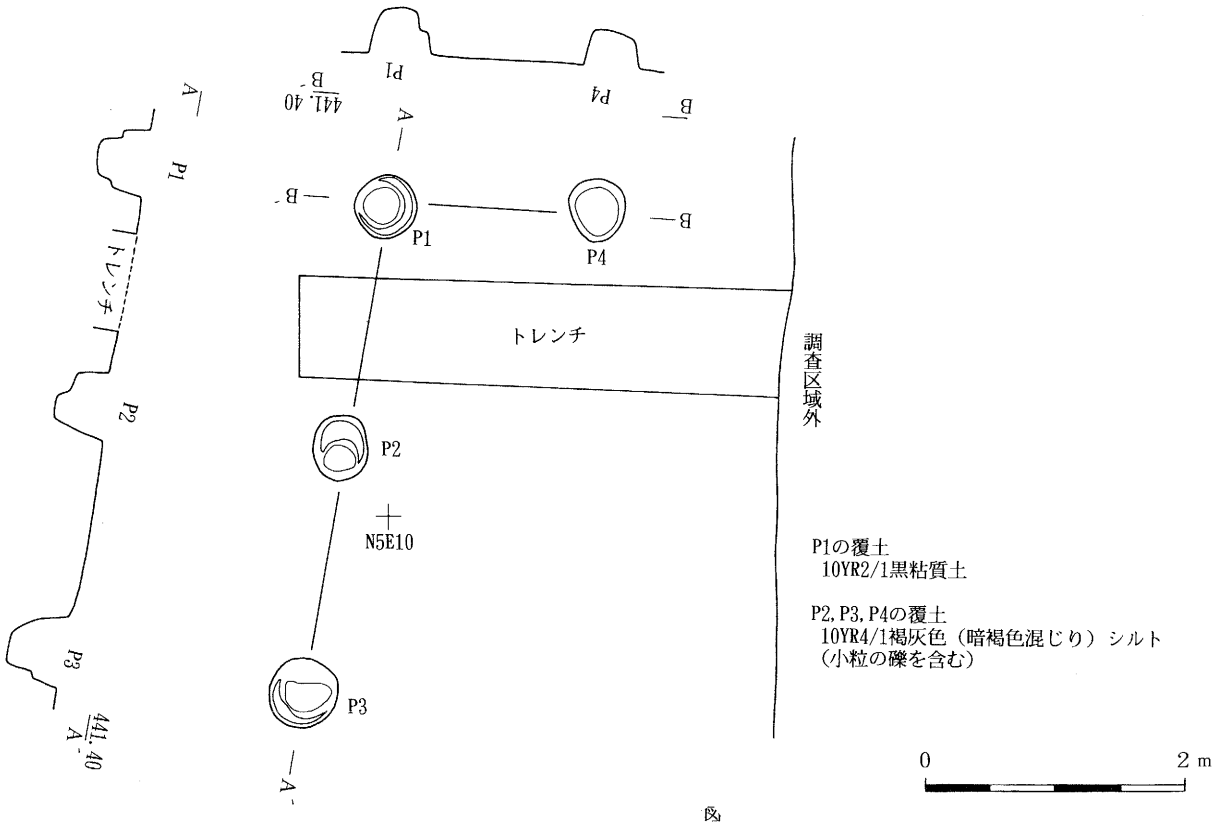
P2の覆土
10YR2/2黒褐色砂質土

P4, P5 の覆土
10YR3/3暗褐色砂質土（炭化物を含む）

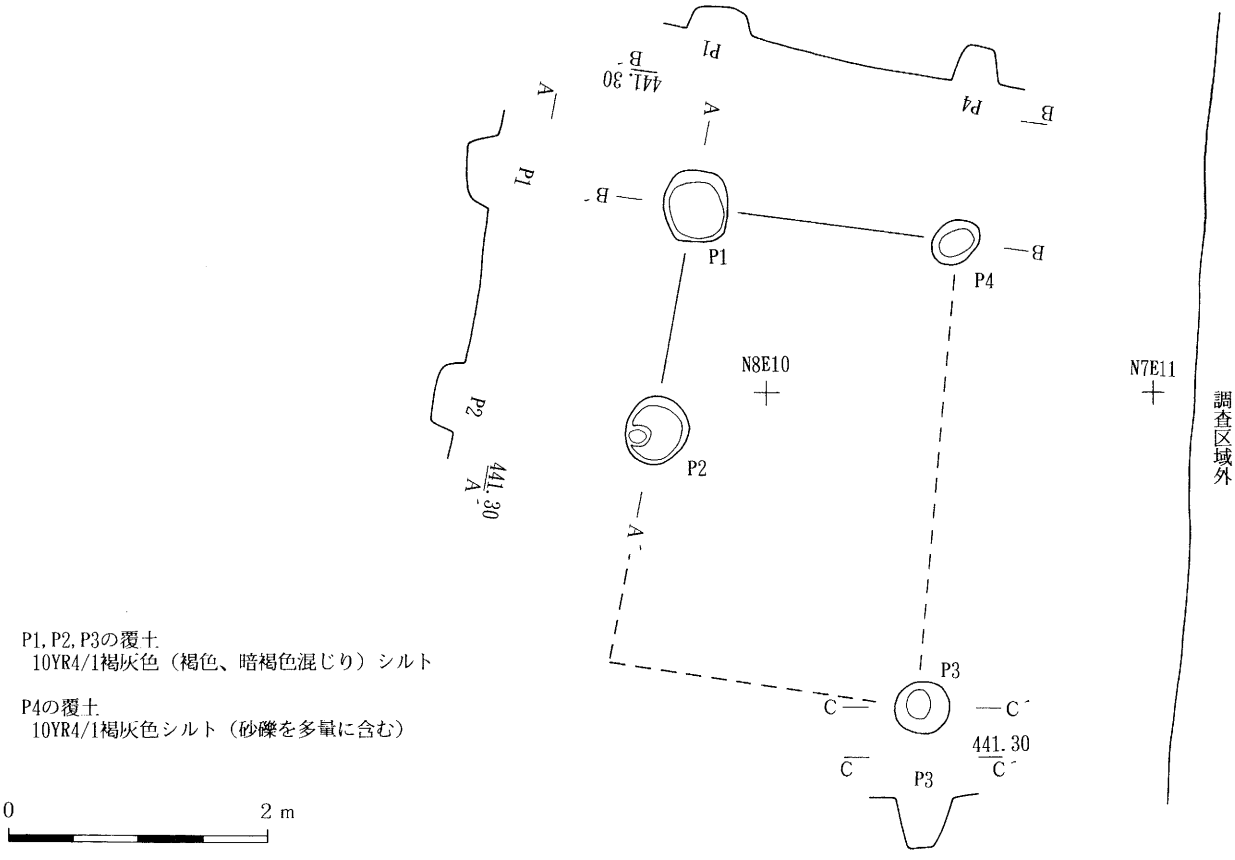
P6, P7 の覆土
10YR4/1褐灰色（褐色混じり）土

0　2m

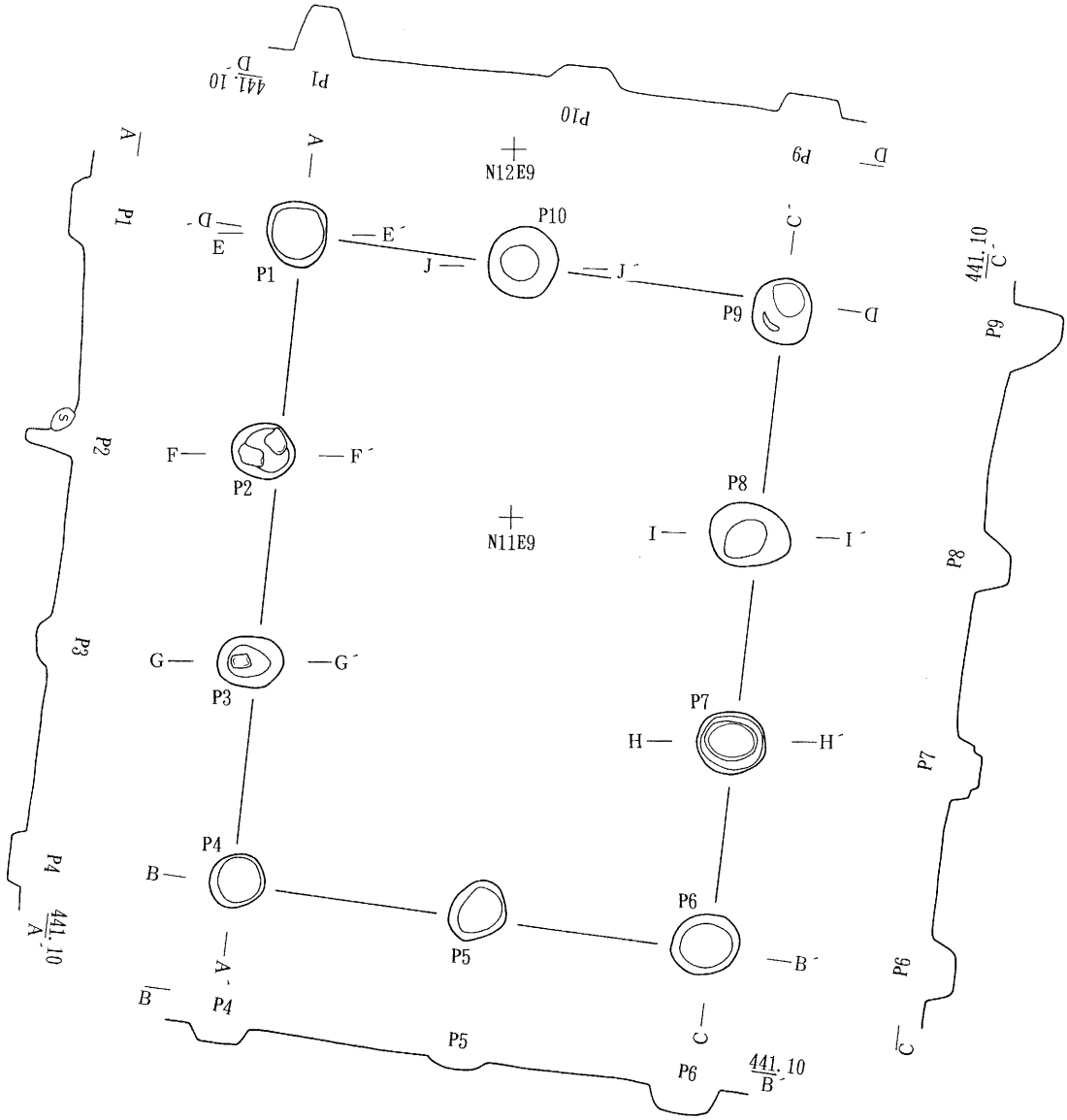
第 41 図　第 1 1 号掘立柱建物跡実測図

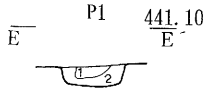


第 42 図　第１２号掘立柱建物跡実測図

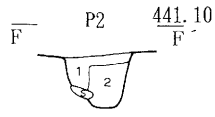


第 43 図　第１３号掘立柱建物跡実測図

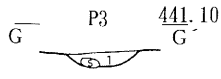




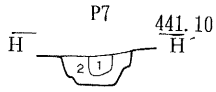
1 柱痕
2 10YR4/1 褐灰色土



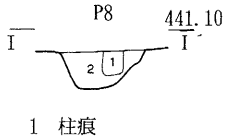
1 10YR4/1褐灰色土
2 10YR4/1褐灰色土と
にぶい黄褐色土の混合



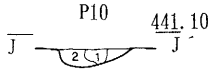
1 10YR4/1褐灰色土（にぶい
黄褐色土ブロック混じり）



1 柱痕
2 10YR4/1 褐灰色土（にぶい
黄褐色土ブロック混じり）



1 柱痕
2 10YR4/1 褐灰色土（にぶい
黄褐色土ブロック混じり）



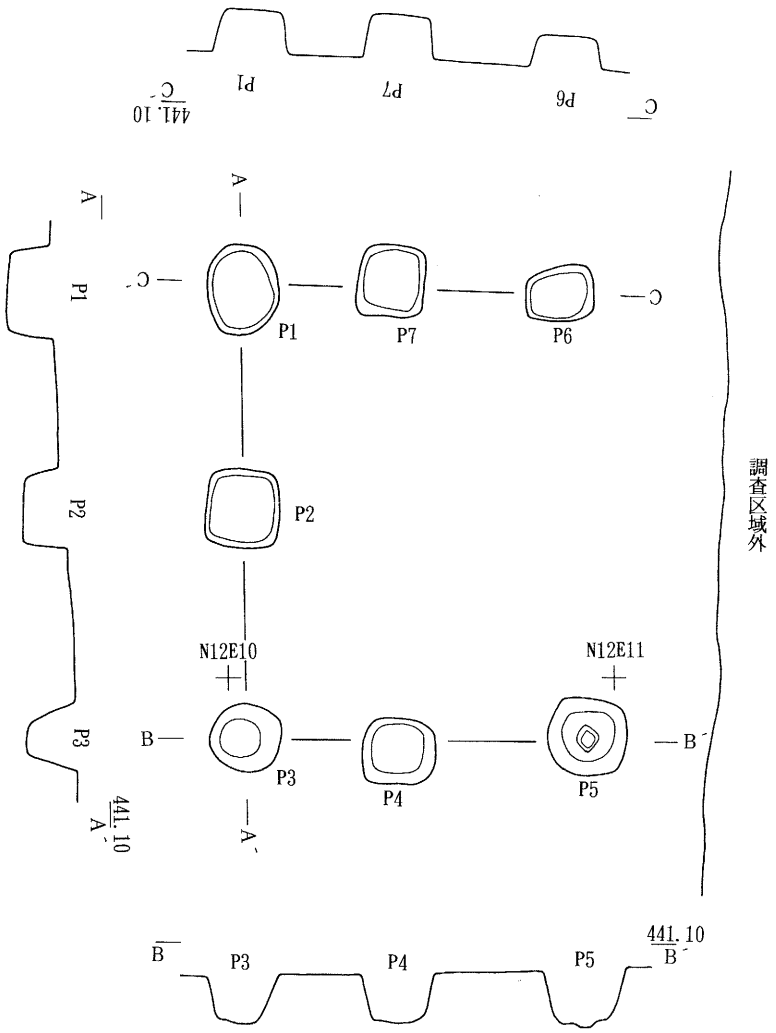
1 柱痕
2 10YR4/1褐灰色土（にぶい
黄褐色土ブロック混じり）

P4の覆土
10YR4/1褐灰色土（にぶい黄褐色土、炭化物を含む）

P5, P6 の覆土
10YR4/1褐灰色土（にぶい黄褐色土を含む）

P9の覆土
10YR4/1褐灰色土（褐色土、炭化物を含む）

第 44 図　第 1 4 号掘立柱建物跡実測図



P1, P2, P3, P4, P5, P6, P7の覆土
10YR4/1 褐灰色土（褐色土ブロックと小礫を含む）

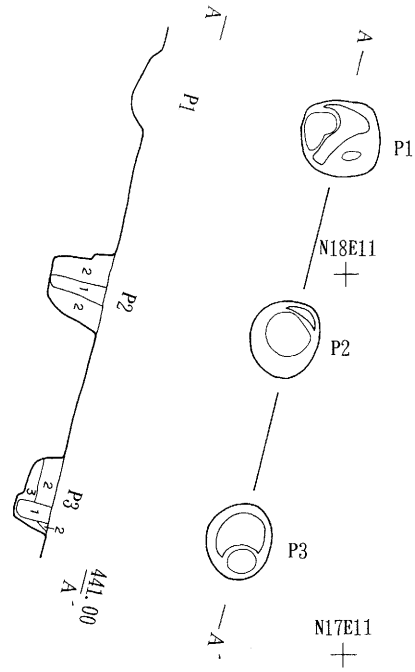
0　2 m

第 45 図　第 1 5 号掘立柱建物跡実測図

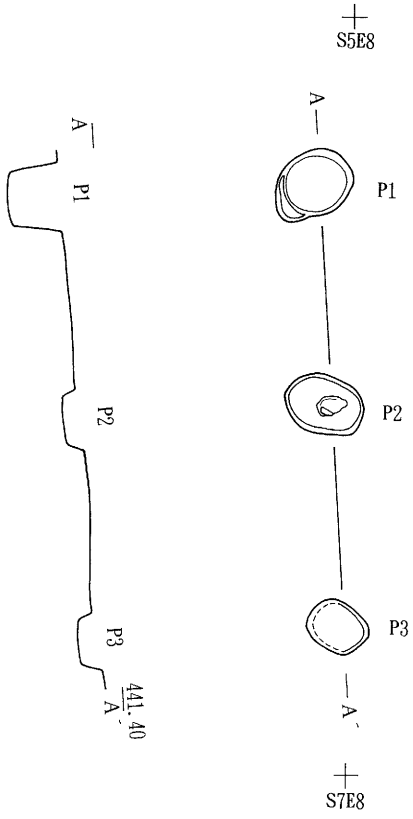
P1の覆土
10YR4/1褐灰色土と4/6 褐色シルト質土が
相互にブロック状に混じる

P2の覆土
1 柱痕
2 10YR4/1 褐灰色土（褐色シルト質土をブロックで含む）

P3の覆土
1 柱痕
2 10YR4/1 褐灰色土（褐色シルト質土をブロックで含む）
3 10YR4/1 褐灰色粘質土



第 46 図　第 1 号柱穴列実測図



P1の覆土
10YR3/2黒褐色（褐色混じり）シルト　締まっている

P2の覆土
10YR3/3暗褐色シルト

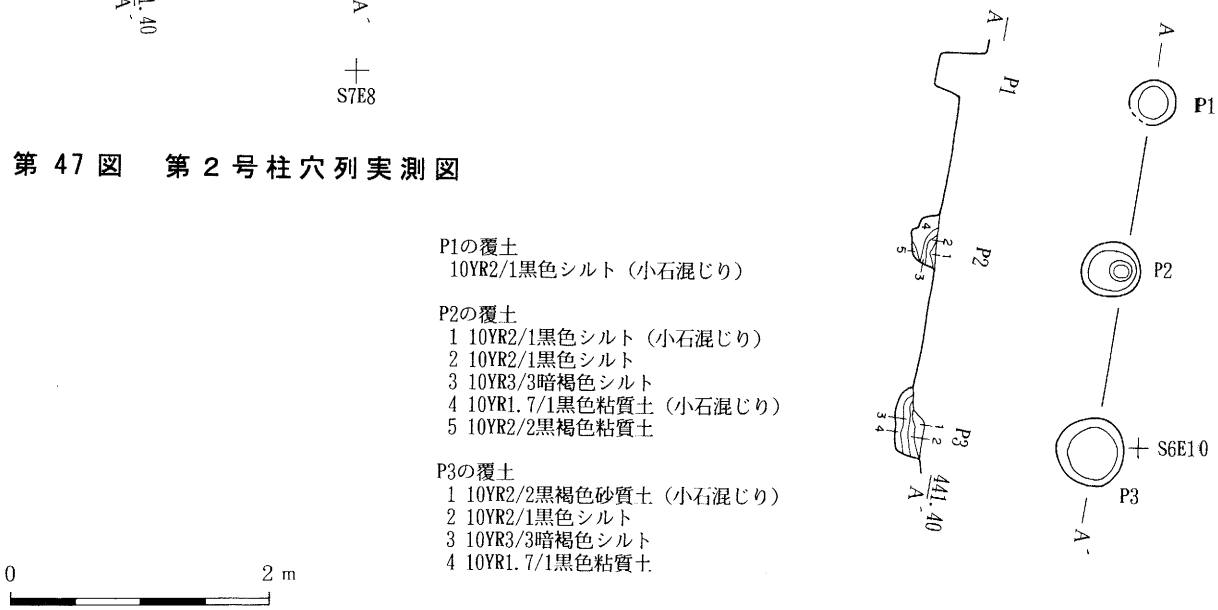
P3の覆土
10YR2/3黒褐色粘質土（褐色砂質土を含む）

第 47 図　第 2 号柱穴列実測図

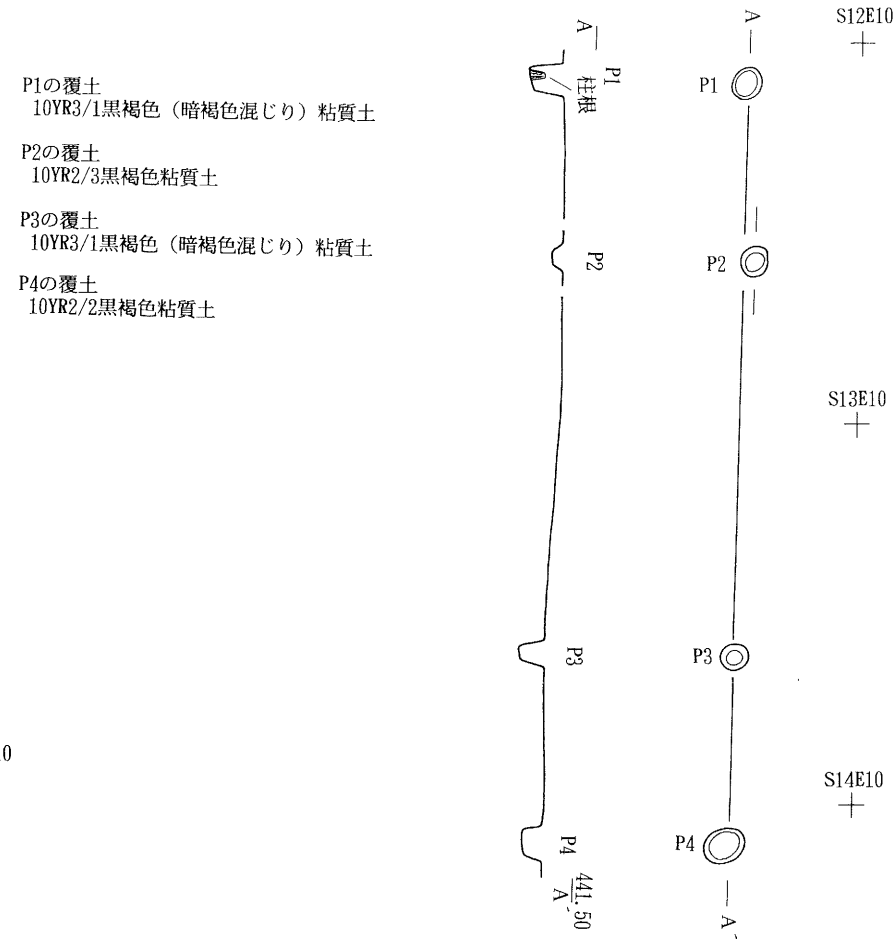
P1の覆土
10YR2/1黒色シルト（小石混じり）

P2の覆土
1 10YR2/1黒色シルト（小石混じり）
2 10YR2/1黒色シルト
3 10YR3/3暗褐色シルト
4 10YR1.7/1黒色粘質土（小石混じり）
5 10YR2/2黒褐色粘質土

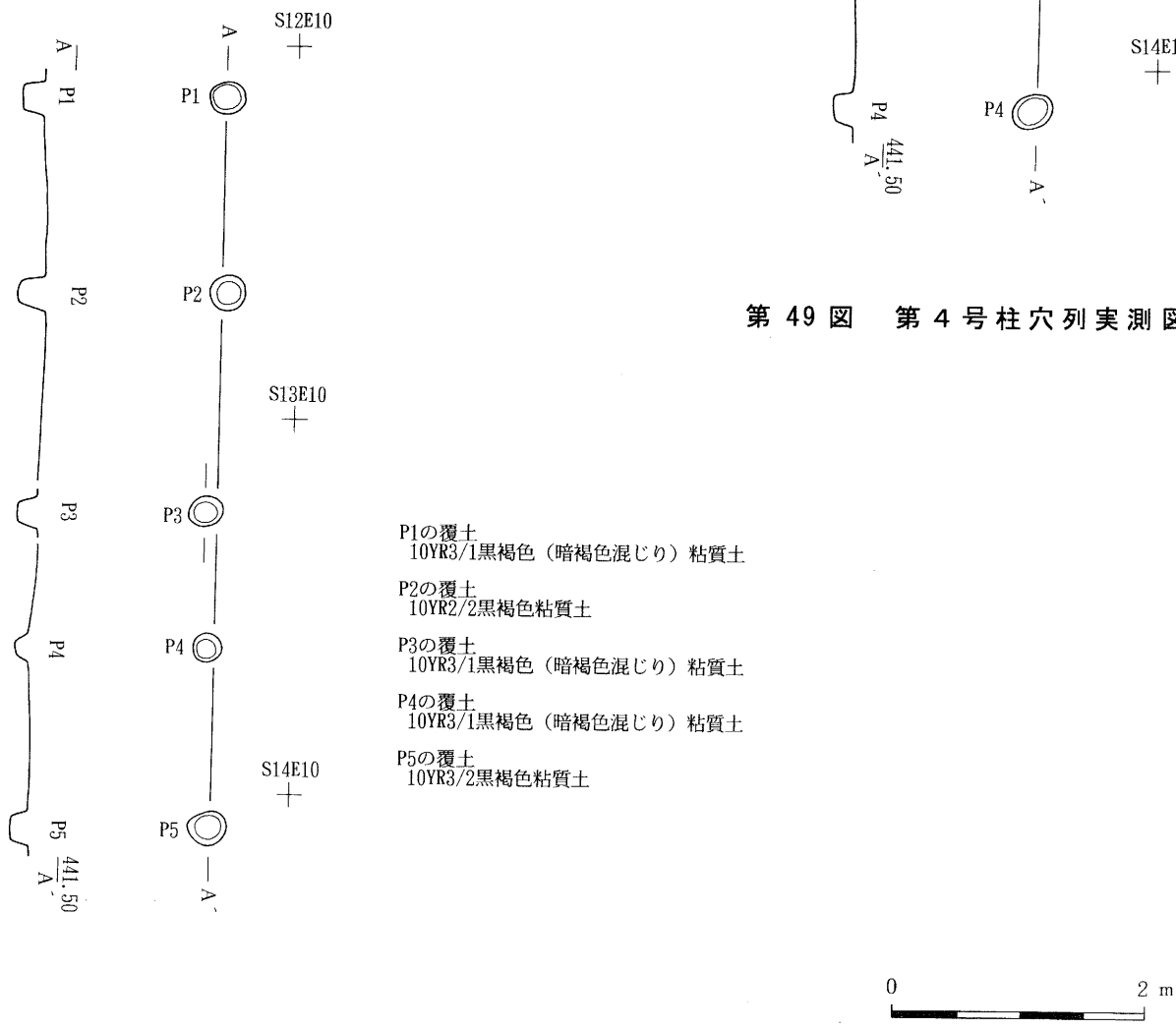
P3の覆土
1 10YR2/2黒褐色砂質土（小石混じり）
2 10YR2/1黒色シルト
3 10YR3/3暗褐色シルト
4 10YR1.7/1黒色粘質土



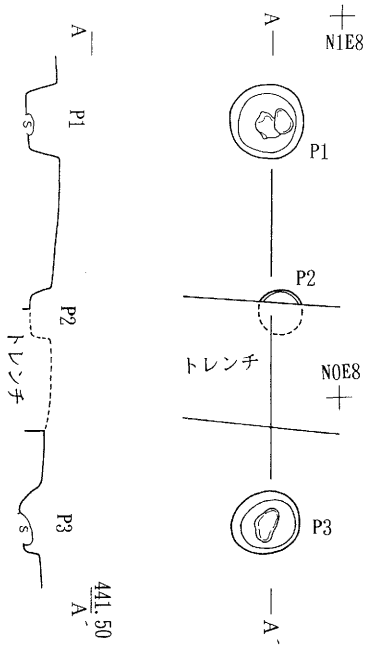
第 48 図　第 3 号柱穴列実測図



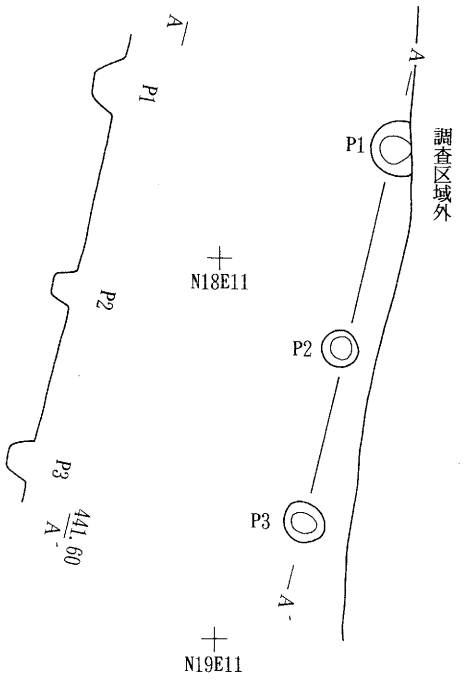
第 49 図　第 4 号柱穴列実測図



第 50 図　第 5 号柱穴列実測図

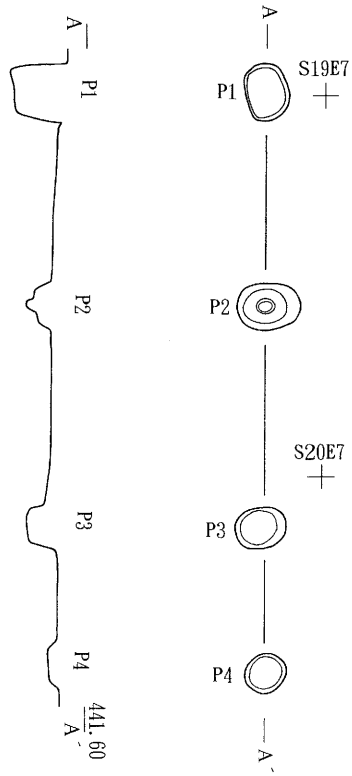


第 51 図　第 6 号柱穴列実測図



P1, P2, P3の覆土
10YR4/1褐灰色土と褐色シルト質土が相互にブロック状に混じる

第 52 図　第 7 号柱穴列実測図



第 53 図　第 8 号柱穴列実測図

P1の覆土
10YR2/1黒色シルト（礫石２個あり）

P3の覆土
10YR3/2黒褐色シルト

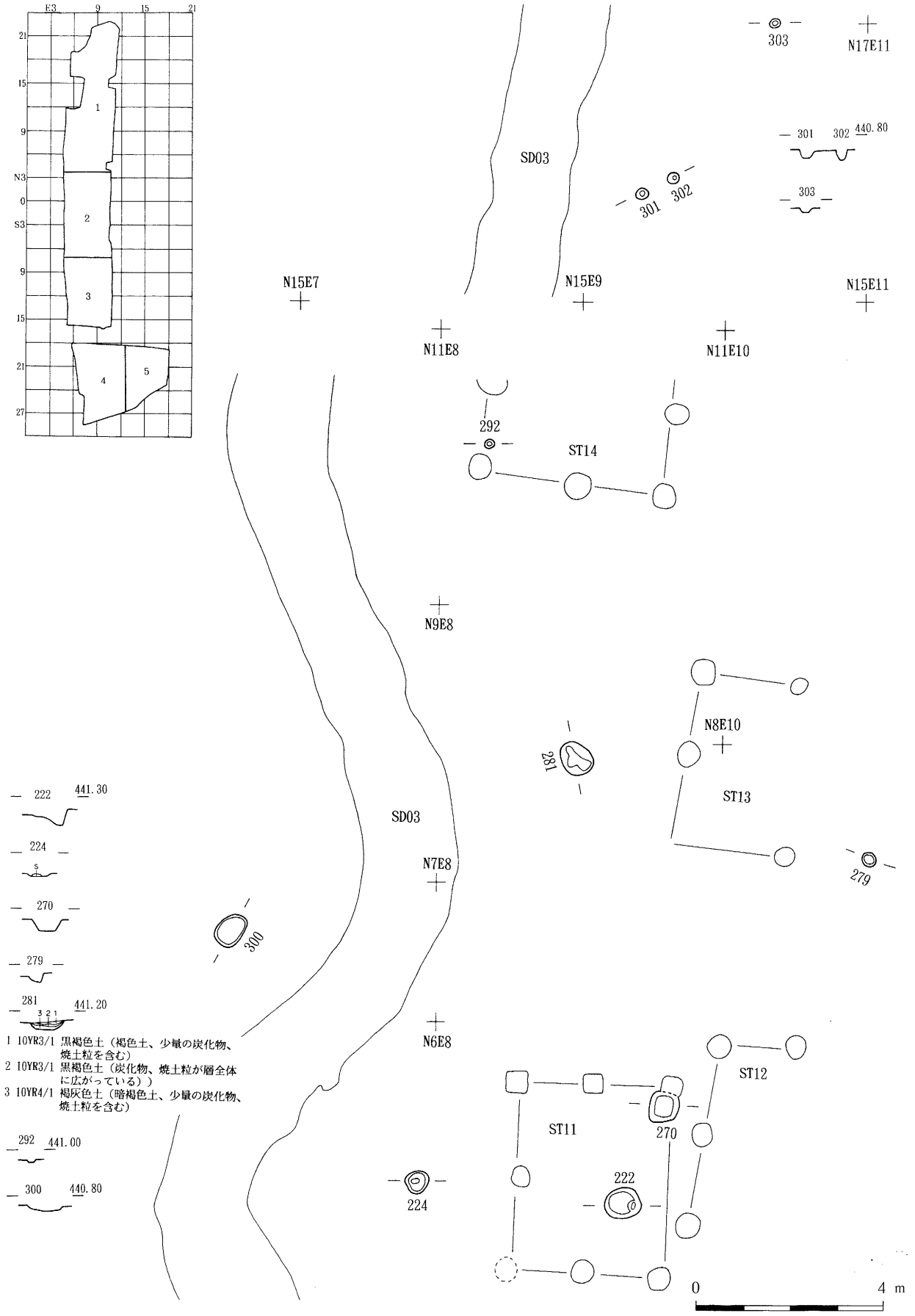
P1の覆土
10YR3/1黒褐色粘質土

P2の覆土
10YR2/3黒褐色（暗褐色まじり）粘質土

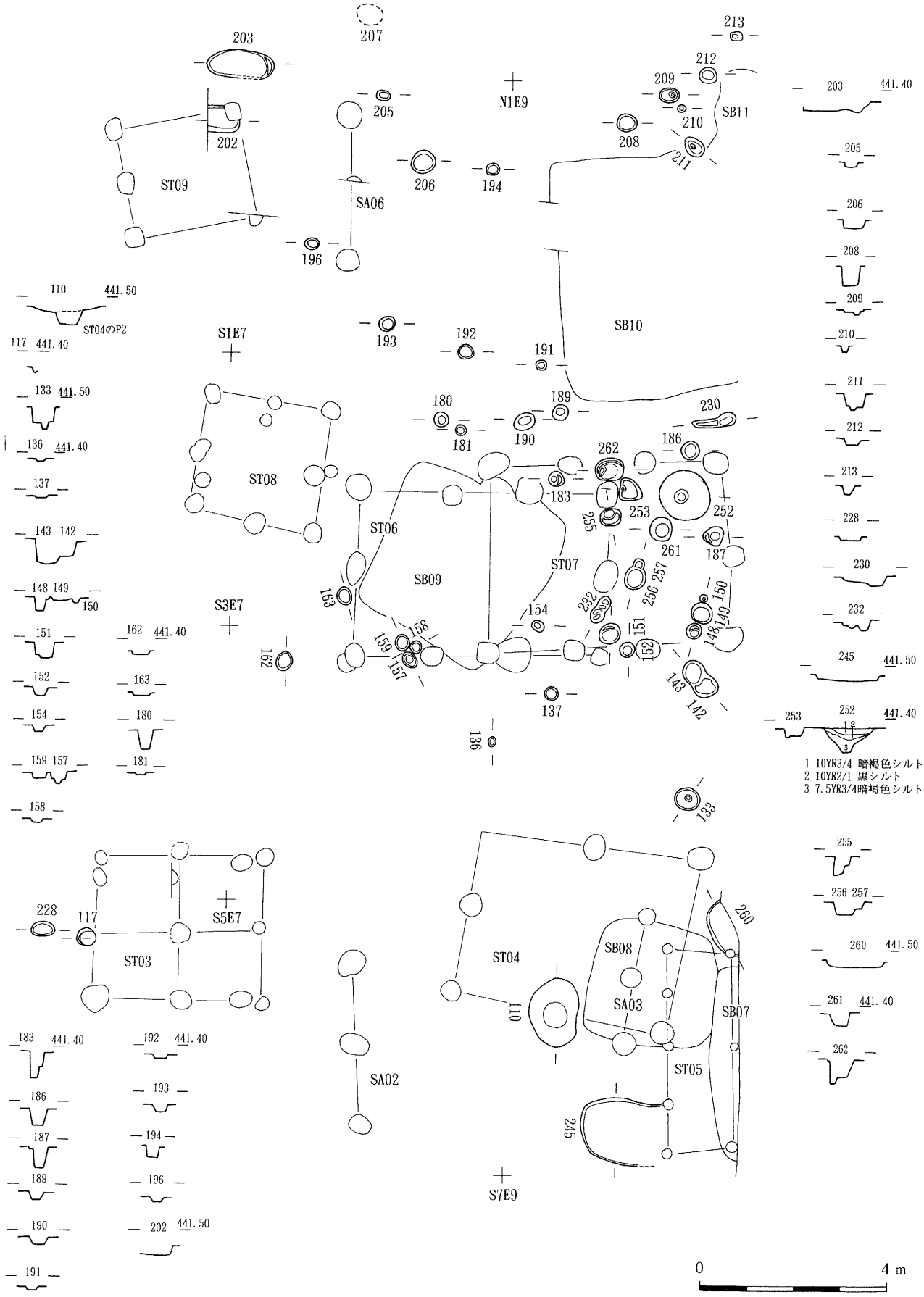
P3の覆土
10YR3/2黒褐色シルト

P4の覆土
10YR3/1黒褐色シルト

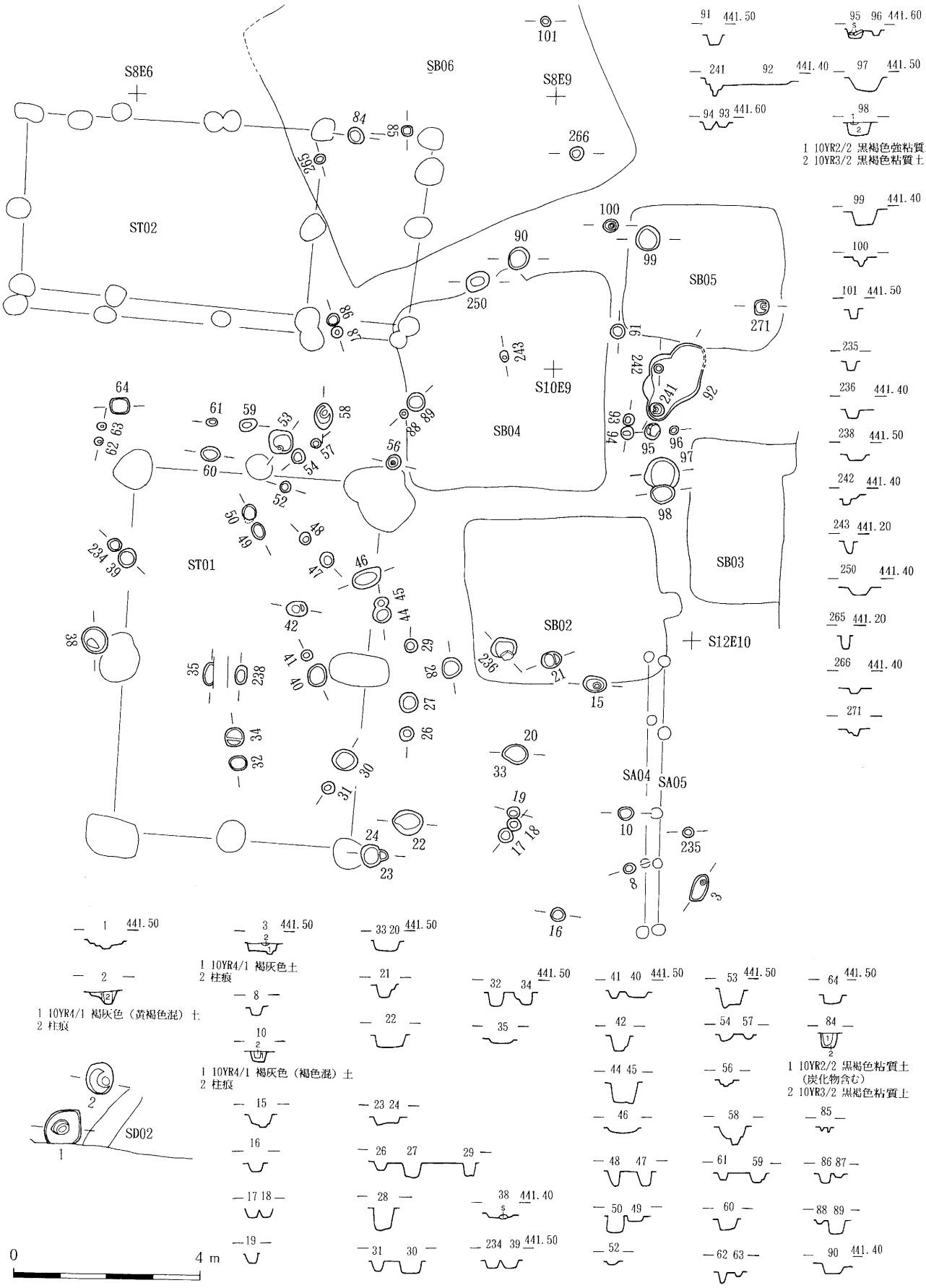
0　2 m


E3
9
15
21
N3
S3
1
2
3
4
5
303
N17E11
SD03
301
302
440.80
N15E7
N15E9
N15E11
N11E8
N11E10
292
ST14
N9E8
N8E10
281
ST13
279
SD03
N7E8
300
N6E8
ST12
ST11
270
222
224
441.30
441.20
441.00
440.80
1 10YR3/1 黒褐色土（褐色土、少量の炭化物、焼土粒を含む）
2 10YR3/1 黒褐色土（炭化物、焼土粒が層全体に広がっている））
3 10YR4/1 褐灰色土（暗褐色土、少量の炭化物、焼土粒を含む）
0
4 m

第 54 図　土坑実測図(1)


ST09
ST08
ST06
ST07
SB09
SB10
SB11
SA06
ST03
ST04
SB08
SA03
SB07
ST05
SA02
S1E7
S3E7
S5E7
S7E9
N1E9
1 10YR3/4 暗褐色シルト
2 10YR2/1 黒シルト
3 7.5YR3/4暗褐色シルト
0
4 m

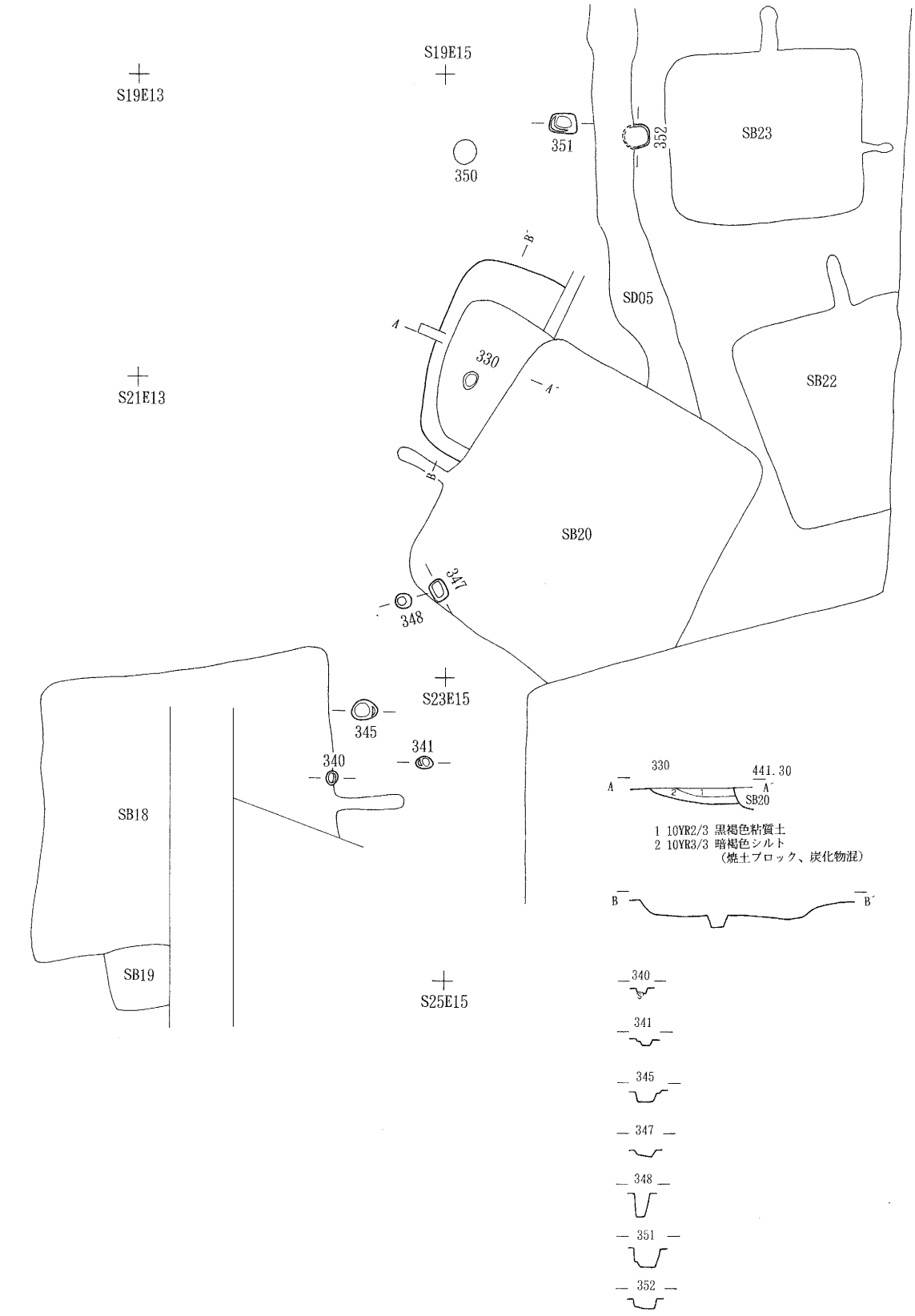
第 54 図　土坑実測図(2)


S8E6
S8E9
S10E9
S12E10
SB06
SB05
SB04
SB03
SB02
ST02
ST01
SA04
SA05
SD02
1 10YR2/2 黒褐色強粘質土
2 10YR3/2 黒褐色粘質土
1 10YR4/1 褐灰色（黄褐色混）土
2 柱痕
1 10YR4/1 褐灰色土
2 柱痕
1 10YR4/1 褐灰色（褐色混）土
2 柱痕
1 10YR2/2 黒褐色粘質土
（炭化物含む）
2 10YR3/2 黒褐色粘質土
0
4 m

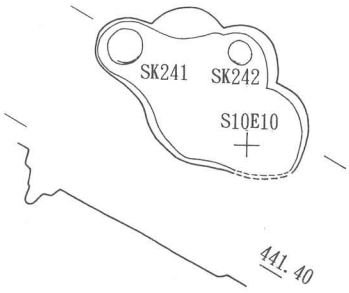
第 54 図　土坑実測図（3）

SB13
SA08
SB14
SB15
SB16
SB17
S19E9
S21E9
S23E9
S23E11
S25E9
S27E8
S27E11
312 441.60
313 441.60
316 314 441.40
315
317 318
320 319
321
322
323 441.50
324 441.30
325
326 441.50
327 328
329
334 441.20
336 337
338
0
4 m

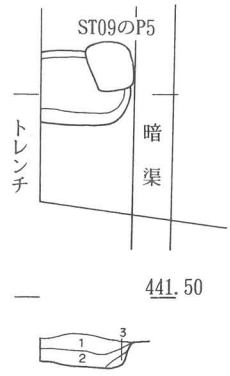
第 54 図　土坑実測図(4)


S19E15
S19E13
S21E13
S23E15
S25E15
351
352
350
SB23
SD05
SB22
330
SB20
347
348
345
341
340
SB18
SB19
A
A'
B
B'
441.30
1 10YR2/3 黒褐色粘質土
2 10YR3/3 暗褐色シルト
(焼土ブロック、炭化物混)
0
4 m

第 54 図　土坑実測図(5)

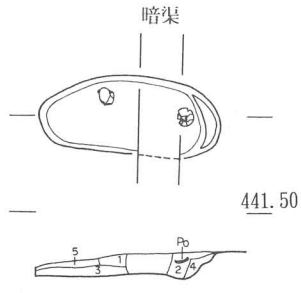


SK92



1 10YR2/1 黒強粘質土（炭化物、砂利混じり）
2 10YR2/2 黒褐色（褐色混じり）粘質土
3 10YR3/4 褐色粘質土

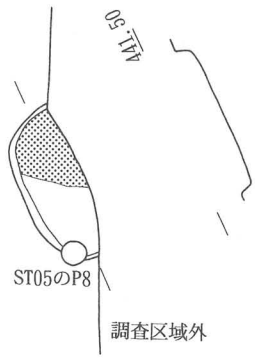
SK202



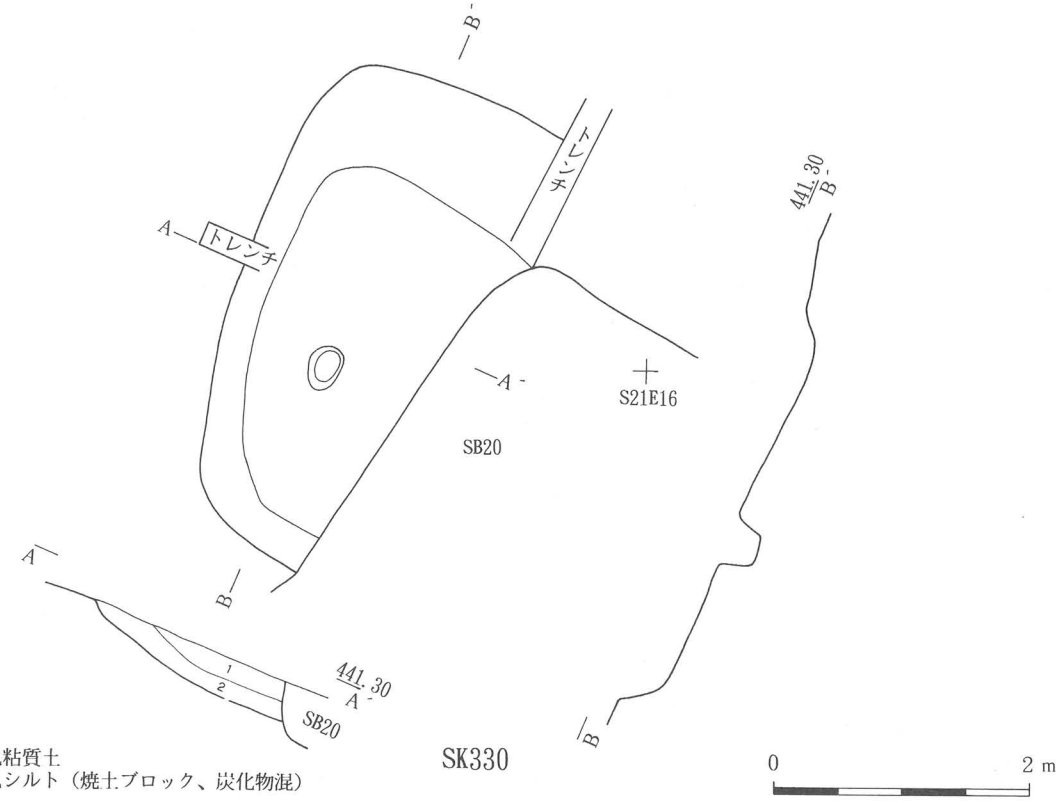
1 10YR3/2 黒褐色粘土
2 10YR2/1 黒粘質土
3 10YR4/4 褐色砂質土
4 10YR2/2 黒褐色シルト
5 10YR4/6 褐色シルト

SK203

SK207



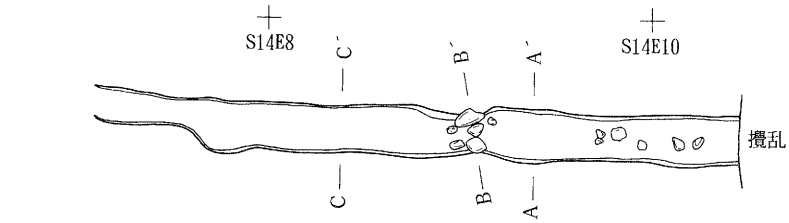
SK260

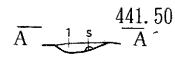


1 10YR2/3 黒褐色粘質土
2 10YR3/3 暗褐色シルト（焼土ブロック、炭化物混）

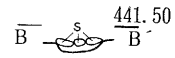
SK330

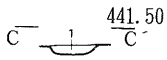
第 54 図　土坑実測図(6)



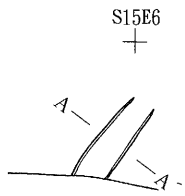


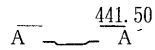
1 10YR4/1 褐灰色土（強い粘性があり炭化物を含む）





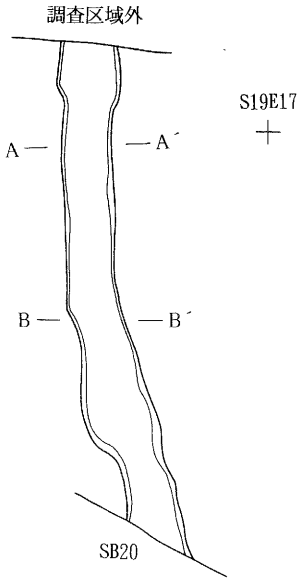
第 55 図　第 1 号溝跡実測図

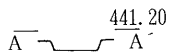




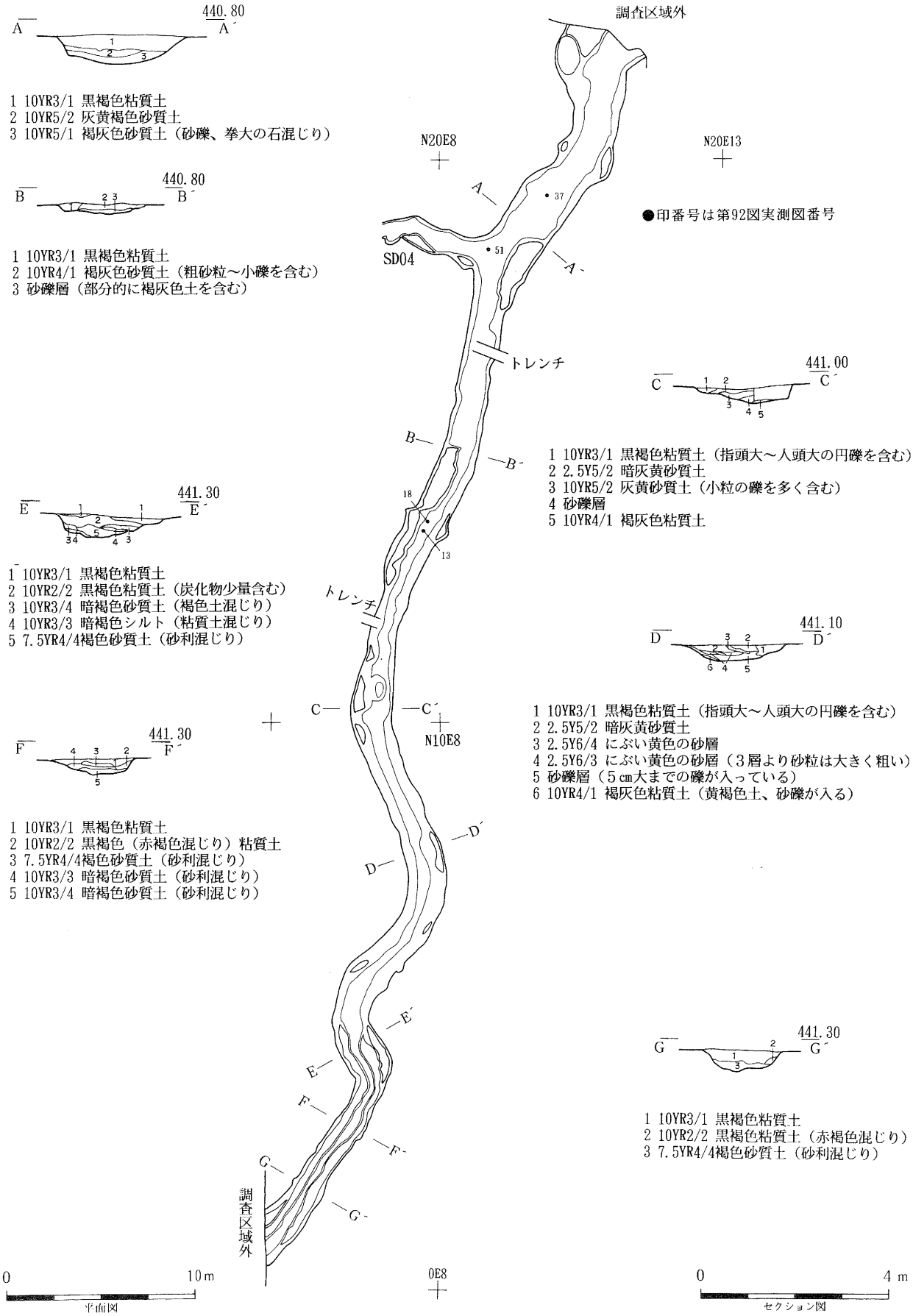
覆土 10YR3/2黒褐色粘質土

第 56 図　第 2 号溝跡実測図





第 57 図　第 5 号溝跡実測図



第 58 図　第 3 号溝跡実測図

第１号住居跡　　（規模の単位はｍ）

遺構実測図	第９図		遺物実測図	第59図	その他	柱穴	Ｐ１(0.42×0.42×0.38) Ｐ２(0.47×0.36×0.22)	
位置	グリッド	S15E9, S15E10				竈	位置	東壁　規模　0.75×0.70
	標高	441.08～441.18					覆土	1 10YR3/3 暗褐色（褐色混）粘質土 2 10YR3/3 暗褐色（焼土混じり）
規模	規模	3.90×？	床面積	不明			形態	石組み
	壁高	西壁0.26						
覆土	1 10YR3/3 暗褐色（4/6 褐色混）粘質土 2 10YR2/3 黒褐色粘質土（粘土混じり）				備考	南半分は未調査		
形態	平面形態	不明	主軸方位	N-95°-E				
	その他							

第２号住居跡

遺構実測図	第10図		遺物実測図	第60図	その他	柱穴	Ｐ１(0.44×0.38×0.10) Ｐ２(0.46×0.33×0.11)	
位置	グリッド	S11E9, S11E10, S12E9, S12E10				竈	位置	東壁中央　規模　0.68×0.92
	標高	441.05～441.13					覆土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土（焼土、炭化物混） 2 固い焼土 3 焼土 4 粘土と焼土の混じり
規模	規模	4.10×3.80	床面積	13.4㎡			形態	石組
	壁高	北壁0.24　西壁0.17						
覆土	1 10YR3/2 黒褐色粘質土				備考	SA04, SA05 に切られる。		
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-90°-E				
	その他							

第３号住居跡

遺構実測図	第11図		遺物実測図	第61図	その他	柱穴	Ｐ１(0.38×0.34×0.10) 扁平な円形の礎石が入っている	
位置	グリッド	S10E10, S10E11, S11E10, S11E11				竈	位置	北壁　規模　？×0.7
	標高	440.95～441.00					覆土	10YR3/2 黒褐色粘質土（炭化物、焼土混）
規模	規模	3.55×？	床面積	不明			形態	石組
	壁高	北壁0.20　南壁0.15						
覆土	1 10YR3/2 黒褐色粘質土				備考	東半分は攪乱のため失われている。		
形態	平面形態	隅丸方形か？	主軸方位	ほぼ座北				
	その他							

第４号住居跡

遺構実測図	第12図		遺物実測図	第62図	その他	柱穴	Ｐ１(0.46×0.41×0.20)　Ｐ２(0.40×0.36×0.18) Ｐ３(0.43×0.35×0.24) Ｐ４(0.44×0.36×0.13)裏込め石あり	
位置	グリッド	S9E8, S9E9, S10E8, S10E9				竈	位置	北壁　規模　0.85×0.70
	標高	440.95～441.08					覆土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土 2 10YR2/3 黒褐色粘質土（焼土、炭化物混） 3 10YR2/2 黒褐色粘質土（焼土、炭化物混）
規模	規模	4.40×4.30	床面積	16.7㎡			形態	石組み
	壁高	北壁0.28　東壁0.20						
覆土	10YR2/3 黒褐色粘質土				備考			
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-3°-W				
	その他							

第２表　竪穴住居跡観察表（1）

第５号住居跡

（規模の単位はｍ）

遺構実測図	第13図		遺物実測図	第63図			
位置	グリッド	S8E10, S8E11, S9E10, S9E11					
	標　高	441.18～441.24					
規模	規模	3.40×3.18	床面積	8.9 ㎡			
	壁高	北壁0.13　西壁0.05					
覆土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土						
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-89°-E			
	その他						

その他	柱穴	なし		
	竈	位置	東壁南寄り	規模	0.40×0.60(焼土範囲)
		覆土	10YR2/3 黒褐色粘質土	
		形態		
備考				

第６号住居跡

遺構実測図	第14図		遺物実測図	第64図			
位置	グリッド	S6E8, S6E9, S7E7, S7E8, S7E9, S7E10, S8E7, S8E8, S8E9, S8E10, S9E8, S9E9					
	標　高	440.95～441.10					
規模	規模	6.90×6.52	床面積	40.3（推定）			
	壁高	南壁0.30　北壁0.10					
覆土	1 10YR3/2 黒褐色粘質土 2 10YR2/3 黒褐色粘質土（炭化物、焼土混） 3 10YR2/1 黒粘質土（小石、焼土混）						
形態	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-23°-W			
	その他						

その他	柱穴	P1(0.74×0.50×0.42)　P2(？×0.34×0.20) P3(0.60×0.54×0.40)　P4(0.56×0.46×0.52) P5(0.70×0.56×0.45)　P6(0.90×0.63×0.45) P7(0.54×0.42×0.22)　P8(1.02×0.97×0.07) P9(0.45×0.45×0.05)　P10(1.04×0.90×0.37)		
	竈	位置	北壁	規模	1.30×0.90
		覆土	1 7.5YR2/2黒褐色シルト（炭化物、焼土混） 2 10YR3/2 黒褐色粘質土 3 焼土 4 10YR3/2 黒褐色シルト（小石を多く含む）		
		形態	石組		
備考				

第７号住居跡

遺構実測図	第15図		遺物実測図	第65図			
位置	グリッド	S5E11, S6E11					
	標　高	441.04～441.06					
規模	規模	4.20×？	床面積	不明			
	壁高	北壁0.24　南壁0.20					
覆土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土（小石混）						
形態	平面形態	不明	主軸方位	不明			
	その他						

その他	柱穴	不明		
	竈	位置		規模	
		覆土		
		形態		
備考	ST-05 に切られる。 東側は調査区域外			

第８号住居跡

遺構実測図	第16図		遺物実測図	第66図			
位置	グリッド	S5E10, S5E11, S6E10, S6E11					
	標　高	441.12～441.15					
規模	規模	2.80×2.66	床面積	6.1 ㎡			
	壁高	北壁0.16　西壁0.12					
覆土	1 10YR2/3 黒褐色シルト（小石、砂利混） しまっている						
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-83°-E			
	その他						

その他	柱穴	なし		
	竈	位置	東壁南寄り	規模	0.40×0.60(焼土範囲)
		覆土	10YR2/3 黒褐粘質土	
		形態		
備考	ST-04, ST05, ST06 に切られる。			

第３表　竪穴住居跡観察表（2）

第９号住居跡　　（規模の単位はｍ）

遺構実測図	第17図		遺物実測図	第67図			
位置	グリッド	S1E9, S2E8, S2E9, S2E10, S3E9, S3E10					
	標高	441.03～441.09					
規模	規模	3.65×3.58	床面積	11.2（推定）			
	壁高	西壁0.22　北壁0.15					
覆土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土（褐色土混じり）						
形態	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-28°-E			
	その他						

その他	柱穴	P1(0.30×0.28×0.20)　P2(0.46×?×0.18) P3(0.64×0.55×0.17)　P4(0.37×0.35×0.20) P5(0.32×0.26×0.25)			
	竈	位置	北壁	規模	0.85×0.65
		覆土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土(褐色土混じり) 2 10YR3/2 黒褐色粘質土（焼土ブロック混じり) 3 10YR2/3 黒褐色粘質土（焼土、炭化物混じり)		
		形態	石組		
備考	ST-06, ST-07 に切られる。				

第10号住居跡

遺構実測図	第18図		遺物実測図	第68図			
位置	グリッド	N1E10, N1E11, 0E10, 0E11,　S1E10, S1E11					
	標高	440.94～441.05					
規模	規模	5.25×？	床面積	不明			
	壁高	北壁0.26　西壁0.22					
覆土	1 10YR3/2 黒褐色粘質土						
形態	平面形態	隅丸方形？	主軸方位	N-4°-W			
	その他						

その他	柱穴	P1(0.20×0.18×0.39)　P2(0.36×0.30×0.52) P3(0.72×0.68×0.42)　P4(0.41 ×0.32×0.32) P5(0.63×0.43×0.38)　P6(0.72×0.68×0.30) P7(0.35×0.30×0.30)　P8(0.34×0.30×0.16) P9(0.44×0.38×0.48)　P10(0.52×0.43×0.17) P11(0.3 4×0.34×0.32)　P12(0.52×?×0.53)			
	竈	位置	北壁	規模	1.05×1.05
		覆土	10YR3/2 黒褐色粘質土		
		形態			
備考	SB11と切り合う。 東半分は調査区域外				

第11号住居跡

遺構実測図	第19図		遺物実測図	第69図			
位置	グリッド	N2E11, N1E11					
	標高	440.95～440.97					
規模	規模	不明	床面積	不明			
	壁高	北壁0.22					
覆土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土						
形態	平面形態	不明	主軸方位	不明			
	その他						

その他	柱穴	不明			
	竈	位置	不明	規模	
		覆土			
		形態			
備考	0.40×0.60(焼土範囲) SB-10 と切り合う。 東半分は調査区域外				

第12号住居跡

遺構実測図	第20図		遺物実測図	第70図			
位置	グリッド	N14E10, N14E11, N13E9, N13E10					
	標高	440.54～440.58					
規模	規模	3.62×3.38	床面積	11.6			
	壁高	東壁0.11　北壁0.05					
覆土	1 10YR3/1 黒褐色シルト						
形態	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-18°-E			
	その他						

その他	柱穴	P1(0.43×0.33×0.20)			
	竈	位置	床面東寄り	規模	0.47×0.37(焼土範囲)
		覆土			
		形態			
備考	ST-15 に切られる。				

第４表　竪穴住居跡観察表（3）

第13号住居跡　　（規模の単位はm）

遺構実測図	第21図	遺物実測図	第71図	その他	柱穴	不明	
位置	グリッド	S19E7, S20E7			竈	位置		規模	
	標　高	441.32～441.39				覆土			
規模	規模	3.48×？	床面積	不明		形態			
	壁高	東壁0.08　北壁0.05			備考	西半分は調査区域外			
覆土	1 10YR3/2 黒褐色シルト								
形態	平面形態	隅丸方形？	主軸方位	不明					
	その他								

第14号住居跡

遺構実測図	第22図	遺物実測図	第72図	その他	柱穴	P1(0.38×0.35)			
位置	グリッド	S21E7, S22E7, S22E8			竈	位置	北壁	規模	0.92×0.65
	標　高	441.12～441.19				覆土			
規模	規模	4.0 ×？	床面積	不明		形態			
	壁高	南壁0.25　東壁0.15			備考	西半分は調査区域外			
覆土	1 10YR2/3 黒褐色シルト								
形態	平面形態	不明	主軸方位	N-2°-W					
	その他								

第15号住居跡

遺構実測図	第23図	遺物実測図	第73図	その他	柱穴	P1(0.43×0.39×0.34)　P2(0.44×0.42×0.43) P3(0.46×0.46×0.33)　P4(0.40×0.38×0.36) P5(1.30×0.90×0.40)			
位置	グリッド	S25E9, S25E10, S26E9, S26E10, S26E11, S27E9, S27E10			竈	位置	北壁中央	規模	1.35×1.05
	標　高	440.98～441.10				覆土	10YR3/1 黒褐色（褐色混）砂質土		
規模	規模	4.96×4.50　床面積　20.6				形態			
	壁高	東壁0.18　北壁0.08			備考				
覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土（砂礫を多く含む） 2 10YR3/1 黒褐色（褐色土を含む）砂質土								
形態	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-12°-W					
	その他								

第16号住居跡

遺構実測図	第24図	遺物実測図	第74図	その他	柱穴	P1(0.80×0.70×0.46)　P2(0.70×0.62×0.33) P3(0.62×0.50×0.30)　P4(0.53×0.52×0.36) P5(0.60×0.45×0.18)　P6(0.18×0.18×0.10)			
位置	グリッド	S23E10, S23E11, S24E10, S24E11, S25E10 S25E11			竈	位置	東壁	規模	0.80×0.54
	標　高	441.04～441.12				覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土 2 10YR3/1 黒褐色粘質土（炭化物、焼土混）		
規模	規模	4.78×4.48	床面積	19.6		形態			
	壁高	西壁0.12　北壁0.06			備考				
覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土								
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-81°-E					
	その他								

第５表　竪穴住居跡観察表（4）

第17号住居跡　　（規模の単位はｍ）

遺構実測図	第25図	遺物実測図	第75図		
位置	グリッド	S24E12, S24E13, S25E12, S25E13, S26E12 S26E13			
	標　高	440.93～441.06			
規模	規模	380 ×？	床面積	不明	
	壁高	西壁0.25　北壁0.16			
覆土	1 10YR3/1 黒褐色土（砂礫を多く含み、堅く締まっている） 2 10YR3/1 黒褐色土（焼土、炭化物を含む）				
形態	平面形態	不明	主軸方位	N-43°-W	
	その他				

その他	柱穴	不明		
	竈	位置	東壁	規模 0.90×？
		覆土		
		形態		
備考	北壁の焼土の範囲（0.40×0.30）			

第18号住居跡

遺構実測図	第26図	遺物実測図	第76図		
位置	グリッド	S22E14, S22E15, S23E13, S23E14, S23E15 S24E13, S24E14, S24E15			
	標　高	440.90～441.00			
規模	規模	5.65×5.35	床面積	不明	
	壁高	南壁0.34　西壁0.09			
覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土（指頭大の礫を含む） 2 10YR3/1 黒褐色砂質土ににぶい黄褐色土をブロック状に含む（床面の貼り土） 3 10YR2/3 黒褐色シルト（暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸ混じり） 4 10YR2/3 黒褐色シルト				
形態	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-86°-E	
	その他				

その他	柱穴	P1(0.58×0.56×0.48)　P2(0.52×0.50×0.22) P3(0.64×0.56×0.32)　P4(0.59 ×0.54×0.35) P5(0.50×0.30×0.09)　P6(0.42×0.40×0.22) P7(0.56×0.38×0.08)			
	竈	位置	東壁	規模	0.90×0.70　煙道の長さ1.30
		覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土（指頭大の礫を含む） 2 10YR3/3 暗褐色シルト（竈構築土） 3 10YR3/4 暗褐色シルト（床に貼った土）		
		形態			
備考	床面は貼り床である				

第19号住居跡

遺構実測図	第27図	遺物実測図	第77図		
位置	グリッド	S24E13, S24E14, S25E13, S25E14			
	標　高	440.82～440.84			
規模	規模	不明	床面積	不明	
	壁高	西壁0.36　北壁0.34			
覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土				
形態	平面形態	不明	主軸方位	不明	
	その他				

その他	柱穴	不明			
	竈	位置		規模	
		覆土			
		形態			
備考	SB-18 に切られる				

第６表　竪穴住居跡観察表（5）

第20号住居跡　　（規模の単位はm）

遺構実測図	第28図	遺物実測図	第78図		
位置	グリッド	S20E16, S20E17, S21E15, S21E16, S21E17 S22E15, S22E16S22E17			
	標　高	440.76～440.90			
規模	規模	5.90×5.30	床面積	推定29.0㎡	
	壁高	北壁0.40　南壁0.21			
覆土	1 10YR3/1 黒褐色（褐色混じり）シルト 2 10YR3/1 黒褐色（褐色混じり）シルト（小礫を含む） 3 10YR3/1 黒褐色シルト（小礫を含む） 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 5 10YR3/1 黒褐色シルト				
形態	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-39°-W	
	その他				

その他	柱穴	PI(0.65×0.64×0.60)　P2(0.55×0.48×0.32) P3(0.38×0.33×0.52)　P4(0.50×0.45×0.43) P5(0.70×0.60×0.21)　P6(0.23×0.23×0.12)			
	竈	位置	西壁	規模	0.50×0.75　煙道の長さ1.12
		覆土	1 10YR5/1 褐色強粘質土（焼土と炭化物を多く含む）竈の灰と考えられる 2 10YR3/1 黒褐色土（焼土がまばらに含まれる） 3 焼土の塊 4 10YR3/2 黒褐色シルト（全体に灰が混じっている） 5 5YR2/4極暗赤褐色土 6 7.5YR3/4暗褐シルト（焼土を含む）		
		形態			
備考	床半分に貼り床がみとめられる。				

第22号住居跡

遺構実測図	第29図	遺物実測図	第79図		
位置	グリッド	S20E17, S20E18, S21E17, S21E18			
	標　高	440.71～440.79			
規模	規模	4.14×？	床面積	不明	
	壁高	西壁0.39　南壁0.34			
覆土	1 10YR2/3 黒褐色シルト				
形態	平面形態	隅丸方形か？	主軸方位	N-16°-W	
	その他				

その他	柱穴	なし			
	竈	位置	北壁	規模	0.70×0.70　煙道の長さ1.05
		覆土	1 10YR2/3 黒褐色シルト 2 10YR3/2 黒褐色シルト 3 10YR3/1 黒褐色シルト（焼土混じり） 4 10YR3/1 黒褐色（褐灰色混じり）粘質土 5 10YR2/3 黒褐色（暗褐色混じり）粘質土		
		形態			
備考	床は貼り床である。 東側は調査区域外				

第23号住居跡

遺構実測図	第30図	遺物実測図	第80図		
位置	グリッド	S18E17, S18E18, S19E17, S19E18,			
	標　高	440.64～440.70			
規模	規模	3.80×3.40	床面積	11.1	
	壁高	南壁0.46　北壁0.34			
覆土	1 10YR2/3 黒褐色（暗褐色混じり）粘質土 2 10YR2/3 黒褐色粘質土				
形態	平面形態	隅丸長方形	主軸方位	N-87°-E	
	その他				

その他	柱穴	なし			
	竈	位置 規模	東壁（0.70×0.80）　煙道の規模(0.64×0.20) 北壁(0.70 ×0.80)　煙道の規模(0.85×0.30)		
		覆土	1 10YR3/3 暗褐色シルト 2 10YR3/1 黒褐色粘質土 3 10YR3/3 暗褐色シルトが焼け込んでいる土 4 10YR4/2 灰黄褐色粘質土		
		形態			
備考					

第７表　竪穴住居跡観察表(6)

第１号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第31図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	S10E6, S10E7, S10E8, S11E6, S11E7, S11E8, S12E6, S12E7, S12E8, S13E6, S13E7, S3E8			
規模	桁行２間×梁行２間（8.20×5.30）	柱間寸法	桁行4.10　梁行2.65	主軸方向	N-3°-E

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.90	0.80	0.48	楕円形	土師甕等(81図1)		2	1.10	0.80	0.74	楕円形	土師甕等	
3	1.15	0.84	0.63	隅丸方形	土師甕	柱痕あり	4	0.73	0.60	0.46	楕円形		
5	0.76	0.66	0.68	楕円形		柱材あり	6	1.34	0.72	0.77	隅丸方形	土師甕、内黒坏等(81図2)	柱痕あり
7	1.50	1.40	0.86	不定形	土師甕、内黒坏弥生甕（81図3）		8	0.60	0.53	0.63	楕円形	土師甕、内黒坏弥生甕	柱痕あり

備考	

第２号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第32図）

位置	グリッド	S8E6, S8E7, S8E8, S8E9, S9E5, S9E6, S9E7, S9E8, S9E9			
規模	桁行４間×梁行２間（8.60×4.50）	柱間寸法	桁行2.15　梁行2.25	主軸方位	N-87°-W

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.54	0.44	0.46	楕円形		柱材残る	2	0.48	0.40	0.40	楕円形		
3	0.40	0.38	0.42	円形			4	0.53	—	0.20	円形		
5	0.40	0.38	0.38	円形			6	0.64	0.48	0.36	楕円形	土師甕、土師坏等	柱痕あり
7	0.60	0.58	0.34	円形		柱痕あり	8	0.60	0.53	0.36	楕円形	土師甕等	柱痕あり
9	0.48	0.48	0.28	円形			10	0.63	0.48	0.38	楕円形	土師甕、坏弥生等	裏込石、柱痕あり
11	0.42	—	0.21	円形		柱材残る	12	0.44	0.42	0.17	円形		
13	0.42	0.39	0.38	円形			14	0.56	0.42	0.14	楕円形		
15	0.40	—	0.39	円形			16	0.33	—	0.41	円形		
17	0.52	0.48	0.50	円形		柱材残る	18	0.57	0.46	0.49	楕円形		
19	0.48	0.44	0.50	円形	須恵坏(82図1)		20	0.53	0.53	0.27	円形		裏込石あり
21	0.45	0.42	0.37	円形	土師、須恵坏等(82図2)	柱痕あり							

備考	SB04, SB06 を切る

第３号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第33図）

位置	グリッド	S4E7, S4E8, S5E7, S5E8			
規模	桁行２間×梁行２間（3.60×3.20）	柱間寸法	桁行1.80　梁行1.60	主軸方位	N-90°-E

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.31	0.26	0.20	楕円形			2	0.41	0.27	0.18	楕円形		
3	0.34	0.32	0.12	円形			4	0.60	0.60	0.28	円形		
5	0.48	0.44	0.20	楕円形		裏込石あり	6	0.50	0.38	0.20	楕円形		
7	0.30	0.26	0.18	円形		裏込石あり	8	0.28	0.28	0.22	円形		
9	0.40	0.38	0.24	円形		裏込石あり	10	0.44	0.38	0.19	楕円形	土師甕等、須恵(83図1)	
11	0.37	0.36	0.34	円形	土師、弥生甕(83図2)		12	0.35	—	0.30	円形？		
13	0.45	0.43	0.31	楕円形									

備考	

第８表　掘立柱建物跡観察表（1）

第４号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第34図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	S4E9, S4E10, S4E11, S5E9, S5E10, S5E11					
規模	桁行？×梁行２間（？×3.70）		柱間寸法	桁行2.30　梁行1.85	主軸方位	N-82°-W	

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.54	0.44	0.46	楕円形	土師甕等	柱材残る	2	0.48	0.40	0.40	楕円形	土師甕、内黒坏、古墳初期甕、弥生高坏、須恵器（84図1）	
3	0.40	0.38	0.42	円形			4	0.53	—	0.20	円形	土師坏等	
5	0.40	0.38	0.38	円形	土師坏等		6	0.64	0.48	0.36	楕円形	土師甕等、内黒坏（84図2）	柱痕あり

備考	SB08と切りあう。東側は調査区域外

第５号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第35図）

位置	グリッド	S5E11, S6E11	規模	桁行４間×梁行?(4.20×？)	柱間寸法	桁行1.05　梁行1.40	主軸方位	N-1°-E

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.23	0.22	0.30	円形			2	0.22	0.20	0.30	円形		
3	0.24	0.23	0.26	円形	土師甕等		4	0.23	0.22	0.30	円形		
5	0.23	0.22	0.32	円形	土師甕、内黒等		6	0.25	0.23	0.28	円形	土師甕等	
7	0.20	0.19	0.33	円形			8	0.22	0.20	0.27	円形		

備考	東側は調査区域外

第６号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第36図）

位置	グリッド	S1E8, S1E9, S1E10, S2E8, S2E9, S2E10, S3E8, S3E9, S3E10					
規模	桁行３間×梁行２間(5.40　×3.6)		柱間寸法	桁行1.80　梁行1.80	主軸方位	N-90°-W	

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.59	0.54	0.36	円形	土師甕、須恵甕等	柱痕あり	2	0.73	0.44	0.30	楕円形		
3	0.54	0.46	0.20	楕円形	土師甕、須恵壺等		4	0.42	？	0.20	円形？	土師甕等	
5	0.52	0.44	0.36	楕円形	土師甕等		6	0.78	0.75	0.22	円形	土師甕等	柱痕あり
7	0.42	0.39	0.20	円形			8	0.46	？	0.22	不明		
9	0.46	？	0.23	不明			10	0.62	0.52	0.24	楕円形	須恵壺	
11	0.68	0.60	0.18	楕円形			12	0.48	0.43	0.21	楕円形	土師甕、内黒坏等、須恵甕(85図1)	

備考	

第７号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第37図）

位置	グリッド	S1E9, S1E10, S1E11, S2E9, S2E10, S2E11, S3E9, S3E10, S3E11					
規模	桁行３間×梁行２間（5.20×3.80）		柱間寸法	桁行1.73　梁行1.90	主軸方位	N-86°-E	

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.80	0.54	0.25	楕円形	土師、須恵甕等		2	0.50	0.48	0.38	隅丸方形	土師甕	
3	0.48	0.44	0.18	隅丸方形	土師甕等	柱痕あり	4	0.52	0.46	0.27	隅丸方形	土師甕、内黒甕、土師坏(86図1)	
5	0.66	0.54	0.52	隅丸方形	土師甕、須恵器(86図2)	柱痕あり	6	？	0.46	0.25	楕円形		柱痕あり
7	0.55	0.54	0.50	楕円形	土師甕	柱痕あり	8	0.48	0.48	0.48	円形	土師甕等	柱痕あり
9	0.54	0.41	0.58	楕円形	土師甕、須恵甕等								

備考	ST06に切られる。

第９表　掘立柱建物跡観察表（2）

第８号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第38図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	S1E7, S1E8, S2E7, S2E8					
規模	桁行２間×梁行２間（2.70×2.60	柱間寸法	桁行1.35　梁行1.30	主軸方位	N-10°-E		

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.44	0.34	0.22	楕円形	土師甕	柱痕あり	2	0.34	0.32	0.14	円形		柱痕あり
3	0.36	?	0.11	不明			4	0.34	0.33	0.11	円形		
5	0.44	0.43	0.12	円形		柱痕あり	6	0.48	0.46	0.18	円形	土師甕、須恵甕	柱痕あり
7	0.43	0.39	0.22	円形	須恵坏		8	0.46	0.46	0.32	円形	土師甕等	
9	0.30	0.28	0.27	円形			10	0.43	0.38	0.19	楕円形	土師坏	
11	0.30	0.28	0.13	円形			12	0.28	0.25	0.15	円形	土師甕	
13	0.18	0.17	0.13	円形									

備考	

第９号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第39図）

位置	グリッド	N1E7, N1E8, 0E7, 0E8					
規模	桁行２間×梁行？（2.40×2.60）	柱間寸法	桁行1.20　梁行	主軸方位	N-10°-W		

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.48	0.36	0.22	隅丸長方形			2	0.48	0.40	0.20	隅丸長方形	土師坏	柱痕あり
3	0.42	0.39	0.22	隅丸方形	土師甕		4	?	0.30	0.34	不明		
5	0.42	0.36	0.42	隅丸長方形	土師甕								

備考	SK202 に切られる。

第10号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第40図）

位置	グリッド	N4E9, N4E10, N3E9, N3E10					
規模	桁行２間×梁行１間？（3.40×？）	柱間寸法	桁行1.70　梁行2.15	主軸方位	N-90°-W		

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.47	0.12	0.09	楕円形			2	0.30	0.30	0.22	円形		
3	0.32	0.32	0.13	円形		柱痕あり	4	0.32	0.32	—	円形		
5	0.26	0.25	0.09	円形									

備考	西側は攪乱を受けている。

第11号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第41図）

位置	グリッド	N10E9, N10E10, N9E9. N9E10					
規模	桁行２間×梁行２間（3.40×4.00）	柱間寸法	桁行1.70　梁行2.00	主軸方位	N-8°-E		

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.46	0.46	0.17	隅丸方形			2	0.44	0.40	0.07	円形		
3	0.52	0.48	0.04	円形		柱痕のみ	4	0.50	0.46	0.09	円形		柱痕あり
5	0.48	0.47	0.19	円形		柱痕あり	6	0.46	0.46	0.26	隅丸方形	土師甕	
7	0.44	0.42	0.20	隅丸方形		礎石のみ							

備考	

第 10 表　掘立柱建物跡観察表（3）

第12号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第42図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	N6E10, N6E11, N5E10					
規模	不明	柱間寸法	桁行1.95　梁行1.65	主軸方位	N-10°-E		

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.51	0.50	0.38	円形	土師甕、須恵壺等(87図1)		2	0.50	0.44	0.39	楕円形	土師甕、土師坏	
3	0.54	0.53	0.44	円形			4	0.48	0.44	0.28	円形	須恵坏	
備考	東側は調査区域外												

第13号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第43図）

位置	グリッド	N8E10, N8E11, N7E10, N7E11				
規模	桁行２間×梁行？（3.95×？）	柱間寸法	桁行1.80　梁行2.06	主軸方位	N-10°-E	

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.68	0.50	0.22	隅丸方形			2	0.55	0.50	0.20	楕円形	土師甕	
3	0.42	0.39	0.40	円形	須恵甕、土師甕、須恵坏		4	0.40	0.30	0.30	円形		
備考	東側は調査区域外												

第14号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第44図）

位置	グリッド	N10E9, N10E10, N11E9, N11E10, N12E9, N12E10				
規模	桁行３間×梁行２間（5.30×3.90）	柱間寸法	桁行1.77　梁行1.95	主軸方位	N-6°-E	

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.56	0.48	0.17	楕円形	須恵坏		2	0.56	0.52	0.42	楕円形	須恵坏、鉢壺(88図1)	
3	0.67	0.58	0.10	楕円形		裏込石あり	4	0.53	0.47	0.12	円形		
5	0.58	0.57	0.09	円形			6	0.55	0.50	0.20	円形	土師甕、内黒坏、須恵壺	
7	0.54	0.44	0.22	円形		柱痕あり	8	0.54	0.40	0.25	楕円形		柱痕あり
9	0.45	0.42	0.40	円形	内黒坏、須恵壺		10	0.53	0.45	0.15	円形		柱痕あり
備考													

第15号掘立柱建物跡　（遺構実測図　第45図）

位置	グリッド	N14E10, N14E11, N13E10　N13E11, N12E10, N12E11				
規模	桁行２間×梁行２間？(3.40×4.00?)	柱間寸法	桁行1.70　梁行2.00	主軸方位	N-8°-E	

柱							穴						
No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.73	0.55	0.33	楕円形	土師甕、須恵甕		2	0.62	0.68	0.33	隅丸方形		
3	0.58	0.56	0.40	円形	須恵坏、内黒等		4	0.57	0.52	0.39	隅丸方形		
5	0.61	0.60	0.46	円形	須恵坏、内黒等		6	0.54	0.44	0.25	隅丸長方形	須恵坏、土師甕（89図1）	
7	0.58	0.52	0.35	隅丸長方形									
備考	東側は調査区域外												

第 11 表　掘立柱建物跡観察表（4）

第１号柱穴列　（遺構実測図　第46図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	N19E11, N19E12, N18E11
規模	3.10	柱間寸法　行1.64
主軸方位	N-13° -E?	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.60	0.60	0.15	円形		柱痕あり
2	0.62	0.54	0.45	楕円形		柱痕あり
3	0.60	0.50	0.30	楕円形		柱痕あり

第２号柱穴列　（遺構実測図　第47図）

位置	グリッド	S5E8, S6E8
規模	3.50	柱間寸法　行1.75
主軸方位	N-4° -W	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.64	0.51	0.40	楕円形		
2	0.62	0.45	0.15	楕円形		
3	0.50	0.39	0.14	楕円形	土師甕	

第３号柱穴列　（遺構実測図　第48図）

位置	グリッド	S5E10, S5E11, S6E10
規模	3.50	柱間寸法　行1.40
主軸方位	N-8 -E	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.38	0.35	0.36	円形	土師甕、内黒坏	
2	0.46	0.43	0.20	円形	土師甕	
3	0.53	0.50	0.22	円形	土師高坏、土師甕	

第４号柱穴列　（遺構実測図　第49図）

位置	グリット	S12E10, S13E10, S14E10
規模	5.95	
柱間寸法	行2.00	
主軸方位	N-1° -E	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.23	0.22	0.29	円形	土師甕	柱材が残る
2	0.23	0.20	0.10	円形		
3	0.22	0.20	0.20	円形		
4	0.32	0.26	0.17	楕円形		

第５号柱穴列　（遺構実測図　第50図）

位置	グリッド	S12E10, S13E10, S14E10
規模	5.85	柱間寸法　行1.45
主軸方位	ほぼ座北	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.28	0.23	0.20	楕円形	土師甕	
2	0.28	0.28	0.22	円形		
3	0.27	0.23	0.18	楕円形	土師甕	
4	0.23	0.22	0.12	円形		
5	0.30	0.28	0.16	円形		

第 12 表　柱穴列観察表（1）

第６号柱穴列　（遺構実測図　第51図）　　（規模の単位はｍ）

位置	グリッド	N1E8, N0E8
規模	3.20	柱間寸法　行1.55
主軸方位	N-1° -W	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.59	0.56	0.28	円形	土師甕	礎石が残る
2	—	—	0.18	不明		
3	0.50	0.49	0.18	円形	土師甕	礎石が残る

第７号柱穴列　（遺構実測図　第52図）

位置	グリッド	N19E12, N18E12
規模	3.00	柱間寸法　行1.50
主軸方位	N-12° -E	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	—	0.44	0.20	楕円形？		
2	0.30	0.30	0.17	円形		
3	0.34	0.30	0.20	楕円形	土師	

第８号柱穴列　（遺構実測図　第53図）

位置	グリッド	S18E7, S19E7, S20E7
規模	4.50	柱間寸法　行1.48
主軸方位	N-1° -E	
備考		

柱穴 No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.44	0.34	0.45	楕円形		
2	0.50	0.37	0.20	楕円形	土師甕	柱痕あり
3	0.40	0.32	0.23	楕円形	弥生甕、土師甕等	
4	0.33	0.30	0.09	円形		

第 13 表　柱穴列観察表（2）

遺構No.	図版No.	長径m	短径m	深さm	覆土	出土遺物	備考
SK01	54図-3	—	0.76	0.17	10YR3/2 黒褐色粘質土		柱痕あり
SK02	54図-3	0.70	0.60	0.27	図中に記入	土師	柱痕あり　柱材出土
SK03	54図-3	0.62	0.32	0.24	図中に記入		柱痕あり
SK08	54図-3	0.26	0.22	0.20	10YR2/2 黒褐色粘質土		
SK10	54図-3	0.33	0.30	0.22	図中に記入		
SK15	54図-3	0.50	0.34	0.26	10YR4/1 褐灰色（暗褐色、炭化物混）土	土師	柱痕あり
SK16	54図-3	0.32	0.30	0.18	10YR2/2 黒褐色土		
SK17	54図-3	0.30	0.30	0.22	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土		
SK18	54図-3	0.32	0.31	0.20	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土		
SK19	54図-3	0.28	0.27	0.20	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土		
SK20	54図-3	0.42	—	0.18	図中に記入		
SK21	54図-3	0.40	0.33	0.27	図中に記入		柱痕あり
SK22	54図-3	0.65	0.52	0.27	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土	土師	
SK23	54図-3	—	0.22	0.18	図中に記入		裏込石あり
SK24	54図-3	0.46	0.40	0.14	図中に記入		
SK26	54図-3	0.28	0.27	0.19	10YR3/2 黒褐色土		
SK27	54図-3	0.43	0.40	0.32	10YR3/2 黒褐色土		
SK28	54図-3	0.45	0.43	0.48	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）土	土師・須恵	
SK29	54図-3	0.26	0.25	0.28	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土		
SK30	54図-3	0.56	0.45	0.25	10YR2/2 黒褐色粘質土	土師	
SK31	54図-3	0.28	0.27	0.20	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土		
SK32	54図-3	0.34	0.31	0.30	10YR2/2 黒褐色（暗褐色混）粘質土	土師	
SK33	54図-3	0.40	—	0.32	10YR2/3 黒褐色（暗褐色混）粘質土	土師	
SK34	54図-3	0.40	0.39	0.26	10YR3/1 黒褐色土（暗褐色混）粘質土		
SK35	54図-3	0.52	—	0.08	10YR2/3 黒褐色粘質土		
SK38	54図-3	0.59	0.53	0.12	10YR1.7/1 黒粘質土	須恵	
SK39	54図-3	0.40	0.38	0.16	10YR2/2 黒褐色粘質土（炭化物含む）		裏込石あり
SK40	54図-3	0.48	0.43	0.12	10YR3/1 黒褐色粘質土		
SK41	54図-3	0.22	0.21	0.17	10YR2/3 黒褐色土		
SK42	54図-3	0.42	0.31	0.34	10YR2/2 黒褐色（暗褐色混）土		裏込石あり
SK44	54図-3	0.40	—	0.41	10YR3/1 黒褐色土（暗褐色混）		
SK45	54図-3	0.30	—	0.45	10YR2/2 黒褐色土	土師・須恵（90図）	
SK46	54図-3	0.68	0.38	0.10	10YR2/2 黒褐色粘質土	土師	
SK47	54図-3	0.30	0.29	0.30	10YR2/3 黒褐色（暗褐色混）土		
SK48	54図-3	0.25	0.24	0.34	10YR2/3 黒褐色（暗褐色混）土		
SK49	54図-3	0.35	0.24	0.10	10YR3/1 黒褐色土		
SK50	54図-3	0.30	0.30	0.37	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）土	土師	
SK52	54図-3	0.22	0.21	0.06	10YR2/3 黒褐色粘質土		
SK53	54図-3	0.50	0.50	0.41	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土		
SK54	54図-3	0.30	0.28	0.14	10YR2/3 黒褐色粘質土	土師	
SK56	54図-3	0.32	0.31	0.13	10YR2/3 黒褐色土		
SK57	54図-3	0.22	0.19	0.10	10YR2/3 黒褐色粘質土		
SK58	54図-3	0.58	0.38	0.40	10YR2/1 黒と10YR2/3 黒褐色の混り土	土師	柱痕あり

第 14 表　土坑観察表（1）

遺構No.	図版No.	長径m	短径m	深さm	覆土	出土遺物	備考
SK59	54図-3	0.36	0.28	0.21	10YR3/3 黒褐色粘質土		柱痕あり
SK60	54図-3	0.40	0.32	0.22	10YR2/2 黒褐色粘質土		柱痕あり
SK61	54図-3	0.21	0.18	0.16	10YR2/2 黒褐色粘質土		
SK62	54図-3	0.18	0.17	0.12	10YR3/1 黒褐色粘質土		
SK63	54図-3	0.18	0.16	0.08	10YR3/1 黒褐色土		
SK64	54図-3	0.40	0.36	0.19	10YR3/1 黒褐色（にぶい黄褐色混）土	土師	
SK84	54図-3	0.38	0.35	0.32	図中に記入		
SK85	54図-3	0.23	0.23	0.08	10YR3/1 黒褐色（褐色混）粘質土		裏込石あり
SK86	54図-3	0.27	0.24	0.22	10YR4/1 褐灰色土		柱材残存
SK87	54図-3	0.21	0.20	0.06	10YR3/1 黒褐色土		
SK88	54図-3	0.18	0.17	0.08	10YR2/2 黒褐色（褐色混）粘質土		
SK89	54図-3	0.38	0.37	0.30	図中に記入	土師・須恵	柱痕あり
SK90	54図-3	0.50	0.46	0.23	10YR3/1 黒褐色土		
SK91	54図-3	0.33	0.30	0.22	10YR3/1 黒褐色土（炭化物、焼土混）	土師	
SK92	6	1.87	1.20	0.15	10YR3/1 黒褐色粘質土（炭化物、粘土を多く含む）	弥生・土師・須恵（90図）・礫石	皿状の土坑
SK93	54図-3	0.25	0.24	0.10	10YR2/3 黒褐色土	土師	
SK94	54図-3	0.28	0.26	0.18	10YR3/1 黒褐色土（炭化物、焼土混）	土師	
SK95	54図-3	0.36	0.34	0.19	10YR2/1 黒色土（炭化物、焼土混）	土師	裏込石あり
SK96	54図-3	0.16	0.15	0.11	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）土	土師	
SK97	54図-3	0.76	—	0.30	図中に記入	土師	
SK98	54図-3	0.50	0.40	0.28	図中に記入	土師	
SK99	54図-3	0.52	0.51	0.30	図中に記入	土師	
SK100	54図-3	0.30	0.28	0.18	10YR2/3 黒褐色（暗褐色混）土		
SK101	54図-3	0.21	0.20	0.20	10YR3/2 黒褐色土	土師・須恵	
SK110	54図-2	1.50	1.08	0.07	10YR2/3 黒褐色シルト	土師・須恵（90図）	不定形で浅い皿状
SK117	54図-2	0.40	—	0.12	10YR3/3 黒褐色砂質土		
SK133	54図-2	0.52	0.46	0.48	10YR2/3 黒褐色土		
SK136	54図-2	0.18	0.14	0.06	10YR3/4 暗褐色砂質土		
SK137	54図-2	0.36	0.36	0.05	10YR3/3 暗褐色砂質土		
SK142	54図-2	0.48	—	0.33	10YR2/3 黒褐色（暗褐色混）土	土師・須恵	
SK143	54図-2	0.54	0.50	0.55	10YR2/2 黒褐色（暗褐色混）土	土師・須恵	
SK148	54図-2	0.33	0.32	0.32	10YR2/3 黒褐色シルト	土師（90図）	
SK149	54図-2	0.50	0.44	0.08	10YR3/3 暗褐色砂質土	土師・須恵（90図）	
SK150	54図-2	0.16	0.15	0.11	10YR2/2 黒褐色シルト（小石混）		
SK151	54図-2	0.48	0.42	0.36	10YR2/1 黒褐色シルト（小石混）	土師	
SK152	54図-2	0.32	0.30	0.18	10YR2/1 黒褐色シルト	土師	
SK154	54図-2	0.26	0.25	0.16	10YR2/2 黒褐色シルト		
SK157	54図-2	0.38	0.26	0.27	10YR3/1 黒褐色土	土師	
SK158	54図-2	0.24	0.24	0.08	10YR3/1 黒褐色土		
SK159	54図-2	0.32	0.30	0.13	10YR3/1 黒褐色土	須恵	
SK162	54図-2	0.38	0.32	0.07	10YR4/3 褐色砂質土		
SK163	54図-2	0.37	0.30	0.07	10YR3/1 黒褐色土（暗褐色、炭化物混）	土師	
SK180	54図-2	0.34	0.31	0.43	10YR2/1 黒色シルト	土師	

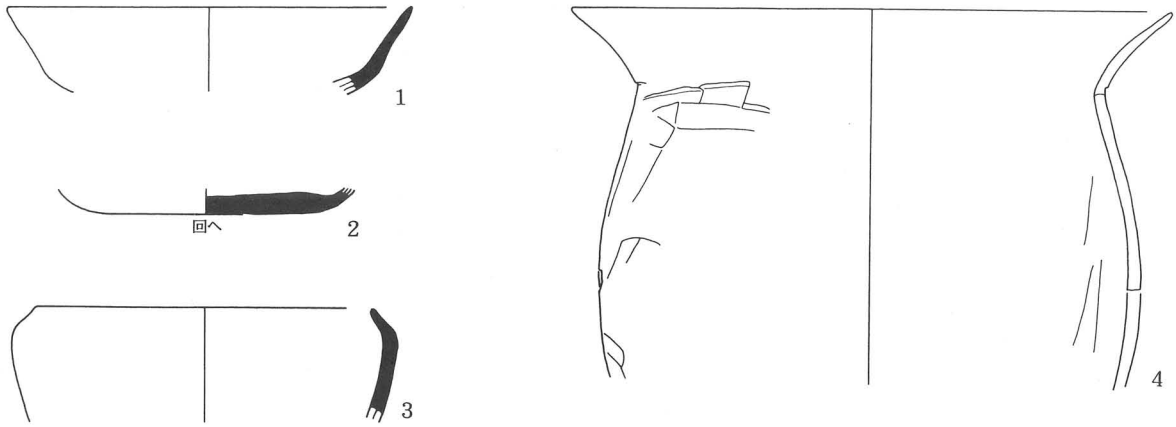
第 15 表　土坑観察表（2）

遺構No.	図版No.	長径m	短径m	深さm	覆土	出土遺物	備考
SK181	54図-2	0.20	0.18	0.05	10YR3/3 暗褐色砂質土	土師	
SK183	54図-2	0.32	0.30	0.59	10YR2/1 黒色シルト（炭化物混）	土師	
SK186	54図-2	0.40	0.38	0.38	10YR2/2 黒褐色土		
SK187	54図-2	0.48	0.40	0.46	10YR2/3 黒褐色シルト	土師・須恵	
SK189	54図-2	0.34	0.33	0.18	10YR3/2 黒褐色シルト		
SK190	54図-2	0.48	0.36	0.18	10YR3/2 黒褐色シルト		
SK191	54図-2	0.22	0.21	0.06	10YR3/3 暗褐色シルト		
SK192	54図-2	0.30	0.30	0.07	10YR3/3 暗褐色シルト		
SK193	54図-2	0.30	0.30	0.15	10YR3/4 暗褐色粘質土		
SK194	54図-2	0.26	0.23	0.26	10YR2/3 黒褐色シルト	土師	
SK196	54図-2	0.28	0.24	0.12	10YR2/3 黒褐色シルト		
SK202	54図-6	—	0.60	0.20	図中に記入	土師、須恵破片多数（90図）	
SK203	54図-6	1.42	0.62	0.20	図中に記入	土師、須恵破片多数（90図）	
SK205	54図-2	0.29	0.22	0.14	10YR2/1 黒色シルト		
SK206	54図-2	0.50	0.48	0.20	10YR3/1 黒褐色土（礫混）	土師	
SK207	54図-6	0.75	0.42				集石
SK208	54図-2	0.38	0.37	0.42	10YR2/2 黒褐色シルト（小石混）	土師	
SK209	54図-2	0.42	0.32	0.10	10YR2/1 黒色シルト（炭化物、焼土混）	土師	
SK210	54図-2	0.16	0.12	0.12	10YR2/2 黒褐色シルト		
SK211	54図-2	0.46	0.36	0.34	10YR3/1 黒褐色土（小石混）	土師	
SK212	54図-2	0.38	0.36	0.14	10YR2/2 黒褐色シルト(小石、炭化物混)		
SK213	54図-2	0.26	0.20	0.18	10YR2/2 黒褐色シルト		
SK222	54図-1	0.76	0.66	0.34	10YR2/2 黒褐色（暗褐色混）シルト		
SK224	54図-1	0.50	0.48	0.07	10YR2/2 黒褐色砂質土		
SK228	54図-2	0.48	0.32	0.08	10YR3/1 黒褐色土		
SK230	54図-2	0.85	0.28	0.21	10YR3/1 黒褐色土		平面がおたまじゃくし形
SK232	54図-2	0.60	0.29	0.23	10YR4/1 褐灰色（褐色混）土	土師	
SK234	54図-1	0.26	0.24	0.16	10YR3/1 黒褐色粘質土		
SK235	54図-3	0.22	0.21	0.20	10YR3/1 黒褐色（暗褐色混）粘質土		
SK236	54図-3	0.56	0.42	0.18	図中に記入		
SK238	54図-3	0.40	0.28	0.12	10YR2/3 黒褐色粘質土		
SK241	54図-3	0.27	0.27	0.36	10YR3/1 黒褐色土		柱痕、裏込石あり
SK242	54図-3	0.18	0.17	0.20	10YR3/1 黒褐色土		
SK243	54図-3	0.20	0.13	0.26	10YR4/1 褐灰色土（暗褐色土、炭混）		
SK245	54図-2	—	1.45	0.10	図中に記入	土師（90図）	平面は不定形の皿状
SK250	54図-3	0.52	0.40	0.16	10YR3/1 黒褐色粘質土		
SK252	54図-2	1.10	1.10	0.52	図中に記入	土師	平面は円形のすり鉢形
SK253	54図-2	0.48	0.47	0.20	10YR3/2 黒褐色シルト		
SK255	54図-2	0.50	0.40	0.42	10YR3/2 黒褐色シルト	土師	
SK256	54図-2	0.48	0.43	0.26	10YR2/2 黒褐色シルト（小砂利混）	土師	
SK257	54図-2	—	0.19	0.13	10YR2/2 黒褐色シルト（小砂利混）		
SK260	54図-2	1.25	—	0.14	10YR2/2 黒褐色シルト（炭化物混）		底面に炭化物が広がる
SK261	54図-2	0.52	0.48	0.29	10YR3/1 黒褐色土（礫混）	土師	

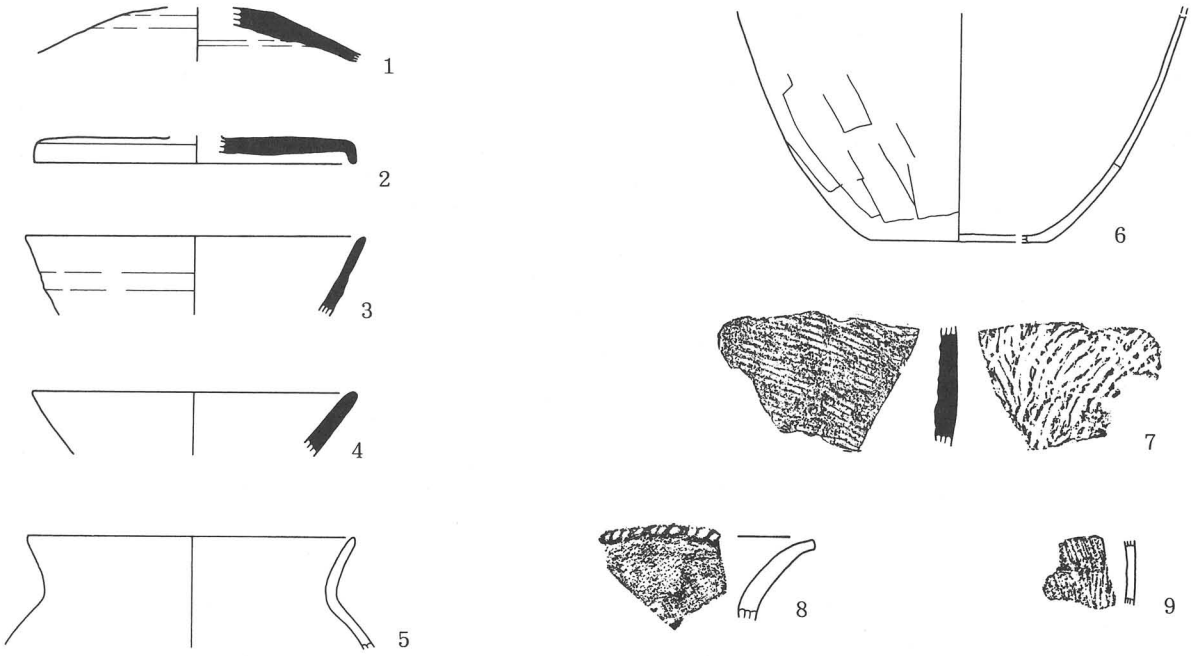
第16表　土坑観察表(3)

遺構No.	図版No.	長径m	短径m	深さm	覆　　土	出　土　遺　物	備　　考
SK262	54図-2	0.60	0.52	0.55	図中に記入	土師・須恵（90図）	
SK265	54図-3	0.21	0.20	0.29	10YR3/2 黒褐色粘質土		
SK266	54図-3	0.28	0.27	0.10	10YR3/2 黒褐色粘質土		
SK270	54図-1	(0.72)	0.64	0.23			
SK271	54図-3	0.32	0.30	0.14	10YR2/1 黒色粘質土		
SK279	54図-1	0.29	0.28	0.18			
SK281	54図-1	0.65	0.59	0.17	図中に記入　（炭化物、焼土を含む）		何かを焼いていた土坑
SK292	54図-1	0.17	0.16	0.07			
SK300	54図-1	0.64	0.54	0.13			浅い皿状
SK301	54図-1	0.25	0.24	0.10	10YR3/1 黒褐色土		SK302 と対のピット
SK302	54図-1	0.26	0.24	0.14	10YR3/1 黒褐色土		SK301 と対のピット
SK303	54図-1	0.22	0.18	0.12			
SK312	54図-4			0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土(ブロック状褐色土混)	土師	柱痕あり
SK313	54図-4	0.80	0.60	0.55	10YR3/1 黒褐色粘質土(ブロック状褐色土混)	土師・須恵	
SK314	54図-4	0.38	0.37	0.28	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師	
SK315	54図-4	0.48	0.48	0.58	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師・須恵（90図）	
SK316	54図-4	0.65	—	0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師・須恵（90図）	
SK317	54図-4	0.38	0.36	0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師・須恵	
SK318	54図-4	0.24	0.24	0.14	10YR3/1 黒褐色粘質土	須恵	
SK319	54図-4	0.54	0.48	0.50	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師	
SK320	54図-4	0.50	0.48	0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土		
SK321	54図-4	0.40	0.39	0.22	10YR3/1 黒褐色粘質土		
SK322	54図-4	0.17	0.15	0.18	10YR4/1 褐灰色粘質土		
SK323	54図-4	0.40	0.30	0.09	10YR3/1 黒褐色土		礎石あり
SK324	54図-4	0.52	—	0.18	10YR3/1 黒褐色土	土師	
SK325	54図-4	0.26	0.23	0.05	10YR3/1 黒褐色土		
SK326	54図-4	0.54	0.42	0.28	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師（90図）・須恵	
SK327	54図-4	0.72	0.54	0.22	10YR3/1 黒褐色土（小礫混）	土師・須恵（90図）	SK328 と同一建物か
SK328	54図-4	0.78	0.60	0.18	10YR3/1 黒褐色土（小礫混）	土師	SK327 と同一建物か
SK329	54図-4	0.40	0.38	0.23	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師	
SK330	54図-6	2.00	—	0.36	図中に記入	土師・須恵（90図）	多量の土器出土
SK334	54図-4	0.42	0.33	0.36		土師・須恵	
SK336	54図-4	(0.40)	(0.40)	(0.10)	10YR3/1 黒褐色砂質土		
SK337	54図-4	0.48	0.30	0.07	10YR3/1 黒褐色砂質土		礎石あり
SK340	54図-4	0.27	0.22	0.10		土師	
SK341	54図-5	0.30	0.22	0.12	10YR5/1 褐灰色土	土師	
SK345	54図-5	0.47	0.40	0.20	10YR5/1 褐灰色（暗褐色混）土	土師・須恵	
SK347	54図-5	0.40	0.27	0.12		土師	
SK348	54図-5	0.30	0.29	0.45		土師	
SK350	54図-5	0.47	0.46	(—)		土師	
SK351	54図-5	0.48	0.39	0.37			方形 SK352と同一建物か
SK352	54図-5	0.50	0.46	0.17		土師	方形 SK351と同一建物か

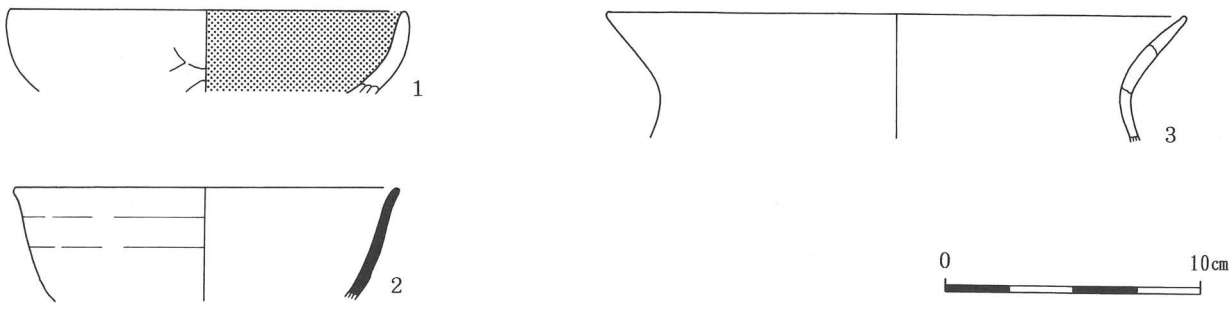
第 17 表　土坑観察表(4)



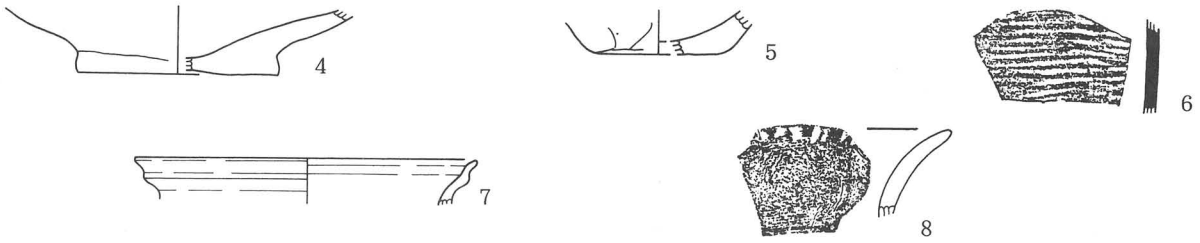
第 59 図　第 1 号竪穴住居跡出土土器実測図



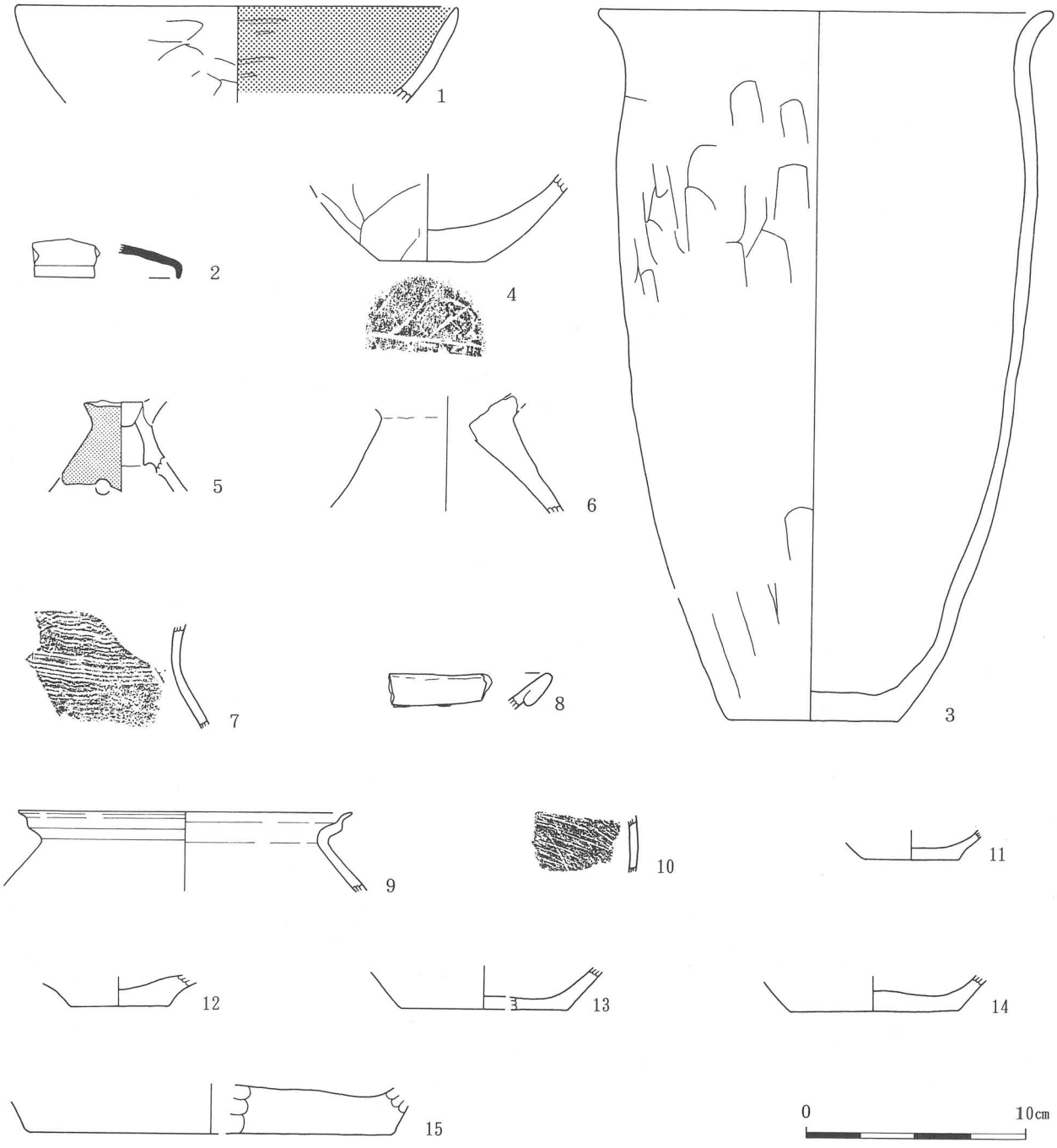
第 60 図　第 2 号竪穴住居跡出土土器実測図



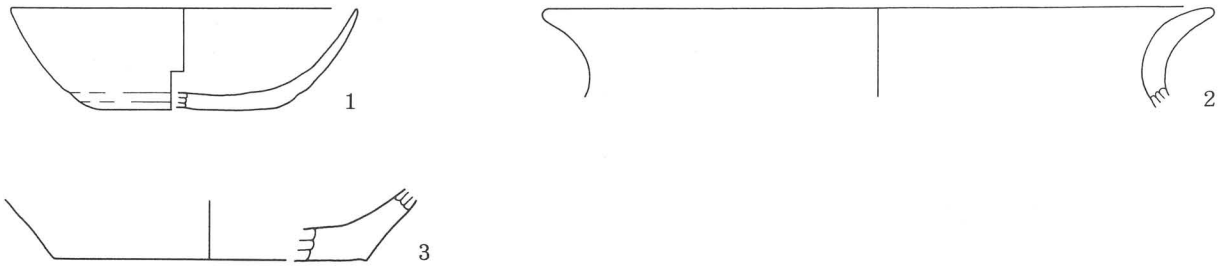
第 61 図　第 3 号竪穴住居跡出土土器実測図 (1)



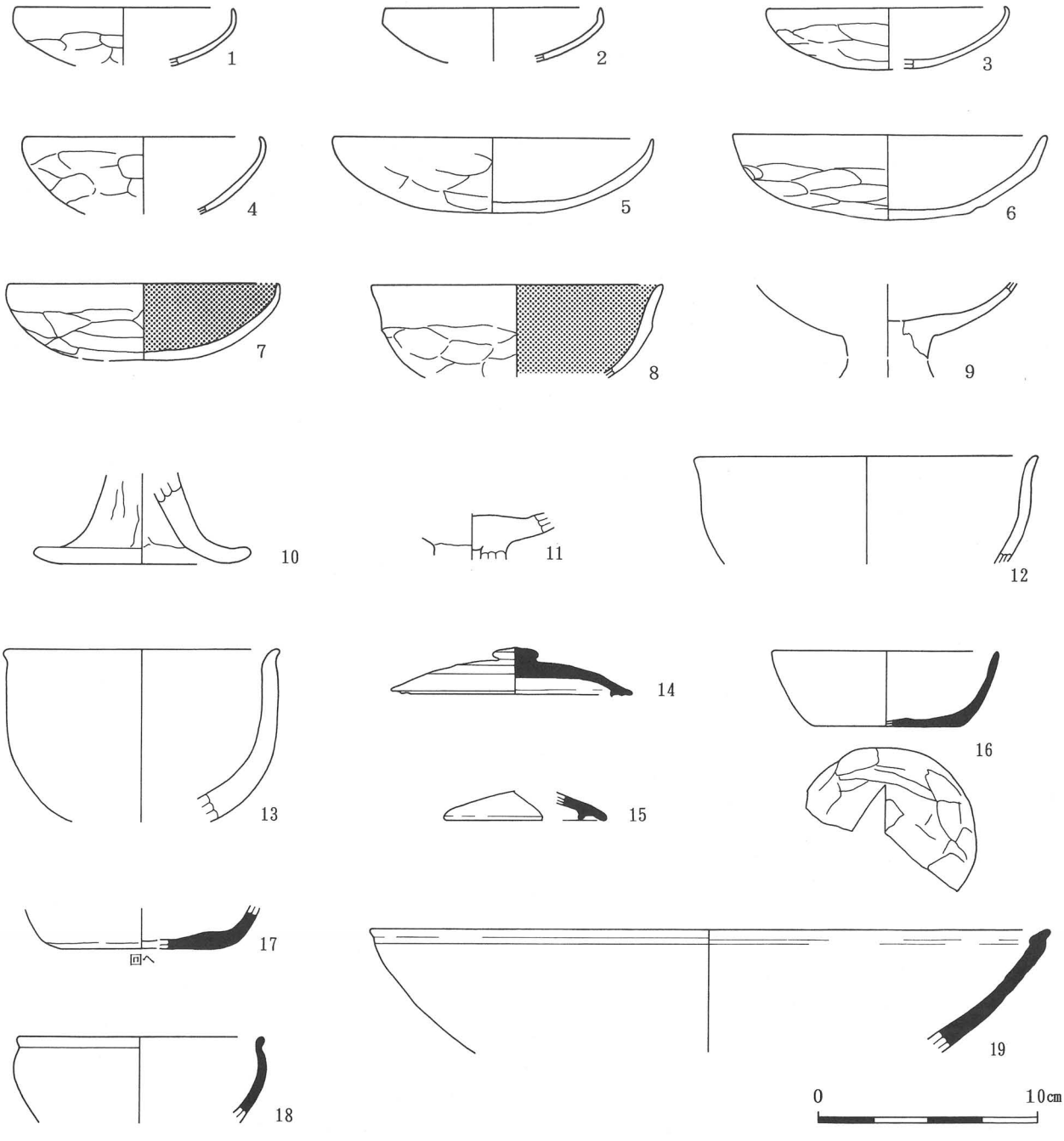
第 61 図　第 3 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



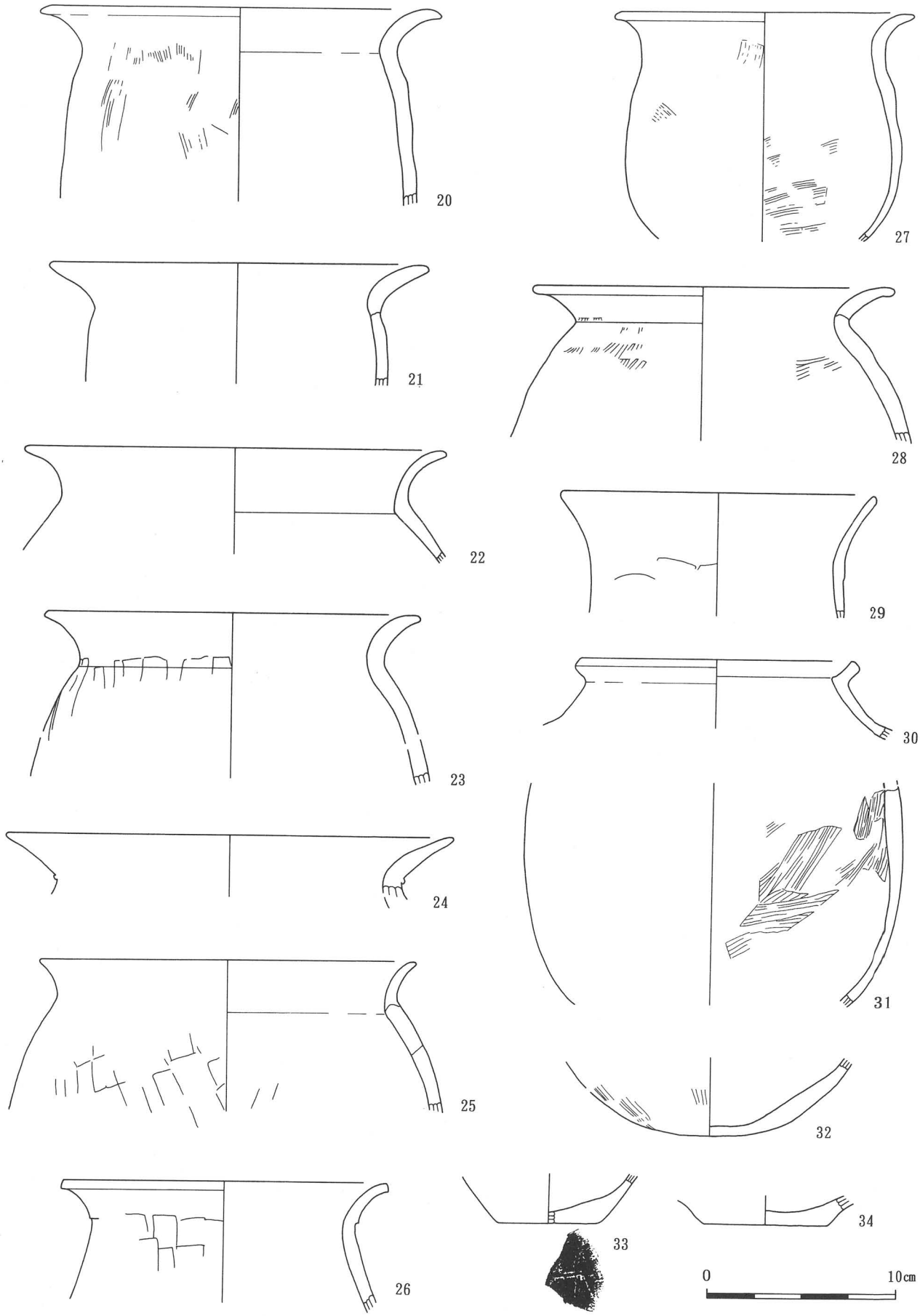
第 62 図　第 4 号竪穴住居跡出土土器実測図



第 63 図　第 5 号竪穴住居跡出土土器実測図

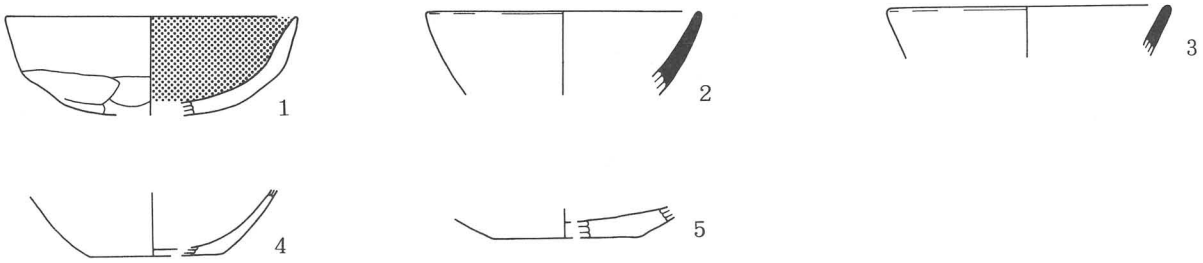


第 64 図　第 6 号竪穴住居跡出土土器実測図 (1)

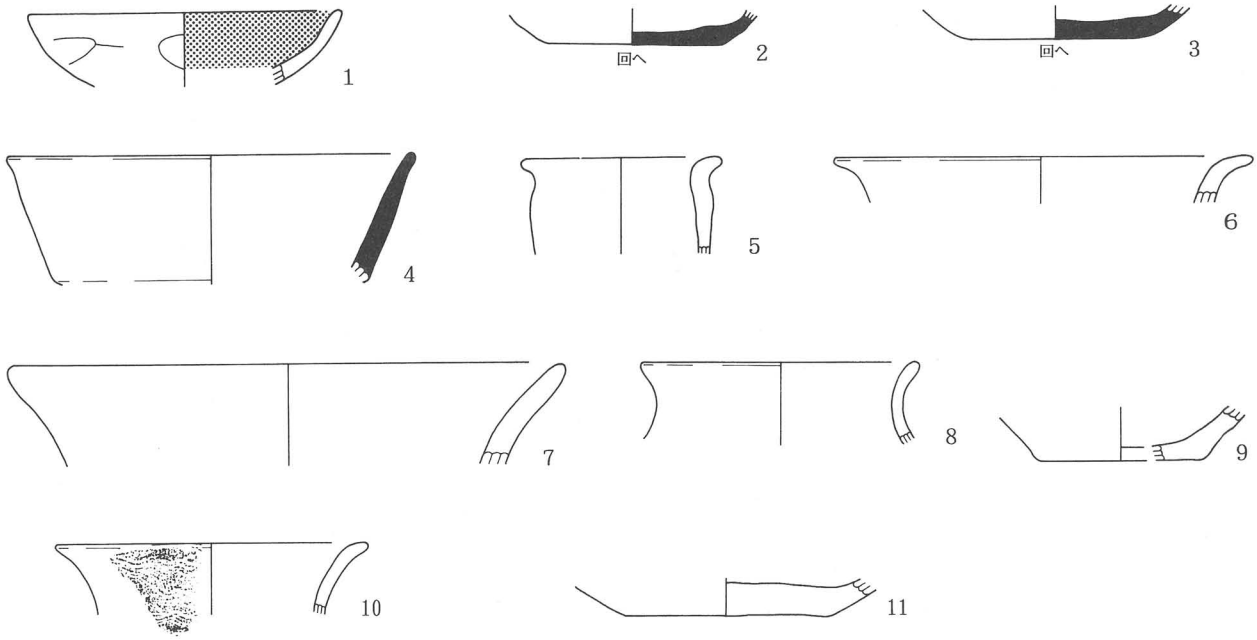


第 64 図　第 6 号竪穴住居跡出土土器実測図 (2)

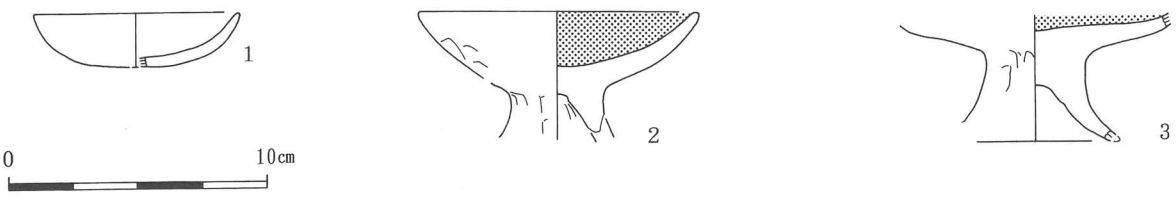
第 64 図　第 6 号竪穴住居跡出土土器実測図 (3)



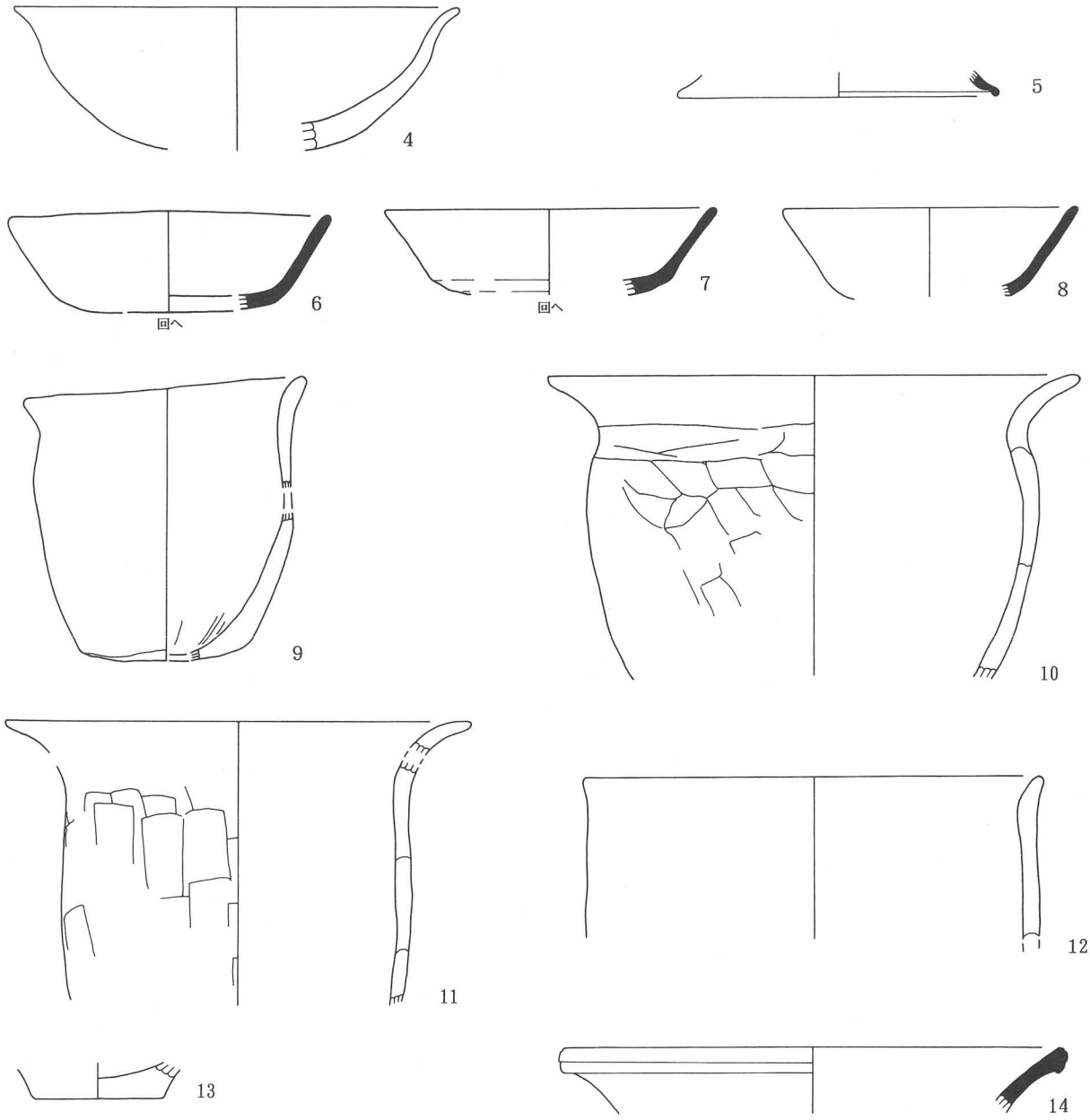
第 65 図　第 7 号竪穴住居跡出土土器実測図



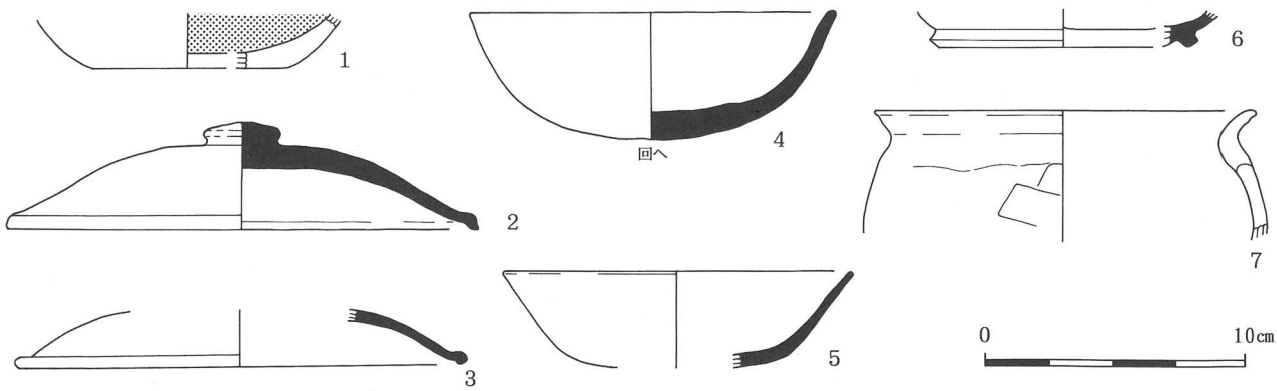
第 66 図　第 8 号竪穴住居跡出土土器実測図



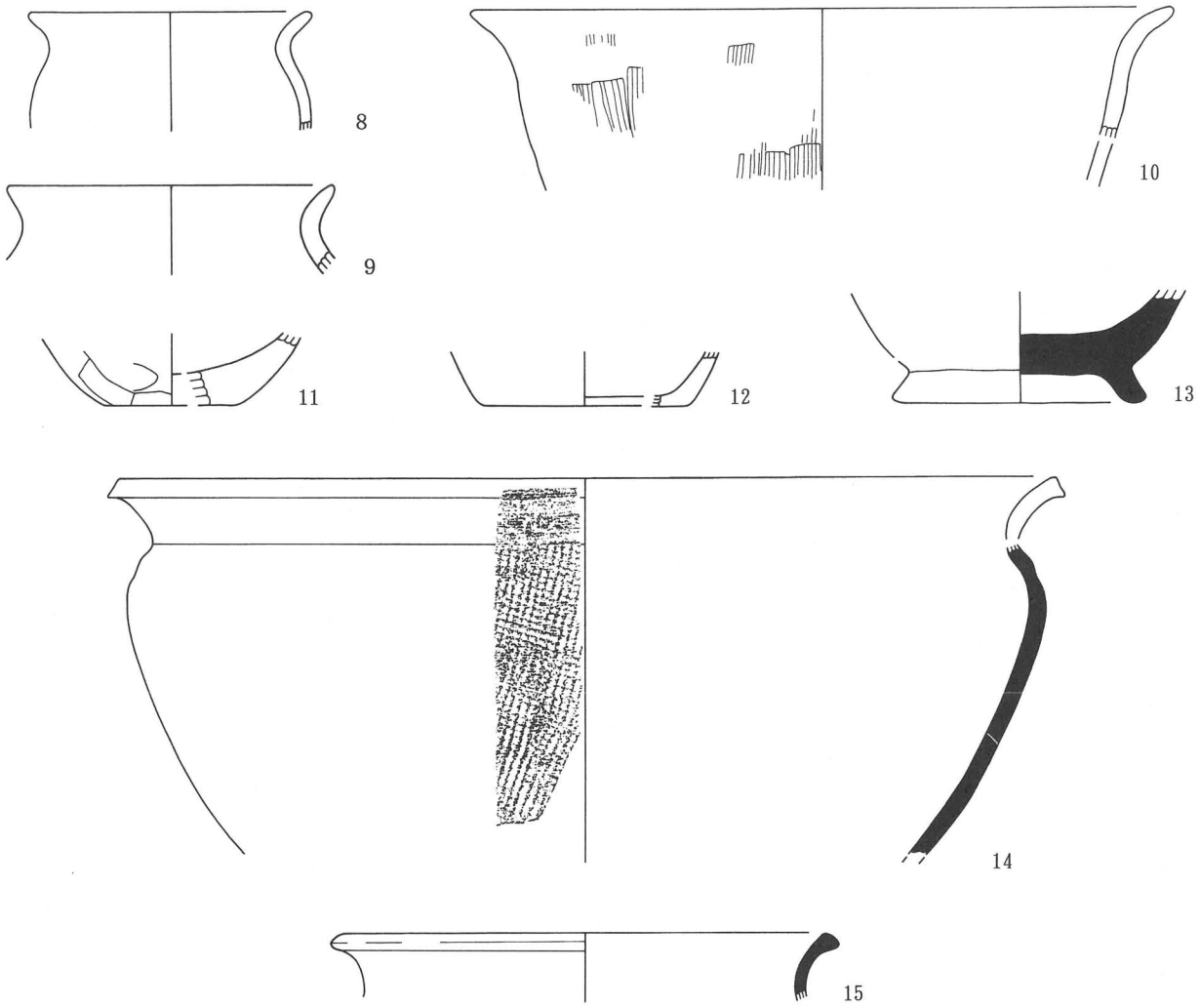
第 67 図　第 9 号竪穴住居跡出土土器実測図 (1)



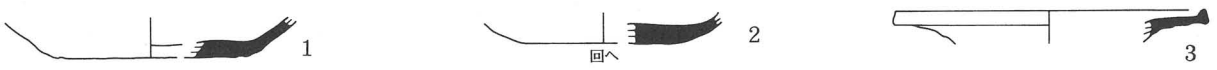
第 67 図　第９号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



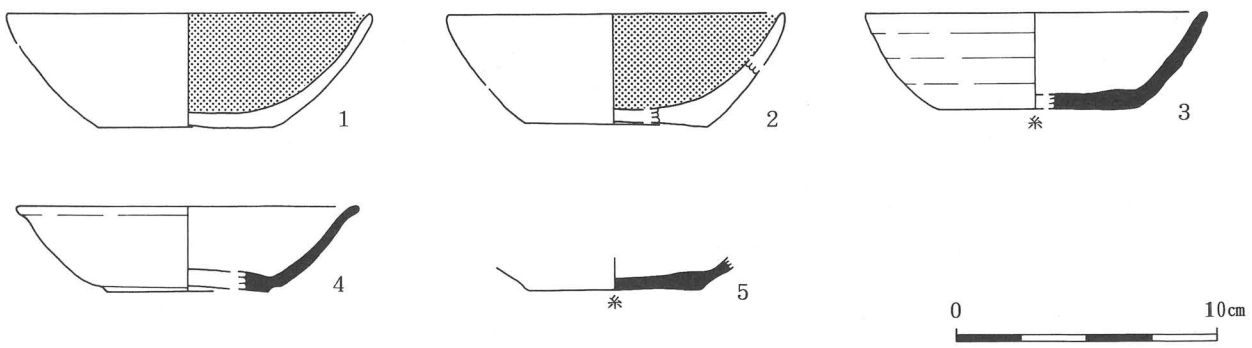
第 68 図　第１０号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



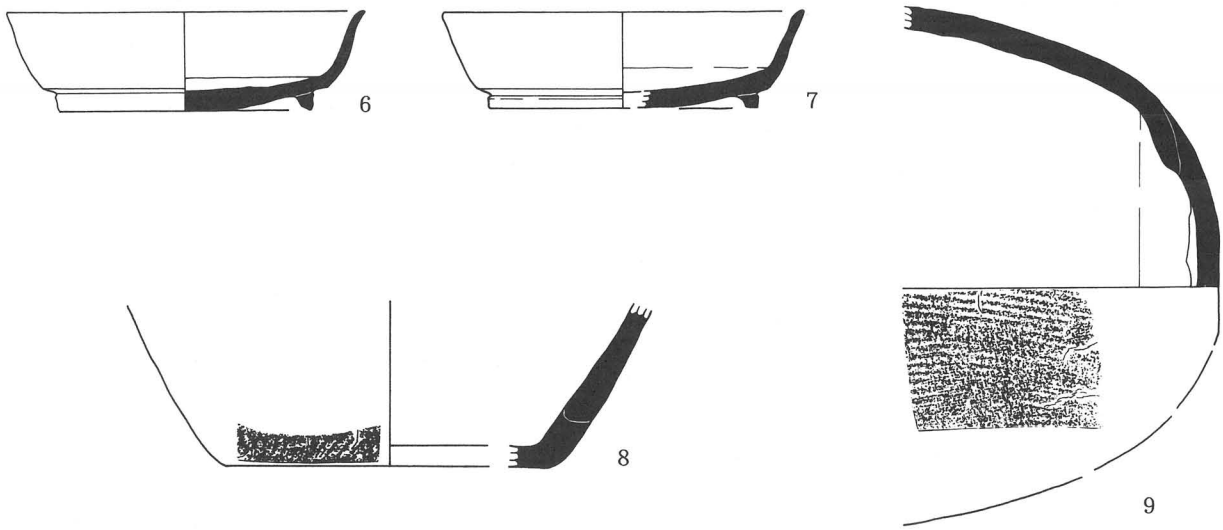
第 68 図　第１０号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



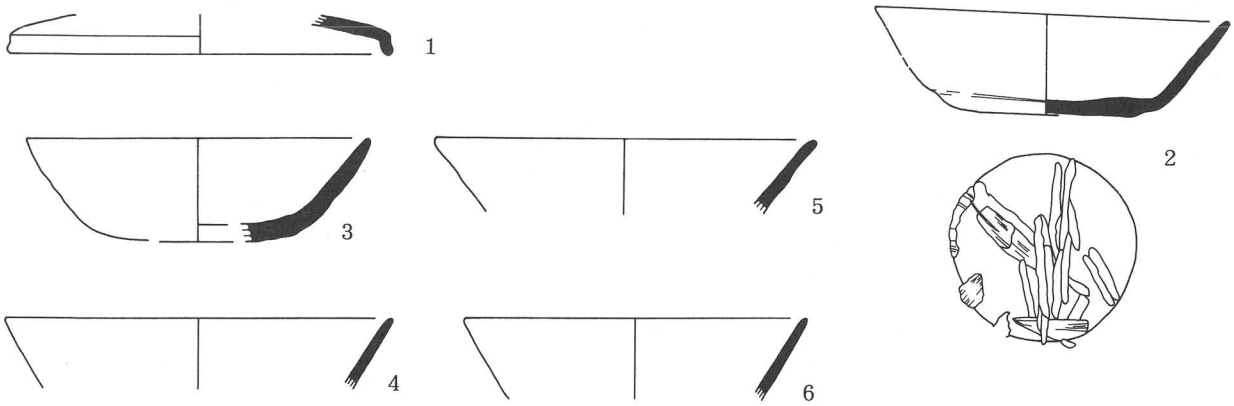
第 69 図　第１１号竪穴住居跡出土土器実測図



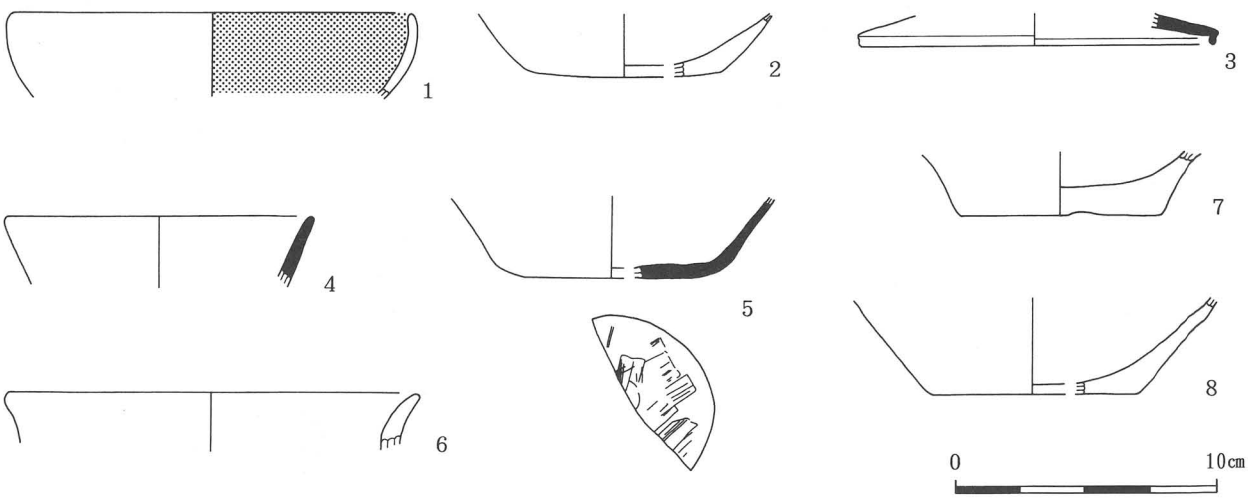
第 70 図　第１２号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



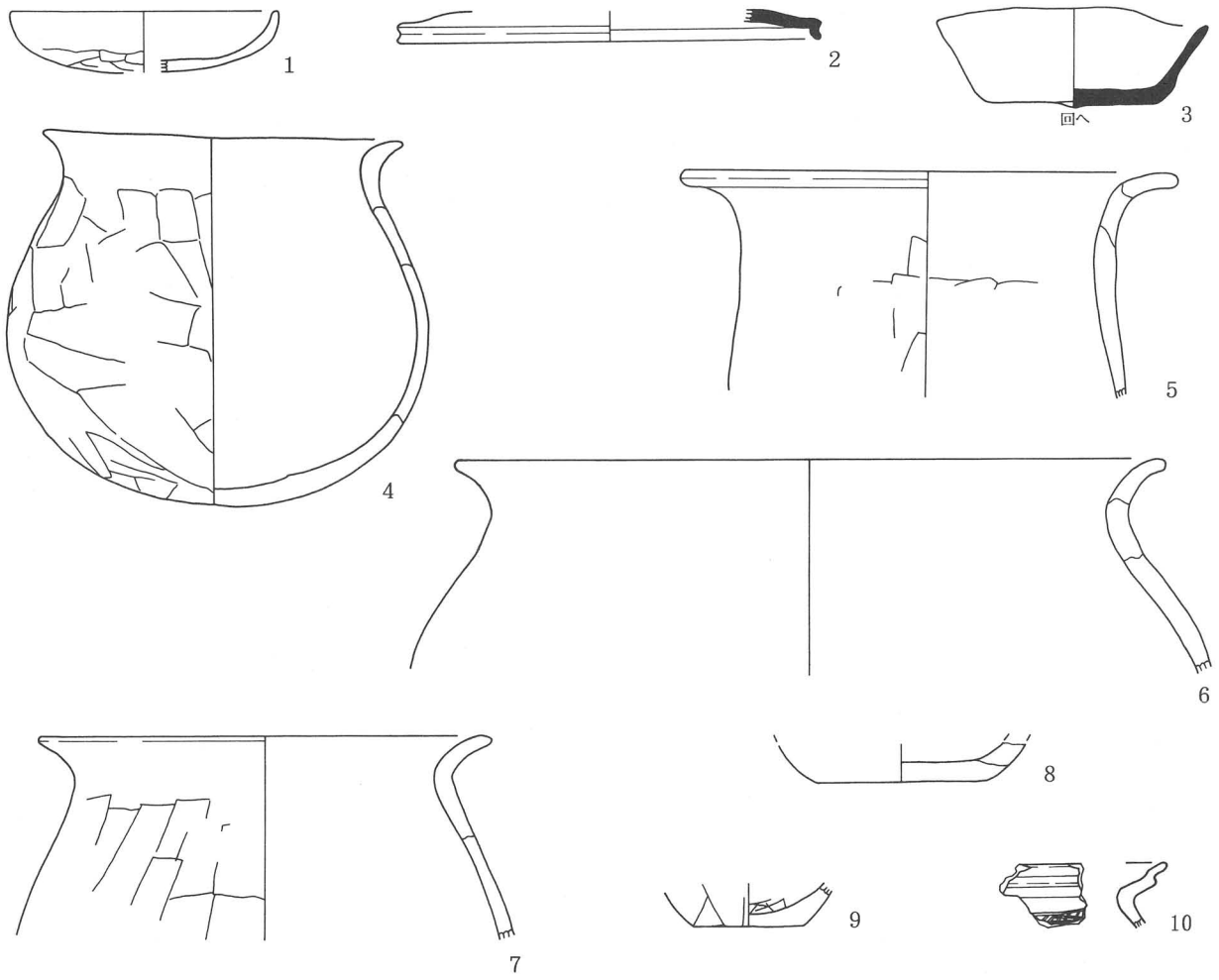
第 70 図　第１２号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



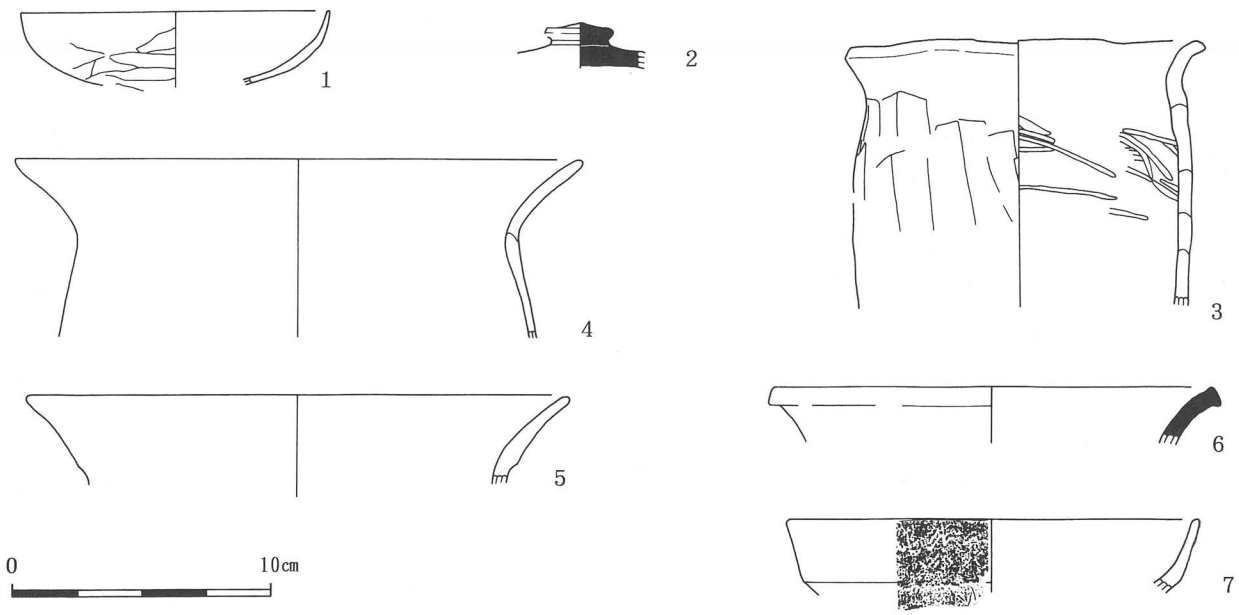
第 71 図　第１３号竪穴住居跡出土土器実測図



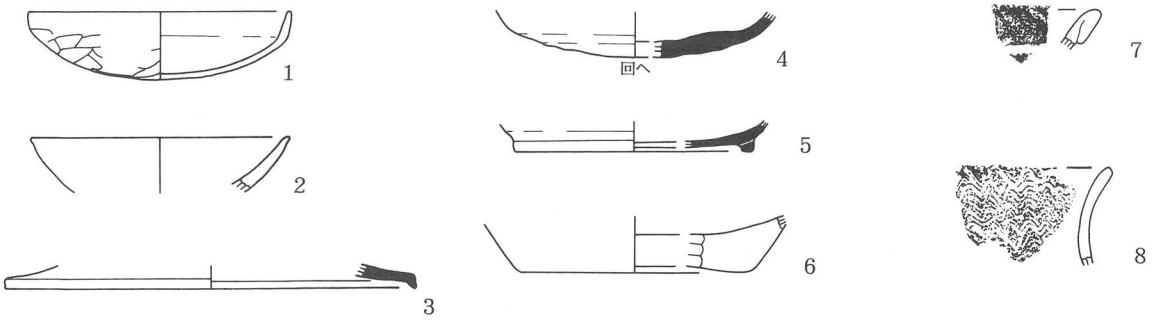
第 72 図　第１４号竪穴住居跡出土土器実測図



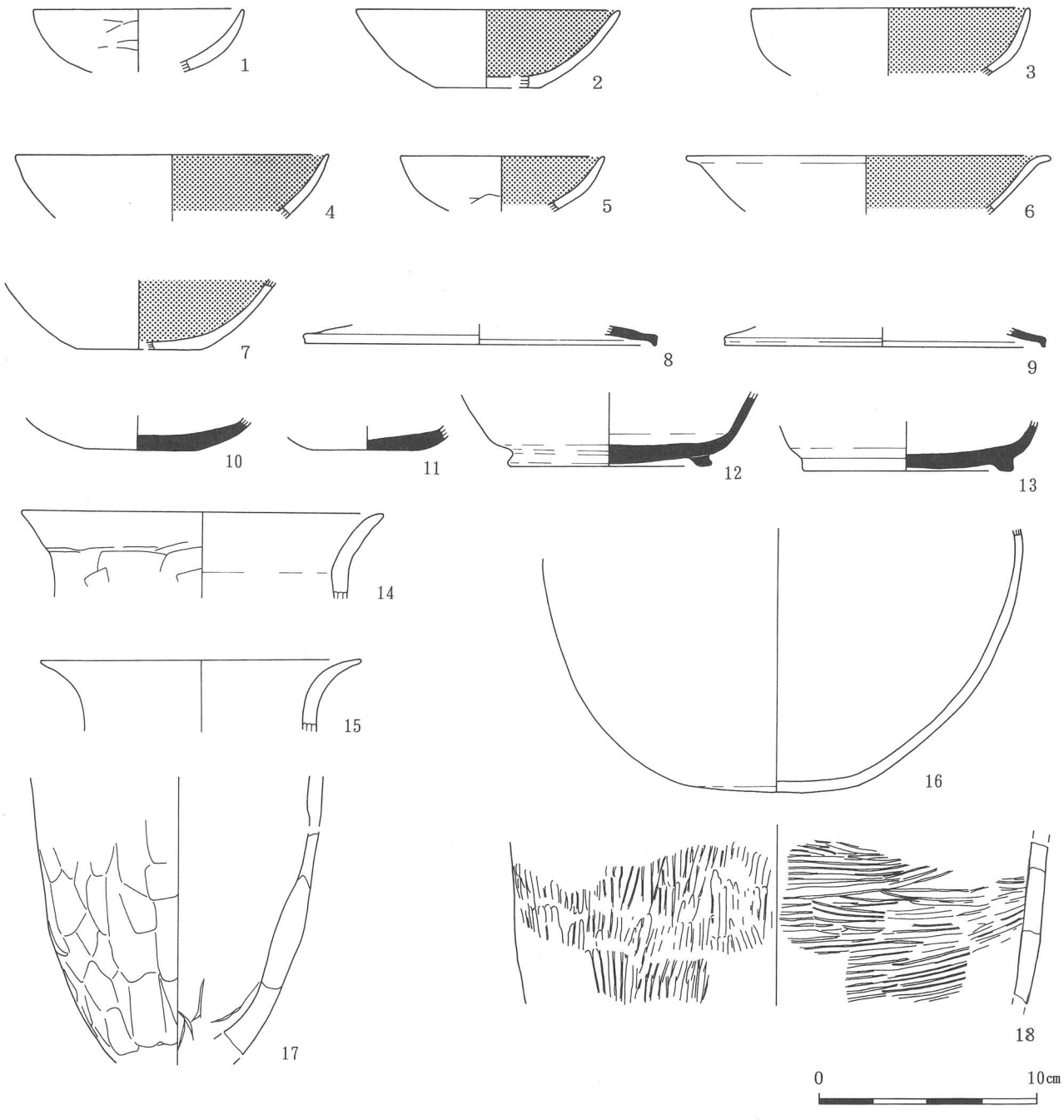
第 73 図　第１５号竪穴住居跡出土土器実測図



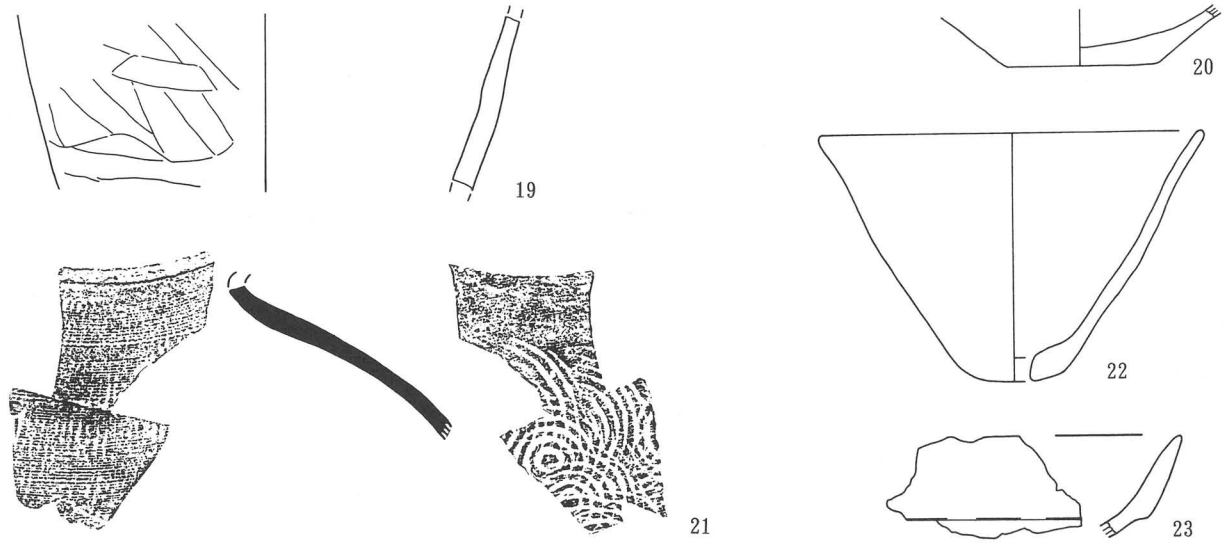
第 74 図　第１６号竪穴住居跡出土土器実測図



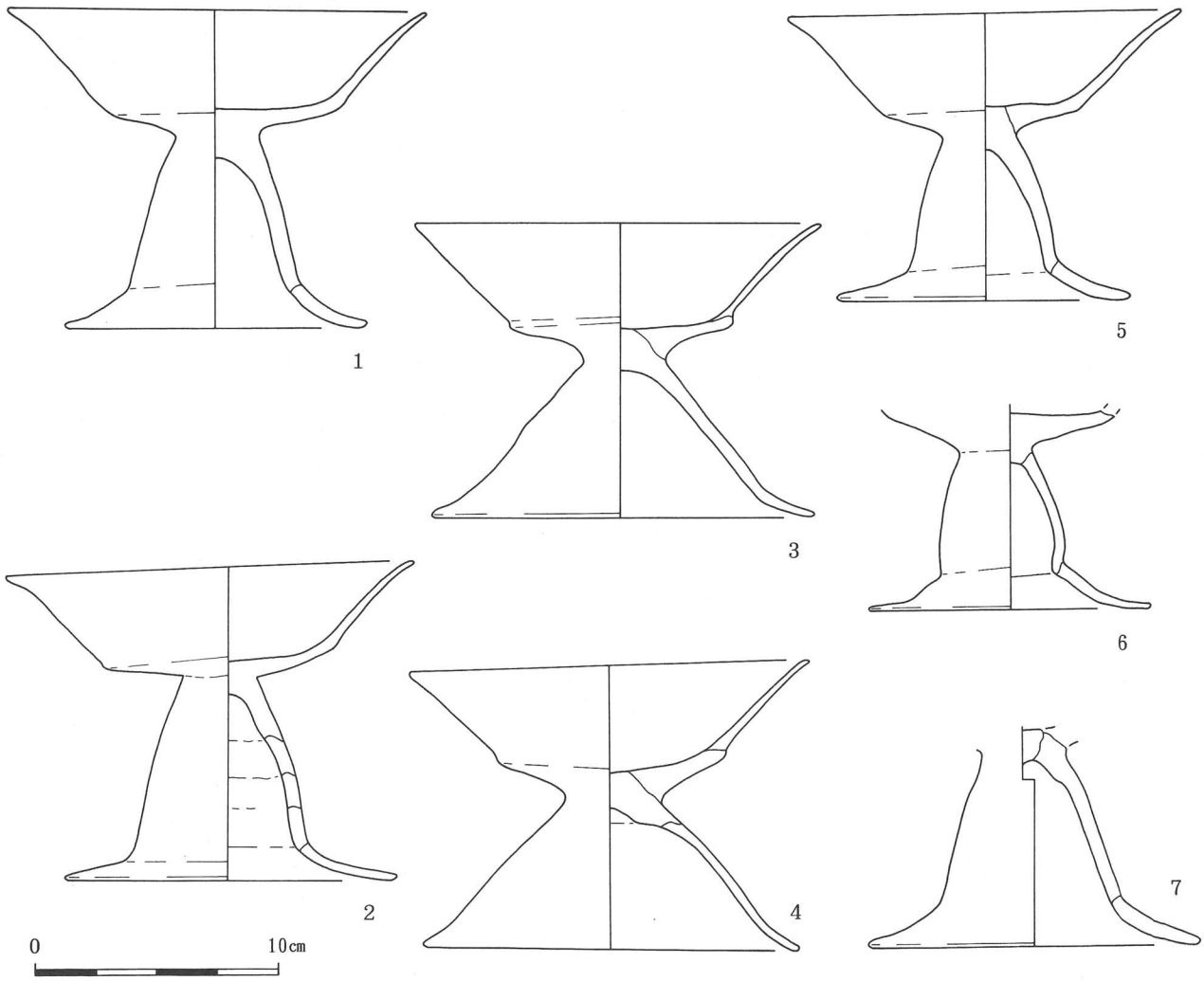
第 75 図　第１７号竪穴住居跡出土土器実測図



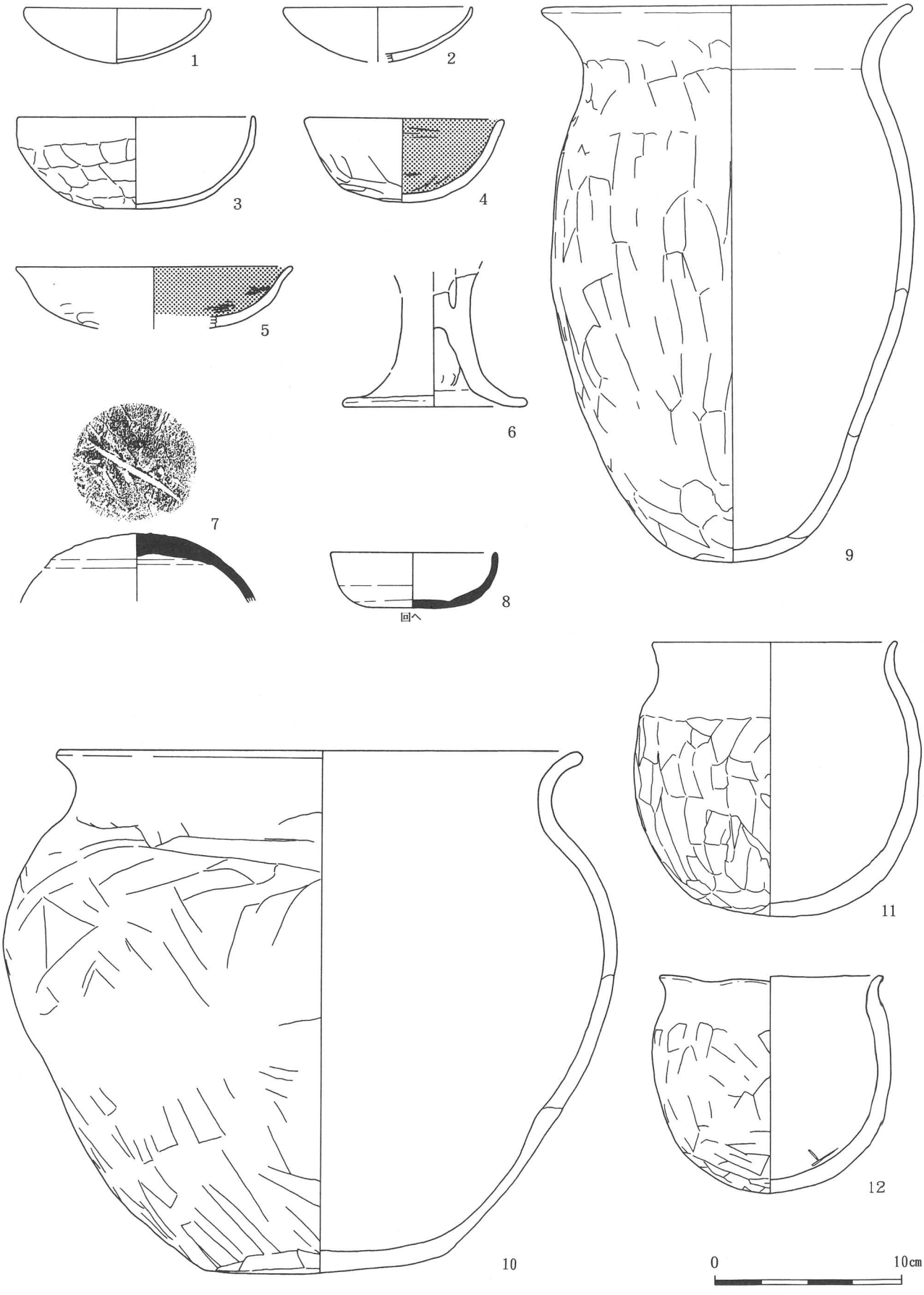
第 76 図　第１８号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



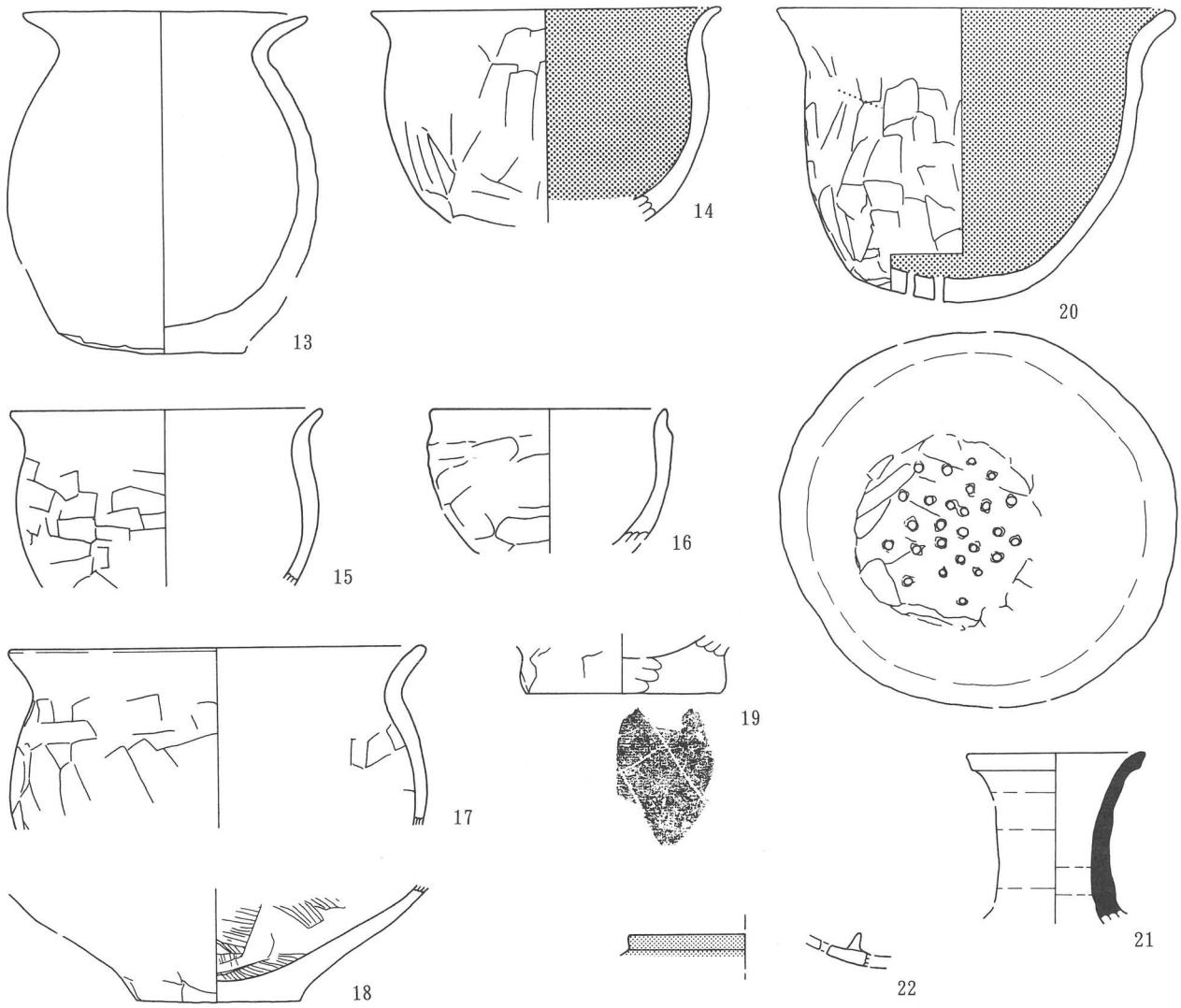
第 76 図　第１８号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



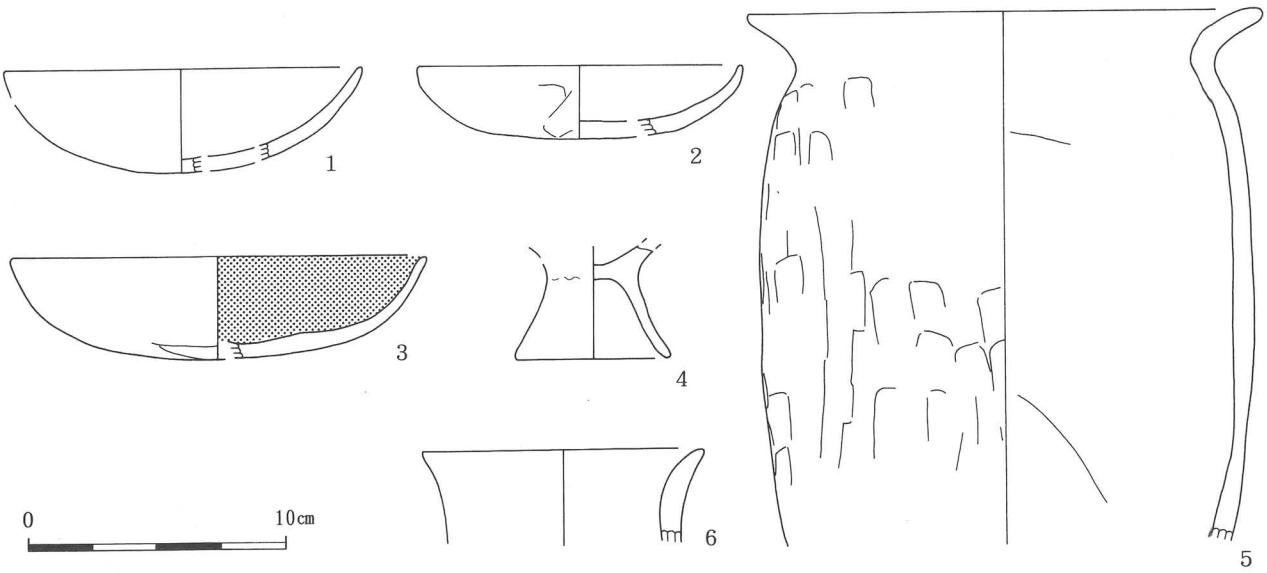
第 77 図　第１９号竪穴住居跡出土土器実測図



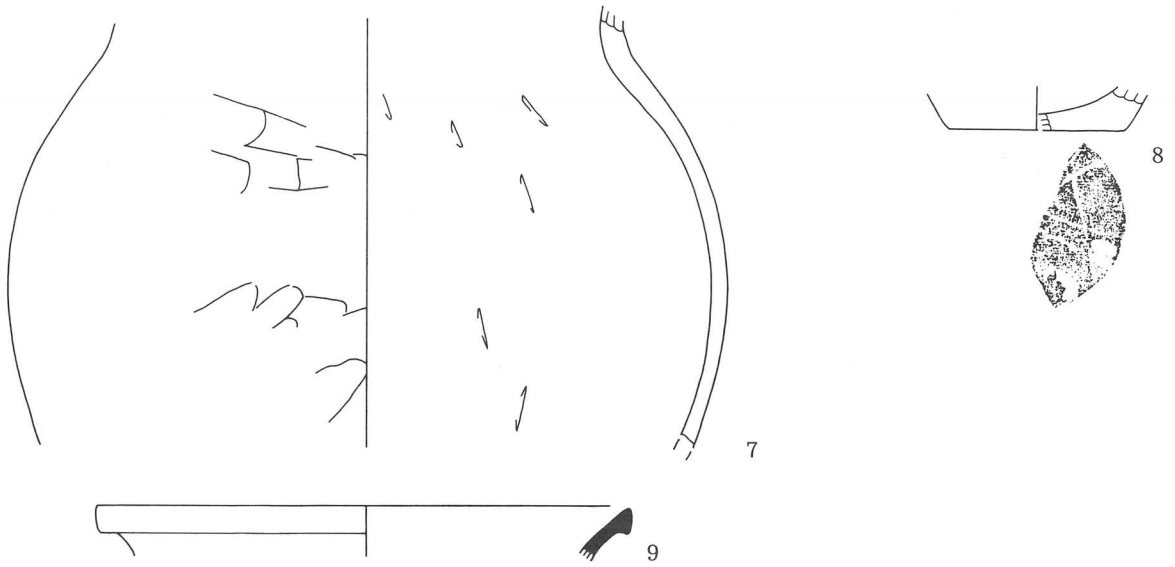
第 78 図　第２０号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



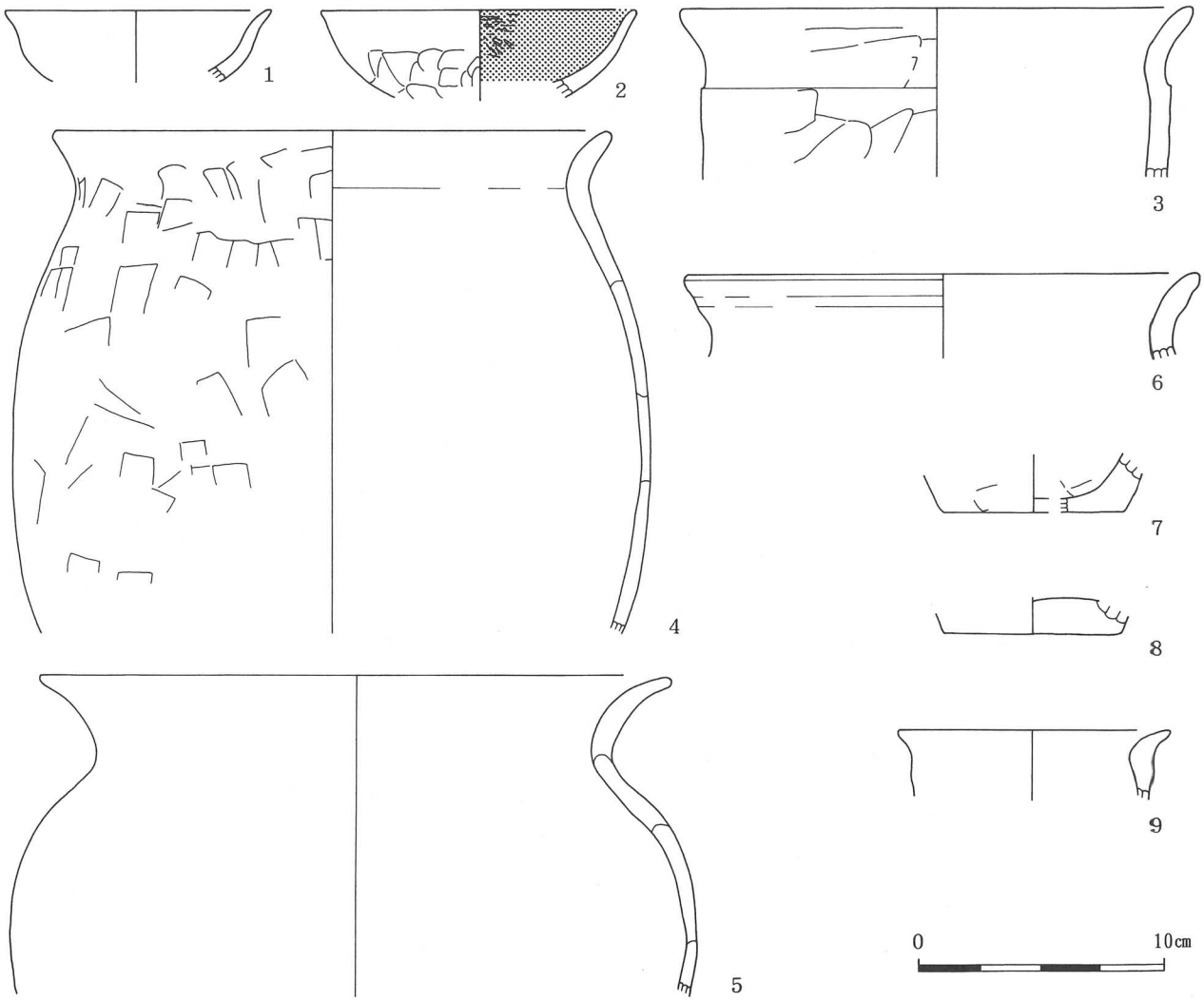
第 78 図　第２０号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



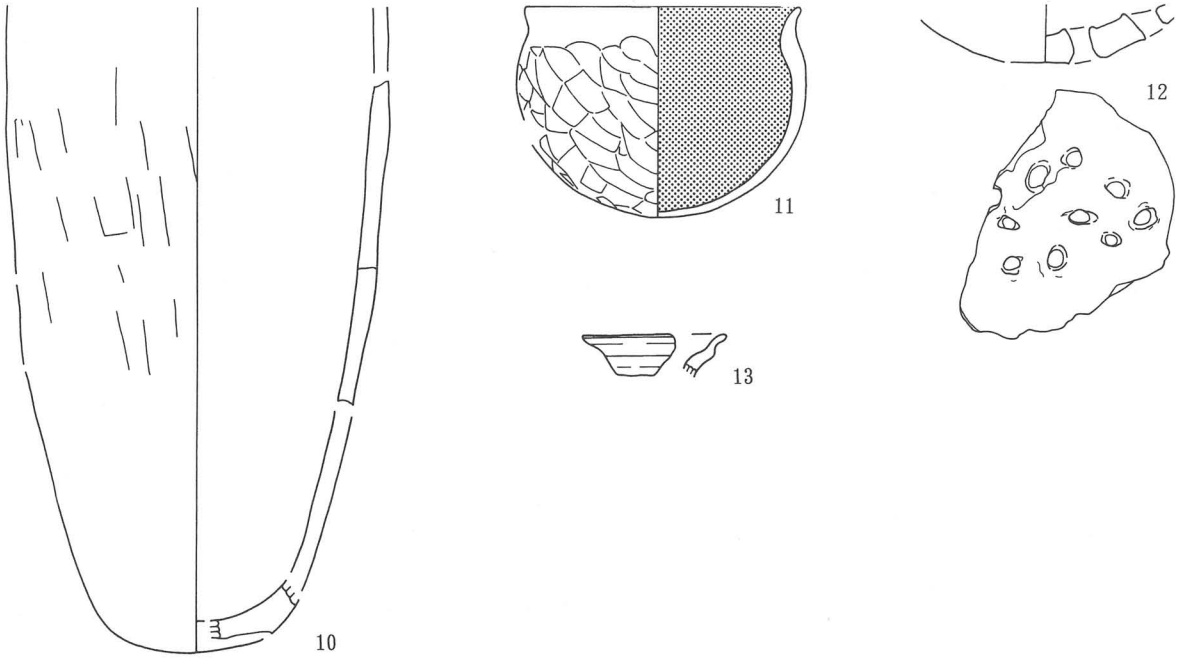
第 79 図　第２２号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



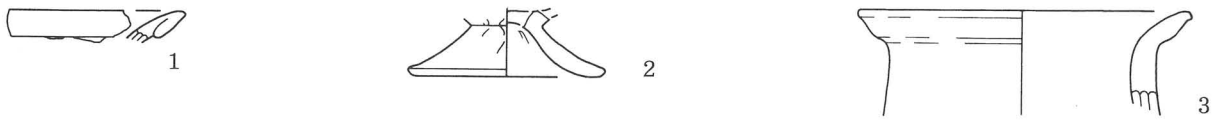
第 79 図　第２２号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



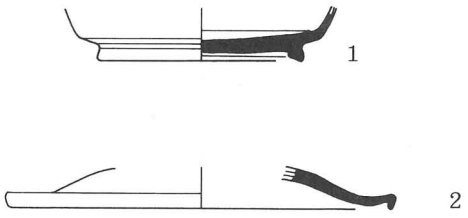
第 80 図　第２３号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



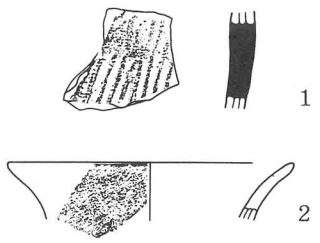
第 80 図　第２３号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



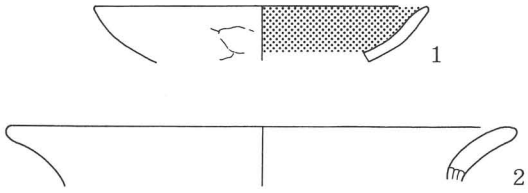
第 81 図　第１号掘立柱建物跡出土土器実測図



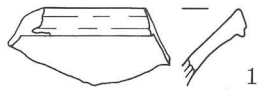
第 82 図
第２号掘立柱建物跡出土土器実測図



第 83 図
第３号掘立柱建物跡出土土器実測図



第 84 図　第４号掘立柱建物跡出土土器実測図

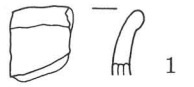


第 85 図
第６号掘立柱建物跡出土土器実測図

第 86 図
第７号掘立柱建物跡出土土器実測図

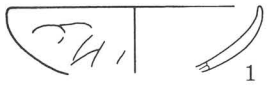
第 87 図
第１２号掘立柱建物跡出土土器実測図

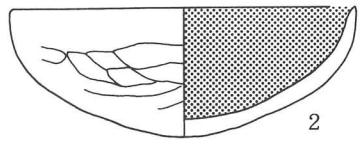
第 88 図
第１４号掘立柱建物跡出土土器実測図



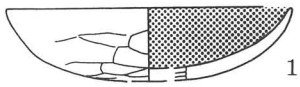
第 89 図
第１５号掘立柱建物跡出土土器実測図

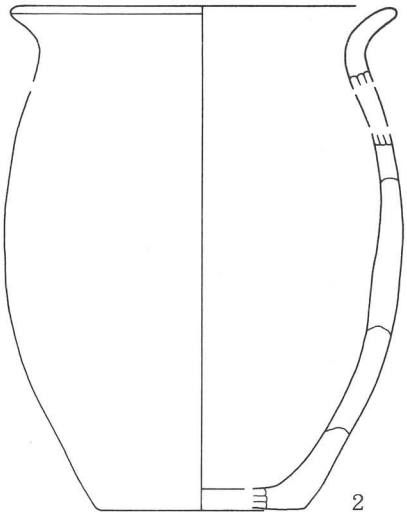
SK 45 出土土器



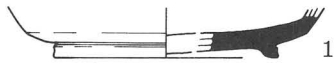


SK110 出土土器

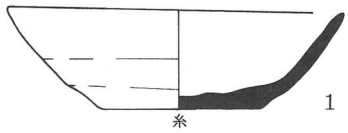


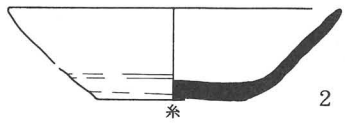


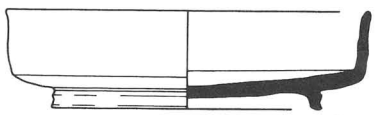
SK 92 出土土器

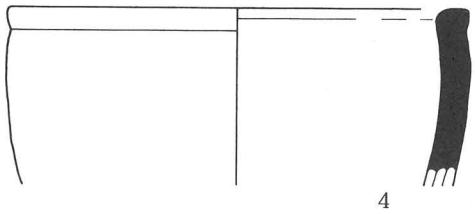


SK202 出土土器

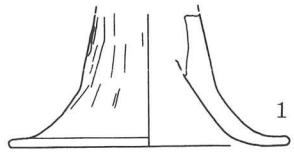




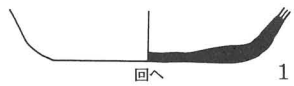




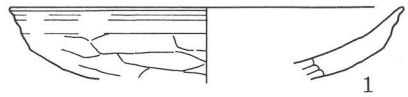
SK203 出土土器



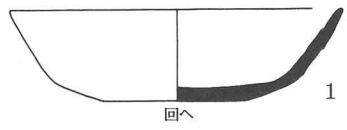
SK262 出土土器



SK315･SK316 出土土器

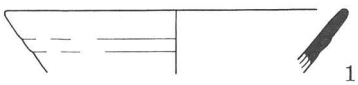


SK326 出土土器

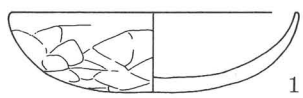


SK327 出土土器

SK148 出土土器

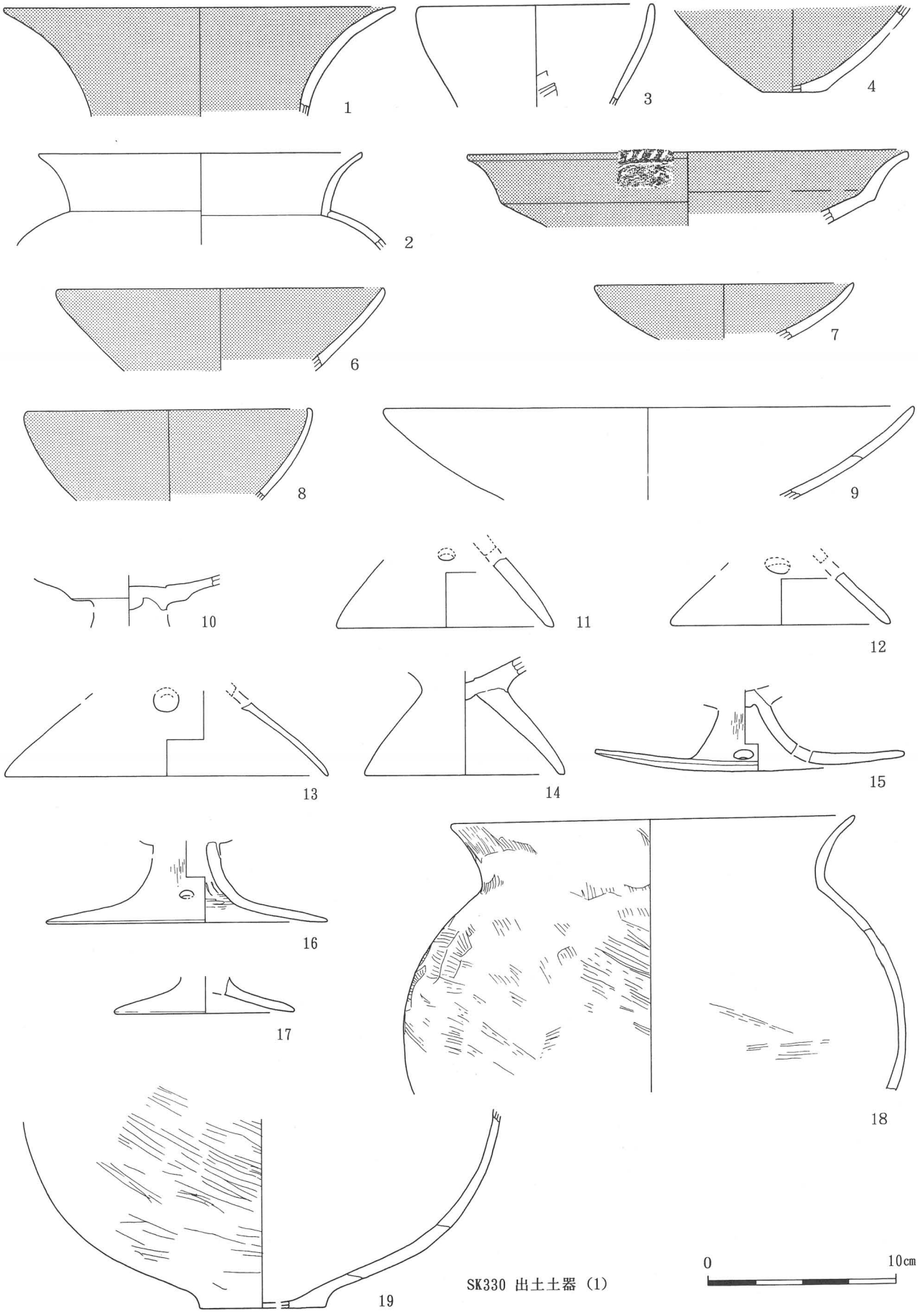


SK149 出土土器



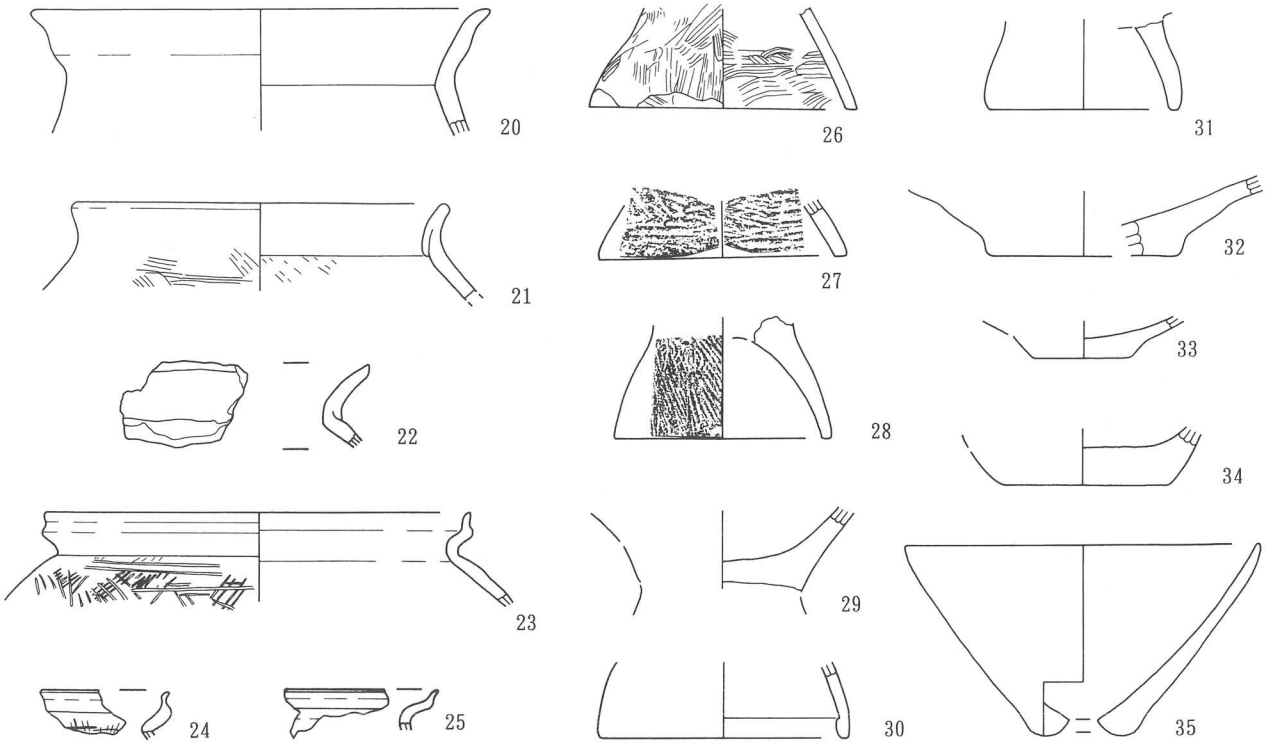
SK245 出土土器

第 90 図　土坑出土土器実測図(1)



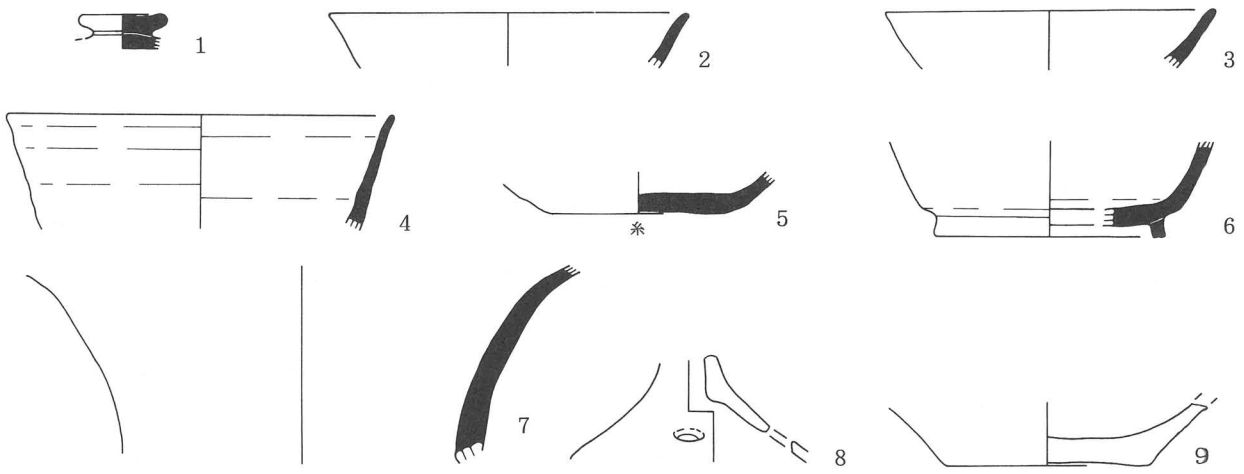
SK330 出土土器 (1)

第 90 図　土坑出土土器実測図(2)

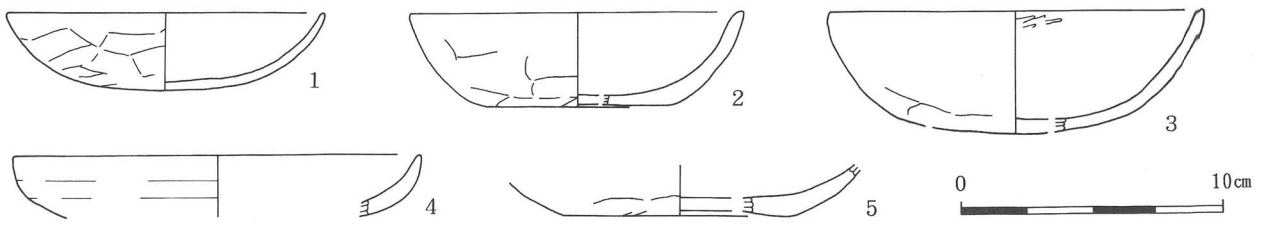


SK330 出土土器（2）

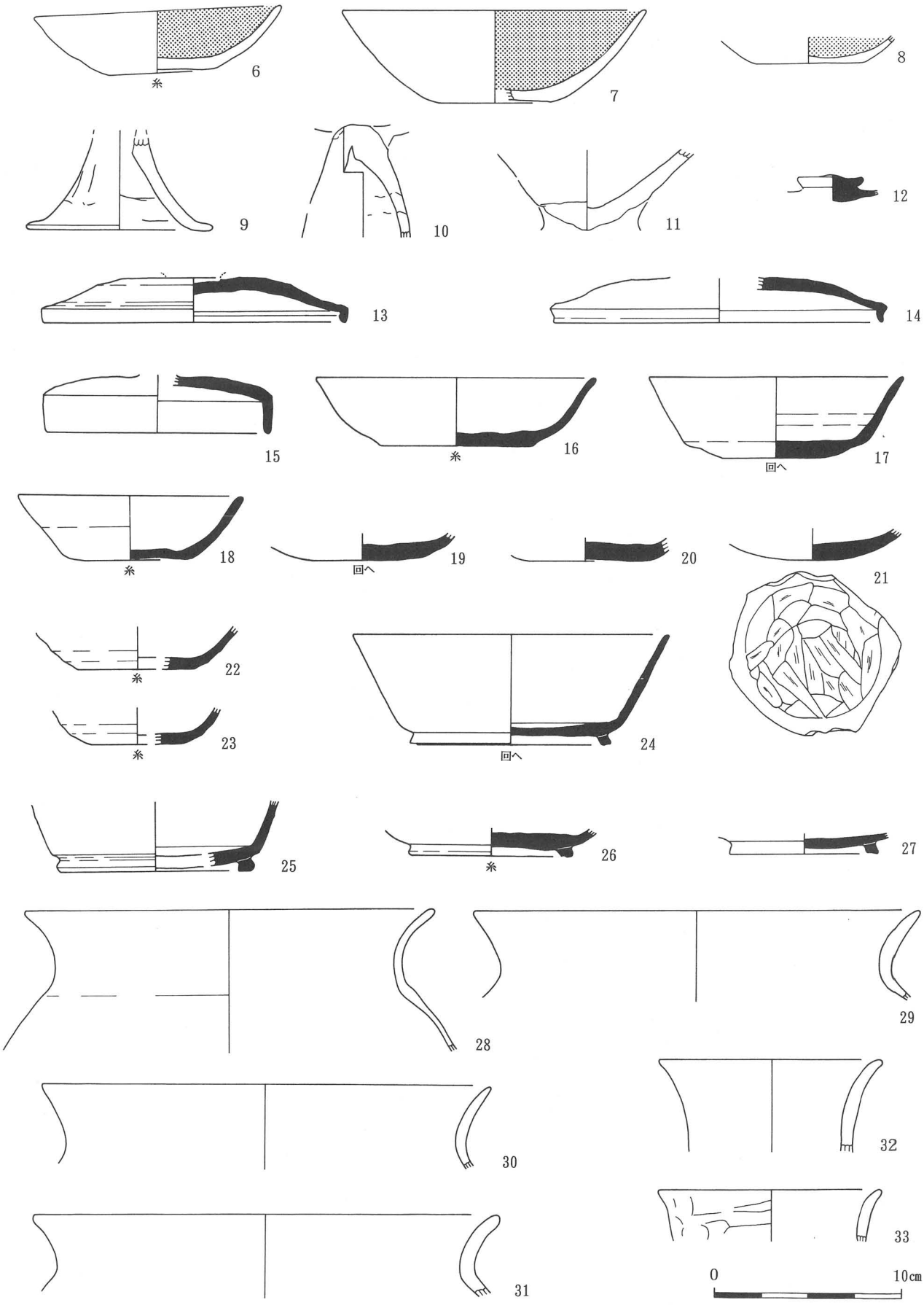
第 90 図　土坑出土土器実測図（3）



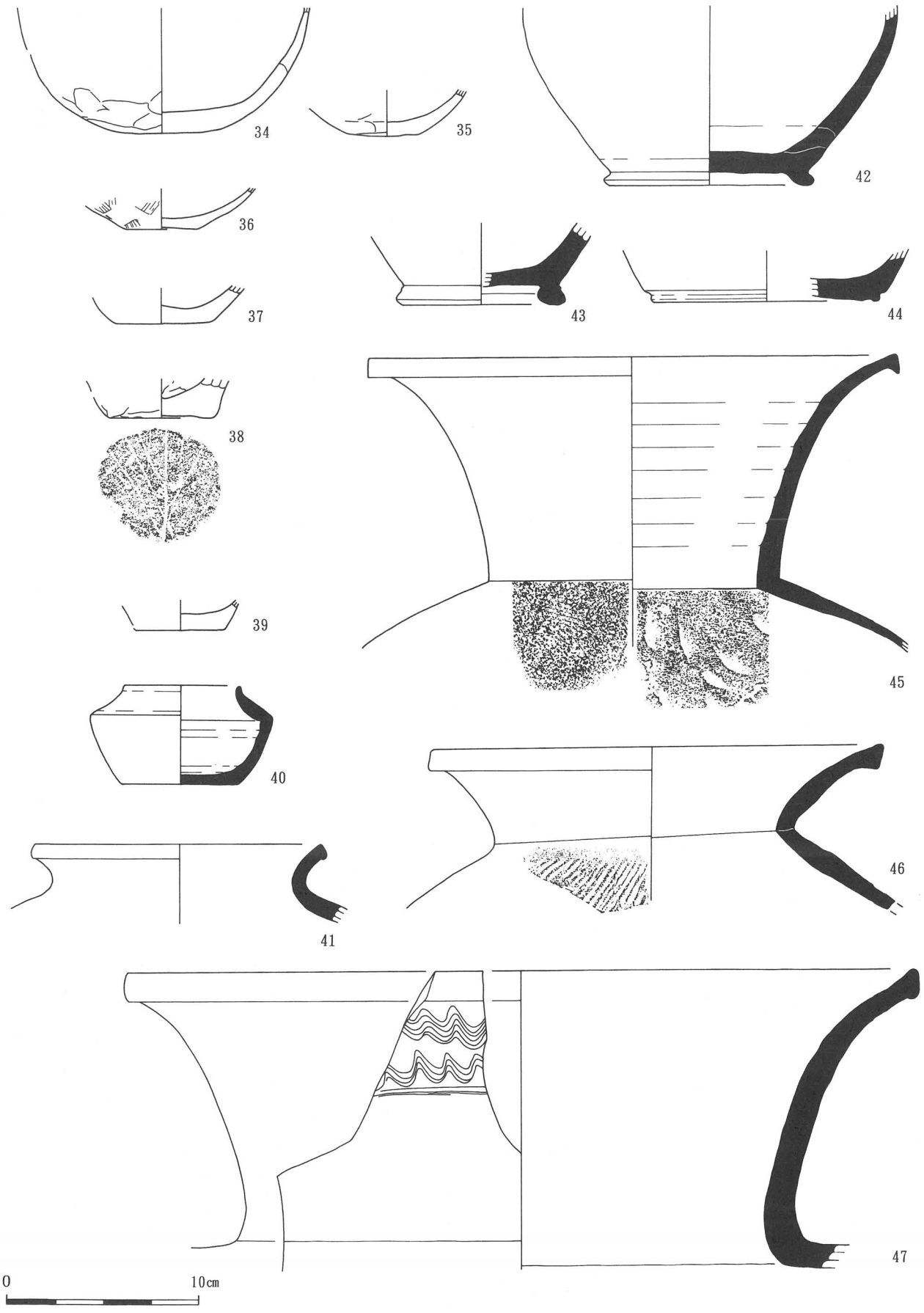
第 91 図　第 1 号溝跡出土土器実測図



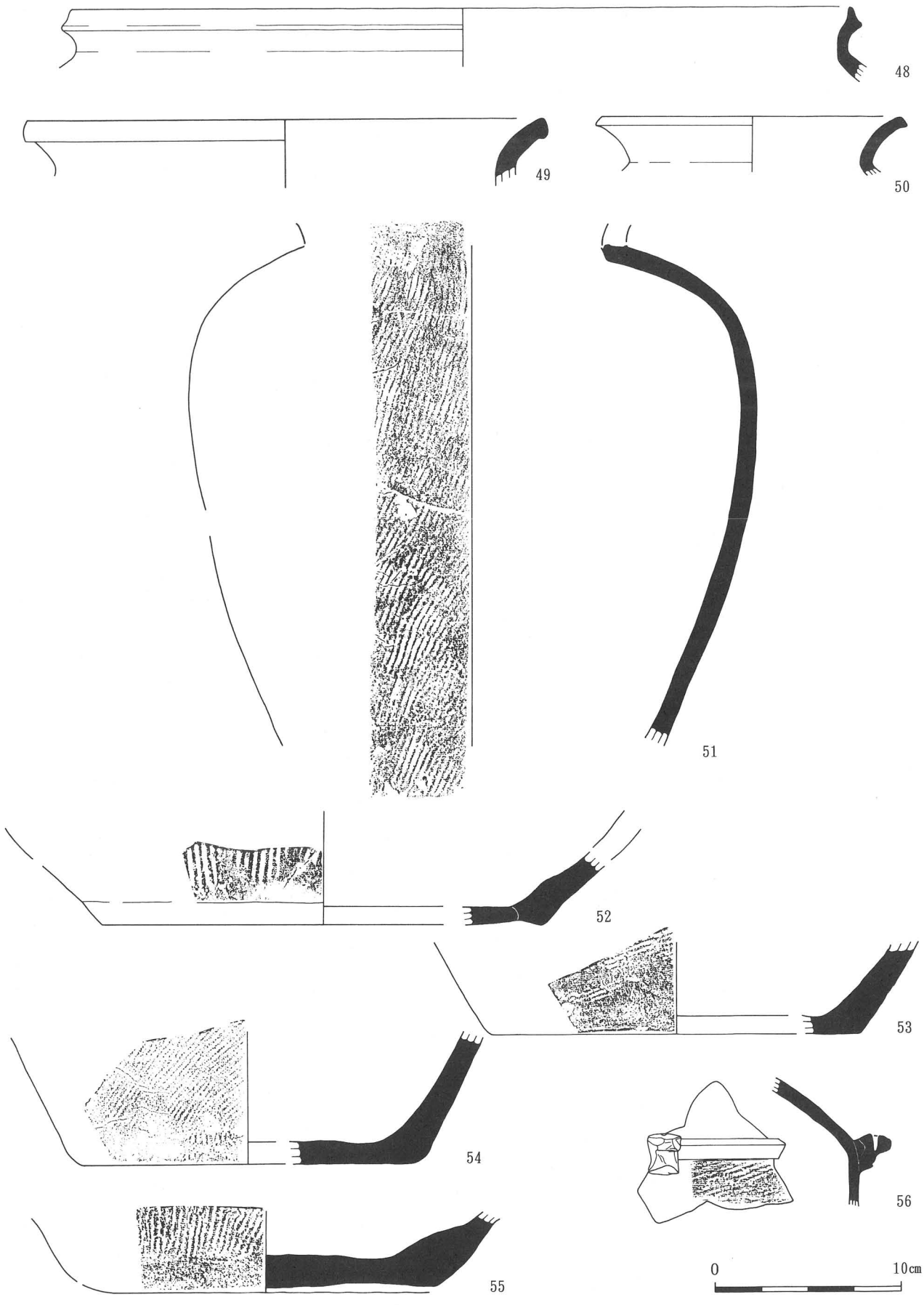
第 92 図　第 3 号溝跡出土土器実測図（1）



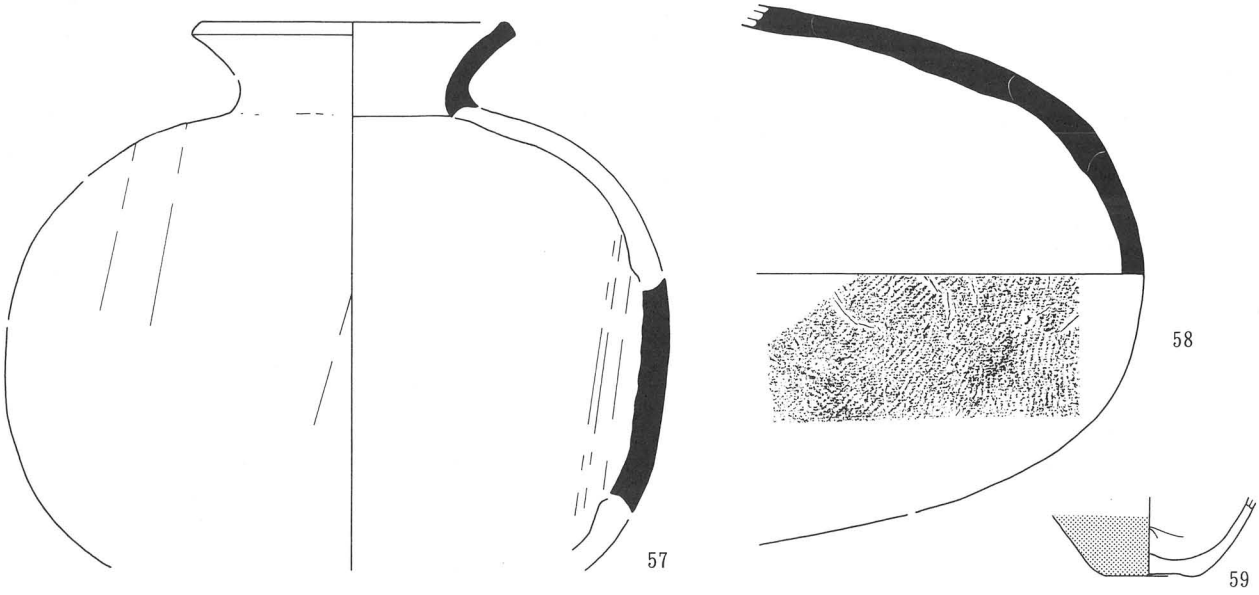
第 92 図　第 3 号溝跡出土土器実測図(2)



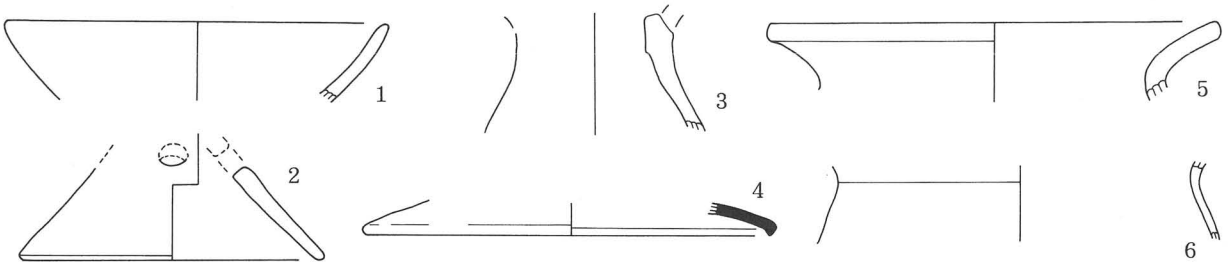
第 92 図　第 3 号溝跡出土土器実測図(3)



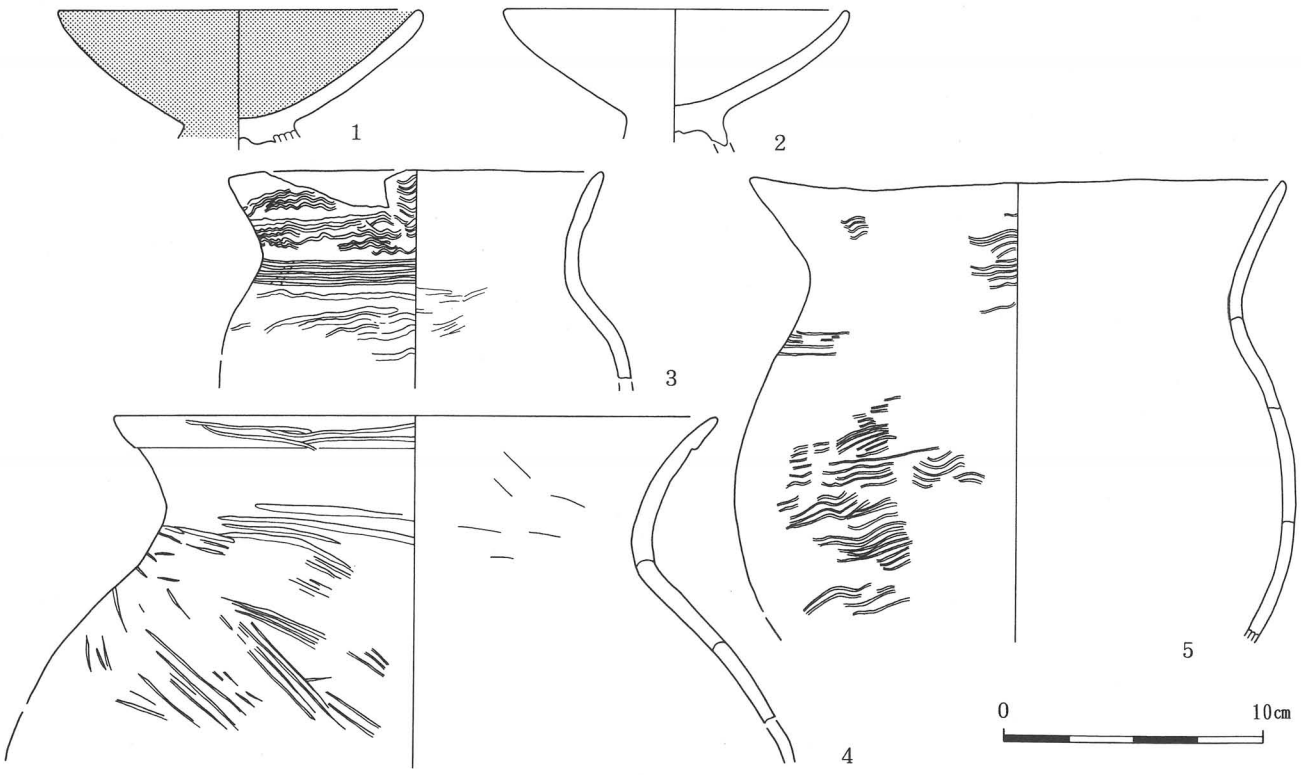
第 92 図　第 3 号溝跡出土土器実測図 (4)



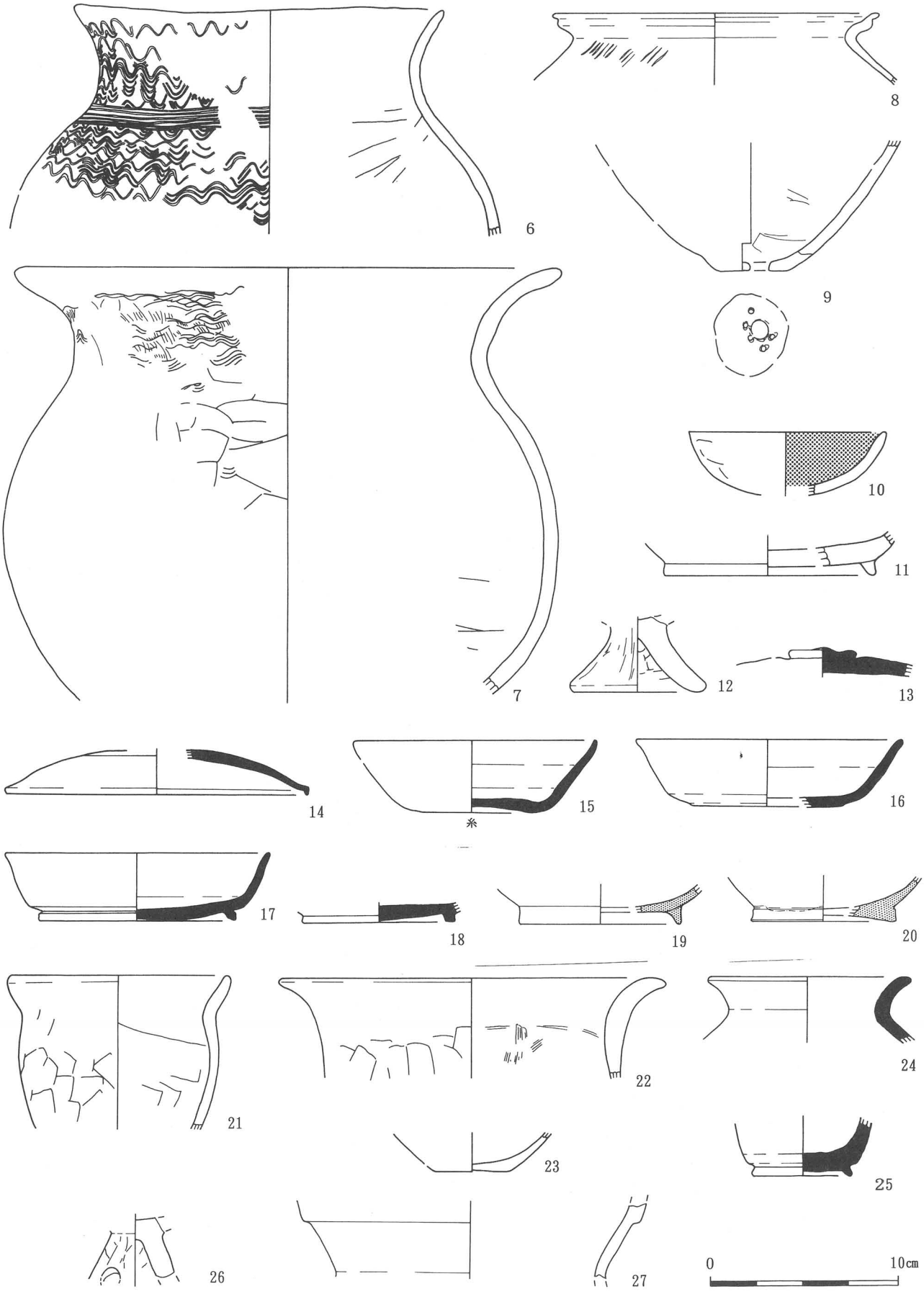
第 92 図　第 3 号溝跡出土土器実測図 (5)



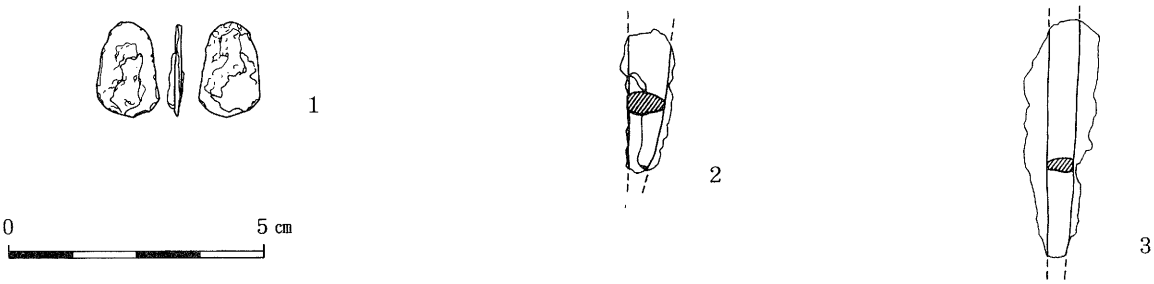
第 93 図　第 5 号溝跡出土土器実測図



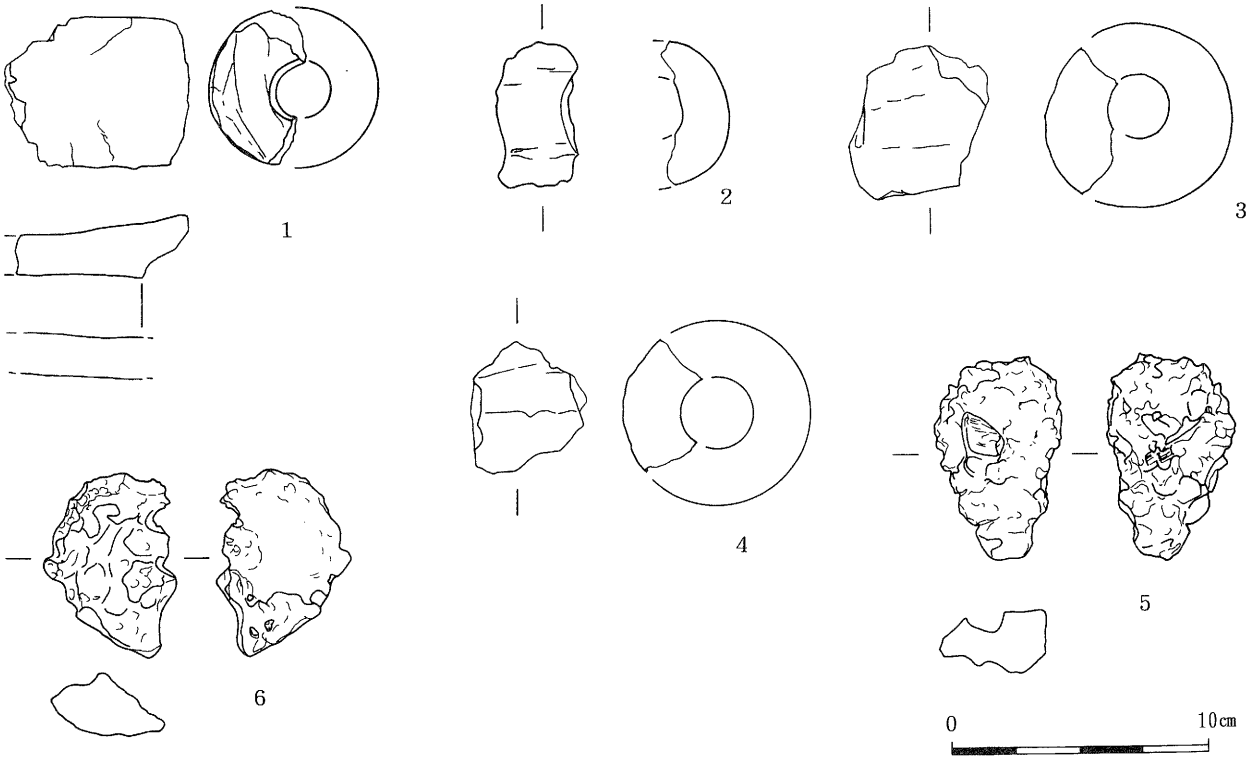
第 94 図　遺構外出土土器実測図 (1)



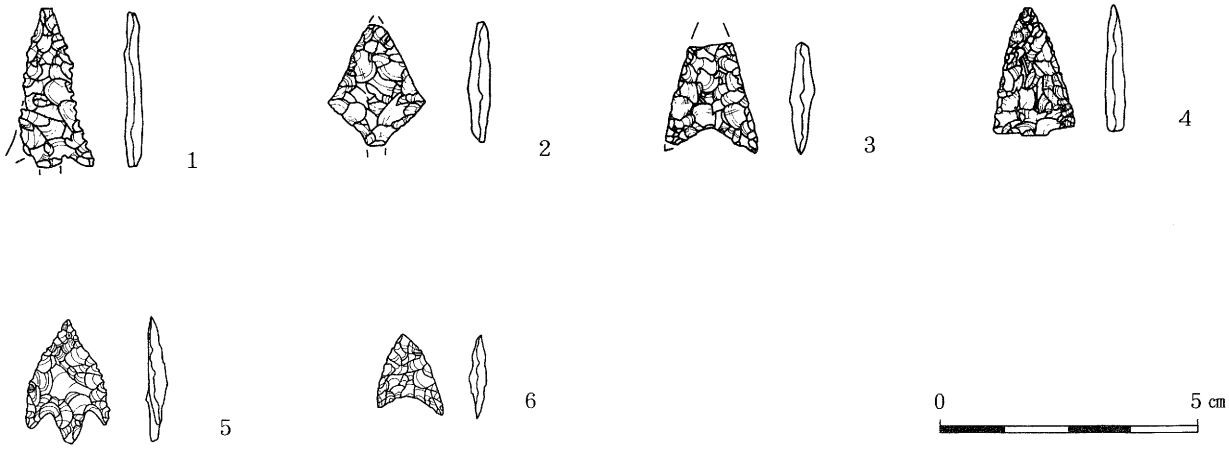
第 94 図　遺構外出土土器実測図(2)



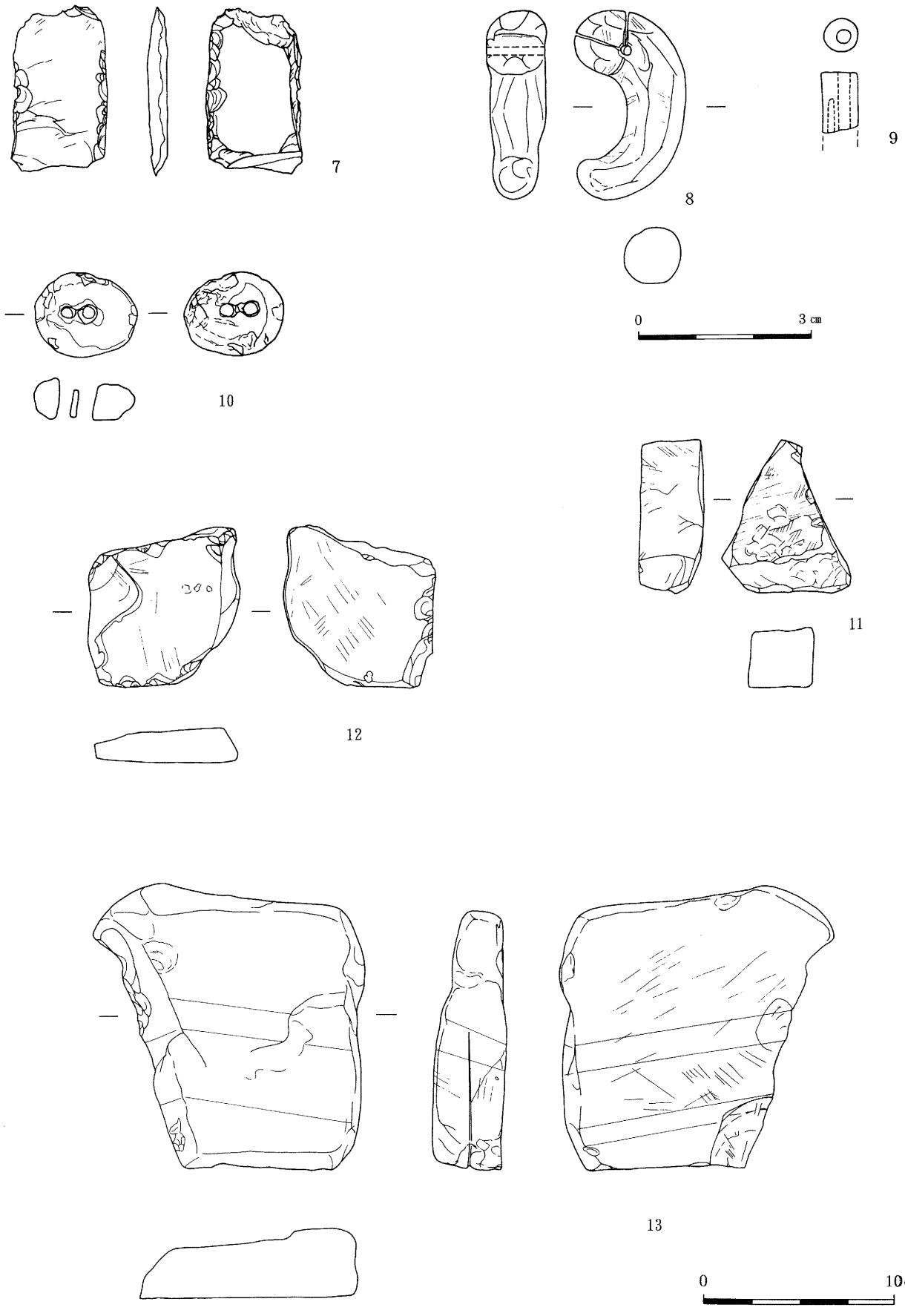
第 95 図　金属器実測図



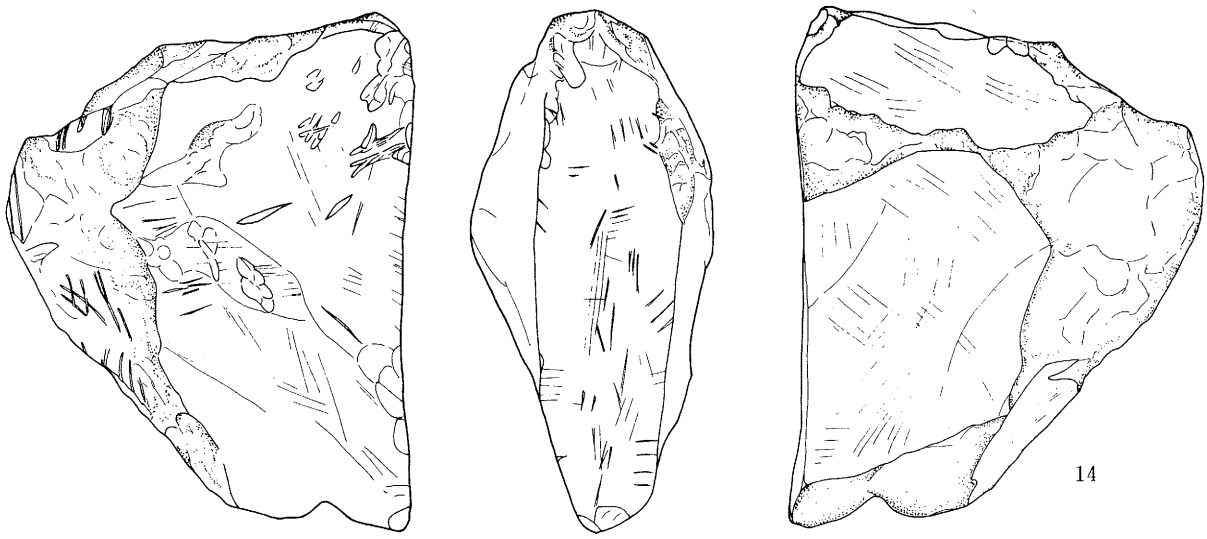
第 96 図　鍛冶関連実測図

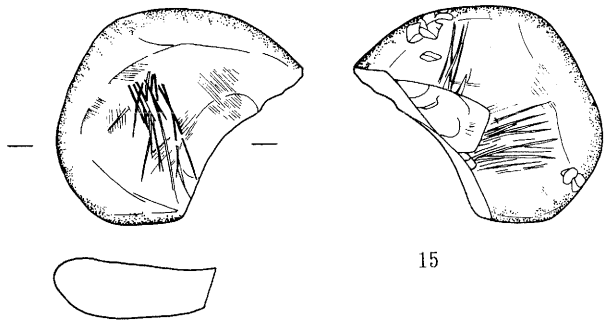


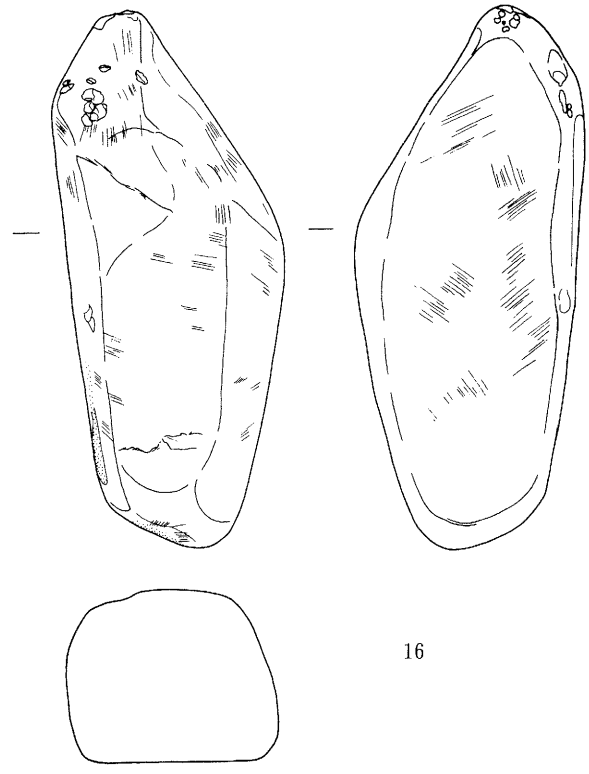
第 97 図　石器実測図(1)

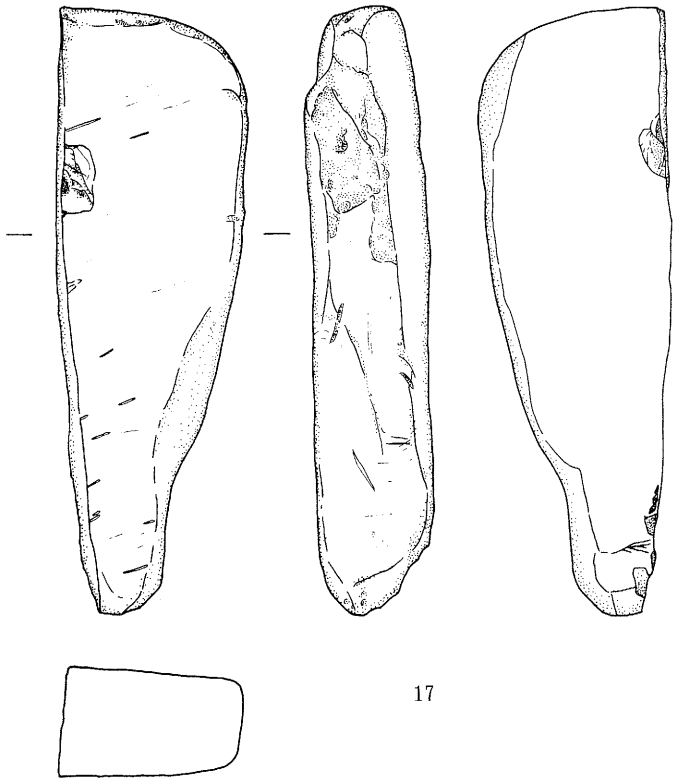


第 97 図　石器実測図(2)

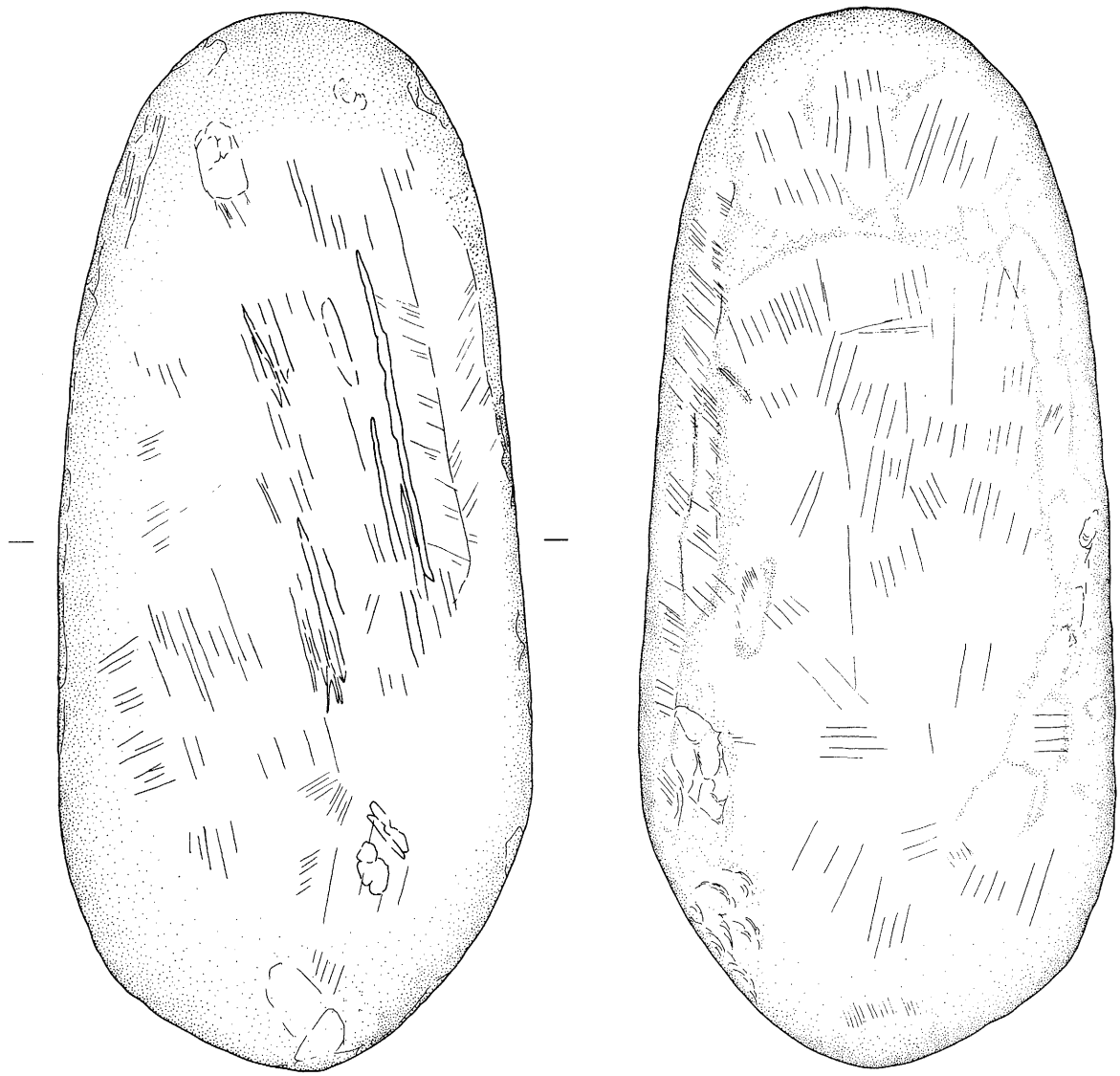








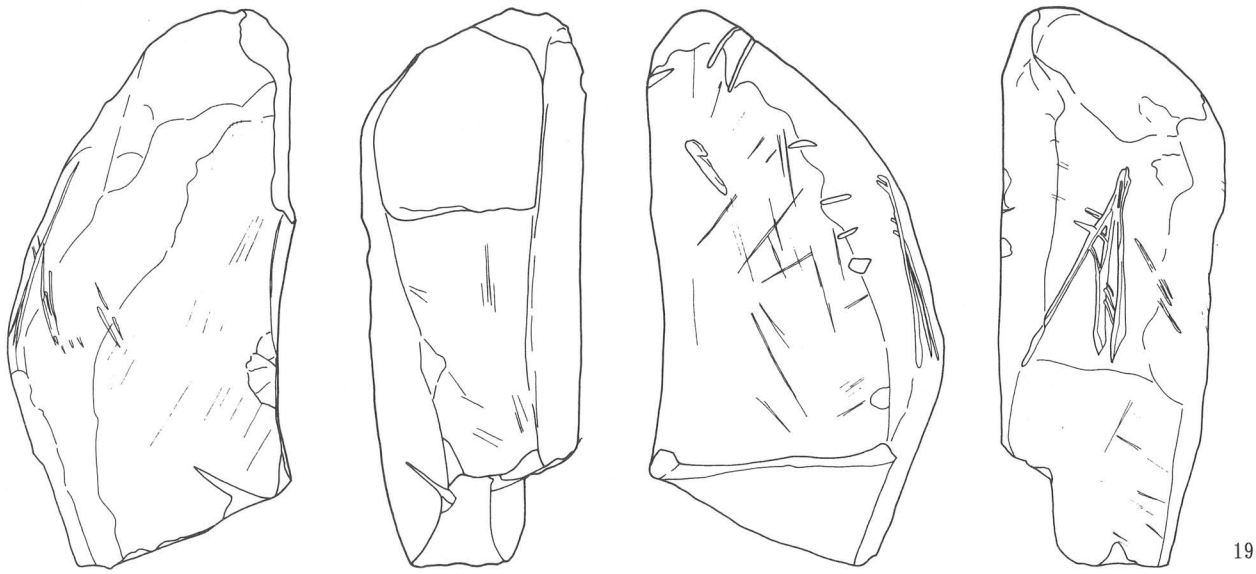
第 97 図　石器実測図 (3)

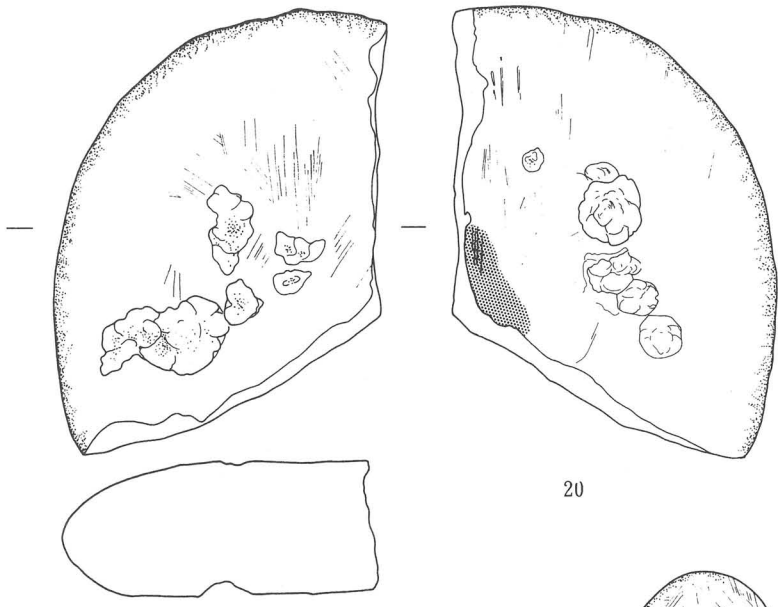


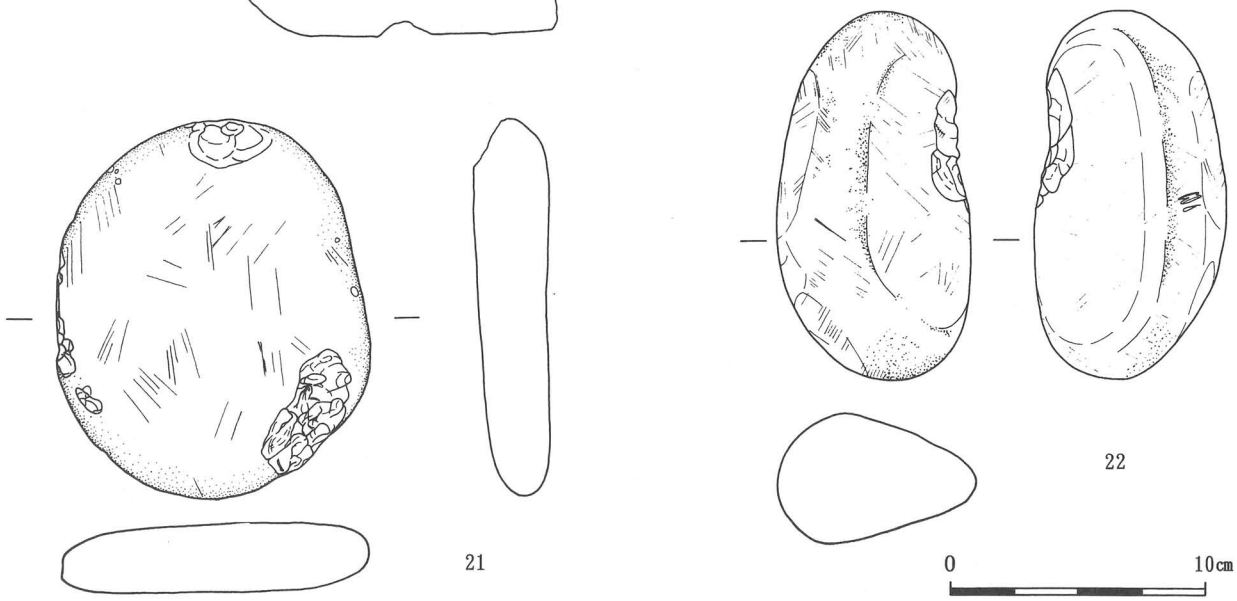
18

0 10cm

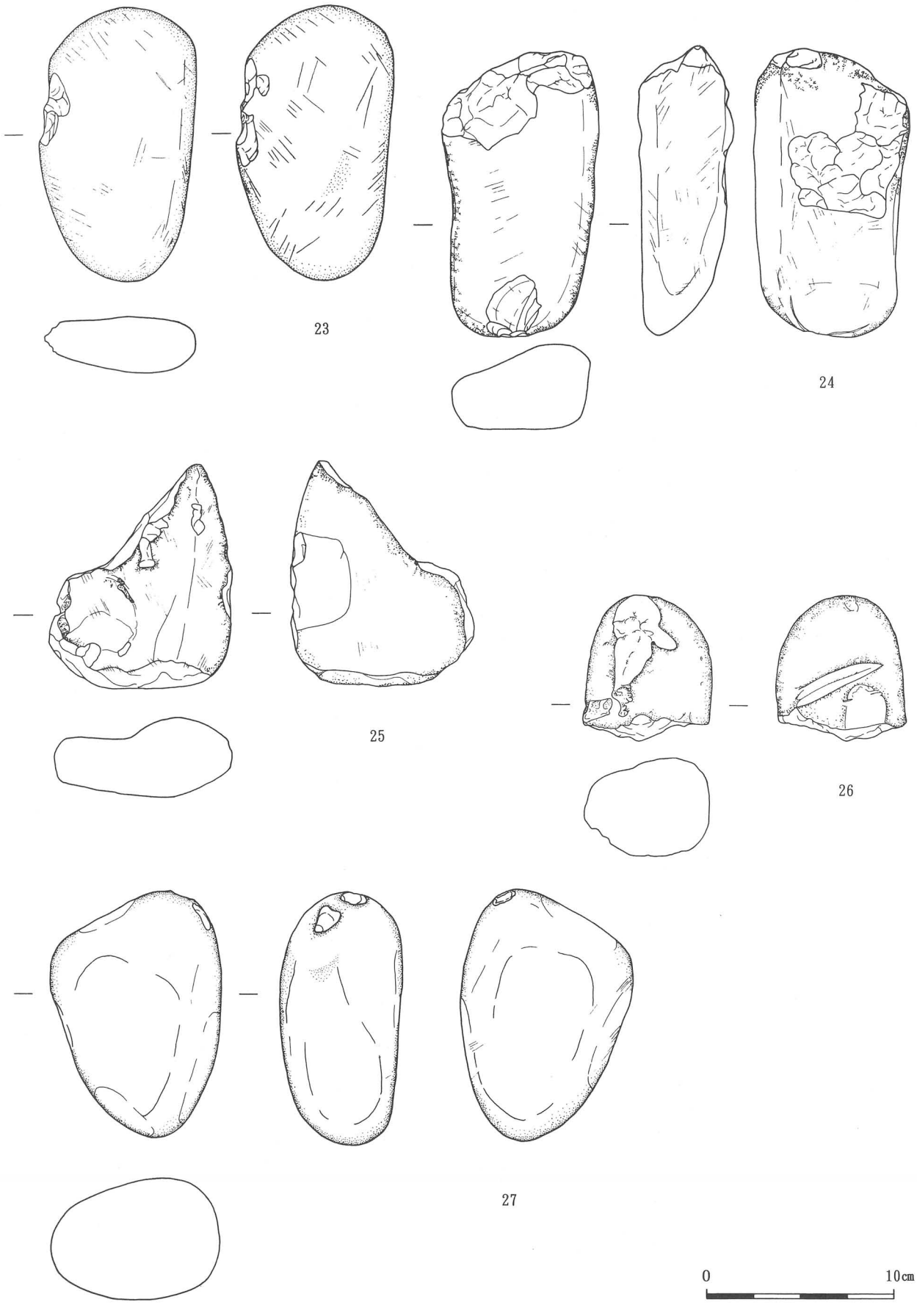
第 97 図　石器実測図(4)



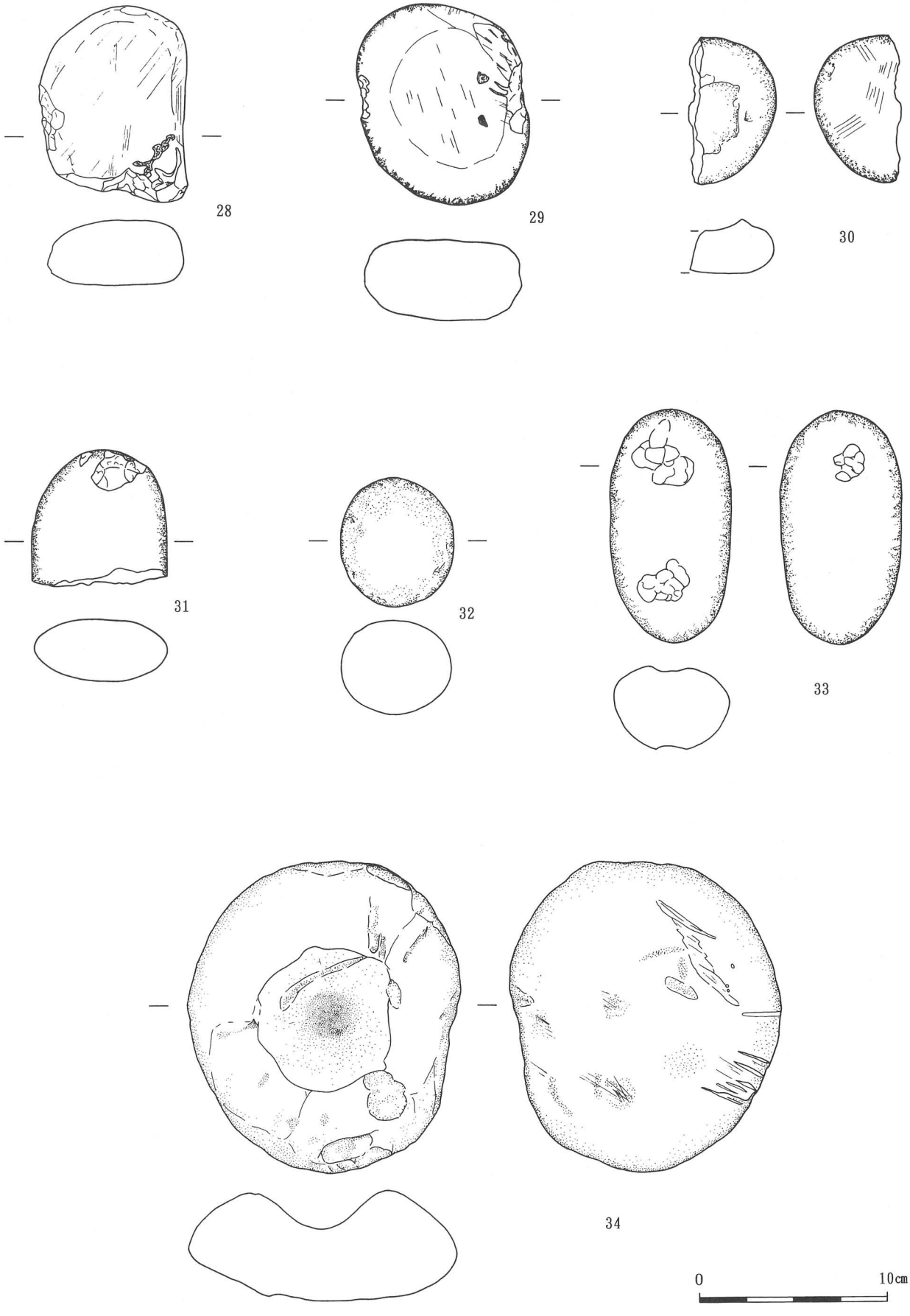




第 97 図　石器実測図(5)



第 97 図　石器実測図(6)



第 97 図　石器実測図(7)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB01 59図-1	坏 須恵	口径 — 残高 3.8 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	口縁部は直線的に開く	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB01 59図-2	坏 須恵	口径 — 残高 1.0 底径 8.0 底部1/2	胎；微砂粒、礫含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰	無高台の坏 内面底径10.0	(外) ロクロナデ 底部回転ヘラキリ (内) ロクロナデ
SB01 59図-3	鉢 須恵	口径(33.0) 残高 4.5 底径 — 口縁部～体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y5/1 黄灰 (内) 2.5Y5/1 黄灰	口縁部は内湾する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB01 59図-4	甕 土師	口径(23.4) 残高 14.8 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 10YR4/1 褐灰	口縁部は「く」の字状に折曲する 器厚は極めて薄い	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ (内) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ
SB02 60図-1	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 2.0 裾径 — 体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；酸化 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙		(外) 回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SB02 60図-2	蓋 須恵	抓み径— 残高 1.1 裾径(13.4) 体部一部	胎；石英、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N6/ 灰	裾部先端で折れる	(外) ケズリ (内) ロクロナデ
SB02 60図-3	坏 須恵	口径(13.2) 残高 3.1 底径 — 一部	胎；粗砂粒含む 焼；酸化 色；(外) 10YR5/1 褐灰 (内) 10YR5/1 褐灰	直線的に開く体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB02 60図-4	坏 須恵	口径(12.6) 残高 2.5 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	直線的に開く体部	(外) (内)
SB02 60図-5	甕 土師	口径(12.9) 残高 4.4 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐 (内) 7.5YR3/3暗褐	張りのある胴部より緩く「く」の字状に外反する 粘土紐積み上げ	(外) (内)
SB02 60図-6	甕 土師	口径 — 残高 9.0 底径 (7.1) 胴部～底部1/4	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	非常に薄い器壁	(外) ヘラケズリ (内)
SB02 60図-7	甕 須恵	口径 — 残高 4.7 底径 — 胴部一部	胎；礫、微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR5/2 灰黄褐 (内) 10YR6/1 褐灰		(外) タタキ目 (内) タタキ目
SB02 60図-8	甕 土師	口径 — 残高 3.2 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	口唇部に刻目 口縁部は外反する	(外) 刷毛調整 (内) 刷毛調整
SB02 60図-9	甕 土師	口径 — 残高 2.5 底径 — 胴部一部	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/2灰褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙		(外) 刷毛調整 (内)
SB03 61図-1	坏 土師	口径(15.4) 残高 3.2 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/3 浅黄 (内) N3/ 暗灰	体部は内湾する	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SB03 61図-2	坏 須恵	口径(15.1) 器高 4.4 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y3/1オリーブ黒 (内) 10Y6/1灰	口縁部は僅かに外反する	(外) ロクロナデ (内)
SB03 61図-3	甕 土師	口径(22.6) 残高 4.9 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) 7.5YR6/3にぶい褐	口縁部は外反する	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ

第18表　土器観察表(1)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB03 61図- 4	甕 土師	口径 — 残高 2.6 底径 (7.7) 底部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 5YR6/4にぶい橙	平底	(外) ナデ (内) ナデ
SB03 61図- 5	甕 土師	口径 — 残高 1.7 底径 (4.8) 底部1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR3/1 黒褐 (内) 10YR3/1 黒褐	平底	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SB03 61図- 6	甕 須恵	口径 — 残高 3.8 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒僅かに含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y7/1 灰白		(外) タタキ目 (内) タタキ目
SB03 61図- 7	台付 甕 土師	口径(13.4) 残高 1.8 裾径 — 口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	S字状口縁	(外) (内)
SB03 61図- 8	甕 土師	口径 — 残高 3.4 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は外反する 口唇部に刻目	(外) (内)
SB04 62図- 1	坏 土師	口径(20.4) 残高 4.4 底径 — 口縁部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR6/3 にぶい黄橙 (内) 黒	丸みのある体部 非ロクロ作り	(外) 体部手持ちヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (内) 横位のヘラミガキ 黒色処理
SB04 62図- 2	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 1.5 裾径 — 裾部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰	裾部で折れる ロクロ作り	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB04 62図- 3	甕 土師	口径 20.8 器高 33.3 底径 8.1 口縁~底1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 5YR5/6明赤褐	平底より立上がり張りのない長胴より外反して口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内)
SB04 62図- 4	甕 土師	口径 — 残高 4.1 底径 4.9 底部1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(外) ヘラケズリ 木葉痕あり (内) ナデ
SB04 62図- 5	高坏 土師	口径 — 残高 4.2 裾径 — 接合部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 2.5YR5/6明赤褐	小型の高坏 脚部に4つの透かしを持つ	(外) 縦のミガキ 赤色塗彩 (内) ナデ
SB04 62図- 6	器台 土師	口径 — 残高 5.4 裾径 — 接合部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR3/1 黒褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐		(外) ナデ (内) ナデ
SB04 62図- 7	甕 弥生	口径 — 残高 4.8 底径 — 頸部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	頸部は緩やかにくびれる	(外) 波状文 二段止めの簾条文 (内)
SB04 62図- 8	甕 土師	口径 — 残高 1.5 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒、石英多量に含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4/4にぶい赤褐 (内) 2.5YR4/4にぶい赤褐	口縁部折り返して段を有する	(外) 剥落が著しく不明 (内)
SB04 62図- 9	台付 甕 土師	口径(15.2) 残高 3.6 裾径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR3/3暗赤褐 (内) 5YR5/4にぶい赤褐	S字状口縁	(外) 表面の磨耗が著しく不明 (内)
SB04 62図-10	甕 土師	口径 — 残高 2.5 底径 — 胴部一部	胎；雲母、粗砂粒、石英多量に含む 焼；良好 色；(外) 5YR3/2暗赤褐 (内) 5YR4/8赤褐		(外) 刷毛調整 (内)
SB04 62図-11	甕 土師	口径 — 残高 1.4 底径 4.2 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(外) (内)

第 19 表　土器観察表（2）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB04 62図-12	甕 土師	口径 － 残高 1.4 底径 4.4 底部2/3	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(外) (内)
SB04 62図-13	甕 土師	口径 － 残高 2.0 底径 (7.6) 底部1/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(外) (内)
SB04 62図-14	壺 弥生	口径 － 残高 2.3 底径(16.8) 底部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y2/1黒~6/4にぶい黄橙 (内) 7.5YR6/6橙	平底	(外) (内)
SB04 62図-15	壺 土師	口径 － 残高 1.6 底径 (7.8) 底部1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	平底	(外) (内)
SB05 63図- 1	坏 土師	口径(13.6) 器高 4.0 底径 (7.0) 1/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) N3/ 暗灰~5YR6/6橙	平底より内湾して立上がり開く ロクロ作り	(外) ロクロナデ 底部切り離し不明 (内)
SB05 63図- 2	甕 土師	口径(26.2) 残高 3.5 底径 － 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)5YR4/4 にぶい赤褐 (内)5YR4/4 にぶい赤褐	口縁部は外反する	(外) (内)
SB05 63図- 3	甕 土師	口径 － 残高 (3.4) 底径(12.2) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/6橙	平底	(外) (内)
SB06 64図- 1	坏 土師	口径 (9.6) 残高 2.7 底径 － 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は内湾する	(外) ヘラケズリ (内)
SB06 64図- 2	坏 土師	口径(10.0) 残高 2.5 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR5/2 灰黄褐 (内) 5YR6/6橙	内湾して開き口縁部で折れてさらに内湾する	(外) (内)
SB06 64図- 3	坏 土師	口径(10.8) 残高 2.8 底径 － 1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/9明赤褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	丸底 口縁部は内湾する	(外) ヘラケズリ (内)
SB06 64図- 4	坏 土師	口径(10.8) 残高 3.6 底径 － 口縁部~体部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	薄手で体部は丸みがある 口縁部は内湾する	(外) ヘラケズリ (内)
SB06 64図- 5	坏 土師	口径(14.6) 器高 3.5 底径 － 1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/3にぶい赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	丸底より内湾して立上がり口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ
SB06 64図- 6	坏 土師	口径 14.3 器高 5.1 底径 － 3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 5YR7/4にぶい橙	丸底より内湾して立上がり口縁部に至る	(外) 体部ヘラケズリ 口縁部ナデ (内)
SB06 64図- 7	坏 土師	口径 12.4 器高 3.6 底径 － 4/5	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 黒	丸底より内湾して立上がり口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) 黒色処理
SB06 64図- 8	坏 土師	口径(13.4) 残高 4.3 底径 － 口縁部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) 黒	丸みのある体部より外反する口縁部に至る	(外) 体部ヘラケズリ (内) 黒色処理
SB06 64図- 9	高坏 土師	口径 － 残高 3.4 裾径 － 接合部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 黒~10YR6/3にぶい黄橙		(外) (内) ミガキ

第 20 表　土器観察表(3)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB06 64図-10	高坏 土師	口径 — 残高 2.2 裾径 10.0 脚部1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/6橙 (内) 5YR7/6橙	裾部は大きく広がる	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB06 64図-11	高坏 土師	口径 — 残高 2.2 裾径 — 接合部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい赤褐 (内) 7.5YR4/2灰褐		(外) (内)
SB06 64図-12	鉢 土師	口径(15.6) 残高 4.9 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/3にぶい褐	口縁部は緩く僅かに外反する	(外) (内)
SB06 64図-13	鉢 土師	口径(12.4) 残高 8.0 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4/3にぶい赤褐 (内) 2.5YR3/1暗赤灰	丸い体部 口縁部は先端で小さく外反する	(外) 口縁部ヨコナデ 体部ケズリ (内)
SB06 64図-14	蓋 須恵	抓み径2.1 器高 2.2 裾径 11.1 完存	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y4/2オリーブ灰 (内) 10Y5/1灰	抓み部は偏平な宝珠形を呈する 内面に返りがつく ロクロ作り	(外) 自然釉を施す (内) ロクロナデ
SB06 64図-15	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 1.3 裾径 — 裾部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y5/ 灰 (内) 10Y5/ 灰	口縁部に返しがつく	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB06 64図-16	坏 須恵	口径(10.6) 器高 3.5 底径 (6.6) 口縁部~底部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/1 灰白 (内) 2.5Y6/1 黄灰	平底より外傾して立ち上がる 内面底径 6.0	(外) ロクロナデ 底部ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SB06 64図-17	坏 須恵	口径 — 残高 2.0 底径 (7.4) 底部一部	胎；微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y7/1 灰白	内面底径 8.2	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SB06 64図-18	鉢 須恵	口径(11.0) 残高 4.0 底径 — 口縁部~体部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	短く外反する口縁部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB06 64図-19	盤 須恵	口径(31.1) 残高 7.6 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y5/1 灰 (内) 7.5Y5/1 灰	体部は丸みをもち口唇部で面を取る	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB06 64図-20	甕 土師	口径(20.2) 残高 10.5 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は強く外反する 胴部は張りがない 粘土紐積み上げ	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部刷毛調整 (内) ケズリ
SB06 64図-21	甕 土師	口径(20.0) 残高 6.6 底径 — 口縁部1/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐	口縁部は大きく外反する 胴部は張りがない	(外) 胴部ヘラケズリ (内) 口縁部から胴部ナデ
SB06 64図-22	甕 土師	口径(22.0) 残高 6.1 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は外反する	(外) (内)
SB06 64図-23	甕 土師	口径(19.8) 残高 9.0 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR4/6赤褐	口縁部は強く外反する 胴部は張りがある	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB06 64図-24	甕 土師	口径(24.0) 残高 3.4 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR5/4にぶい赤褐	口縁部は外反する	(外) (内)
SB06 64図-25	甕 土師	口径(20.0) 残高 8.2 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/2 にぶい黄橙~4/1 黒 (内) 10YR7/3 にぶい黄橙	口縁部は短く外反する 胴部は張りがある 粘土紐積み上げ	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ

第 21 表　土器観察表 (4)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB06 64図-26	甕 土師	口径(17.4) 残高 6.5 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	口縁部は外反し口唇部は面を取る	(外) 胴部ヘラケズリ (内)
SB06 64図-27	甕 土師	口径(15.0) 残高 12.4 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/6橙 (内) 2.5YR6/8橙	口縁部は緩く外反する 胴部は丸みがある	(外) 刷毛調整 ナデ ケズリ (内) 刷毛調整
SB06 64図-28	甕 土師	口径(18.8) 残高 8.4 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は強く外反する 胴部は張りがある	(外) 刷毛調整 (内) 刷毛調整
SB06 64図-29	甕 土師	口径(16.6) 残高 6.7 底径 — 口縁部～頸部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 5YR5/6明赤褐	口縁部は緩く外反する	(外) 胴部ヘラケズリ (内)
SB06 64図-30	甕 土師	口径(14.6) 残高 3.2 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐 (内) 7.5YR3/1黒褐	口縁部は短く屈曲して外反する 口縁部に面取りを施す	(外) ナデ (内) ナデ
SB06 64図-31	甕 土師	口径 — 残高 12.0 底径 — 胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/8橙 (内) 5YR6/8橙		(外) (内) 刷毛調整
SB06 64図-32	甕 土師	口径 — 残高 4.3 底径 (3.1) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/8橙 (内) 7.5YR8/6浅黄橙	丸底	(外) 刷毛調整 (内) ナデ ケズリ
SB06 64図-33	甕 土師	口径 — 残高 2.6 底径 (5.2) 底部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/3にぶい赤褐		(外) 胴部ヘラケズリ 底部木葉痕あり (内)
SB06 64図-34	甕 土師	口径 — 残高 1.2 底径 6.6 底部1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐	平底	(外) (内)
SB06 64図-35	甑 土師	口径 — 残高 3.8 底径(10.0) 底部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 2.5YR5/4にぶい赤褐	底部に１孔を有する 粘土紐積み上げ	(外) (内)
SB06 64図-36	ミニチュア 土師	口径 (2.8) 器高 1.4 底径 1.6 1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR5/3 にぶい黄褐 (内) 黒	手捏ね	(外) (内) ミガキ 黒色処理
SB06 64図-37	台付甕 土師	口径 — 残高 2.3 裾径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	S字状口縁	(外) (内)
SB07 65図- 1	坏 土師	口径(11.2) 残高 3.9 底径 — 口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 黒	丸底より折れて直立し口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) 黒色処理
SB07 65図- 2	坏 須恵	口径(10.6) 残高 3.3 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB07 65図- 3	坏 須恵	口径(10.8) 残高 2.0 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) N6/ 灰		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB07 65図- 4	甕 土師	口径 — 残高 1.5 底径 (5.2) 底部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	平底 器厚は薄い	(外) (内)

第 22 表　土器観察表 (5)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB07 65図- 5	甕 土師	口径 － 残高 1.2 底径 (6.2) 底部1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/8橙 (内) 5YR7/8橙	平底	(外) (内)
SB08 66図- 1	坏 土師	口径(12.1) 残高 2.9 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 黒	丸みのある体部	(外) ヘラケズリ (内) 黒色処理
SB08 66図- 2	坏 須恵	口径 － 残高 1.4 底径 (7.0) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/1 灰白 (内) 2.5Y7/1 灰白	内面底径 7.0	(外) 底部回転ヘラキリ (内) ロクロナデ
SB08 66図- 3	坏 須恵	口径 － 残高 1.3 底径 (7.0) 底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/1 灰白 (内) 2.5Y7/1 灰白	内面底径 7.0	(外) 底部回転ヘラキリ後ヘラ調整 (内) ロクロナデ
SB08 66図- 4	坏 須恵	口径(15.8) 残高 5.0 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y6/1灰 (内) 7.5Y6/1 灰		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB08 66図- 5	甕 土師	口径 (7.5) 残高 3.8 底径 － 口縁部1/4	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/4にぶい赤褐	口縁部は短く外反する	(外) ナデ (内) ナデ
SB08 66図- 6	甕 土師	口径(16.2) 残高 1.8 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は外反する	(外) (内)
SB08 66図- 7	甕 土師	口径(21.4) 残高 4.0 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 10YR4/1 褐灰	口縁部は外反する	(外) (内)
SB08 66図- 8	甕 土師	口径(10.6) 残高 3.2 底径 － 口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は外反する	(外) 縦のミガキ (内) 横のミガキ
SB08 66図- 9	甕 土師	口径 － 残高 2.1 底径 (6.4) 底部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 7.5YR6/6橙	平底	(外) (内)
SB08 66図-10	甕 弥生	口径(12.0) 残高 2.8 底径 － 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 7.5YR4/3褐		(外) 波状文を施す (内) ミガキ
SB08 66図-11	甕 弥生	口径 － 残高 1.5 底径 (8.1) 底部1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 7.5YR7/6橙	平底	(外) ヘラケズリ (内)
SB09 67図- 1	坏 土師	口径 (8.0) 残高 2.1 底径 － 口縁部~体部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/8橙～7/4にぶい橙 (内) 5YR6/8橙	比較的小型で体部が浅い	(外) (内)
SB09 67図- 2	高坏 土師	口径(11.0) 残高 5.0 裾径 － 坏部3/4~接合部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR7/6橙10YR7/4にぶい黄橙 (内) 黒	坏部に脚を付す	(外) 坏部下半から脚部ヘラケズリ (内) 坏部ミガキ 脚部ヘラケズリ 黒色処理
SB09 67図- 3	高坏 土師	口径 － 残高 5.0 裾径 6.8 坏部一部~脚部3/4	胎；雲母、礫、白色砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙~7/1明褐灰 (内) 坏部N3/暗灰~脚部N6/灰	坏部に脚を付す	(外) 坏部から脚部ヘラケズリ (内) 坏部ミガキ脚部ヘラケズリ 坏部黒色処理
SB09 67図- 4	鉢 土師	口径(19.4) 残高 6.3 底径 － 1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙~10YR7/4にぶい黄橙 (内) N3/暗灰~5YR7/3にぶい橙	丸みのある体部より外反して口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) ナデ

第 23 表　土器観察表 (6)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB09 67図- 5	坏蓋 須恵	抓み径－ 残高 1.1 裾径(14.0) 裾部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰	裾部は大きく開き先端で小さく内側に折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB09 67図- 6	坏 須恵	口径(14.0) 器高 4.4 底径 － 1/3	胎；礫、白色砂粒、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰～10YR5/1 褐灰 (内) N6/ 灰	平底より立上がり直線的に開いて口縁部に至る 内面底径 8.0	(外) 底部回転ヘラキリ (内) ロクロナデ
SB09 67図- 7	坏 須恵	口径(14.4) 残高 3.7 底径 － 1/4	胎；微砂粒を僅かに含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y5/1 灰 (内) 7.5Y5/1 灰	直線的に開く体部 内面底径 8.6	(外) ロクロナデ 底部回転ヘラキリ (内) ロクロナデ
SB09 67図- 8	坏 須恵	口径(12.8) 残高 3.9 底径 － 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y5/1灰~10YR5/2灰黄褐 (内) 7.5Y5/1灰~10YR5/2灰黄褐	直線的に開く体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB09 67図- 9	甕 土師	口径 12.4 器高 12.0 底径 － 口縁部~胴部3/4	胎；石英、礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) N2/1黒	張りのない胴部より外反して口縁部に至る 小型の甕でゆがみが大きい	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB09 67図-10	甕 土師	口径(23.0) 残高 12.6 底径 － 口縁部~胴部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/6褐 (内) 7.5YR5/4褐～4/1 褐灰	丸みのある胴部より外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) 口縁部ヨコナデ 頸部横位のヘラケズリ 胴部斜位のヘラケズリ (内)
SB09 67図-11	甕 土師	口径(20.2) 残高 12.5 底径 － 口縁部~胴部1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/1褐~5/8明褐 (内) 7.5YR5/8明褐	張りのない胴部より外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) 胴部ヘラケズリ (内) 胴部ヘラケズリ
SB09 67図-12	甕 土師	口径(20.0) 残高 7.1 底径 － 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/4 にぶい黄橙 (内) 7.5YR6/6橙	張りのない胴部より緩く僅かに外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB09 67図-13	甕 土師	口径 － 残高 1.6 底径 (5.6) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙~6/4 にぶい橙 (内) 7.5YR7/6橙	平底	(外) (内)
SB09 67図-14	壺 須恵	口径(22.0) 残高 2.8 底径 － 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/1灰 (内) 7.5YR5/1灰	口縁帯を有する	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB10 68図- 1	坏 土師	口径 － 残高 2.1 底径 (7.6) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 黒		(外) (内) ミガキ 黒色処理
SB10 68図- 2	蓋 須恵	抓み径 (2.8) 器高 4.2 裾径(18.2) 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y5/1 灰 (内) N6/ 灰	抓み部は偏平の宝珠形 口縁部端部を折り曲げる	(外) ロクロナデ　ケズリ (内) ロクロナデ
SB10 68図- 3	坏蓋 須恵	抓み径－ 残高 2.2 裾径(17.0) 裾部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	裾部先端で小さく折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB10 68図- 4	坏 須恵	口径(14.2) 器高 5.0 底径 (1.8) 口縁部~底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	丸みのある平底	(外) 底部回転ヘラキリ 体部ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB10 68図- 5	坏 須恵	口径(13.4) 残高 3.8 底径 － 口縁部~底部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR7/6橙	丸みのある平底 体部は直線的に開く	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB10 68図- 6	坏 須恵	口径 － 残高 1.5 底径(10.6) 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/1灰 (内) 7.5YR5/1灰	四角形の高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ

第 24 表　土器観察表（7）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB10 68図- 7	甕 土師	口径(14.6) 残高 5.1 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 10YR5/2 灰黄褐	小型の甕 張りのある胴部より強く外反して口縁部に至る	(外) 口縁部ヨコナデ 頸部から胴部へラケズリ (内) ナデ
SB10 68図- 8	甕 土師	口径(11.0) 残高 4.8 底径 — 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/6橙	小型の甕 丸みのある胴部より外反して口縁部に至る	(外) (内)
SB10 68図- 9	甕 土師	口径(12.8) 残高 3.6 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 2.5YR5/6明赤褐	小型の甕 口縁部は外反する	(外) (内)
SB10 68図-10	甕 土師	口径(27.6) 残高 7.3 底径 — 口縁部1/4	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	張りのない胴部より緩く外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部刷毛調整 (内)
SB10 68図-11	甕 土師	口径 — 残高 2.9 底径 (5.4) 底部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	平底	(外) ヘラケズリ (内)
SB10 68図-12	甕 土師	口径 — 残高 2.2 底径 (8.2) 底部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/1褐灰 (内) 2.5Y4/1 黄灰	平底	(外) 表面の剥落著しい (内) ナデ
SB10 68図-13	壺 須恵	口径 — 残高 4.5 底径(10.0) 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y6/1 灰 (内) 7.5Y6/1 灰	高台を付す	(外) 底部ナデ 胴部ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SB10 68図-14	甕 須恵	口径(38.2) 残高 15.2 底径 — 口縁部～体部一部	胎；粗砂粒を僅かに含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y5/1 灰 (内) 7.5Y5/1 灰		(外) 胴部タタキ目 (内) ケズリ ナデ
SB10 68図-15	甕 須恵	口径(19.2) 残高 2.8 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y7/1 灰白 (内) 2.5Y6/1 黄灰	口縁部に面取りを施す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB11 69図- 1	坏 須恵	口径 — 残高 1.6 底径 (7.5) 底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；不良 色；(外) 5Y8/1 灰白 (内) 5Y8/1 灰白～8/3 淡黄		(外) 表面は磨耗していて不明 (内) 表面は磨耗していて不明
SB11 69図- 2	坏 須恵	口径 — 残高 1.2 底径 (6.4) 底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y7/1 灰白 (内) 7.5Y7/1 灰白		(外) 底部回転ヘラキリ (内) ロクロナデ
SB11 69図- 3	壺 須恵	口径(12.0) 残高 1.3 底径 — 口縁部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y7/1 灰白 (内) 5Y7/1 灰白	口縁帯を有す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB12 70図- 1	坏 土師	口径 13.9 器高 4.5 底径 7.0 3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 黒	平底 体部は直線的に開く	(外) 表面が剥落していて不明 (内) ミガキ 黒色処理
SB12 70図- 2	坏 土師	口径(12.7) 器高 4.5 底径 7.1 口縁部一部底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 黒	平底 体部は直線的に開く	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 黒色処理
SB12 70図- 3	坏 須恵	口径 13.0 器高 3.8 底径 5.4 1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) 5Y6/1 灰	平底 体部は直線的に開く 内面底径 7.6	(外) 底部回転糸切痕あり (内) ナデ
SB12 70図- 4	坏 須恵	口径(12.2) 残高 3.4 底径 (5.5) 口縁部～底部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰	体部は大きく開く 口縁部で外反する 内面底径 6.6	(外) 底部切り離し後未調整 火襷あり (内) ナデ 火襷あり

第 25 表　土器観察表 (8)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB12 70図- 5	坏 須恵	口径 — 残高 1.3 底径 (6.8) 底部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y6/1 黄灰 (内) 2.5Y6/1 黄灰	内面底径 7.0	(外) 底部回転糸切痕あり (内) ロクロナデ
SB12 70図- 6	坏 須恵	口径 13.6 器高 3.9 底径 9.8 ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) 10Y5/1灰	高台を付す 箱形の体部	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SB12 70図- 7	坏 須恵	口径 13.8 器高 3.8 底径 10.3 1/2	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y5/1灰 (内) 10Y5/1灰	高台を付す 箱形の体部	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SB12 70図- 8	甕 須恵	口径 — 残高 6.5 底径 (7.8) 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰～N4/ 灰 (内) 5Y6/1 灰		(外) タタキ目 (内) ナデ
SB12 70図- 9	横瓶 須恵	口径 — 残高 20.3 底径 — 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y5/1 灰 (内) N4/ 灰～7.5Y5/2 灰褐	胴部俵形	(外) タタキ目 自然釉 (内) ナデ
SB13 71図- 1	蓋 須恵	抓み径— 残高 1.5 裾径(15.0) 裾部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y6/1 灰 (内) 7.5Y7/1 灰白	口縁部は先端で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB13 71図- 2	坏 須恵	口径(13.8) 器高 4.0 底径 7.0 口縁部1/3底部完	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	体部は直線的に開く 内面底径 7.9	(外) 底部切り離し後ヘラ調整 (内) ロクロナデ
SB13 71図- 3	坏 須恵	口径(13.4) 器高 4.1 底径 (7.0) 口縁部1/4底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/2灰褐～5/1 灰 (内) 7.5YR5/2灰褐～5/1 灰	直線的に開く体部 内面底径 7.0	(外) ロクロナデ 底部ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SB13 71図- 4	坏 須恵	口径(15.0) 残高 2.8 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) 5Y5/1 灰	直線的に開く体部 器厚はやや薄手	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB13 71図- 5	坏 須恵	口径(15.0) 残高 2.9 底径 — 口縁部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y5/1 灰 (内) 5Y5/1 灰	直線的に開く体部 器厚はやや薄手	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB13 71図- 6	坏 須恵	口径(13.4) 残高 3.2 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) 5Y5/1 灰	直線的に開く体部 器厚はやや薄手	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB14 72図- 1	坏 土師	口径(16.0) 残高 3/3 底径 — 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N3/暗赤~10YR6/4にぶい黄橙 (内) 黒	内湾する体部	(外) 磨耗が著しく不明 (内) 黒色処理
SB14 72図- 2	坏 土師	口径 — 残高 2.5 底径 (7.4) 底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/4にぶい赤褐~N3/ 暗赤 (内) 5YR6/4にぶい橙		(外) 磨耗が著しく不明 (内) 磨耗が著しく不明
SB14 72図- 3	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 1.3 裾径(14.0) 裾部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	口縁部は先端で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB14 72図- 4	坏 須恵	口径(12.0) 残高 2.8 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y5/1灰 (内) 10Y5/1灰		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB14 72図- 5	坏 須恵	口径 — 残高 3.2 底径 (7.0) 底部1/2	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y6/1 灰 (内) 7.5Y6/1 灰	直線的に開く体部 内面底径 7.5	(外) ロクロナデ 底部切り離し後ヘラケズリ (内)

第 26 表　土器観察表 (9)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB14 72図- 6	甕 土師	口径(15.8) 残高 1.2 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は外反する	(外) (内)
SB14 72図- 7	甕 土師	口径 — 残高 2.5 底径 (8.0) 底部1/2	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 10YR6/3 にぶい黄橙	平底	(外) (内)
SB14 72図- 8	甕 土師	口径 — 残高 4.8 底径(18.0) 底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/1褐灰 (内) 5YR6/4にぶい橙	平底 器厚は薄い	(外) 付着物あり (内)
SB15 73図- 1	坏 土師	口径(10.4) 残高 2.4 底径 — 口縁部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 2.5YR6/8橙	浅く内湾気味の体部	(外) 体部ヘラケズリ (内) ナデ
SB15 73図- 2	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 1.2 裾径(15.6) 一部	胎；黒色微粒、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y5/1 黄灰 (内) 2.5Y5/1 黄灰	口縁部は先端で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB15 73図- 3	坏 須恵	口径 10.4 器高 3.9 底径 7.0 ほぼ完存	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR5/1 褐灰 (内) 10YR7/1 灰白	平底 直線的に開く体部 ゆがんでいる 内面底径 6.5	(外) 底部回転ヘラキリの後いい かげんなナデ ケズリ調整 (内) ロクロナデ
SB15 73図- 4	甕 土師	口径 13.8 器高 14.5 底径 — 1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4/6赤褐 (内) 7.5YR3/3暗褐	丸底 球形の胴部より外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ ナデ
SB15 73図- 5	甕 土師	口径(18.7) 残高 9.0 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/6褐~3/4暗褐 (内) 7/5YR5/4にぶい褐~3/4暗褐	張りのない胴部より大きく外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ (内) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ
SB15 73図- 6	甕 土師	口径(27.5) 残高 8.6 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR4/6赤褐~3/3暗赤褐	口縁部は外反する 粘土紐積み上げ	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ (内) ナデ ミガキ
SB15 73図- 7	甕 土師	口径(17.2) 残高 8.1 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐～N2/ 黒 (内) 7.5YR4/4褐～2/2 黒褐	口縁部は「く」の字状に外反する 粘土紐積み上げ	(外) 胴部ヘラケズリ (内) ミガキ
SB15 73図- 8	甕 土師	口径 — 残高 1.5 底径 (6.6) 底部1/4	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) 7.5YR7/6橙	平底	(外) ケズリ ナデ (内) ナデ
SB15 73図- 9	甕 土師	口径 — 残高 1.7 底径 4.5 底部1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y2/1 黒 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB15 73図-10	台付 甕 土師	口径 — 残高 2.7 裾径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	S字状口縁	(外) 胴部刷毛調整 (内)
SB16 74図- 1	坏 土師	口径(11.9) 残高 2.9 底径 — 口縁部~体部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/6橙 (内) 2.5YR6/6橙	丸底	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SB16 74図- 2	坏蓋 須恵	抓み径2.6 残高 1.8 裾径 — 抓み部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5GY6/1オリーブ灰 (内) 2.5GY6/1オリーブ灰	抓みは偏平な宝珠形を呈する	(外) (内)
SB16 74図- 3	甕 土師	口径 13.5 残高 10.4 底径 — 口縁部~胴部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/4にぶい赤褐	張りのない胴部より外反して口縁部に至る 口唇部は面を取っている 粘土紐積み上げ	(外) 頸部から胴部タテケズリの後ヨコナデ (内) 細い工具によるヨコケズリ

第 27 表　土器観察表（10）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB16 74図- 4	甕 土師	口径(21.8) 残高 7.0 底径 — 口縁部1/3	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR7/6橙	口縁部は「く」の字状に外反する 器壁は非常に薄い	(外) (内)
SB16 74図- 5	甕 土師	口径(21.0) 残高 3.4 底径 — 口縁部1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は「く」の字状に外反すると思われる	(外) (内)
SB16 74図- 6	甕 須恵	口径(17.0) 残高 2.3 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5GY5/1オリーブ灰 (内) 2.5GY5/1オリーブ灰	先端に口縁帯をもつ	(外) (内)
SB16 74図- 7	甕 弥生	口径(15.6) 残高 3.0 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は段を有する	(外) 口縁部波状文を施す (内)
SB17 75図- 1	坏 土師	口径 10.2 器高 2.7 底径 — 口縁部2/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	丸底 口縁部は折れて立つ	(外) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (内)
SB17 75図- 2	坏 土師	口径(10.0) 残高 2.3 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	丸底 口縁部は小さく外反する	(外) (内)
SB17 75図- 3	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 0.9 裾径(15.8) 裾部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	裾部端部で折れる	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB17 75図- 4	坏 須恵	口径 — 残高 1.7 底径 (9.3) 底部一部	胎；礫、微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5GY6/1オリーブ灰 (内) 2.5GY6/1オリーブ灰	内面底径 8.0	(外) ロクロナデ 底部回転ヘラキリ (内)
SB17 75図- 5	坏 須恵	口径 — 残高 1.2 底径 (9.2) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5 YR5/2 灰褐 (内) 7.5 YR5/2 灰褐	高台を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SB17 75図- 6	甕 土師	口径 — 残高 2.2 底径 (9.0) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい橙 (内) N2/ 黒	平底	(外) (内)
SB17 75図- 7	甕 弥生	口径 — 残高 1.6 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい赤褐 (内) 5YR6/4にぶい赤褐	口縁部を折り返している	(外) (内)
SB17 75図- 8	甕 弥生	口径 — 残高 3.9 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は外反する	(外) 波状文を施す (内)
SB18 76図- 1	坏 土師	口径 (9.8) 残高 3.0 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 5YR6/6橙	丸みのある坏部	(外) 体部ヘラケズリ (内)
SB18 76図- 2	坏 土師	口径(12.3) 器高 3.7 底径 (4.9) 口縁部～底部一部	胎；石英、粗砂粒、礫多量に含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 黒	平底 僅かな丸みをもって開く体部	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 黒色処理
SB18 76図- 3	坏 土師	口径(12.8) 残高 3.2 底径 — 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/3にぶい橙 (内) 黒	丸みのある体部	(外) (内) 黒色処理
SB18 76図- 4	坏 土師	口径(14.5) 残高 3.1 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 黒	丸みをもって開く体部	(外) ケズリ ナデ (内) 黒色処理

第 28 表　土器観察表（11）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB18 76図- 5	坏 土師	口径 (9.6) 残高 2.6 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/3 にぶい黄橙 (内) 黒	丸みのある体部	(外) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (内) 黒色処理
SB18 76図- 6	坏 土師	口径(16.8) 残高 3.7 底径 — 口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/3にぶい橙 (内) 黒	口縁部は短く外反する	(外) (内) 黒色処理
SB18 76図- 7	坏 土師	口径 — 残高 3.1 底径 (6.0) 体部～底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 黒		(外) 表面が剥落していて不明 (内) 黒色処理
SB18 76図- 8	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 0.9 裾径(16.6) 裾部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	口縁部は先端で折れる	(外) ナデ (内) ナデ
SB18 76図- 9	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 0.9 裾径(14.8) 裾部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y5/1 灰 (内) N6/ 灰	裾部は短く屈曲して内傾する 口縁端部で折れる	(外) (内)
SB18 76図-10	坏 須恵	口径 — 残高 (1.6) 底径 (5.8) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/1 灰白 (内) 2.5Y7/1 灰黄	平底	(外) 底部ヘラケズリ (内)
SB18 76図-11	坏 須恵	口径 — 残高 1.1 底径 (5.2) 底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	平底	(外) 底部ヘラケズリ (内)
SB18 76図-12	坏 須恵	口径 — 残高 3.5 底径 9.5 底部～体部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5GY6/1オリーブ灰 (内) 2.5GY6/1オリーブ灰	高台を付す 体部は箱形を呈する	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SB18 76図-13	坏 須恵	口径 — 残高 2.2 底径 (9.8) 底部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5GY6/1オリーブ灰 (内) 2.5GY6/1オリーブ灰	高台を付す 体部は箱形を呈する	(外) ナデ (内) ナデ
SB18 76図-14	甕 土師	口径(16.8) 残高 4.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR4/6赤褐	口縁部は外反する 内側に稜を有する	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ
SB18 76図-15	甕 土師	口径(15.0) 残高 3.4 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR4/6赤褐	口縁部は大きく外反する	(外) 口縁部ケズリ (内)
SB18 76図-16	甕 土師	口径 — 残高 12.5 底径 7.5 胴部～底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	丸底気味の平底 球形を呈する胴部 粘土紐積み上げ	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB18 76図-17	甕 土師	口径 — 残高 13.2 底径 — 胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/3にぶい橙 (内) 7.5YR6/3にぶい褐	張りのない胴部 粘土紐積み上げ	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ　ナデ
SB18 76図-18	甕 土師	口径 — 残高 7.5 底径 — 胴部一部	胎；雲母、微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/2灰褐 (内) 10YR3/1 黒褐	粘土紐積み上げ	(外) 刷毛ケズリ (内) 刷毛ケズリ
SB18 76図-19	甕 土師	口径 — 残高 5.8 底径 — 胴部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/4褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐	粘土紐積み上げ	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SB18 76図-20	甕 土師	口径 — 残高 2.0 底径 (6.0) 底部1/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	平底	(外) (内)

第 29 表　土器観察表 (12)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB18 76図-21	甕 須恵	口径 — 残高 6.1 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	張りのある胴部	(外) ロクロナデ (内) 同心円状の押さえ目
SB18 76図-22	甑 土師	口径(15.0) 器高 9.7 底径 (3.5) 1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒を多量に含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	丸底気味の平底に１孔を穿つ	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB18 76図-23	壺 土師	口径 — 残高 4.0 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	口縁部は段を有する	(外) (内) ミガキ
SB19 77図- 1	高坏 土師	口径 17.1 器高 13.8 裾径 12.1 ほぼ完存	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/6橙 (内) 2.5YR6/6橙	坏部は接合部より稜を経て外反する口縁部に至る 脚部は柱状を呈し裾部で屈曲して大きく開く	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB19 77図- 2	高坏 土師	口径 16.7 器高 13.3 裾径(13.5) 坏部完存 脚部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/8橙 (内) 2.5YR6/8橙	坏部は接合部より稜を経て大きく外反する口縁部に至る 脚部の筒部は内湾気味で裾部が屈曲して大きく広がる	(外) 表面が剥落していて不明 (内)
SB19 77図- 3	高坏 土師	口径 16.5 器高 12.5 裾径(15.7) 坏部完存 脚部1/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/6橙 (内) 2.5YR5/6明赤褐	坏部は接合部より稜を経て外反する口縁部に至る 脚部はラッパ状に開く 脚部を坏部に埋め込み接合	(外) 口縁部ヨコナデ 坏部タテミガキ (内) 脚部ナデ
SB19 77図- 4	高坏 土師	口径 16.4 器高 10.2 裾径 15.4 坏部完存 脚部2/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 2.5YR5/6明赤褐	坏部は接合部より稜を経て大きく外反する口縁部に至る 脚部は接合部より大きく開き裾部で外反して開く	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 脚部ナデ
SB19 77図- 5	高坏 土師	口径 16.1 器高 12.5 裾径 12.1 ほぼ完存	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/6橙 (内) 2.5YR6/6橙	坏部は接合部より稜を経て外反する口縁部に至る 脚部は柱状を呈し裾部で屈曲して大きく開く	(外) 脚部タテミガキ (内) 表面が剥落していて不明
SB19 77図- 6	高坏 土師	口径 — 残高 8.4 裾径 11.6 接合部~脚部2/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/8明赤褐 (内) 5YR6/6橙	脚部は筒部が内湾し裾部は屈曲して大きく広がる	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB19 77図- 7	高坏 土師	口径 — 残高 (9.1) 裾径 13.5 接合部~脚部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/6橙	脚部は緩やかに折れて裾部で大きく開く	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB20 78図- 1	坏 土師	口径(10.0) 器高 3.0 底径 — 1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	丸底 体部は内湾する	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SB20 78図- 2	坏 土師	口径(10.0) 残高 3.0 底径 — 口縁部~体部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	丸底 口縁部は内湾する	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB20 78図- 3	坏 土師	口径(12.7) 器高 5.0 底径 (4.0) 1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/1 灰白 (内) 2.5Y7/1 灰白	丸底 口縁部は稜を経て内湾する	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SB20 78図- 4	坏 土師	口径 10.6 器高 4.6 底径 — 口縁部3/4底部完	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) N3/ 暗灰	丸底	(外) ヘラケズリ (内) ヘラミガキ 黒色処理
SB20 78図- 5	坏 土師	口径(14.7) 残高 3.4 底径 — 一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 黒	丸みのある体部より外反して口縁部に至る	(外) 体部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (内) ヘラミガキ 黒色処理
SB20 78図- 6	高坏 土師	口径 — 残高 7.3 裾径 (9.5) 脚部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/8明赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	柱状の脚部 緩やかに開く裾部	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明

第 30 表　土器観察表（13）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB20 78図- 7	坏蓋 須恵	抓み径－ 残高 5.0 裾径 － 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N6/ 灰	丸底	(外) ロクロナデ 窯印のようなヘラ痕あり (内) ロクロナデ
SB20 78図- 8	坏 須恵	口径 8.8 器高 3.0 底径 6.8 完存	胎；礫、粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y6/3 にぶい黄 (内) 2.5Y7/1 灰白	丸底気味の底部 口縁部は僅かに内湾する 内面底径 3.8	(外) 底部回転ヘラキリ (内) 表面が剥落していて不明
SB20 78図- 9	甕 土師	口径 19.5 器高 30.4 底径 － ほぼ完存	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	丸底より立上がり緩やかな曲線を描く胴部より外反する口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) 胴部ヘラケズリ (内) ナデ
SB20 78図-10	甕 土師	口径 28.0 器高 28.6 底径 13.0 ほぼ完存	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) N3/ 暗灰	平底より立上がり球形を呈して胴部上位で最大径を取る 口縁部は外反する 粘土帯積み上げ	(外) 胴部ヘラケズリの後ナデ (内) ケズリの後ミガキ 黒色処理
SB20 78図-11	甕 土師	口径 13.0 器高 14.9 底径 － 口縁部1/2~底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	丸底 口縁部は緩やかに外反する	(外) 胴部ヘラケズリ (内) ナデ
SB20 78図-12	甕 土師	口径 11.8 器高 11.8 底径 － ほぼ完存	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4/6赤褐 (内) 2.5YR4/6赤褐	丸底 口縁部は僅かに外反する	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ ミガキ
SB20 78図-13	甕 土師	口径(11.6) 器高 14.4 底径 (7.7) 1/4	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/1灰褐~6/4にぶい橙 (内) 7.5YR4/1灰褐~6/4にぶい橙		(外) 剥離が著しい ヘラケズリ (内) 表面が剥落していて不明
SB20 78図-14	甕 土師	口径(14.4) 残高 9.0 底径 － 口縁部~胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 黒	球形の胴部から外反する口縁部に至る	(外) 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (内) ミガキ 黒色処理
SB20 78図-15	甕 土師	口径(17.8) 残高 7.5 底径 － 口縁部~胴部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR5/3にぶい赤褐		(外) 胴部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (内) ミガキ
SB20 78図-16	甕 土師	口径 9.7 残高 6.1 底径 － 口縁部~胴部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR4/6赤褐	丸い胴部より口縁部で短く外反する	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB20 78図-17	甕 土師	口径(17.1) 残高 (7.6) 底径 － 口縁部~胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	胴部より外反する口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB20 78図-18	甕 土師	口径 － 残高 4.7 底径 6.8 底部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR3/1 黒褐 (内) 10YR3/3 暗褐	平底より立上がり大きく開いて張りのある胴部へ移行する	(外) ヘラケズリ 底部ヘラケズリ (内) 刷毛調整
SB20 78図-19	甕 土師	口径 － 残高 2.4 底径 (8.0) 底部1/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/3にぶい赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐		(外) 底部木葉痕あり (内)
SB20 78図-20	甑 弥生	口径 16.2 器高 12.5 底径 － ほぼ完存	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 黒	丸底より胴部に至り口縁部は緩やかに外反する 底部に２６孔を有する	(外) ヘラケズリ (内) ヘラミガキ 黒色処理
SB20 78図-21	壺 須恵	口径 (7.2) 残高 7.2 底径 － 口縁部~頸部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) N4/ 灰	長頸壺 口縁部は緩やかに小さく開く 口縁帯を有する	(外) ロクロナデ (内)
SB20 78図-22	高坏 土師	口径 － 残高 1.7 裾径 (8.2) 脚部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐 (内) 7.5YR5/3にぶい褐	脚部に孔を有する	(外) ミガキ 赤色塗彩 (内)

第 31 表　土器観察表（14）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB22 79図- 1	坏 土師	口径 14.0 器高 4.1 底径 — 口縁部~底部3/4	胎；石英、多量の礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐~4/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐~4/4にぶい赤褐		(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SB22 79図- 2	坏 土師	口径(12.7) 残高 2.9 底径 — 口縁部~体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) 7.5YR6/3にぶい褐		(外) ヘラケズリ (内) ミガキ
SB22 79図- 3	坏 土師	口径(15.2) 残高 4.0 底径 — 口縁部~体部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/3 にぶい黄橙 (内) N3/ 暗灰		(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SB22 79図- 4	高坏 土師	口径 — 残高 4.5 裾径 6.1 脚部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/4にぶい赤褐~6/1赤灰 (内) 2.5YR6/4にぶい橙	小さな脚部	(外) (内)
SB22 79図- 5	長胴甕 土師	口径(20.0) 残高 20.9 底径 — 口縁部~胴部1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐~4/1褐灰 (内) 5YR4/4にぶい赤褐~4/2灰褐	張りのない胴部より外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ　ヘラナデ
SB22 79図- 6	甕 土師	口径(11.0) 残高 3.7 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/4にぶい橙~6/6橙 (内) 5YR7/4にぶい橙~6/1褐灰		(外) (内) ケズリ
SB22 79図- 7	甕 土師	口径 — 残高 17.5 底径 — 胴部一部	胎；雲母、礫、微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 10YR8/2 灰白	丸みのある胴部	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB22 79図- 8	甕 土師	口径 — 残高 1.7 底径 (7.0) 底部1/3	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR3/1黒褐		(外) 底部木葉痕あり (内)
SB22 79図- 9	甕 須恵	口径(20.9) 残高 2.0 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y5/1 黄灰 (内) 2.5Y5/1 黄灰		(外) 破片が小さく不明 (内) 破片が小さく不明
SB23 80図- 1	坏 土師	口径(11.0) 残高 3.0 底径 — 口縁部~体部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙		(外) (内)
SB23 80図- 2	坏 土師	口径(13.0) 残高 3.6 底径 — 口縁部~体部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) N3/ 暗灰	丸みのある体部より緩く外反して口縁部に至る	(外) 体部ヘラケズリ 口縁部ヘラケズリ (内) ヘラミガキ 黒色処理
SB23 80図- 3	甕 土師	口径(21.0) 残高 7.0 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/4にぶい赤褐	張りのない胴部より緩く外反する口縁部に至る	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SB23 80図- 4	甕 土師	口径(23.0) 残高 21.8 底径 — 口縁部2/3胴部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR3/6暗赤褐 (内) 5YR3/6暗赤褐	張りのない胴部より外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
SB23 80図- 5	甕 土師	口径(26.0) 残高 13.3 底径 — 口縁部~胴部1/4	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/8赤褐 (内) 5YR4/8赤褐	張りのある胴部より外反して口縁部に至る	(外) 胴部ヘラケズリ (内) ナデ
SB23 80図- 6	甕 土師	口径(21.0) 残高 3.5 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/6明褐 (内) 7.5YR5/6明褐	口縁部は外反する	(外) (内)
SB23 80図- 7	甕 土師	口径 — 残高 2.4 底径 (7.4) 底部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/4 にぶい黄橙 (内) 10YR7/4 にぶい黄橙	平底	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ

第 32 表　土器観察表（15）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SB23 80図- 8	甕 土師	口径 — 残高 1.5 底径 7.4 底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐		(外) (内)
SB23 80図- 9	甕 土師	口径(11.0) 残高 2.9 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/6明褐 (内) 7.5YR5/6明褐~4/1褐灰	口縁部は小さく外反する	(外) (内)
SB23 80図-10	長胴甕 土師	口径 — 残高 20.4 底径 — 胴部1/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/3にぶい褐~2/1黒褐 (内) 5YR5/6明褐~5/1褐灰	張りのない胴部 粘土紐積み上げ	(外) ヘラケズリ (内) ナデ ケズリ
SB23 80図-11	甕 土師	口径 10.6 器高 8.4 底径 — ほぼ完存	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) N3/ 暗灰	小型の甕 丸底 口縁部は小さく外反する	(外) ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (内) ヘラケズリ 黒色処理
SB23 80図-12	甑 土師	口径 — 残高 2.5 底径 — 底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/1褐灰	下から上へ向かって孔を穿つ	(外) 粗いケズリ (内)
SB23 80図-13	甕 土師	口径 — 残高 1.7 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙		(外) (内)
ST01 81図- 1	甕 土師	口径 — 残高 2.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR3/4暗赤褐 (内) 5YR2/3極暗赤褐	口縁部を外側へ折り返す	(外) (内)
ST01 81図- 2	高坏 土師	口径 — 残高 2.3 裾径 (7.2) 脚部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR5/6明赤褐	小型の高坏	(外) ヘラケズリ 裾部ヨコナデ (内)
ST01 81図- 3	甕 土師	口径(12.8) 残高 4.1 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/4にぶい赤褐 (内) 2.5YR5/2灰赤	口縁部は短く外反する	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ
ST02 82図- 1	坏 須恵	口径 — 残高 2.1 底径 (8.0) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5P4/1 暗紫灰 (内) 5P2/1 紫黒	高台を付す	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
ST02 82図- 2	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 1.6 裾径(14.8) 裾部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰~N4/ 灰 (内) N4/ 灰	裾部先端で折れる	(外) ケズリ ナデ (内) ナデ
ST03 83図- 1	甕 須恵	口径 — 残高 3.9 底径 — 胴部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/2 灰黄 (内) 2.5Y6/1 黄灰		(外) タタキ目 (内) ナデ
ST03 83図- 2	甕 弥生	口径(11.0) 残高 2.3 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	口縁部は外反する	(外) 波状文を施す (内)
ST04 84図- 1	坏 土師	口径(13.0) 残高 2.2 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 黒		(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
ST04 84図- 2	甕 土師	口径(19.6) 残高 2.3 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/6橙	口縁部は外反する	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ
ST06 85図- 1	甕 須恵	口径 — 残高 3.7 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) N5/ 灰	口縁部は外反する	(外) ナデ (内) ナデ

第 33 表　土器観察表（16）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
ST07 86図-1	坏 土師	口径 (8.5) 残高 1.9 底径 — 口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/8明赤褐 (内) 2.5YR5/8明赤褐	小さく浅い体部 口縁部は短く折れて立つ	(外) ヘラケズリ (内)
ST07 86図-2	高坏 土師	口径 — 残高 2.6 裾径 6.3 底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 黒	小さい脚を付す	(外) ヘラケズリ (内) 坏部黒色処理
ST12 87図-1	坏 須恵	口径 — 残高 1.1 底径 (8.6) 底部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰	平底 ロクロ作りと思われる	(外) 底部切り離しは回転ヘラキリと思われる (内) ナデ
ST14 88図-1	坏 須恵	口径 — 残高 0.9 底径 8.0 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	上げ底気味の底部	(外) 底部回転ヘラキリ (内) ナデ
ST15 89図-1	甕 土師	口径 — 残高 2.6 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/3にぶい赤褐 (内) 5YR4/3にぶい赤褐	口縁部に丸みをもつ	(外) (内)
SK45 90図-1	坏 須恵	口径 — 残高 1.0 底径 6.8 底部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/2灰赤 (内) 2.5YR5/1灰赤	平底 内面底径 6.6	(外) 底部回転糸切り ロクロナデ (内)
SK92 90図-1	坏 土師	口径(11.2) 残高 2.9 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 黒	丸底	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SK92 90図-2	甕 土師	口径 14.8 器高 19.9 底径 (8.0) 2/3	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/2灰褐	粘土紐積み上げ	(外) 表面が磨耗していて不明 (内) 表面が磨耗していて不明
SK92 90図-3	蓋 弥生	摘み径 (3.8) 残高 3.6 裾径 — 摘み部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)7.5YR4/3 褐 (内)2.5YR5/4 にぶい赤褐		(外) (内) ケズリ
SK110 90図-1	坏 土師	口径 (9.8) 残高 2.6 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	丸底	(外) ヘラケズリ (内)
SK110 90図-2	坏 土師	口径(13.4) 器高 5.1 底径 — 口縁部~底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 黒	丸底	(外) ヘラケズリ (内) 黒色処理
SK110 90図-3	台付 甕 弥生	口径 — 残高 1.3 裾径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	S字状口縁	(外) 刷毛調整 (内)
SK148 90図-1	台付 甕 弥生	口径 — 残高 2.9 裾径 — 台部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/4褐 (内) 7.5YR4/4褐		(外) (内) ケズリ
SK149 90図-1	坏 須恵	口径(13.2) 残高 2.5 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) 10YR4/1 褐灰	直線的に開く体部	(外) (内)
SK202 90図-1	坏 須恵	口径 — 残高 2.0 底径 (8.8) 底部1/4	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰~5YR4/1褐灰 (内) 2.5YR4/2灰赤	高台を付す 箱形の体部	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SK203 90図-1	坏 須恵	口径 13.2 器高 4.7 底径 6.3 ほぼ完存	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	平底 直線的に開く体部 内面底径 8.2	(外) 底部回転糸切り ロクロナデ (内)

第 34 表　土器観察表 (17)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SK203 90図- 2	坏 須恵	口径(13.2) 器高 3.6 底径 6.0 1/3	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y6/1黄灰~7/2灰黄 (内) 2.5Y6/2 灰黄	平底 直線的に開く体部 内面底径 7.0	(外) 底部回転糸切り ロクロナデ (内) ナデ
SK203 90図- 3	坏 須恵	口径(13.8) 器高 3.9 底径(10.6) 口縁1/4底部1/2	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) 7.5GY5/1緑灰	高台を付す 箱形の体部	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SK203 90図- 4	鉢 須恵	口径(12.8) 残高 7.0 底径 — 口縁部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) N5/ 灰	厚手で口唇部に面が取られる	(外) ナデ (内) ナデ
SK245 90図- 1	坏 土師	口径(11.8) 器高 3.2 底径 — 1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)2.5YR5/6明赤褐~5YR3/1黒褐 (内)2.5YR5/6明赤褐	丸底 内湾する体部	(外) ヘラケズリ (内)
SK262 90図- 1	高坏 土師	口径 — 残高 5.2 裾径(10.8) 脚部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/6橙 (内) N3/ 暗灰	ラッパ状に開く脚部	(外) ヘラケズリ 裾部ナデ (内) ケズリ
SK315 SK316 90図- 1	坏 須恵	口径 — 残高 1.9 底径 (7.0) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	平底 内面底径 8.0	(外) 底部回転ヘラキリその後ヘラ及びナデ調整 (内) ロクロナデ
SK326 90図- 1	坏 土師	口径(15.2) 残高 2.9 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 2.5YR5/6明赤褐~N3/ 暗灰	器厚は厚手 体部は浅い	(外) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (内) ケズリ ミガキ
SK327 90図- 1	坏 須恵	口径(12.8) 器高 3.6 底径 5.8 口縁1/4底部完	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y6/1 灰 (内) 7.5Y6/1 灰	平底 直線的に開く体部 内面底径 8.0	(外) 底部回転ヘラキリの後ナデ ケズリ調整 ロクロナデ (内) ロクロナデ
SK330 90図- 1	壺 弥生	口径(20.8) 残高 5.3 底径 — 口縁部~頸部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/1褐灰 (内) 5YR4/1褐灰	大きく外反する口縁部	(外) 赤色塗彩 (内) 赤色塗彩
SK330 90図- 2	甕 土師	口径(17.4) 残高 5.4 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR3/3暗褐 (内) 5YR4/6赤褐	張りのある胴部より屈曲外反する	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SK330 90図- 3	柑 土師	口径(12.5) 残高 (5.5) 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR4/6赤褐		(外) ミガキ (内) 刷毛調整の後ミガキ
SK330 90図- 4	鉢 土師	口径 — 残高 4.5 底径 (3.0) 一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/3 にぶい橙 (内) 2.5YR4/4にぶい橙	平底より直線的に立ち上がる	(外) 赤彩が施されていたと思われる (内) ミガキ 赤色塗彩
SK330 90図- 5	高坏 弥生	口径(23.5) 残高 5.6 裾径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 2.5YR4/6赤褐	口唇部に刻み目を施す	(外) 赤色塗彩 (内) ミガキ 赤色塗彩
SK330 90図- 6	鉢 弥生	口径(17.4) 残高 4.5 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/2灰褐 (内) 10R3/2暗赤褐	口縁部がやや内湾する	(外) 赤色塗彩 (内) ミガキ 赤色塗彩
SK330 90図- 7	高坏 弥生	口径(13.8) 残高 3.0 裾径 — 坏部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10R3/4暗赤~7.5YR5/4にぶい褐 (内)10YR3/4暗赤	内湾気味の坏部	(外) 赤色塗彩 (内) 赤色塗彩
SK330 90図- 8	鉢 弥生	口径(15.2) 残高 5.0 底径 — 口縁部1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/2灰褐 (内) 5YR4/2灰褐	口縁部は内湾する	(外) 表面が剥落していて不明 赤彩を施していると思われる (内) ミガキ 赤色塗彩

第 35 表　土器観察表（18）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SK330 90図- 9	高坏 弥生	口径(28.4) 残高 5.0 裾径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	坏部は浅く内湾気味に開く	(外) タテのミガキ (内) ミガキ
SK330 90図-10	高坏 弥生	口径 — 残高 1.3 裾径 — 接合部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4/6赤褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐	坏部は接合部より段を有して開く	(外) ケズリ (内) ミガキ
SK330 90図-11	高坏 弥生	口径 — 残高 3.7 裾径(11.4) 脚部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐	脚部に円形の透かしを有する	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SK330 90図-12	高坏 土師	口径 — 残高 2.8 裾径(11.4) 脚部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/2灰褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	脚部に円形の透かしを有する	(外) ミガキ (内) ミガキ 刷毛調整
SK330 90図-13	高坏 土師	口径 — 残高 4.6 裾径(17.4) 脚部1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	脚部に円形の透かしを有する	(外) タテのミガキ (内) 表面が剥落していて不明
SK330 90図-14	高坏 弥生	口径 — 残高 5.7 裾径(10.6) 脚部1/2	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	脚部は接合部より直線的に開く	(外) (内)
SK330 90図-15	高坏 土師	口径 — 残高 4.4 裾径 16.6 脚部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 5YR6/6橙	裾部は屈曲して大きく開く 脚部下位の４か所に円形の透かしを有する	(外) ヘラミガキ (内) ヘラケズリ　刷毛調整
SK330 90図-16	高坏 土師	口径 — 残高 4.3 裾径(15.0) 脚部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/8橙～5/1 褐灰 (内) 5YR4/1褐灰	脚部に円形の透かしを有する 裾部に向かって大きく開く脚部	(外) タテのミガキ (内) ヨコのミガキ
SK330 90図-17	高坏 土師	口径 — 残高 2.0 裾径 (9.6) 脚部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/4にぶい橙		(外) (内)
SK330 90図-18	甕 土師	口径(21.6) 残高 15.0 底径 — 口縁部～胴部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/3にぶい赤褐 (内) 2.5YR5/6明赤褐	張りのある胴部より屈曲外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(外) 刷毛調整 (内) 刷毛調整
SK330 90図-19	甕 土師	口径 — 残高 10.3 底径 (6.8) 胴部～底部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR3/1黒褐	平底より立上がり張りのある胴部に移行する	(外) 刷毛調整 (内) ナデ
SK330 90図-20	甕 土師	口径(17.4) 残高 4.8 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR3/3 暗褐 (内) 10YR3/3 暗褐	口縁部は外反する	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ (内) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ
SK330 90図-21	甕 弥生	口径(14.2) 残高 3.5 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR3/1黒褐 (内) 7.5YR5/3にぶい褐	口縁部を内側へ折り返す	(外) 刷毛調整 (内) 刷毛調整
SK330 90図-22	甕 土師	口径 — 残高 3.1 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 5YR5/6明赤褐	口唇部外面に面取りを施す 口縁部は折り返して作る	(外) (内)
SK330 90図-23	台付甕 弥生	口径(16.6) 残高 3.5 裾径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR3/2黒褐 (内) 7.5YR3/2黒褐	S字状口縁	(外) 刷毛調整 (内)
SK330 90図-24	台付甕 弥生	口径 — 残高 2.2 裾径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/8赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	S字状口縁	(外) (内)

第 36 表　土器観察表（19）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SK330 90図-25	台付甕 土師	口径 — 残高 1.8 裾径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR3/4暗赤褐	S字状口縁	(外) (内)
SK330 90図-26	台付甕 弥生	口径 — 残高 4.1 裾径 10.4 台部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR3/4暗赤褐 (内) 2.5YR3/3暗赤褐	台部の先端に面取りを施す	(外) 刷毛調整 ヘラケズリ (内) 刷毛調整 ヘラケズリ
SK330 90図-27	台付甕 弥生	口径 — 残高 2.2 裾径 (9.6) 台部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/1灰褐~5YR7/6橙 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	台部の先端に面取りを施す	(外) 刷毛調整 (内) 刷毛調整
SK330 90図-28	台付甕 土師	口径 — 残高 4.2 裾径 (8.4) 台部一部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR3/2黒褐 (内) 7.5YR3/1黒褐		(外) 刷毛調整 (内) ケズリ ナデ
SK330 90図-29	台付甕 弥生	口径 — 残高 3.1 裾径 5.8 接合部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4/4にぶい赤褐 (内) 2.5YR4/2灰赤		(外) ケズリ (内) ミガキ
SK330 90図-30	台付甕 土師	口径 — 残高 3.0 裾径 (9.6) 台部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 5YR6/4にぶい橙	台部の先端は内側へ折り返して作る	(外) (内)
SK330 90図-31	台付甕 土師	口径 — 残高 3.6 裾径 (7.2) 台部1/4	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR3/2黒褐 (内) 7.5YR3/1黒褐		(外) ケズリ ナデ ミガキ (内) ケズリ ナデ ミガキ
SK330 90図-32	壺 土師	口径 — 残高 2.6 底径 (7.2) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	平底	(外) (内)
SK330 90図-33	甕 土師	口径 — 残高 1.5 底径 3.4 底部	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	平底 小さい底部	(外) (内)
SK330 90図-34	甕 弥生	口径 — 残高 2.3 底径 6.4 底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 10YR6/3 にぶい黄橙	平底	(外) (内)
SK330 90図-35	甑 弥生	口径(13.6) 器高 7.4 底径 (4.0) 口縁部~底部1/4	胎；石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR5/6明赤褐	平底に1孔を穿つ	(外) 表面が剥落していて不明 (内) ミガキ
SD01 91図- 1	坏蓋 須恵	抓み径3.5 残高 1.4 裾径 — 抓み部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y6/1 灰 (内) 10Y6/1 灰	偏平の疑宝珠形を呈する	(外) (内)
SD01 91図- 2	坏 須恵	口径(13.8) 残高 2.2 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	直線的に開く体部	(外) ナデ (内) ナデ
SD01 91図- 3	坏 須恵	口径(12.6) 残高 2.3 底径 — 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5GY6/1オリーブ灰 (内) 2.5GY6/1オリーブ灰	直線的に開く体部	(外) ナデ (内) ナデ
SD01 91図- 4	坏 須恵	口径(14.8) 残高 4.5 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) 2.5GY6/1オリーブ灰	直線的に開く体部	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD01 91図- 5	坏 須恵	口径 — 残高 1.6 底径 6.8 底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5GY6/1オリーブ灰 (内) 2.5GY6/1オリーブ灰	平底 内面底径 7.0	(外) 底部回転糸切り (内) ロクロナデ

第 37 表　土器観察表（20）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD01 91図-6	坏 須恵	口径 — 残高 3.8 底径 (8.8) 体部~高台1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N5/ 灰	高台を付す 箱形の体部	(外) 体部下半回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD01 91図-7	甕 須恵	口径 — 残高 7.8 底径 — 口辺部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	口縁部は大きく開く	(外) ロクロナデ (内)
SD01 91図-8	器台 土師	口径 — 残高 3.7 裾径 — 脚部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	脚部に透かしの孔を有する	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SD01 91図-9	壺 弥生	口径 — 残高 2.9 底径 (7.8) 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/3にぶい橙 (内) 5YR5/4にぶい赤褐	平底 粘土帯積み上げ	(外) ミガキ (内) ミガキ
SD03 92図-1	坏 土師	口径(12.0) 器高 3.0 底径 (3.5) 口縁部~底部1/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	浅く丸みのある体部	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SD03 92図-2	坏 土師	口径(12.8) 器高 3.7 底径 (7.4) 口縁部~底部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐~4/3褐 (内) 5YR4/4褐	少し丸みをもって開く体部	(外) ヘラケズリ (内)
SD03 92図-3	坏 土師	口径 14.4 残高 4.8 底径 — 口縁部~体部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外)10R4/6赤~2.5YR1.7/1赤黒 (内)10R4/4赤褐~2.5YR1.7/1赤黒	丸みのある体部	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ
SD03 92図-4	坏 土師	口径(16.0) 残高 2.4 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 7.5YR4/1褐灰	浅い体部 器厚は厚い	(外) 表面が剥落していて不明 (内) ミガキ
SD03 92図-5	坏 土師	口径 — 残高 2.0 底径 (9.0) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/2明褐灰~4/1褐灰	平底	(外) ヘラケズリ ナデ (内) 表面が剥落していて不明
SD03 92図-6	坏 土師	口径 13.0 器高 3.4 底径 6.0 口縁部~底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 黒	丸みをもって大きく開く体部	(外) 底部回転糸切痕あり 体部ロクロナデ (内) ミガキ 黒色処理
SD03 92図-7	坏 土師	口径(16.0) 器高 5.0 底径 (5.8) 口縁部~底部1/4	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR6/3 にぶい黄橙 (内) 黒	平底 直線的に開く体部	(外) 底部手持ちヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
SD03 92図-8	坏 土師	口径 — 残高 1.4 底径 (6.0) 底部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6/8橙～N3/ 暗灰 (内) N3/ 暗灰	平底	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 黒色処理
SD03 92図-9	高坏 土師	口径 — 残高 5.4 裾径 (9.9) 脚部1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	ラッパ状に開く脚部	(外) ヘラケズリ ミガキ (内) ヘラケズリ
SD03 92図-10	高坏 土師	口径 — 残高 6.1 裾径 — 接合部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR6/3 にぶい黄橙 (内) 10YR6/4 にぶい黄橙		(外) ミガキ (内) ケズリ
SD03 92図-11	高坏 土師	口径 — 残高 4.3 裾径 — 接合部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 7.5YR5/4にぶい橙	坏部を脚部に差し込んで接合	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SD03 92図-12	坏蓋 須恵	抓み径3.5 残高 1.4 裾径 — 抓み部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y6/1灰 (内) 10Y6/1灰	偏平な疑宝珠形を呈する	(外) (内)

第 38 表　土器観察表 (21)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD03 92図-13	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 2.4 裾径(16.3) 1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	裾部先端で折れる	(外) ロクロナデ ヘラケズリ 火襷あり (内) ナデ 火襷あり
SD03 92図-14	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 2.4 裾径(17.5) 一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	裾部先端で折れる	(外) ケズリ ナデ (内) ケズリ ナデ
SD03 92図-15	壺蓋 須恵	抓み径— 残高 3.2 裾径(12.0) 1/3	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	裾部で折れる	(外) 自然釉 (内) 自然釉
SD03 92図-16	坏 須恵	口径(14.8) 器高 3.7 底径 (7.5) 口縁部~底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y5/1 灰 (内) 7.5Y5/1 灰	平底 直線的に開く体部 内面底径 9.0	(外) 底部回転糸切痕あり 火襷あり (内) ナデ 火襷あり
SD03 92図-17	坏 須恵	口径 13.4 器高 4.3 底径 5.7 口縁部~底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y5/1 灰 (内) 5Y5/1 灰	平底 直線的に開く体部 内面底径 8.0	(外) 底部ヘラキリ (内) ロクロナデ
SD03 92図-18	坏 須恵	口径 12.0 器高 3.4 底径 6.5 ほぼ完存	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y5/1灰 (内) 10Y5/1灰	上げ底気味の平底 直線的に開く体部 内面底径 6.0	(外) 底部回転糸切痕あり (内) ロクロナデ
SD03 92図-19	坏 須恵	口径 — 残高 1.4 底径 7.0 底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y6/1 灰 (内) 10Y6/1 灰	平底 内面底径 7.0	(外) 底部回転ヘラキリ (内) ロクロナデ
SD03 92図-20	坏 須恵	口径 — 残高 1.3 底径 7.4 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰	平底 内面底径 8.0	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD03 92図-21	坏 須恵	口径 — 残高 1.7 底径 — 底部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/1褐灰 (内) 5Y6/1 灰	内面底径 ?	(外) 底部手持ちヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD03 92図-22	坏 須恵	口径 — 残高 2.4 底径 (6.4) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y6/1 灰 (内) 5Y6/1 灰	平底 内面底径 6.4	(外) 底部回転糸切り痕あり (内)
SD03 92図-23	坏 須恵	口径 — 残高 2.0 底径 (5.6) 底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/3 にぶい黄橙 (内) 10YR7/3 にぶい黄橙	平底 内面底径 5.0	(外) 底部回転糸切り痕あり (内)
SD03 92図-24	坏 須恵	口径(16.3) 器高 6.0 底径(10.8) 口縁部~底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) N5/ 灰	高台を付す 体部は深く箱形を呈する	(外) 底部回転ヘラキリ (内) ナデ
SD03 92図-25	坏 須恵	口径 — 残高 3.9 底径(10.2) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y5/1灰 (内) 10Y5/1灰	高台を付す 体部は箱形を呈する	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD03 92図-26	坏 須恵	口径 — 残高 1.5 底径 8.8 底部3/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5Y5/1 灰 (内) 5Y5/1 灰	高台を付す	(外) 底部回転糸切痕あり 火襷あり (内) ロクロナデ 火襷あり
SD03 92図-27	坏 須恵	口径 — 残高 0.9 底径 8.0 底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	高台を付す	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD03 92図-28	甕 土師	口径(22.0) 残高 7.7 底径 — 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	口縁部は外反する	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ

第 39 表　土器観察表（22）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD03 92図-29	甕 土師	口径(24.0) 残高 4.7 底径 — 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR7/6橙	口縁部は外反する	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SD03 92図-30	甕 土師	口径(24.0) 残高 4.5 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙~5/2灰褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は外反する	(外) 口縁部ヨコナデ (内) 口縁部ヨコナデ
SD03 92図-31	甕 土師	口径(25.0) 残高 4.5 底径 — 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR7/4 にぶい黄橙 (内) 10YR7/4にぶい黄橙~8/2灰白	口縁部は外反する	(外) 口縁部ヨコナデ (内)
SD03 92図-32	甕 土師	口径(12.0) 残高 5.0 底径 — 口縁部一部	胎；雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	長く緩く外反する口縁部	(外) ケズリ ナデ (内)
SD03 92図-33	甕 土師	口径(12.0) 残高 2.8 底径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/4にぶい褐~N3/暗灰 (内) 10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部は緩く外反する	(外) ヘラケズリ ナデ (内) ナデ
SD03 92図-34	甕 土師	口径 — 残高 6.8 底径 — 底部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐～1.7/1 黒 (内) 10YR6/2 灰黄褐	丸底	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SD03 92図-35	甕 土師	口径 — 残高 2.5 底径 4.0 底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR7/3にぶい橙	小さい底部	(外) ヘラケズリ (内) ナデ
SD03 92図-36	甕 土師	口径 — 残高 2.2 底径 4.0 底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	小さい底部より立上がり張りのある胴部へ移行する	(外) 刷毛調整 (内)
SD03 92図-37	甕 土師	口径 — 残高 1.9 底径 5.2 底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/3にぶい褐 (内) 7.5YR6/3にぶい褐~6/6橙	平底	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SD03 92図-38	甕 土師	口径 — 残高 2.1 底径 5.6 底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/6赤褐 (内) 5YR4/2灰褐	平底	(外) 底部に木葉痕あり (内) ヘラケズリ ミガキ
SD03 92図-39	甕 土師	口径 — 残高 1.6 底径 4.8 底部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/4にぶい赤褐~7/3にぶい橙	小さい底部	(外) ヘラケズリ (内) 表面が剥落していて不明
SD03 92図-40	壺 須恵	口径 6.3 器高 5.3 底径 6.2 ほぼ完存	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	小型で肩が強く張る短頸壺 平底	(外) 体部大半回転ヘラケズリ 体部上半ロクロナデ 底部手持ちヘラケズリ (内) ロクロナデ
SD03 92図-41	壺 須恵	口径(15.0) 残高 4.3 底径 — 口縁部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y6/2 灰黄 (内) 2.5Y6/1 黄灰	短頸壺	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD03 92図-42	壺 須恵	口径 — 残高 9.6 底径(11.0) 胴部~底部1/2	胎；石英、礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y4/1灰～6/1 灰 (内) 10Y6/1灰	底部に高台を付す	(外) ヘラケズリ ナデ (内) ヘラケズリ ナデ
SD03 92図-43	壺 須恵	口径 — 残高 4.4 底径 (9.0) 底部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y6/1灰 (内) 10Y7/1灰白	高台を付す	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
SD03 92図-44	瓶 須恵	口径 — 残高 2.7 底径(12.0) 底部1/4	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N6/ 灰	高台は小さく削り出して作られている	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ロクロナデ

第 40 表　土器観察表（23）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD03 92図-45	甕 須恵	口径(28.0) 残高 15.6 底径 — 口縁部~胴部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰～7.5Y5/2灰オリーブ (内) 10Y5/1灰	胴部は肩が張り口頸部は長く大きく開く	(外) 口頸部ロクロナデ 胴部タタキ目 (内) 胴部当て具痕
SD03 92図-46	甕 須恵	口径(23.9) 残高 9.0 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；礫、粗砂粒を少し含む 焼；良好 色；(外) 5Y7/1 灰白 (内) 5Y7/1 灰白	張りのある胴部に外反する口頸部をもつ	(外) 平行タタキ目 (内) 同心円文
SD03 92図-47	甕 須恵	口径(42.0) 残高 16.0 底径 — 口縁部~胴部1/4	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y6/1灰～5/1 灰 (内) 10Y5/1灰～4/1 灰	大きく張りのある胴部に外反する口縁部を有する	(外) 口縁部に波状文を施す (内) ナデ
SD03 92図-48	甕 須恵	口径(42.0) 残高 3.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N5/ 灰	口縁部は外反し口縁帯を有する	(外) ナデ (内) ナデ
SD03 92図-49	甕 須恵	口径(28.0) 残高 3.6 底径 — 口縁部一部	胎；礫(大・小)、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/1褐灰~5/2灰褐 (内) 7.5Y5/1 灰	口縁部は外反する	(外) ナデ (内) ナデ
SD03 92図-50	甕 須恵	口径(16.0) 残高 3.1 底径 — 口縁部一部	胎；礫、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N6/ 灰	口唇部に面取りを施す	(外) ナデ (内) ナデ
SD03 92図-51	甕 須恵	口径 — 残高 29.3 底径 — 胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10Y3/1オリーブ黒 (内) 7.5Y4/1 灰	胴部は高めで強く張る	(外) 丁寧なタタキ目を施す (内)
SD03 92図-52	甕 須恵	口径 — 残高 6.2 底径(23.7) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(外) タタキ目 (内)
SD03 92図-53	甕 須恵	口径 — 残高 5.0 底径(20.0) 底部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y6/1黄灰~10Y6/1灰 (内) 10Y6/1灰	平底	(外) タタキ目 (内) ナデ
SD03 92図-54	甕 須恵	口径 — 残高 7.2 底径(18.0) 底部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N7/ 灰白	平底	(外) 胴部タタキ目 底部ケズリ ナデ (内) ナデ ケズリ
SD03 92図-55	甕 須恵	口径 — 残高 4.3 底径(18.0) 底部3/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) 5Y6/1 灰	平底	(外) 底部ヘラケズリ 指頭痕 胴部タタキ目 (内) ナデ
SD03 92図-56	甕 須恵	口径 — 残高 7.0 底径 — 胴部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR5/1 褐灰～N4/ 灰 (内) 10Y5/1灰	凸帯付四耳壺 耳部の断面形は孔が途中まで開く 凸帯の断面形は四角形を呈する	(外) 体部タタキ目 (内) ナデ
SD03 92図-57	甕 須恵	口径(10.8) 残高 21.6 底径 — 口縁部~胴部1/2	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	横瓶 横に長い俵形の体部 体部の横腹に短い口頸部を付す	(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
SD03 92図-58	甕 須恵	口径 — 残高 15.6 底径 — 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y6/1 灰 (内) 10Y6/1灰	横瓶 丸底を呈する	(外) タタキ目 (内) ナデ
SD03 92図-59	壺 弥生	口径 — 残高 3.1 底径 4.0 底部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/3にぶい褐 (内) 10YR7/3にぶい黄橙~5/1褐灰	平底	(外) 赤色塗彩 (内) 刷毛調整 ミガキ
SD05 93図- 1	高坏 弥生	口径(15.0) 残高 3.1 裾径 — 口縁部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/4にぶい赤褐		(外) ミガキ (内) 表面が剥落していて不明

第 41 表　土器観察表(24)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
SD05 93図- 2	高坏 土師	口径 — 残高 3.7 裾径(12.0) 脚部一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐	脚部に透かしの孔を有する	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明
SD05 93図- 3	高坏 土師	口径 — 残高 4.8 裾径 — 一部	胎；石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐~N2/ 黒 (内) N2/ 黒		(外) ミガキ (内) ケズリ
SD05 93図- 4	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 1.3 裾径(14.0) 裾部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR8/4浅黄橙 (内) 7.5YR8/4浅黄橙	口縁部は先端で折れる	(外) ロクロナデ (内)
SD05 93図- 5	甕 土師	口径(17.4) 残高 3.0 底径 — 口縁部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/6橙 (内) 5YR7/6橙	口縁部は外反する 口唇部に面取りを施す	(外) (内)
SD05 93図- 6	甕 土師	口径 — 残高 2.2 底径 — 頸部一部	胎；石英、礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/4橙～3/1 黒褐 (内) 7.5YR4/4橙	頸部で「く」の字状に折れる	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
遺構外 94図- 1	高坏 弥生	口径 14.0 残高 5.4 裾径 — 坏部	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10R5/6赤 (内) 10R5/6赤	坏部は僅かに内湾して開いて口縁部に至る	(外) ミガキ 赤色塗彩 (内) ミガキ 赤色塗彩
遺構外 94図- 2	高坏 弥生	口径 13.4 残高 5.3 裾径 — 坏部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR7/4にぶい橙	内湾して開く坏部	(外) ミガキ (内) 表面が剥落していて不明 脚部内面にベンガラの塊が付着
遺構外 94図- 3	甕 弥生	口径 14.5 残高 8.6 底径 — 口縁部~胴部上位	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/6橙 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は緩やかに外反する 粘土帯積み上げ	(外) 頸部に２連止めの簾条文を施す　波状文はだらしなく施文される (内) ミガキ
遺構外 94図- 4	甕 弥生	口径 23.5 残高 13.8 底径 — 口縁部~胴部	胎；礫、粗砂粒多く含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR4/3褐 (内) 7.5YR4/3褐	張りのある胴部より外反する口縁部に至る 口縁部の先端は折り返す	(外) 櫛描条線文を施す (内) ヘラケズリ
遺構外 94図- 5	甕 弥生	口径 20.6 残高 18.3 底径 — 口縁部~胴部2/3	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 7.5YR5/4にぶい褐	丸みを帯びた胴部より緩やかに外反する口縁部に至る	(外) 波状文、簾条文を施す 波状文の波は緩やかである (内) ケズリ
遺構外 94図- 6	甕 弥生	口径 19.8 残高 12.5 底径 — 口縁部~胴部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6/6橙 (内) 5YR6/6橙	口縁部は緩やかに外反する 胴部は肩が張る	(外) 波状文を施した後頸部に６条１組の簾条文を施す (内) ヘラケズリ　ミガキ
遺構外 94図- 7	甕 弥生	口径 29.0 残高 23.8 底径 — 口縁部1/2胴部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4/4にぶい赤褐 (内) 5YR4/4にぶい赤褐	張りのある胴部から外反する口縁部に至る	(外) 刷毛調整　胴部ヘラケズリ　みだれた波状文を施す (内) ヘラケズリ
遺構外 94図- 8	甕 弥生	口径(17.2) 残高 3.9 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR5/3にぶい褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	S字口縁台付甕	(外) 胴部刷毛調整 (内)
遺構外 94図- 9	甑 弥生	口径 — 残高 10.0 底径 4.0 胴部1/2 ~底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 5YR6/6橙	底部に径1.0 cmの孔１個と径0.3 cmの孔５個を有する	(外) 刷毛調整 (内) 刷毛調整の後ミガキ
遺構外 94図-10	坏 土師	口径(10.4) 残高 3.5 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) N3/ 暗灰	丸みのある体部	(外) ヘラケズリ (内) ミガキ 黒色処理
遺構外 94図-11	鉢 土師質	口径 — 残高 2.4 底径(11.4) 底部一部	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7/6橙 (内) 7.5YR7/6橙	高台を付す 器厚は厚手	(外) 表面が剥落していて不明 (内) 表面が剥落していて不明

第 42 表　土器観察表（25）

遺構NO 図版NO	器種 種類	法量 残存	器質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 94図-12	高坏 土師	口径 — 残高 4.1 裾径 6.8 脚部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/6明赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	小型の高坏 接合部から裾部にかけてラッパ状に開く	(外) ミガキ (内) ヘラケズリ
遺構外 94図-13	蓋 須恵	抓み径3.7 残高 1.6 裾径 — 抓み部~裾部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N6/ 灰 (内) N6/ 灰	抓み部は偏平の宝珠形を呈する	(外) 粗い回転ヘラケズリ (内) ロクロナデの後ケズリ
遺構外 94図-14	坏蓋 須恵	抓み径— 残高 2.4 裾径(16.2) 裾部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y6/1 灰 (内) 7.5Y6/1 灰	裾部の先端が折れる	(外) 天井部付近は回転ヘラケズリ (内) ナデ
遺構外 94図-15	坏 須恵	口径 13.0 器高 4.0 底径 6.4 口縁部1/2~底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5Y6/1 灰 (内) 7.5Y6/1 灰	上げ底気味の平底 直線的に開く体部 口縁部はやや内湾気味 内面底径 7.4	(外) 底部回転糸切り (内) ロクロナデ
遺構外 94図-16	坏 須恵	口径(14.2) 器高 3.7 底径 (8.2) 口縁部~底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y6/1 黄灰 (内) 2.5Y6/1 黄灰	無高台で箱形を呈する体部 内面底径 8.0	(外) 底部及びその周辺を回転ヘラケズリ (内) ナデ
遺構外 94図-17	坏 須恵	口径 13.3 器高 3.7 底径 10.4 口縁部~底部1/2	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) N4/ 灰	高台を付す 体部は箱形を呈する	(外) 底部回転ヘラケズリ 体部ナデ (内) 体部ナデ
遺構外 94図-18	坏 須恵	口径 — 残高 1.1 底径 (8.3) 底部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N5/ 灰 (内) 5Y6/1 灰	高台を付す	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
遺構外 94図-19	椀 灰釉	口径 — 残高 2.2 底径 (8.8) 底部一部	胎；粗、微砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5Y7/1 灰白 (内) 2.5Y7/1 灰白		(外) ロクロナデ (内) ロクロナデ
遺構外 94図-20	鉢 陶器	口径 — 残高 2.5 底径 (7.4) 底部一部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR3/2暗赤褐 (内) 10YR3/2 黒褐	体部の両面に施釉されている	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) 近代鉢
遺構外 94図-21	甕 土師	口径(11.6) 残高 8.4 底径 — 口縁部~胴部1/4	胎；礫、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5/6明赤褐 (内) 7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は緩く外反し先端は僅かに内湾する	(外) ヘラケズリ (内) ヘラケズリ
遺構外 94図-22	甕 土師	口径(20.2) 残高 5.4 底径 — 口縁部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7/6橙 (内) 5YR7/6橙	張りのない胴部より外反して口縁部に至る	(外) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ (内) 胴部刷毛調整の後ナデ
遺構外 94図-23	甕 土師	口径 — 残高 2.1 底径 4.0 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 5YR5/6明赤褐	底部が小さく器壁は薄い	(外) ケズリ ミガキ (内) ケズリ ミガキ
遺構外 94図-24	壺 須恵	口径(10.4) 残高 3.7 底径 — 口縁部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) N4/ 灰	口縁部は外反する	(外) (内)
遺構外 94図-25	壺 須恵	口径 — 残高 3.3 底径 (5.2) 底部一部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) N4/ 灰 (内) N7/ 灰白	小型の壺か瓶 高台を付す	(外) 底部回転ヘラケズリ (内) ナデ
遺構外 94図-26	高坏 土師	口径 — 残高 3.4 裾径 — 接合部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4にぶい橙 (内) 7.5YR6/3にぶい褐	脚部に円形の透かしを有する(3ヶ所)	(外) ヘラケズリ ミガキ (内) 刷毛ケズリ ヘラケズリ
遺構外 94図-27	壺 土師	口径 — 残高 4.0 底径 — 口縁部一部	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6/4 にぶい橙 (内) 7.5YR6/4 にぶい橙	有段口縁壺 口縁部に段を有する	(外) ナデ ミガキ (内) ナデ ミガキ

第 43 表　土器観察表(26)

遺物No.	図版No.	遺構No.	種　類	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	備　考
1	95図-1	SB09	銅製品	2.5	1.6	0.3	3.04	
2	95図-2	SB10	鉄製品　刀子	3.8	1.3	0.6	4.83	
3	95図-3	SB17	鉄製品　刀子	6.2	0.8	0.3	13.98	
4		SB01	鉄製品				21.55	
5		SB01	鉄製品				1.24	
6		SB06	鉄製品				3.83	

第 44 表　金属器観察表

遺物No.	図版No.	遺構No.	種　類	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さg	外径cm	口径cm	備　考
1	96図-1	SB20	羽口	(7.2)	(6.0)	(1.7)		(6.2)	(2.4)	
2	96図-2	SB23	羽口	(3.0)	(5.7)	(1.9)				
3	96図-3	ST01	羽口	(4.6)	(5.1)	2.3				黒色に変色している
4	96図-4	ST01	羽口	(5.4)	(6.0)	2.4				末端部
5	96図-5	SB20	鉄滓	8.1	5.0	2.4	100.53			
6	96図-6	SB23	鉄滓	7.4	5.2	2.5	67.11			
7		SB08	鉄滓	2.5	2.6	1.8	19.01			
8		SB08	鉄滓	2.4	1.8	1.2	6.12			
9		SB08	鉄滓	2.5	1.2	0.8	2.69			
10		SB21	鉄滓	3.0	2.0	1.0	5.98			

羽口の長さ、幅、厚さの（　）は残存、外径、内径は推定数字

第 45 表　鍛冶関連観察表

遺物No.	図版No.	遺構No.	種　類	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さ　g	材　質	備　考
1	97図1	SD03	石鏃	(3.2)	1.4	0.3	1.2	鉄石英	
2	97図2	SD03	石鏃	(2.4)	1.9	0.5	1.5	黒曜石	
3	97図3	SD03	石鏃	(2.2)	1.8	0.5	1.2	黒曜石	
4	97図4	ﾄﾚﾝﾁ1	石鏃	2.5	1.6	0.4	1.2	黒曜石	
5	97図5	Z	石鏃	2.5	1.7	0.4	1.2	玉髄	
6	97図6	Z	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.4	黒曜石	
7	97図7	SD03	打製石斧	8.7	5.0	0.9	56.4	閃緑岩	
8	97図8	SB18	勾玉	3.5	2.0	1.0	8.2	玄武岩	
9	97図9	SB20	管玉	1.1	0.6	0.6	0.4	凝灰石	
10	97図10	SB02	軽石製品	4.5	5.2	2.3	21.0	軽石	
11	97図11	SB06	砥石	8.3	6.5	3.2	225	輝石安山岩	
12	97図12	SB06	砥石？	8.5	7.8	1.9	195	硬砂岩	
13	97図13	SB09	砥石？	15.1	14.0	3.5	1220	硬砂岩	
14	97図14	SB10	砥石	20.5	15.5	9.4	2900	流紋岩	
15	97図15	SB20	砥石	8.5	8.8	2.2	265	ひん岩	
16	97図16	SB20	砥石	21.2	8.5	6.7	1855	輝緑岩	
17	97図17	SB20	砥石	24.0	7.3	4.5	1220	輝石安山岩	
18	97図18	SB22	砥石	44.0	19.0	11.3	14400	輝石安山岩	

第 46 表　石器観察表（1）

遺物No.	図版No.	遺構No.	種　類	長さcm	幅　cm	厚さcm	重さ　g	材　質	備　考
19	97図19	ST03-P11	砥石	22.0	11.0	8.7	2200	流紋岩	裏込石に転用されている
20	97図20	SB06	擦石	17.9	12.8	5.2	1540	輝石安山岩	
21	97図21	SB02	擦・敲石	14.9	12.3	3.0	862	輝石安山岩	
22	97図22	SB06	擦・敲石	14.5	7.6	5.0	810	輝石安山岩	
23	97図23	SB06	擦・敲石	14.3	8.2	3.0	585	輝石安山岩	
24	97図24	SB09	擦・敲石	15.3	8.5	5.0	830	輝石安山岩	
25	97図25	SB10	敲石	12.0	9.8	4.3	500	角閃石安山岩	
26	97図26	SB15	擦・敲石	7.9	6.8	5.2	255	角閃石安山岩	
27	97図27	SB22	擦・敲石	13.5	9.2	6.5	1055	輝石安山岩	
28	97図28	SK92	擦・敲石	10.6	7.8	3.4	461	輝石安山岩	
29	97図29	SK92	擦・敲石	10.7	9.4	4.2	1080	輝石安山岩	
30	97図30	SD03	凹石・敲石	4.7	7.9	2.9	120	角閃石石英安山岩	
31	97図31	SD03	敲石	7.3	7.2	3.4	280	輝石安山岩	
32	97図32	SD03	磨石	6.8	6.2	5.0	280	輝石安山岩	
33	97図33	ST01-P7	凹石	12.5	6.5	4.5	480	輝石安山岩	
34	97図34	Z	凹石	16.5	14.5	5.8	1890	輝石安山岩	
35		SB18	編物石	12.5	6.3	5.2	570	輝石安山岩	
36		SB18	編物石	13.7	4.8	3.5	370	ひん岩	
37		SB18	編物石	13.5	5.5	4.5	470	硬砂岩	

第 47 表　石器観察表(2)

遺物No.	遺 構 No.	種類	樹　種	備　考
1	SB06 P6	板状製品	ヒノキ属	長さ10cm弱の柱片６個
2	SB20			約2.0x1.5x6 cm（４つに分解）
3	ST01 P5	柱痕	ヒノキ属	径約16cm、長さ54cm
4	ST02 P1	柱痕	コナラ属コナラ節	長さ約10cmの柱片４個
5	ST02 P11	柱痕	コナラ属	長さ約13cmの柱片２個
6	SK02	柱痕	コナラ属コナラ節	長さ約15cmの柱片１個

第 48 表　木製品観察表

付　章

反田遺跡（長野県上田市）出土木製品の樹種同定

松葉礼子（パレオ・ラボ）

I　試料と方法

長野県上田市にある反田遺跡から出土した木製品の樹種を同定した。同定した試料は合計5点である（表1）。同定には、木製品からブロック試料を採取し、その試料から片刃剃刀にて木材組織切片を横断面、接線断面、放射断面の3方向作成した。これらの切片はガムクロラールにて封入し、永久標本とした。樹種の同定はこれらの標本を光学顕微鏡下で観察し、現生標本との比較して行った。主要な分類群を代表する標本については写真図版に示し、同定根拠は後述する。

なお，同定に用いられた標本はプレパラート番号（YMN129～133）を付しパレオ・ラボ株式会社（埼玉県戸田市下前1-13-22）に保管されている.

同定根拠

1.　ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl.　Cupressaceae　写真図版 1a～1c:YMN132

軸方向・放射方向両細胞間道を持たない針葉樹材。早材から晩材への移行はやや急で、成長輪界は明瞭。晩材の量は少ない。樹脂細胞が早材と晩材の境に接線状に散在しており、その放射方向壁は結節状に肥厚している。放射組織は放射柔組織のみからなり単列である。分野壁孔は中型のトウヒ～ヒノキ型で1分野に2個程度ある。腐朽のため分野壁孔の細部の形状が確認できなかったNo.5はヒノキ属と同定した

2.　コナラ属コナラ節 *Quercus* Sect. *Prinus* Fagaceae　写真図版 2a～2c:YMN129

成長輪の始めに大型で丸い道管が1列に並ぶ環孔材。晩材部では急激に径を減じた多角で薄壁の道管が火炎状に散在する。放射組織はすべて平伏細胞であるが、大きさは明らかに2階級あり単列と10列前後に達する大型のものから構成される。道管放射組織間壁孔は楕円形の対列状～柵状。軸方向柔組織は晩材部で3細胞幅以下の帯状に分布する。同定した試料はいずれも一度乾燥しており道管形状など細胞が収縮している。特に乾燥の激しかったNo.3の試料は晩材部の道管形状が確認できず、コナラ属クヌギ節と区別が出来ず、コナラ属と同定した。

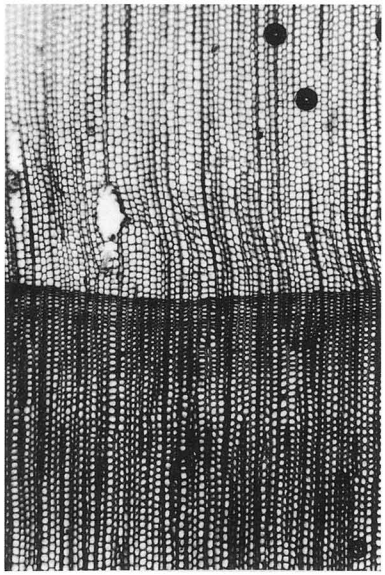
II　結果

表1　反田遺跡出土木製品樹種同定試料と結果

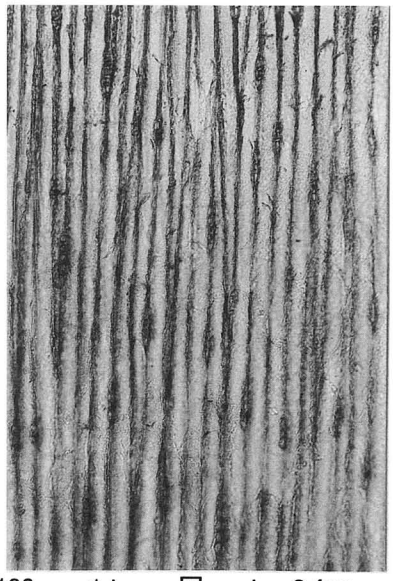
番号	樹種	製品名	遺構番号など		標本番号
No. 1	コナラ属コナラ節	柱根		SK02①	YMN 129
No. 2	コナラ属コナラ節	柱根	ST02	SK65	YMN 130
No. 3	コナラ属	柱根	ST02	SK83①	YMN 131
No. 4	ヒノキ	柱根	ST01	SK25	YMN 132
No. 5	ヒノキ属	板状製品	SB06-P6		YMN 133

同定した結果ヒノキとコナラ属コナラ節が確認できた（表1）。柱根はヒノキ1点、コナラ属コナラ節2点、コナラ属1点で、板状製品にヒノキ属が確認されている。長野県内では善光寺平にある遺跡を中心に大量の樹種同定がされているが、コナラ属コナラ節やヒノキなどの樹種はすでにこれらの遺跡で確認されている。コナラ属コナラ節は杭などの製品に多く、ヒノキは加工材などに多く見られる。長野県内ではヒノキ属のサワラが多く確認されている遺跡もあるが、今回は分野壁孔の開口部の特徴からヒノキであると同定された。

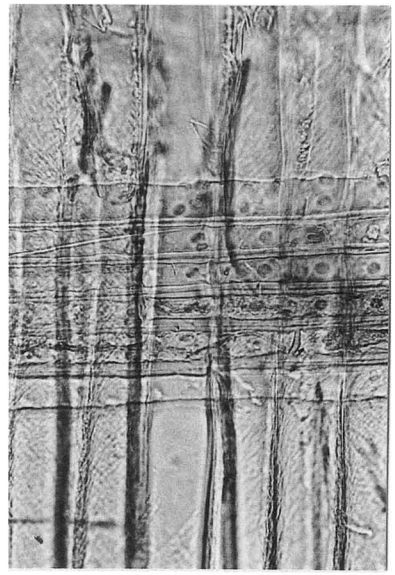
写真図版 1　　反田遺跡出土木材組織顕微鏡写真　　Bar: ■■■■■■■■



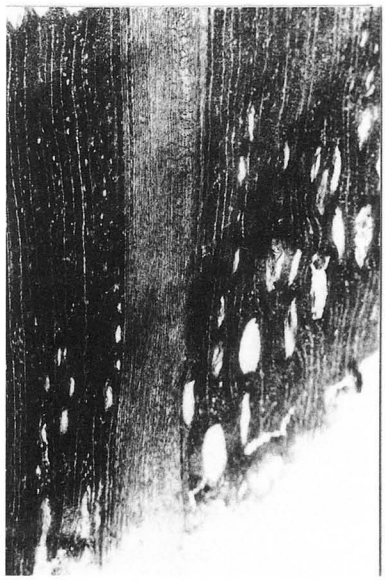
1 a ヒノキ　bar:1mm　YMN 132



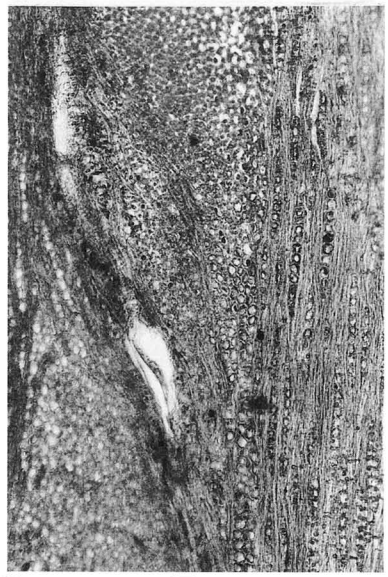
1 b　同　bar:0.4mm



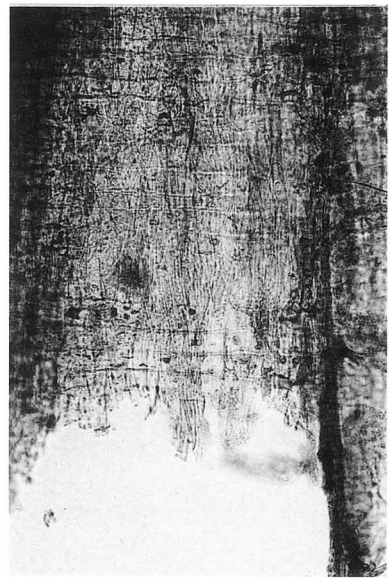
1 c　同　bar:0.1mm



2 a コナラ属コナラ節 bar:1mm　YMN 129

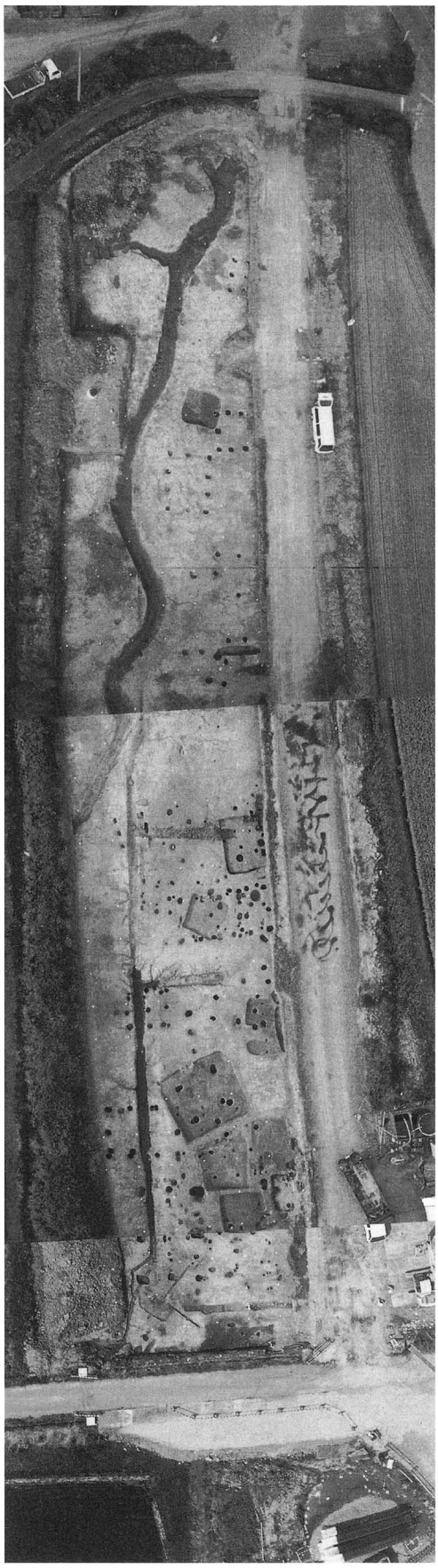


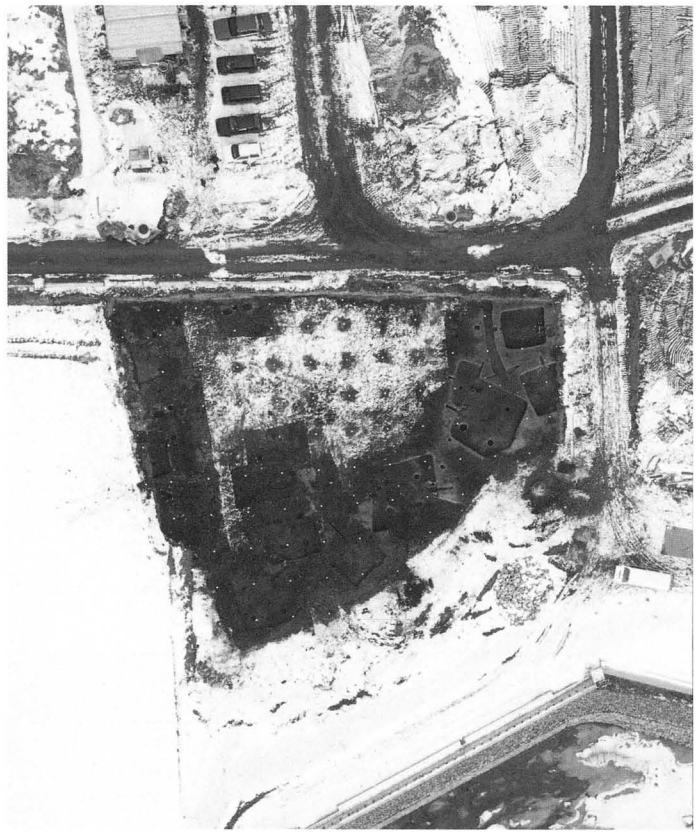
2 b　同　bar:0.4mm



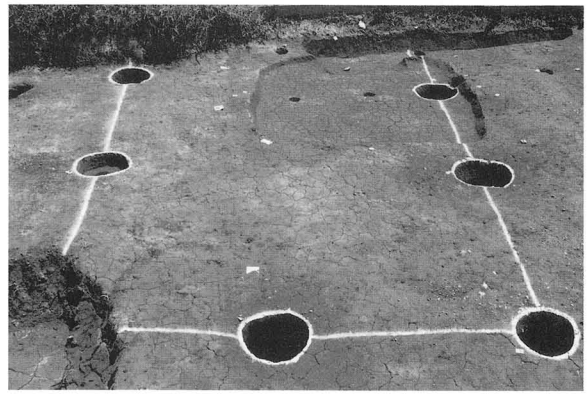
2 c　同　bar:0.2mm

全 景 写 真



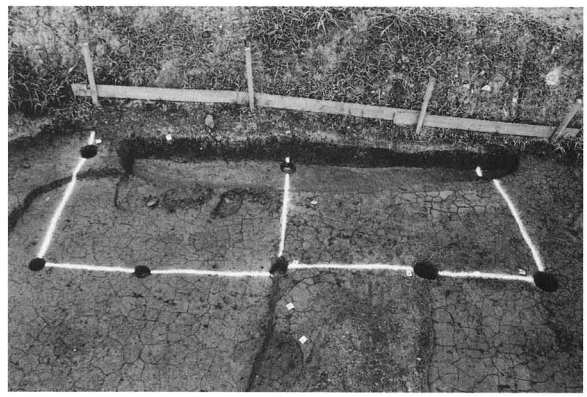


ST01（南から）

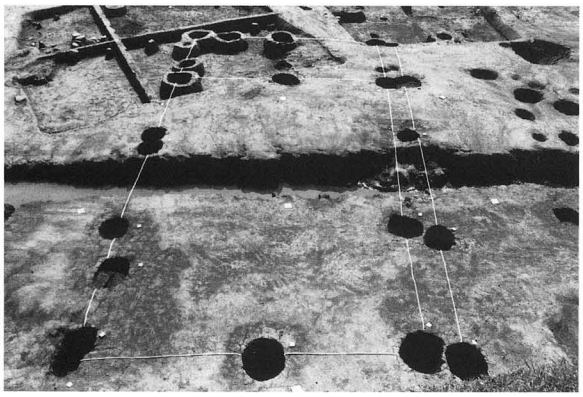


ST04（西から）

ST01 P5 （柱材残存状態）



ST05（西から）

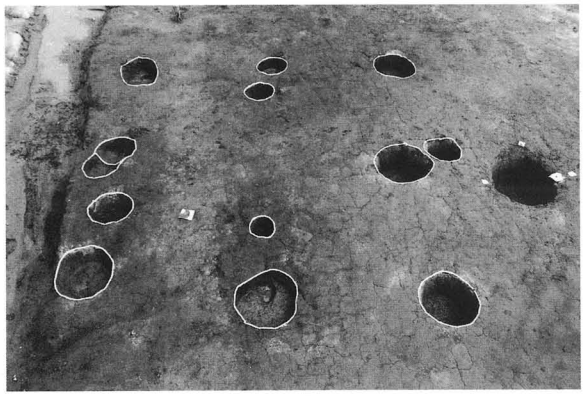


ST02（西から）

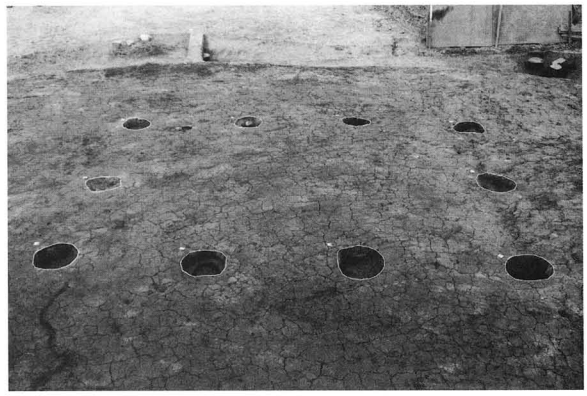
ST06（西から）

ST03（東から）

ST07（西から）



ST08（南から）

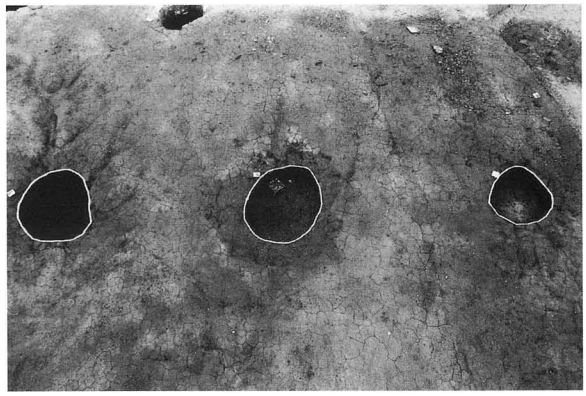


ST14（東から）

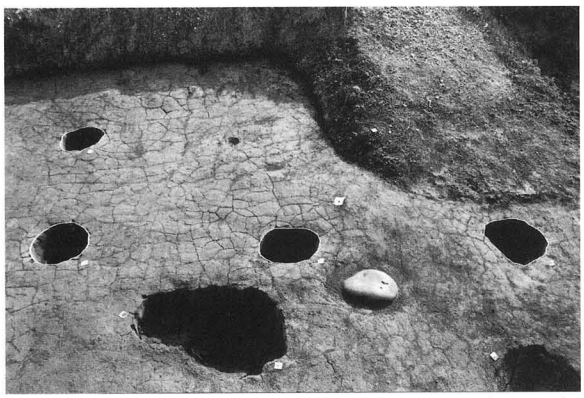
ST09（南から）

ST15（西から）

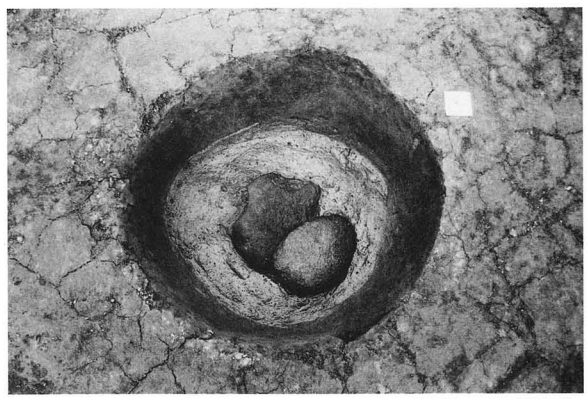
ST11（東から）



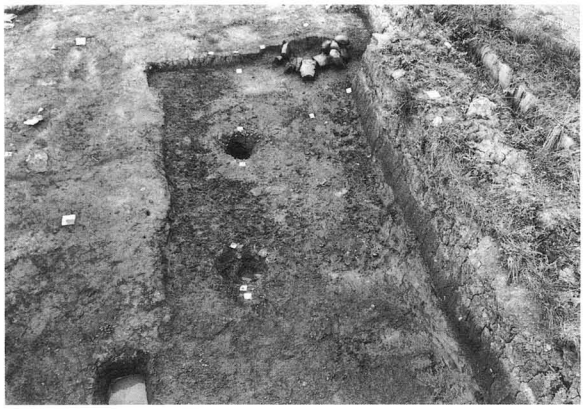
SA02（西から）



ST12（西から）

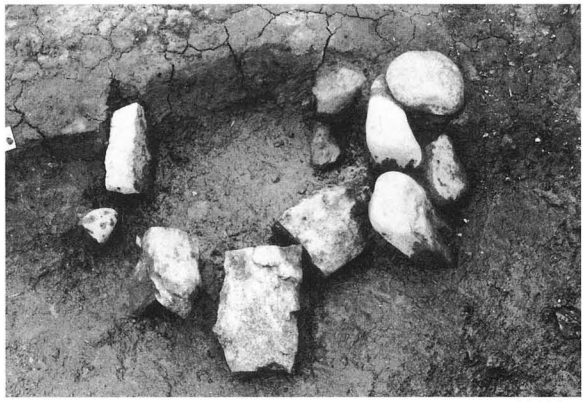


SA06 P1（礎石）



SB01（西から）

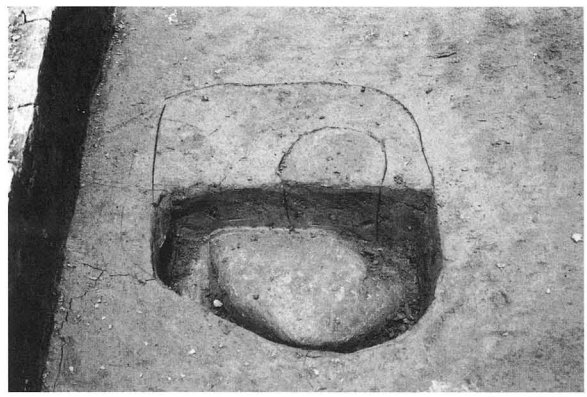
SB03（南から）



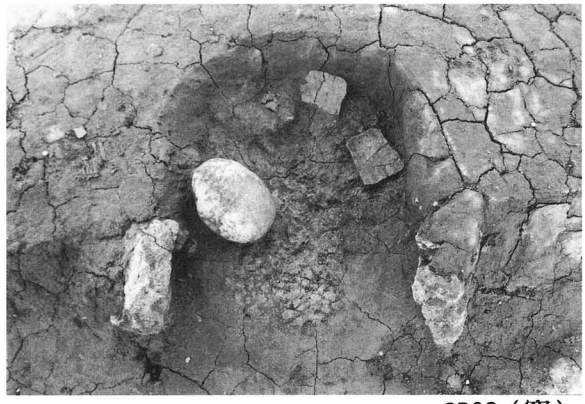
SB01（竈）

SB03（竈）

SB02（西から）



SB03（P1）



SB02（竈）

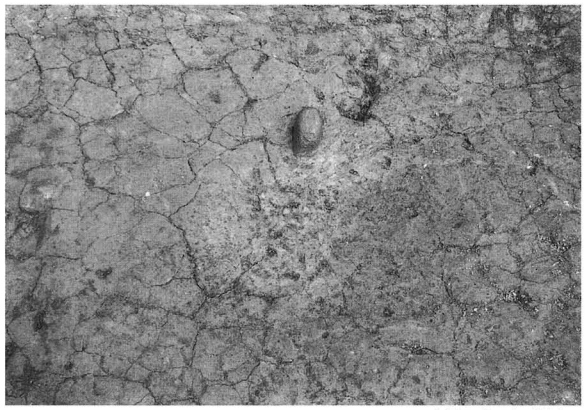
SB04（南から）

SB04（竈）

SB06（竈）

SB05（西から）

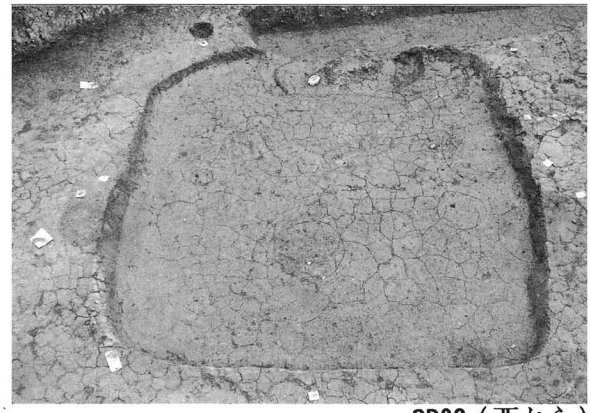
SB06（P6）



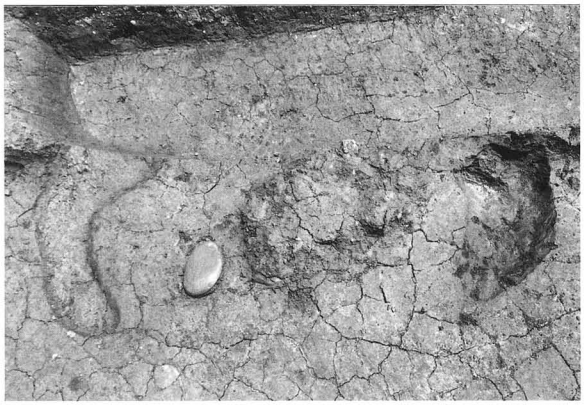
SB05（竈火床部）

SB07（西から）

SB06（南から）

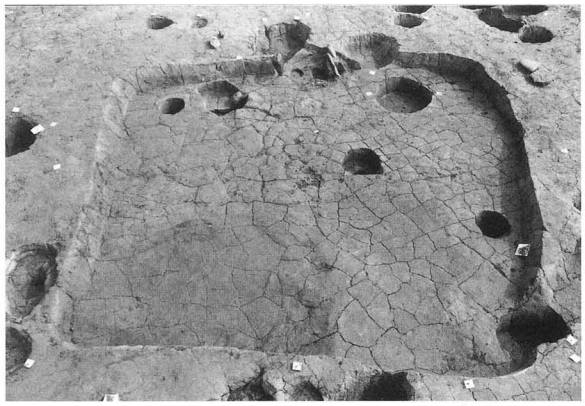


SB08（西から）



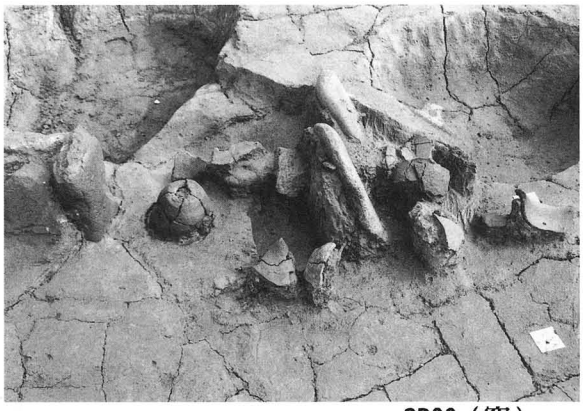
SB08（竈）

SB10（右上はSB11）



SB09（南から）

SB10（左　竈．右P10 内遺物）

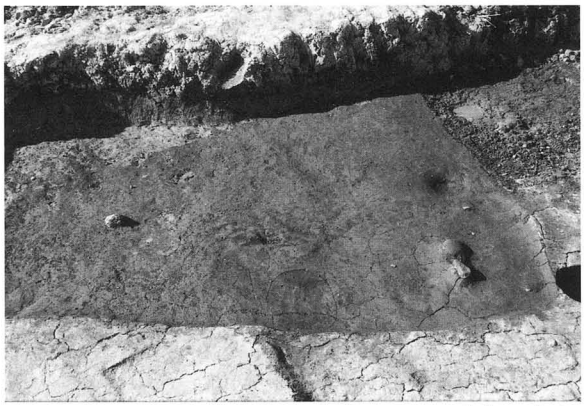


SB09（竈）
遺物出土状況

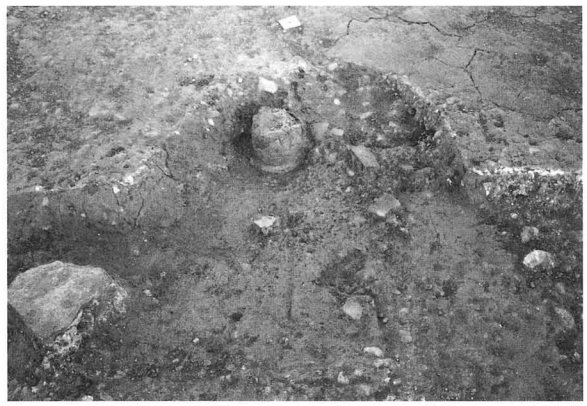
SB12（西から）

SB09（竈）
甕の据え付け痕

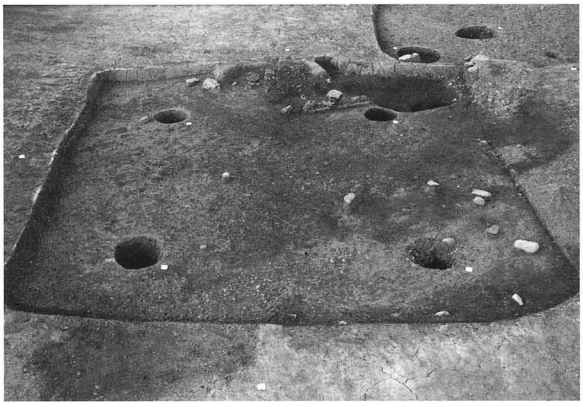
SB12（FP）



SB13（東から）



SB16（竈　西から）



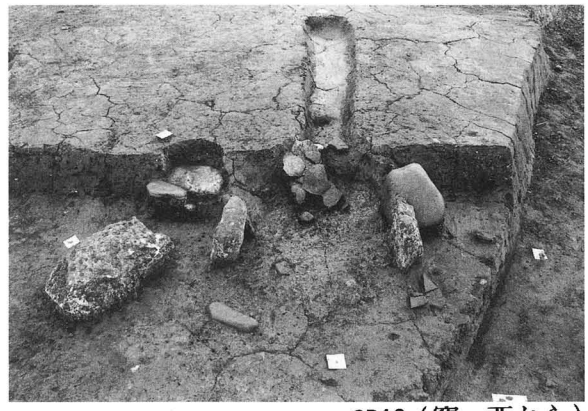
SB15（南から）

SB17（南西から）

SB15（竈　南から）

SB18（西から）

SB16（西から）

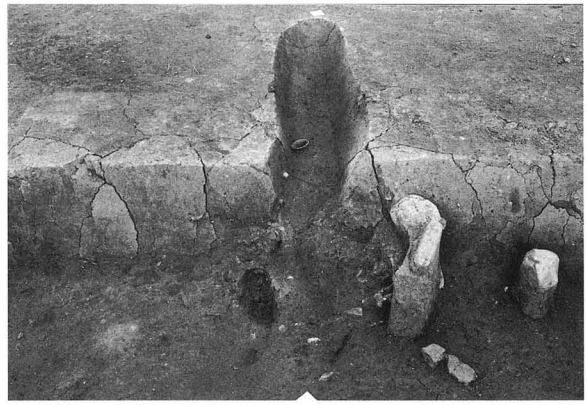


SB18（竈　西から）

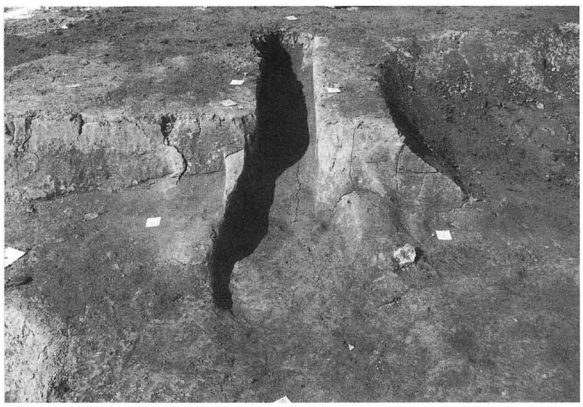
SB19 遺物出土状況

SB22（南から）

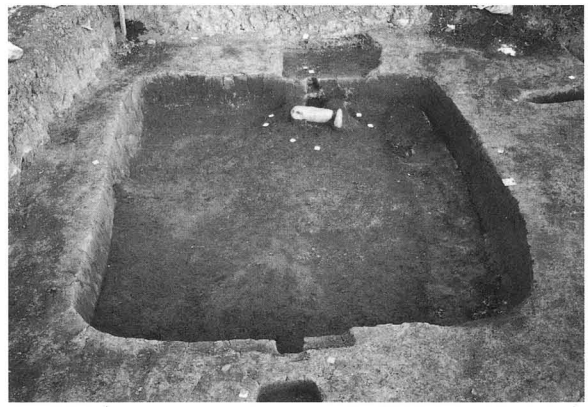
SB20（南東から）



SB22（竈　南から）

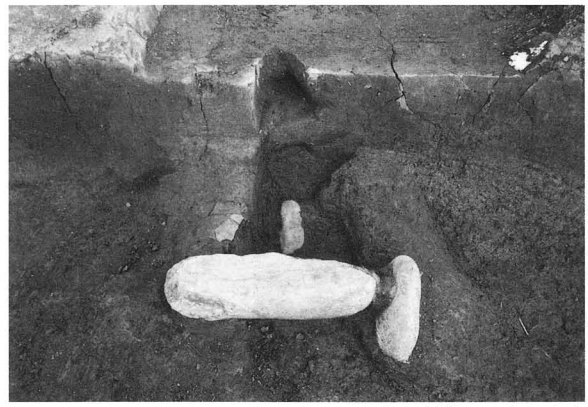


SB20（竈）



SB23（西から）

SB20（竈）遺物出土状況



SB23（竈　西から）